12.23『PRIDE.24』福岡大会 速報! ノゲイラ劇的勝利

平成15年1月23日発行（毎月第2・第4木曜日発行） 増刊 第5巻・2号・通算85号

SRS-DX

Special Ring Side

1·23
臨時増刊号
2003
特別定価 720YEN

喧嘩宣言

"猪木祭り!!"

いざ勝負、天下分け目の大晦日決戦

敵は"紅白"にあり

綴込み付録「ボブ・サップカレンダー」

SRS-DX 1·23 臨時増刊号 No.85

12・31『イノキ・ボンバイエ』直前情報

みがく

男を美学。

ビジネスシーンに差をつけるなら。

第一印象を左右する!

ビジネスシーンではなんと言っても第一印象が大切。
日焼けをすれば引き締まったシャープな顔に!!
おまけに眼のクマや髭剃り後も目立たない!
まさに日焼けで好印象ならぬ、**"光印象"**

男性的魅力をアップさせるには!

日焼けした男性は精悍で頼もしい!!
おまけに女性の視線をくぎづけ!!
仕事も遊びも断然、褐色肌ならぬ **"勝色肌"**

さらに日焼けはこんな効果も。

·陽気になる·ストレス解消·前向きになる
·ゆとりができる ·etc... 様々な効果あり!

是非、日焼けサロンSOLEをご体験下さい。只今、初回キャンペーン実施中(1/31まで)!

通常初回料金¥3,000が今なら

¥1,000 初回登録料とスキンケア4点セットと日焼け時間20分込み

短期間で褐色肌になりたい人へ
お得な初回限定チケットを、お薦めします。

全国62店舗展開中

TANNING STUDIO
SOLE

JSA JAPAN SOLARIUM ASSOCIATION

お近くの店舗をご紹介致しますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

フリーダイヤル 0120-77-9696
URL http://www.sunrisejapan.com/sole
iモード http://www.sunrisejapan.com/sole/i

12・31 ダイナマイト級カードで紅白をブッ飛ばせ!
『イノキ・ボンバイエ2002』
直前情報!

『イノキ・ボンバイエ』
ボブ・サップVS小林幸子 大晦日視聴率大戦争勃発!
視聴率20%獲得宣言!

©日刊スポーツ

ダイナマイト級カードで紅白をブッ飛ばせ！

『イノキ・ボンバイエ2002』全対戦カード

2002年MVP対決！

ボブ・サップ〈アメリカ/チーム・ビースト〉 VS 高山善廣〈フリー〉

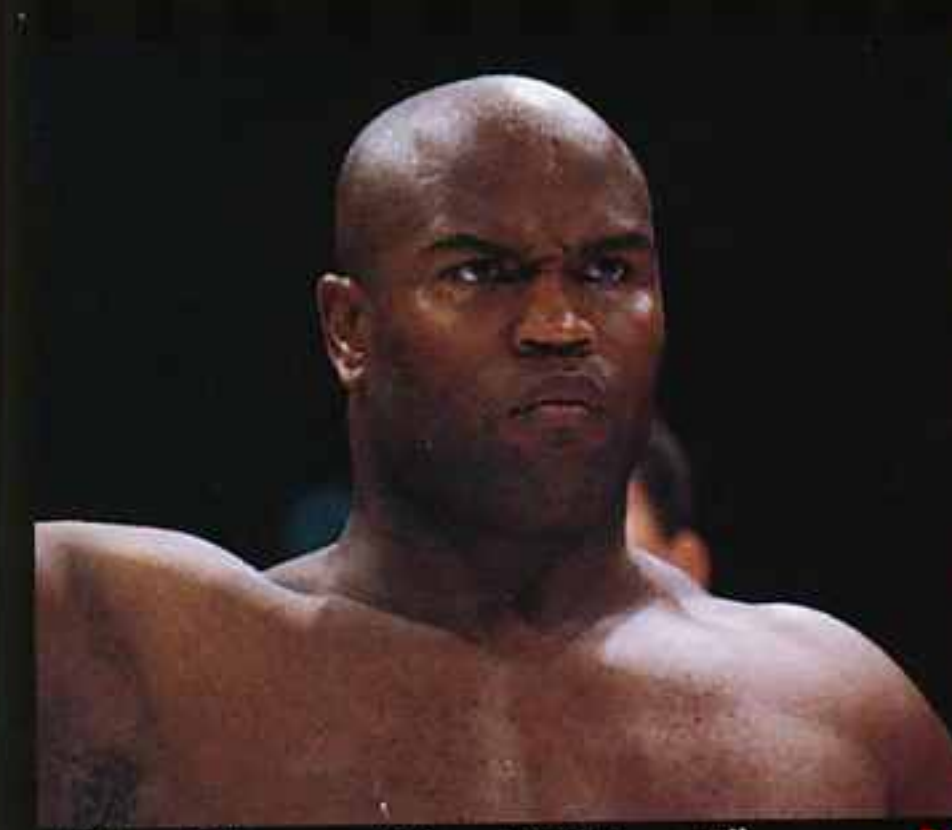
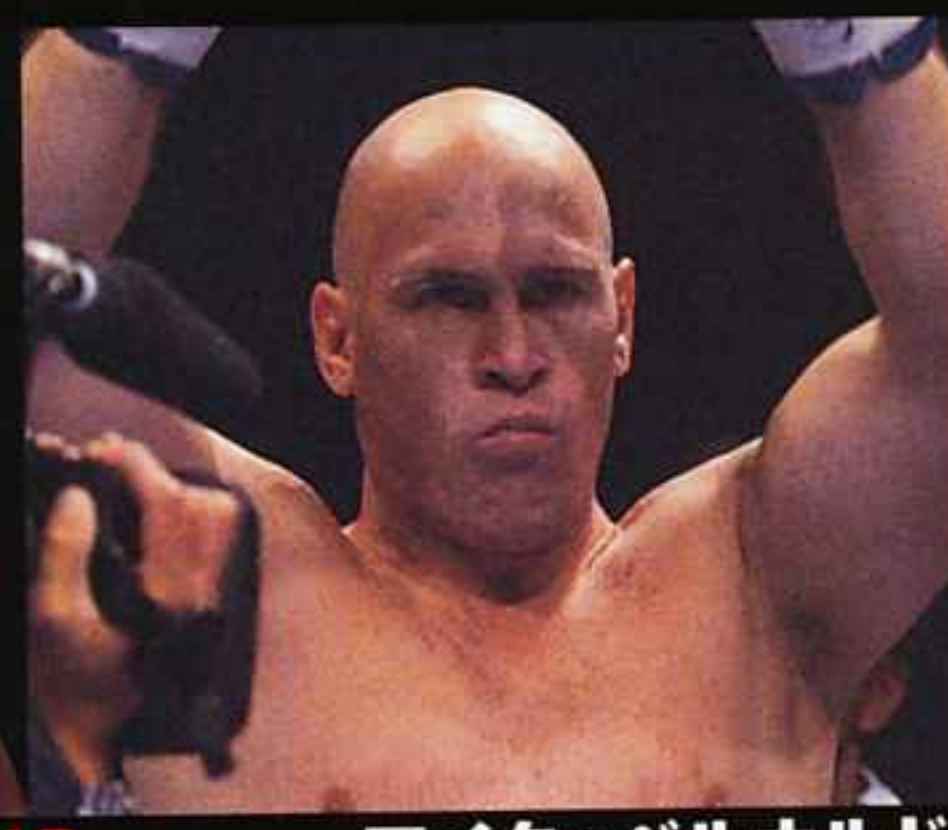
国民的格闘家VS視聴率男！

吉田秀彦〈吉田道場〉 VS 佐竹雅昭〈怪獣王国〉

玄人受け抜群のリベンジ戦！

藤田和之〈猪木事務所〉 VS ミルコ・クロコップ〈クロアチア/クロコップ・スクワッド・ジム〉

恒例大晦日安田劇場！

安田忠夫〈フリー〉 VS ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ〈南アフリカ/スティーブズジム〉

ゲーリー・グッドリッジ〈トリニダード・トバゴ/フリー〉 VS マイク・ベルナルド〈南アフリカ/レオナルド・ボクシング・ジム〉

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン〈アメリカ/チーム・パニッシュメント〉 VS シリル・アビディ〈フランス/チャレンジ・ボクシング・マルセイユ〉

中邑真輔〈新日本プロレス〉 VS ダニエル・グレイシー〈ブラジル/ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉

ヴァリッジ・イズマイウ〈ブラジル/カーウソン・グレイシー・チーム〉 VS 滑川康仁〈フリー〉

TBS敏腕プロデューサー
樋口潮氏の高視聴率獲得戦略！

遂に目前までやって来た今年最後の謎かけイベント『イノキ・ボンバイエ』。昨年は紅白の裏で14・9％という高視聴率をマークしたが、今年はいったいどんな戦略で高視聴率を狙うのか？　目指すは前人未踏の20％！　ということで、数々のヒット番組を飛ばし続けるTBSの凄腕プロデューサー・樋口潮氏にその戦略を聞いてみた。

「一般の視聴者が番組に対して感情移入していけるかっていうことだと思うんです」

聞き手◎谷川貞治（SRS・DX編集長）　撮影◎中島ミノル

——樋口さん、今日はひとつよろしくお願いします。敏腕プロデューサーの樋口さんに紅白の裏で20％を取る戦略を教えていただきたいんですけど（笑）。

樋口　戦略というより〝人〟ですよね。

——人？

樋口　はい。まず人ですね。選手ですね。

——なるほど、そうすると樋口さんがテレビ的に選手を見た場合、カードもいろいろと意味を持ってくると思うんですけど、まず第1試合の安田VSノルキヤというマッチメイクのご感想を教えてください。

樋口　そうですね、安田忠夫さんはことし大晦日に関してだけは、もの凄い数字を持っているんですよね。あと、僕ら大晦日をやるにあたっては、一般の日頃格闘技を見ていない人にどうやって見せるのかっていうのがひとつのテーマだと思うんですよ。そういう意味では去年マッチメイクがいろいろ変わったりして、最終的に安田忠夫VSジェロム・レ・バンナっていう形で、大晦日を飾れたんですけどね。あそこに至るまでに安田忠夫のストーリーだなんだを描いてですね、彼の土俵際人生にみんな日本全国、日頃闘いを見ない人たちまで興味を持っちゃったと。そこであの視聴率、TBSとしては紅白の裏で最高の14・9％を取っているんで、今年も安田忠夫に賭けるテレビサイドの期待っていうのは凄い高いですね。

——去年の安田劇場は業界的にも凄いインパクトを与えましたよ。

樋口　いわゆる、一般の人は「また、あの借金の人出るの？」みたいな感覚ですからね。

——この安田忠夫の1年間を何も知らなくても（笑）。

樋口　そうなんですよ。この1年間の安田忠夫を何も知らないのに。日頃、K―1も『プライド』も見ていないのに、大晦日になるとなぜか楽しみに見るという人が今回の場合は非常に多い。っていうところで言うと、安田忠夫は凄くいいんですよね。

——あのう、樋口さんの試合までの盛り上げ方、手法っていうか、戦略っていうのはあるんですか？

樋口　だから、ノウハウっていうか、僕らの仕事ってある程度視聴率で左右されるじゃないですか。だから、その視聴率をね、最終的な本編（試合中継）でどうやって取るかって考えた時に、一般の番組視聴者が番組に対して感情移入していけるかっていうことだと思うんです。これは格闘技であろうが、いま僕がやっている『体育王国』であろうが、『ZONE』も一緒なんですけどもね。そういうものの最終形として一つ共通点があるとすれば、いかに感情移入させるか。それが、盛り上げるための根本的に一番必要なことだって思っているんですけどね。

——感情移入っていう部分での戦略っていうのは？

樋口　人であれば、人の今まで歩んできたバックグラウンドですよね。バックグラウンドをあらかじめしっかりリサーチして、しっかりしたストーリーを作ってあげる。それで、ここが一番重要なところなんですけど、普通はいいところだけ並べることが多いんですよね。相手のことを気にしたりとか、もしくは番組に対するいろんなことを考えちゃったりとか。

——狙っちゃって。

樋口　そうそう。狙って、いい部分だけを表面だけで捉えてやるっていうことが、一般的な手法なんですけど、そこは僕は違って、人間なんだから絶対今まで生きてきた中で、いいことばかりじゃないと思うんですよ。悪いこともあった、つらいこともあった、そういうところをしっかり描き出すことによって、逆にいい部分が余計によく見える。やっぱり、いろんな日陰の部分を経験することによって人間は成長していくんで、そういうところをしっかり見せることが、逆に感情移入っていうところに繋がるのかなと。

——そういう意味では安田選手はハマりましたね。

樋口　そうですね、ハマりましたね。あれ終わった後に、その「やらせだったんじゃないか」っていう苦情電話が来たりして。僕もビックリしてですね。

——勝つと思っていなかったたってことですか？

樋口　思っていないですよ。あれに関しては、いろいろマッチメイクの問題があ

12/20 “国民的柔道マン”吉田秀彦 VS “視聴率男”佐竹雅昭決定!

▲12月20日、出場はないと思われていた吉田秀彦の参戦が決定。相手はなんと、この一戦を機に総合格闘技から引退する佐竹雅昭となった

11/29 ボブ・サップ参戦決定!

▲11月29日、猪木、石井館長、森下社長、そしてボブ・サップが揃って会見に出席。K－1が高視聴率を獲得する原動力となったボブ・サップの参戦は、紅白打倒に欠かせない!

12/11 サップVS高山、藤田VSミルコ 2大カード決定!

▲12月11日、猪木が11月29日の会見でブチ上げたサップVS高山が実現。そして、藤田は念願かなってミルコとのリベンジ戦が決定した

佐竹雅昭のコメント

「ボクも空手を始めて、そしていろんな格闘技にチャレンジしていく中で、いろんなことをやってきたと思うんです。今年の4月に頭蓋骨陥没という大きな手術をして、その間、どこまでできるか分からないという頃もあったんですけど、その矢先に今度、自分の親父がガンになったりして、しばらく考えている時に、今回このような話をいただきました。自分がやっていた空手というのは、どっちかと言ったら、アングラな世界なんですけど、大きな組織で金メダルを取った、吉田選手と闘えることに感謝しています。吉田選手は、天下一品の選手と思っていますし、間違いなく最強だと思っている選手です。ボクの空手がどこまで通じるかというのも一つの修行だと思っています。ボクは空手家としていつまでも修行はすると思うんです。ただ、今回で総合格闘技という修行は卒業したいと思います。やるからには全力を尽くして頑張りたいと思います」

吉田秀彦のコメント

「今回、このようなお話をいただいてですね、佐竹選手の引退試合ということで、ぜひお願いしますと言われまして、この前、試合をやったばかりで非常に体調が良くなくてですね、まず自分の体調を良くしてからと思ったんですけど、大晦日の夜に闘うことになりました。佐竹選手の引退に華を添える場にしてあげられたらなと思います。佐竹選手は正道会館の頃から試合を見てましたし、総合に行かれてからも見てますんで、大先輩と闘えるということで、凄い光栄に思っています。現在の体調については、7割方、大丈夫と。(道衣は)着させてもらいます。まあ、“柔道の吉田”と言われるよりも、総合格闘技に行ったわけなんでそっちのほうを強調してもらって、自分で道場をやっていますんで、そっちに帰った時には柔道の吉田先生と言われるように、二つの顔を持つというふうに頑張っていきたいと思います」

って、最終的にいわゆる格闘技系に携わっている人から見ると、決して満足のいくマッチメイクではなかったと思うんです、あれは。それはそれで自分でも感じていましたし。

——藤田和之がケガしちゃったりとか、小川直也が出てこなかったりとかで、仕方なく安田VSバンナっていう感じでしたよね。

苦情電話が何百件もあったんですよ「やらせじゃないか」っていう

樋口　そういうことですよ。でも決まったんだから、それをいかに見せようかっていうことで、安田さんのことを調べるとこれは面白いと。もう、人間らしいんですよ、凄い。これを謳いだしていけば、もしかしたら視聴者が凄い共感を持ってくれるんじゃないか。それが物の見事にハマって。僕の中ではジェロム・レ・バンナが圧倒的に強くて、1Rの短い時間でたぶん、安田さんはKOされるだろうなっていう思いが、始まる直前まであったんですよ。で、もう番組っていうのは勝った負けたじゃなくて、勝っても負けても最終的なストーリーっていうのは、神のみぞ知るでね、そこはもう僕らの仕事じゃないんだと思うんですよ。そこに至るまでの前フリが、僕らの仕事、演出じゃないかなと思うんですよ。最後だけは演出じゃないんですよ。ゴングが鳴った瞬間からは演出じゃない。そこからは単なる彼らが闘っている姿を撮るだけなんですよ。そこに至るまでが、演出だなっていうのを感じているんです。だから、リングに上げた瞬間にテレビ的な作りからすると、極端な話もうどうなってもいいと。

——あとは神のみぞ知ると。

樋口　そうですね。で、去年は去年で初めてだったし、いろいろやってて、尺の長短があったりしてですね、番組の後ろが余っちゃったんですよ。

——108つビンタとか延々とやってましたね。

樋口　それで、もの凄い落ち込んでです

ね、打ちひしがれてですね、夜中に会社に戻ったんですよ。年明けて。そうしたらですね、苦情電話が何百件もあったんですよ。そのほとんどが「やらせじゃないか」っていう。あまりにも今までのストーリーが見事にハマっちゃったんで、みんなそう思っちゃったらしいんですよね。で、あの苦情の電話の件数を見た時に、「これもしかしたら、二桁いっているんじゃないの?」っていう気持ちに変わってきたんですよ。そこは期待感で終わったんですけど、「まあ、さすがに紅白の裏だからそれはないか」って。で、蓋を開けたら14・9%なんてね、もの凄い数字で。

――会社的にも大騒ぎだったでしょう。

樋口 そうですね。毎年1月2日に僕も年末年始の数字が出るもんですから、今年も朝から会社に行ってたんですけど、宣伝部の人が来たりして、みんな大騒ぎですよ。これは大変な快挙だと。いわゆる、一般の人が思われている以上に、紅白の裏で14・9%っていう数字をとったのは大変なものなんですよ。

▶昨年の『イノキ・ボンバイエ』の高視聴率獲得は、安田が番組の中で土俵際人生をさらけ出したことが大きい

――なるほど。フジテレビの格闘技番組と自分たちの違いってなんだと思いますか?

樋口 いや、フジテレビのK―1なんか見ていると、凄くその選手のクローズアップの仕方がうまくて、カッコイイんですよ。だからどっちかっていうと、偶像化してやっているのがフジテレビの手法かなっていう気がしますね。でも、もしTBSでK―1グランプリをやったら、人間的っていうか、弱いところも出すと思いますね。うちはもう、人間化しちゃうんですよ。そこが大きく違うんじゃないかなって思います。

――日テレと比べてはどうなんですか?

樋口 日テレって中継が本体にあるじゃないですか。ジャイアンツ戦とか。だから、あんまり演出しないですよね。

――ああ、演出がない。キチンと出来事を撮るという。

樋口 キチンとある物を撮るという。日テレはある種、スポーツの雄だと思っているんですよ。昔からジャイアンツ戦っていう、ソフトとしては最強の物を持っている局だと思うんですよ。フジテレビがそれに対抗してバラエティ路線から波及して、スポーツもかなりカラフルな、明るいイメージを作り出していますよね。

――K―1とかF1とか。

樋口 そうそう。K―1なんかも藤原紀香さんをメインキャラクターに据えてやったっていうのは、華やかでフジテレビらしい、カッコイイ感じだと思うんですよ。で、そういうのをやられちゃっているんで、僕が一番嫌なのは、人のマネをするっていうのが一番嫌なので、自分たちにできることは何か、あとはTBSスポーツとしてできるものは何かって考えた時に、やっぱり元々カッコイイものはできないな。カラフルなものはフジテレビには敵わないな、と。かといって、ソフトとしては後発ですから、やっぱり日本テレビには勝てないなっていう気がしたんです。じゃあ、自分たちはいただいたものとか、あるものをどうやって演出していこうか、他局にない演出手法はどうなのかっていうのを考えた時に、やっぱりうちも『筋肉番付』でスポーツバラエティという新しいジャンルを切り開いたのは僕だっていう自負はあるので、そこの原点でいろんなものを含めて考えた時に、いけるんじゃないかって自信はありましたね。ちょうど、去年お話をいただいた時に、中量級をぜひやらせてくれって言ったのも、その今までやっていた手法で、石井館長が作り上げたK―1というものが、うまくハマるんじゃないかっていう気がしたんですよね。

より人間臭くやる手法が成功しているんじゃないですか

――別の当て方、カラフルじゃない当て方ですね。なるほど、なるほど。

樋口 そうです。より、人間臭くやる手法が、成功しているんじゃないかなって。それと同時に一般視聴者の印象に残るっていうか、記憶に残るものになるんじゃないかっていう気がしますね。1年に1回の『イノキ・ボンバイエ』なんですけど、今年こういうふうに近付いてくると、さっき安田選手の話があったように、「あの借金の人はどうなったの?」みたいなことを言うおばちゃんっていうのは、1年間K―1も見なければ、『プライド』も見ていないんですよ。でも、大晦日は『イノキ・ボンバイエ』っていう気持ちにさせていると思うんです。

――なるほど。去年に比べて、今年の『イノキ・ボンバイエ』って、カード的にはいいんじゃないですか? その中で吉田VS佐竹っていうのがあるんですけど、これはテレビ的に見て、どうなんですか?

樋口 これは最高ですね。

――どんな感じで最高なんですか?

樋口 佐竹さんっていうのは、わりと空手、正道会館にいた頃から、ユニークなキャラクターで、企画やらなんやらで取り上げやすい人だったんですよ。それで佐竹雅昭という名前は意外に格闘技ファンだけじゃないところに凄い知れわたっている記憶がありますからね。僕らも僕らで、『スポーツマンNO1決定戦』に毎年、佐竹さんに出ていただいていて、認知度はあったんですよ。その中で去年、実は瞬間最高視聴率は佐竹VSサム・グレコだったんですね。

――20%超えたんですよね。

樋口 そうです。その試合だけなんですよ、20を超えているのは。

――フジテレビでも意外に視聴率男なんですよ、佐竹って。

樋口 そうですか。その、視聴率男の佐

◀樋口プロデューサーのヒット作品といえば、2001年の『世界陸上』。このポスターのような、斬新なコマーシャルで視聴者の興味を惹き付け、高視聴率を獲得した

2001年12月31日放送 『最強の格闘王決定戦！ 猪木軍VSK−1最強軍全面対抗戦完全決着』 視聴率推移表

視聴率
20
15
10
瞬間最高視聴率

時刻	内容
21時00分	高田延彦VSマイク・ベルナルド戦
21時22分	佐竹雅昭VSサム・グレコ戦
21時37分	ゲーリー・グッドリッジVSエベンゼール・フォンテス・ブラガ戦（ダイジェスト）
21時41分	石澤常光VS子安慎悟戦（ダイジェスト）
21時45分	猪木劇場
22時02分	ドン・フライVSシリル・アビディ戦
22時19分	永田裕志VSミルコ・クロコップ戦
22時38分	安田忠夫VSジェロム・レ・バンナ戦
23時12分	試合リプレイ（108つビンタ等）
23時23分	番組終了

紅白裏番組視聴率歴代ベスト10

（1966年〜2001年・12/31）

順位	年	局	時間	番組	視聴率
1位	1986年	日本テレビ	20:00〜22:39	白虎隊・後編	17.2％
2位	1997年	日本テレビ	21:00〜23:44	電波少年緊急特別番組ドロンズ遂にアラスカゴール極寒完全生中継	15.9％
3位	1985年	日本テレビ	21:02〜23:23	忠臣蔵・後編	15.3％
4位	1994年	日本テレビ	18:30〜23:44	2年越し！ 超超興奮！ 仰天生テレビ!! ダウンタウンの裏番組をブッ飛ばせ	15.3％
5位	2001年	TBS	21:00〜23:23	最強の格闘王決定戦!! 猪木軍VSK-1最強軍全面対抗戦完全決着	14.9％
6位	1988年	日本テレビ	20:03〜22:55	五稜郭・第2部	13.7％
7位	1999年	日本テレビ	21:00〜24:29	雷電SP いけ年こい年1999〜2000	13.5％
8位	1966年	テレビ朝日	21:00〜23:44	笑って笑って大作戦	13.4％
9位	1987年	日本テレビ	20:03〜23:17	田原坂・後編	13.4％
10位	1995年	日本テレビ	20:50〜23:44	裏番組をブッ飛ばせ!! 大晦日スペシャル・第2部	13.2％

歴代の1位は日本テレビの『白虎隊』の17・2%。昨年の『ボンバイエ』はTBS局内では1位だが、歴代では5位。17・2%を破ると歴代でも1位になる

竹雅昭と吉田秀彦。国民的な柔道のオリンピックの金メダリストがいかに凄いかっていうのは、やっぱり『Dynamite!』をやった翌日にスポーツ紙のみならず、一般紙も一面で取り上げるというところで感じていたんで、これはなんとか大晦日に出てきてもらわないと、と思いまして。やっぱり、日本の1年が終わる日に、吉田秀彦は外せないだろうというのもあって、なんとしても絶対に出てもらいたかったですね。

——格闘技界が誇る国民的な、世間的に通用する格闘家。

樋口 そうですね。で、あとは、一般にどこまで浸透しているか。意外に、吉田秀彦っていうのは、僕の中の判断では、安田忠夫より有名じゃないと思うんですよ、一般の人には。

——吉田は安田より有名じゃない！（笑）。

樋口 でもこれで、大晦日に出ることによって、名実ともにトップに君臨する選手になるんじゃないかっていう気がするんですけど。

——じゃあ、視聴率は確実に20はいくと。

樋口 いきたいですね。〝紅白の裏〟ってどうしても言っちゃうんですけど、やっぱり20いったら大変ですからね。それは普通の時の特番で30取ることよりも凄いことだと思うんですけどね。

——じゃあ、あと2つなんですけど、藤田VSミルコのカードはどうなんですか？

樋口 藤田VSミルコは個人的に一番見たい。去年のリベンジマッチになるんですけど、ああいう形で藤田和之がやっぱり一発のヒザ蹴りで、ドクターストップで負けて、あそこからいわゆる他流試合がスタートしたっていうこともあって、そここにもう1度原点に戻るという意味では、そ

非常にいいんじゃないですかね。

——格闘技ファンとして、一番見たいというか。

樋口 だから、藤田VSミルコっていうのは格闘技ファンにもいいカードですね。ただ一つの大きな問題は、ミルコ・クロコップっていうのは、もの凄いメジャーになったんですよ。一般視聴者の中でも最強の人だっていうふうになっているんじゃないですか、外国人の中では。それぐらい、ミルコの名前はメジャー化しているんですよ。一方、藤田和之は去年、大晦日でマッチメイクをされていたにもかかわらず、ケガで出られなくなってしまったんで、名前が売れていないと思うんですよ。視聴率的にもそんなによくないと思います。つまり、これは凄い玄人受けするカードなんですね。

——藤田の名前は上げられるっていう感触はあるんですか？

樋口 これは難しいですね。生活を見せない方なんで。だから、こういう場合にはどうするかというと、ミルコ目線でやるんです。その強いミルコに勝てる日本人がいるか。逆に言うと藤田和之は今回の大晦日でミルコを下すことによって、英雄になっていくと思うんですけどね。

——それでは、もうひとつ。今や、国民的なヒーローとなったボブ・サップと高山の試合はどうですか？

樋口 これは今年のいろんなことを象徴している試合ですね。

——今年最後の試合がボブ・サップっていうのが象徴していますね。

樋口 今年格闘技界の1年間を象徴する試合が最後に凝縮されているのかなと。僕は高山とドン・フライのあの殴り合いの試合も、凄い感動したんですよ。高山、こいつは男だと。ドン・フライは元々男の中の男だと思っていたんで、その人にああいう殴り合いで立ち向かっていったでしょ。実はそれまで、高山はあんまり評価していなかったんですよ。悪い意味で言っちゃうと、プロレスと総合両方やっているんですけど、ちょっと中途半端だったかなっていう。でもあの試合を機に、もの凄い好きになりましたね。その高山の相手が、今年大爆発したボブ・サップっていう、もう最高じゃないですか。

——ボブ・サップという存在については？

樋口 もう、日本人ですね。

——ああ、日本人。それはテレビ的にいいことなんですか？

樋口 いいですね。僕、世界陸上をやったんですけど、スタッフに言っていたの

な、なんと事前番組13本！ 『イノキ・ボンバイエ2002』事前番組一覧

日付	番組
11月23日	格闘王11月号（放送済み）
12月1日	格闘王12月号（放送済み）
12月8日	格闘王12月号（放送済み）
12月13日	猪木軍vsK-1最強軍vsPRIDE最新情報（放送済み）
12月15日	『ZONE』ボブ・サップ特集（放送済み）
12月22日	『ZONE』サップ、ミルコ、吉田特集（放送済み）
12月27日	大晦日猪木軍vsK-1最強軍vsPRIDE＆お正月筋肉バトル！ 2大決戦スペシャル（23:45〜25:00）
12月31日	『イノキ・ボンバイエ』事前番組（15:00〜17:40）
12月31日	『イノキ・ボンバイエ2002』（21:00〜23:24）

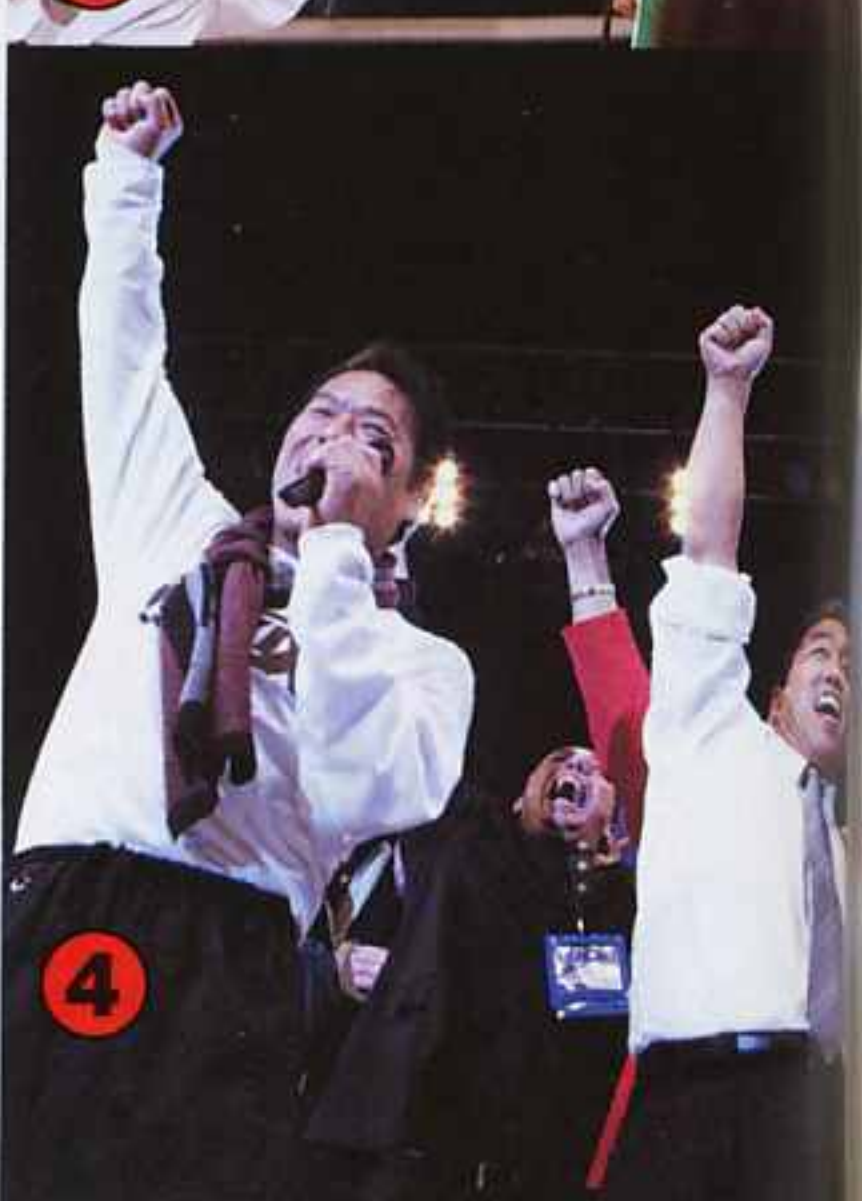
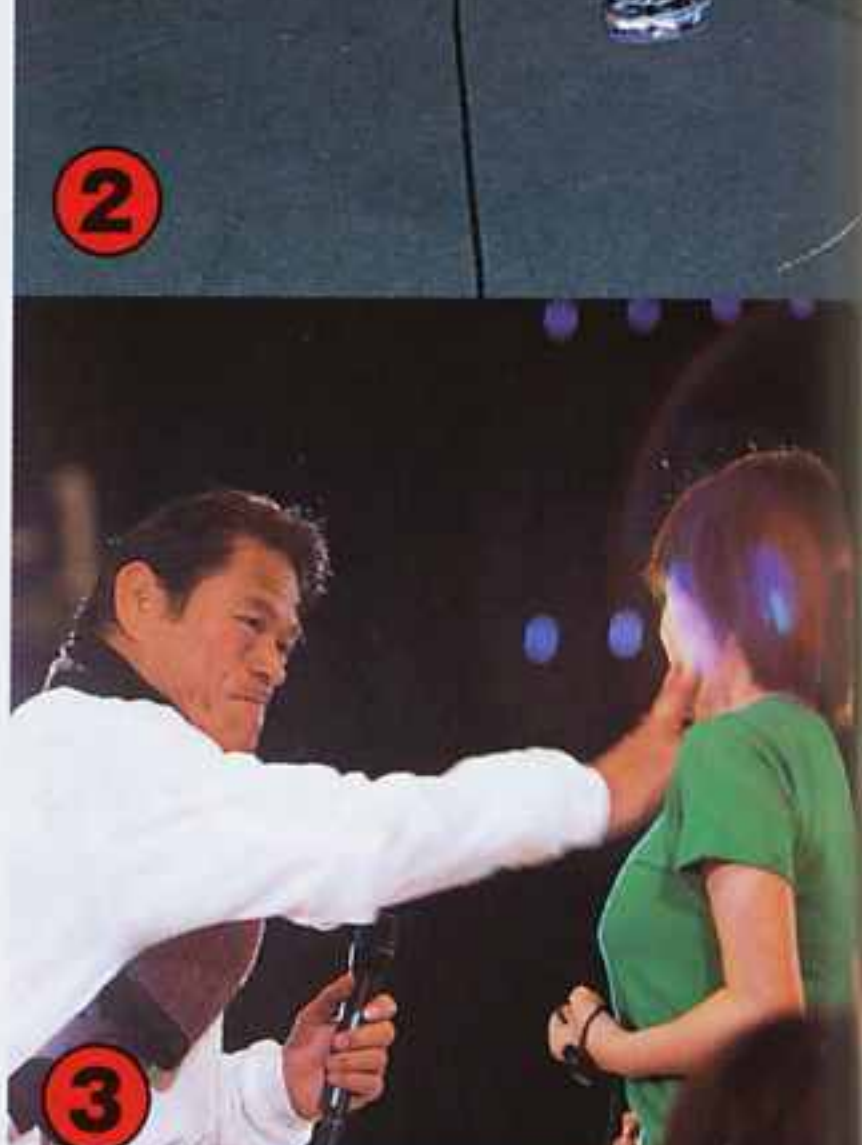
※毎週火曜日23:55〜24:30『サイボーグ魂』（11月26日から）

『イノキ・ボンバイエ2002』に出場してほしい選手ランキングベスト10（TBS調べ）

順位	選手	人数
1位	吉田秀彦	98人
2位	ボブ・サップ	86人
3位	桜庭和志	62人
4位	ジェロム・レ・バンナ	58人
5位	アントニオ猪木	52人
6位	小川直也	45人
7位	藤田和之	44人
8位	ミルコ・クロコップ	29人
9位	ドン・フライ	15人
10位	安田忠夫	11人

この10人の中の6人が今回の『イノキ・ボンバイエ』に出場。高視聴率は間違いなしだ！

▶昨年の『イノキ・ボンバイエ』の演出。①は、新宿でホームレスと決起集会を行った猪木。大会まで、全国でこうしたパフォーマンスを繰り返した。②は大会当日の猪木のパフォーマンス。ホームレス姿で棺を担ぎながら登場した猪木は、リング上では紅白仮面と対戦。③は毎年恒例の108つビンタ。④はお約束の1、2、3ダァーッ！

紅白の裏の最高が日テレの『白虎隊』その17・2％をとりあえず破りたい

は、日本人を何人作れるかっていうことなんですよ。

——ああ、知らない外人を。

樋口　結局、日本の視聴者って、頑張れ日本で応援する人って多いじゃないですか。そうなった時、世界的なイベントになった時は、外国人の中で日本人をいかに多く作るかっていうことが大切なんです。日本人化するぐらいな思いで、感情移入して見てもらえるような選手を何人作れるかっていうのが、そのイベントの成功に繋がる。だから、ボブ・サップは既に日本人になっちゃっているんですよ。

——あのキャラクターというのは、テレビマンとしてどう思われているんですか？

樋口　もの凄い頭がスマートな人ですよね。礼儀正しいし、ジェントルマンでありながら、凄く頭で物を考えて、全ての仕事をこなしているっていう気がしますね。だから、ああいうスマートなサップがリングで野獣と化すっていうのが、逆に凄いと思いますね。どこで本能だけにスイッチするのか。彼の中にスイッチオンっていう機能があるんですよね。

——切り替えうまいですよね。

樋口　バラエティに出ていてもそうだし。あの愛くるしいキャラクターっていうのは、日本全国の人から凄い好かれちゃったと思うんですよね。それにもってして、スイッチを切り替えた時に、やっぱりあの闘争本能剥き出しのファイトが見られるっていう、本当に一粒で二度おいしい大スターですよね。

——本当に、今年最後の格闘技の試合がボブ・サップっていうのは凄いですよね（笑）。

樋口　もの凄い楽しみですよね。本当はね、自分で番組携わんないで、会場で見たい（笑）。それぐらい楽しみですね。

——結構、樋口さんは放送席の横で熱狂していますよね（笑）。

樋口　そうなんですよ（笑）。結構、野次飛ばしちゃうんですよ（笑）。最初、黙って見ているんですけど、気が付くと声出しちゃうんですよ。やっぱり、闘っている中で、どっちかの気持ちになるじゃないですか。そして、試合の中には必ず流れっていうのがある。その流れの中でここでいけっていう時に、ネガティブな奴を見ると応援したくなっちゃうんですよ。自分がその人間に身を置き換えた時に、ここでいかないと情けないじゃないかみたいな気持ちになって（笑）。

——流れの変化も試合の中継を見せるポイントですね。でも、一番熱血なプロデューサーですよね。

樋口　そうですか。好きだからね。結局好きなんですよ、ああいうのは。好きだからこそできるし、うちの格闘技のスタッフはみんな好きですよ。愛情込めて番組を作っていますね。

——じゃあ最後に、猪木さんを含めて、『イノキ・ボンバイエ』全体をどうやって演出していこうとしていますか、TBSとして。

樋口　だから、猪木さんの求心力っていうか、カリスマ性をあのまま全体の空気感として出せばいいんじゃないですかね。猪木さんは頭もよくてカリスマ性もあるじゃないですか。あれだけ、若い人からお年寄りまで愛されている人ってなかなかいないと思うんですよ。長嶋茂雄さんと猪木さんぐらいだと思っているぐらいで。興行からテレビも全て含めて、『イノキ・ボンバイエ』というものの集合体が、猪木さんのカリスマ性とか、エンターテインメント性に全て集約できるような形でできあがれば、僕は成功すると思うんですよね。

——なるほど。20％取りたいですよね。今まで紅白の裏の最高が……。

樋口　17・2％って聞いていますけど。日テレの『白虎隊』。でも、20％取りたいって言っておいて、僕はある程度取れればいいと思っているんですけどね。とりあえずはその17・2％を破りたいんですよ。20取っちゃうと、また大変なことになっちゃうと思うんですよ、あとが。14・9％取ったことで、今年の格闘技界も変わりましたからね。

——変わりましたねぇ。

樋口　フジテレビの見解はどうか分からないですけど、12月のK—1ワールドGPで28・4％取ったのは、紛れもなく去年の『イノキ・ボンバイエ』から夏の『Dynamite!』に繋がる他流試合があったからだと思うんですよ。あれ、K—1だけでやっていたら僕は取ってないと思うんですよね。ボブ・サップっていう存在も生まれていなかったと思うんですよね。

——分かりました。ありがとうございます。みんなで、20％取りましょう！ ■

PROFILE

プロフィール：慶応大学卒業後、1986年にTBSへ入社。『筋肉番付』、『スポーツマンNO.1決定戦』、『世界陸上2001』などヒット番組を飛ばし、スポーツバラエティという新しいジャンルを定着させた。昨年からは、『イノキ・ボンバイエ』、『K-1MAX』、『Dynamite！』など、格闘技番組のプロデューサに。昨年の『イノキ・ボンバイエ』は14.9％を記録。TBSでは紅白の裏番組で歴代1位の記録を作った。現在のレギュラー番組は『サイボーグ魂』、『ZONE』、『体育王国』など

大晦日視聴率20%獲得の切り札は
問答無用でボブ・サップ！

ハードスケジュールをこなし
大晦日高山善廣戦に挑む！

◀渋谷のワールドスポーツプラザでサイン会を開いたサップは、「インキ・ボン

おいしそうにそばを食べるサップ。この調子で大晦日、紅白を飲み込めるか？　ちなみにサップが着ているTシャツは新日本プロレスのもの

12・31 ダイナマイト級カードで紅白をブッ飛ばせ！

『イノキ・ボンバイエ2002』直前情報！

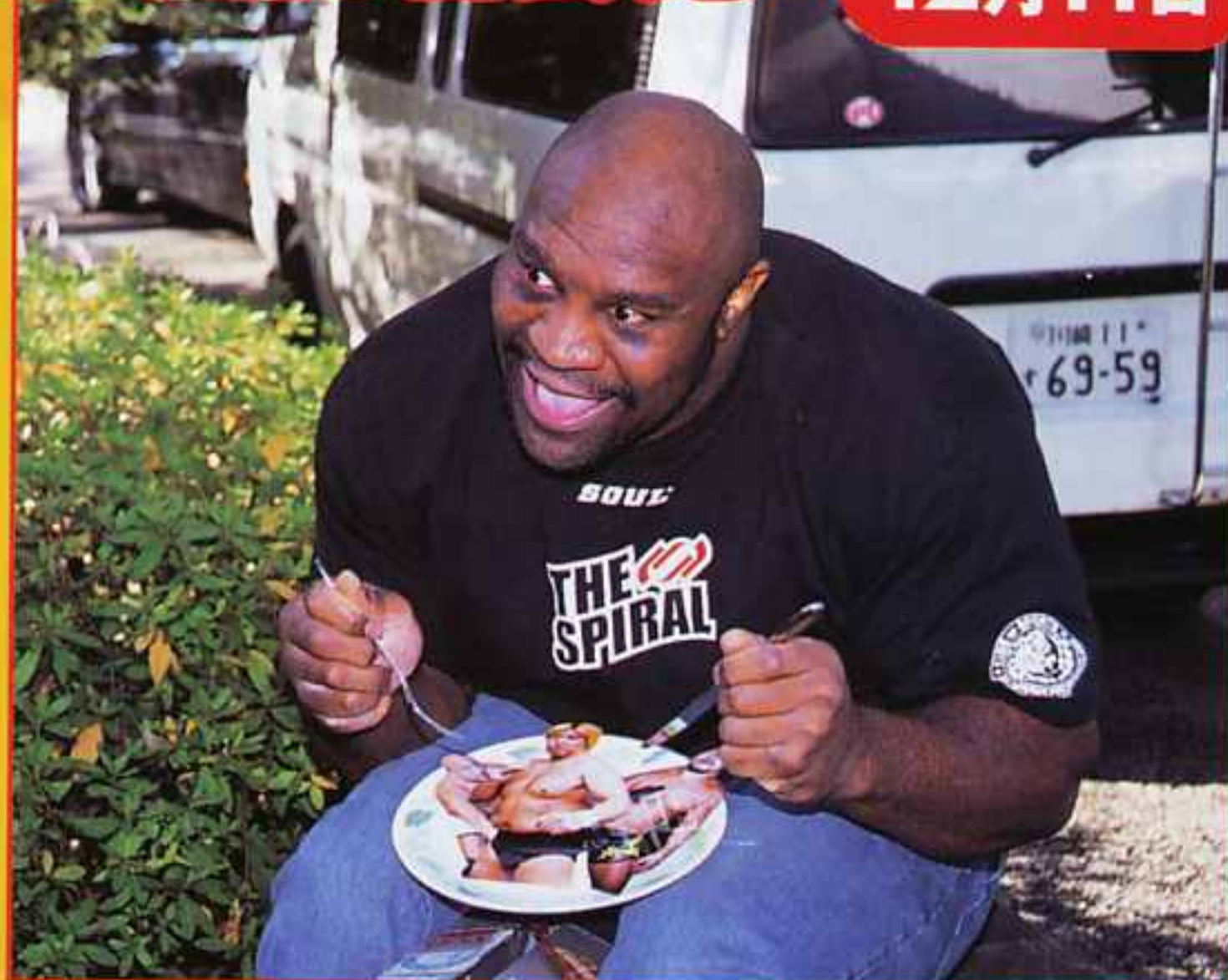
東京スーパーボウル ハーフタイムショーに出現！

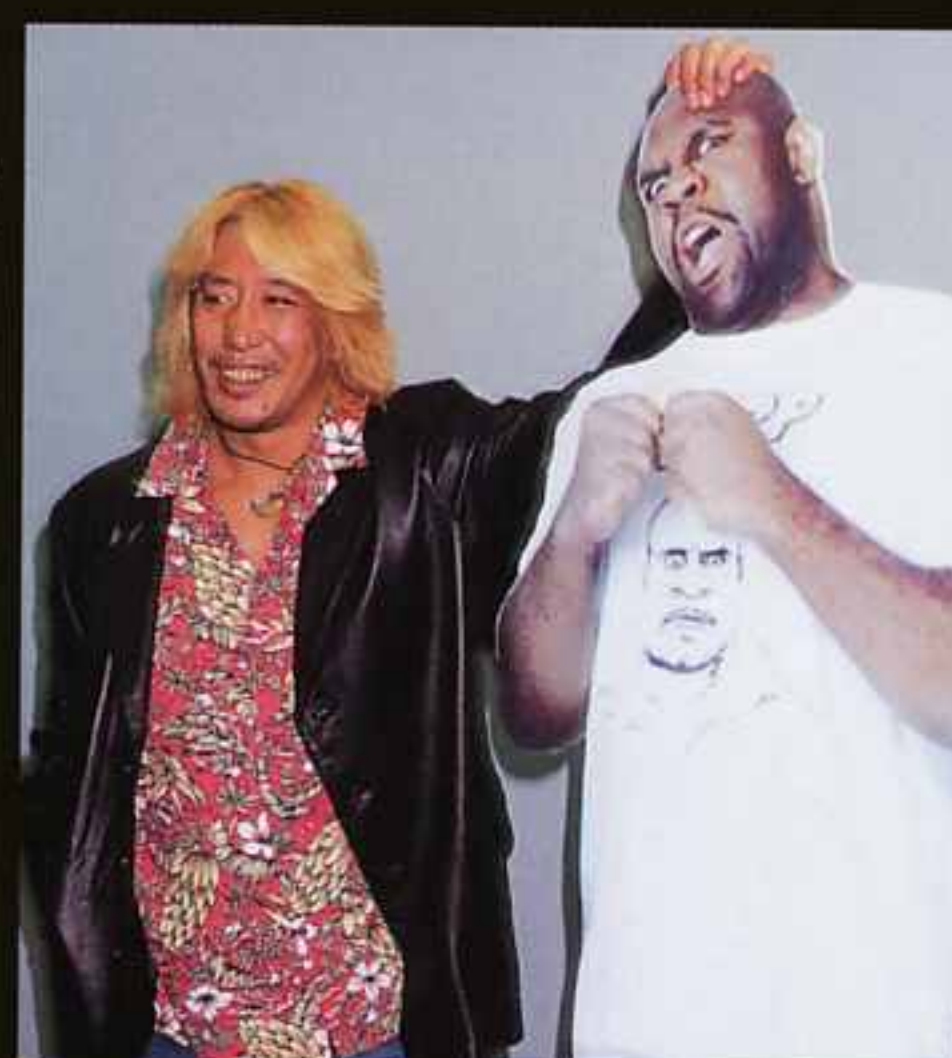
12月17日

▲▼サップのバックボーンはやっぱりアメフト。この日、社会人ナンバー１を決める東京スーパーボウルのハーフタイムショーにサップが出演。チアリーダーたちに囲まれてご満悦だった

一時帰国記者会見

12月11日

▶K─１で大暴れした３日後、サップは愛猫トリニティの世話のためアメリカへ一時帰国。そのために、記者会見が開かれたが、その時噂に上がっていた高山戦について、「タカヤマは非常にタフなので大きなチューインガム。噛んで飲み込む！」とコメント

サップVS高山正式決定！

▶サップが一時帰国した同日、ＴＢＳにて『イノキ・ボンバイエ』の記者会見が開かれ、サップVS高山が正式決定した。高山は、「どんなに歌を練習しても紅白には出られないので、こっちを選びました。サップという除夜の鐘でいい音を鳴らせればと思って決心しました」と粋なコメントを吐いた

渋谷でサイン会！一般公募でコーナーマン募集！

◀渋谷のワールドスポーツプラザでサイン会を開いたサップは、『イノキ・ボンバイエ』でセコンドに付くメンバーを１人、ファンから一般公募することを発表。ちなみに、この日はサイン会の前に『アッコにおまかせ』に出演していた

12月15日

『ソフト&ドライ』CM撮影！

◀連日テレビに引っ張りだこのサップだが、遂にＣＭまで決まってしまった。この日はライオンの柔軟剤『ソフト&ドライ』のＣＭの撮影を朝の８時から夜の９時までこなした。アスリートとしての汗のイメージと強い個性が起用の理由だとか。ＣＭ撮影はこれが２本目で、出演依頼は20～30きているという

12月18日

▶ちなみにこれが、サップが出演するＣＭの商品『ソフト&ドライ』

快挙！外国人初のプロレス大賞MVP受賞！

▶この日行われた東京スポーツのプロレス大賞の選考会で、なんとサップが外国人としては初のＭＶＰを獲得した。日本に来てから、それこそ野獣のように働いてきた成果が実った！

12月16日

12月７日のK─1で優勝は逃したものの、ホーストを返り討ちにし、驚異の視聴率28・4％に貢献したサップ。これによって、完全に時の人となってしまったために、大晦日に試合が決定しているにもかかわらず、とんでもないハードスケジュールに巻き込まれてしまった。まず、11日にアメリカに一時帰国すると、息を付く暇もなく14日に来日。そして、翌日の15日には渋谷でサイン会。そして、16日にはプロレス大賞を受賞したことにより、記者会見を開催。さらに、ハードな日々は続き、17日には社会人アメフトの東京スーパーボウルのハーフタイムショーで挨拶し、その翌日の18日にはＣＭ撮影と、ようやく試合に専念できたのは21日から。もう、売れっ子芸能人並のスケジュールで、ターザン山本氏がマネージャーをかってでたくなるのも無理はない。大晦日まであと少し。〝打倒紅白〟のために頑張れ、サップ！■

年末大スペシャル
ほめ殺し合い対談！

その思考回路だけでも、今年のMVPはやっぱり高山さんですよお！

前号で田村さんがMVPとか言ってたじゃないですか（笑）

ターザン山本（発言痴呆症）×高山善廣（思考のソーフィアー）

本）

山本

そっちは本当にめでたいねえ。

とこまでかまっていられないんでしょう

で。それを面と向かって言われるんだか

プして、プロレスリング・ノアの中に入

今は高山善廣しか、このマット界には切り札がいないということなんですよぉ（山本）
だから、ボブ・サップを相手にするということになっちゃうんですかねえ（高山）

山本　そっちは本当にめでたいねぇ。

高山　は？　何がめでたいんですか。

山本　これまでの高山さんにはいろんなことがあったんだけど、ふと考えると今年はめでたいなぁと思うわけですよぉ！

高山　何がですか？

山本　いや、お世辞じゃなしにぃ。

高山　だから、何が！（笑）。

山本　高山さんというと、やっぱり僕の頭の中にパッと浮かんでくるのはUインター時代に、神宮球場で川田利明選手と闘ったシーン（1996年9月11日）なんですよぉ。

高山　は………、はい。

山本　あれが思い浮かんで「高山善廣とはこれだ！」と。で、よ～するに「高山善廣は馬場さんのお気に入りの選手だった」となるわけですよぉ。物事を「点」として考えると、誰もが今の状況しか見ないでしょ。でも、高山さんをロングスタンスで見た場合に、僕が行き着いたのはあの川田戦なんですよぉ。高山さんに対して失礼ですけど、あそこから考えると「本当にここまで、よく伸し上がったな」というねぇ……。

高山　ハハハハハハハッ！

山本　お見事ですよぉ！　まあ、あの時に川田選手に負けて、キングダム時代があって、ノーフィアーとかいろんなことがあったわけだよねぇ。それがここまで来たということは、今年の『東スポ』プロレス大賞MVPは絶対に高山選手に取らせるべきだったんだよぉぉぉ！

高山　残念ながら、年間最高試合と殊勲賞で終わっちゃいましたねえ（笑）。

山本　やっぱり選考委員の皆さんには、ここ6年とか7年間の高山選手が歩んできた道を見てほしかったねぇ。

高山　皆さん忙しいから、そんな昔のことにまでかまっていられないんでしょう（笑）。

山本　短いスタンスでしか物事が見えないから、ボブ・サップになってしまったんだろうねぇ。キチンと時間軸を追って高山選手を見て、川田戦から馬場・全日本につながっていく道があって、フリーとして今日の地位を築いて大暴れするまでになったことに気づいてほしいよねぇ。あの神宮大会では川田選手に敗れたけど、今となっては大勝利を勝ち取ったわけですよぉ！　どーですか、僕のこの個人的な意見は。

高山　面白いなぁ……、と（笑）。

山本　ちゃんと聞いてくれてるぅ？

高山　楽しく聞いてますよ。『週プロ』編集長時代から山本さんのそういう勝手な妄想って面白いですもんね。読んでて「面白いことを書く人だな」と思ってたんで。それを面と向かって言われるんだから、今日はスペシャルですね（笑）。

山本　スペシャルもスペシャル、年末大スペシャルですよぉ！　とにかくあの神宮球場での川田戦は、Uインター側が馬場さんに頼んで実現して、今日の高山さんが爆発する原型というか、芽になったと思うんだよねぇ。あそこが成長過程の起点となったというか、右肩上がりのフィクションが始まったというか。よくぞ見事に時間をかけてここまできたよねぇ。

高山　あ、そう考えればそうですね。

山本　そっちは、やっぱり辛抱強いよぉ！

高山　でも、あんまり辛抱したという記憶もないんですけどね（笑）。

山本　小さなホップから始まって、様々なステップがあって、大きくジャンプするという形があるよねぇ。川田戦でホップして、プロレスリング・ノアの中に入ってステップして、ノーフィアーとなってガーッとやってきたけども、結局、ノアという大きな壁がありましたよねぇ。でも、今年の出来事から考えると、よ～するにもうノアという団体でさえも高山さんの存在のほうが凌駕したみたいなイメージになったわけじゃないですかぁ。これほどのブレイクはできませんよぉ、普通は。

高山　そうですかね（笑）。

山本　もし、「辛抱強い」というのと別の言い方をするならば、高山さん自身がロングスタンスで物事を見ていたのかな、という感じがするんですよぉ。

高山　いや、全然そんな長い目では見てこなかったですね。前にもどこかのインタビューで言ったんですけど、ちょっと頑張れば手の届く目標を一つずつクリアしてきて、常に上を見てっていう感じでやってきましたから。「ここまで来たから、じゃあ次はここ」「その次はここ」って。だから、そんなに長い先は見てなかったです。

山本　でも、川田選手との対戦によって生まれた馬場さんとの出会いというのはデカかったでしょ。

高山　そうですね。馬場さんと関わったのは、絶対にデカイことでしたよね。

山本　だって、馬場さんが高山さんのことを気に入っていたのは、身体の大きさもあるんですよぉ。それを最大の武器にするということが、じつはボブ・サップにしろ高山さんにしろ実行してるわけですよぉ。だから、今年はふたりとも自分の武器を最大限に生かす、開花させる時が来たということなんだよねぇ。自分の武器を生かすというのは気持ちいいでしょ？

©平工幸雄

◀ターザン曰く、高山の今のブレイクの原点は、1996年9月11日に行われたUインター神宮球場大会の川田戦

高山 自分ではそんなに大ごとだとは思ってないんですけど「生かしているから気持ちいいんだろうなぁ……」っていうくらいですね（笑）。まあ、「たまたま今、日本人でデカイのが、僕ぐらいかなあ」と。

山本 よ～するに、今は高山善廣という選手しか、このマット界には切り札がいないということなんですよぉ。

高山 切り札かなあ……？（笑）。だから、あそこまで派手に暴れたボブ・サップを相手にする日本人選手ということになっちゃうんですかねえ……。

山本 今年ブレイクしたふたりが、大晦日の12月31日に頂上対決するというのは、もう今年のピークですよぉ。それは単純に嬉しいことでしょ？

高山 嬉しいっていえば、嬉しいんですけど。でも、今年のうちに全部終わっちゃうと、来年はネタがなくなりますよね。

山本 大丈夫だよぉ。プロレスというのは終わったら、それが始まりだからぁ。

高山 まあ、そうですけどね。また新しいことができるんでしょうけど。

山本 今年の高山さんはもの凄くチャンスが多かったでしょ。どんどんチャンスが転がってきたというか。いろんなオファーがあるというのは、すご～く気持ちいいことだったと思うんだけどぉ。

高山 なんて言うんですかね、「波に乗る」っていう言葉が当てはまりましたよね。ホントに波乗りをしてる時の気分と同じなんですよ。押し寄せてくる大きい力に、うまく乗ってサーッと行くっていうね。で、波に乗るっていうのはたしかに自分の力が重要ですけど、後ろからの力でうまく前に進むじゃないですか。

山本 そうそう。

高山 そういうのはなんか、イメージ的に波乗りの感覚に似てますよね。「こういう状況を言うんだろうな」って。

山本 後ろから次から次へと押し寄せてきて、それが途絶えなかったよねぇ。

高山 そうですね。面白かったですよ。僕は自分で面白かったんですけど、逆に「他の人たちはどうしてたんだろう？」とか思っちゃいますよね（笑）。

山本 どうしてたんだろうねぇ（笑）。

高山 ホントに「他の人たちは何をしてたんだろう？」って思うくらい、今年はボブ・サップと僕のためにあった年だったなあって感じですよね。

山本 2002年はそーゆーことですよぉ！　日本人選手は今の状況の中で、なかなか突出して出てくることが厳しいわけですよぉ。やればやるほど、加熱すれば加熱するほど、盛り上がれば盛り上がるほど、潰れるんだよねぇ。そんな状況で、高山さんはよく出てきたよねぇ、お岩みたいに顔面を腫らしながら。高山さんは、マット界の「四谷怪談」ですよぉ。

例年ならMVPは高山さんで文句なしという活躍だったでしょう（山本）

高山 たぶん、お岩さんより僕のほうが凄い顔してましたよ（笑）。

山本 人間っていうのは運の強さとか、運が回ってくるというのあるんですけど、そういうのは信じるタイプなんですかぁ。

高山 いや、運が強いとかそういうことはあんまり考えないですね。まあ、僕がこれだけ波に乗っちゃうと、そういうふうに運がいいとか思っちゃいますけど。でも、それなりに自分で考えて動いてきたことだから、「運」とか言う人はあまりにも自分で先を考えないで行動しすぎなんだろう、と。だって、僕なりにわずかながらの脳ミソをフル回転させながら、「こう動いたほうがいい」とか「こうしたほうが絶対に面白い」とか考えてやっているんで。それを「運」という一言だけで片づけられるっていうのはイヤですね。

山本 僕が一番ビックリしたのは、G1クライマックスの前にやったテレビの煽り番組で、持病の喘息をカミングアウトしたことなんだけど……。あれ、なんで急にああなったのか僕は疑問に思っちゃったわけですよぉ。デカイ身体をして喘息の薬を飲んでてさ、そのシーンを撮らせたでしょ。あれは自分から撮らせたんですかぁ？

高山 「何かインパクトのある絵はない？」とか言われて。

山本 えっ！　でも、普通は隠すでしょう。

高山 う～ん、でも実際にそうですからね。

山本 でも、あそこで公開するまでは誰も知らなかったんでしょ。だって、マスコミの人も知らなかったでしょ。

高山 あまり知らなかったでしょうね。

山本 マスコミが知らないということは、世間が知らないということで、ファンも知らなかったということですよぉ。だいたい、僕が知らなかったぐらいだからねぇ。

高山 まあ、山本さんは業界の中でも非事情通の部類ですから（笑）。

山本 うむむむっ！　でも、あのカミングアウトは今年の事件の一つですよぉ。

高山 あ、そうですか。まあ、たしかに僕の友人でさえ、「あんなに深刻な状態だとは知らなかった」って言ってましたね。

山本 そうでしょ！　あれを公開して「しまった！」とか思いませんでしたか？

高山 まったく。

山本 全然、思わない？

高山 あれが出た後、町を歩いている時に、男の子を連れたお父さんに声をかけられたんですよ。「この子も喘息なんですけれど、あの番組を見て頑張ろうと思いました」って言ってくれたんです。その言葉を聞いた時に「ああ、良かったな」と思って。

山本 へえ～。

高山 はい。その後も同じような機会が何回かあって。あとは、ウチの事務所（＝高山堂）にも手紙が何通も来ましてね。他にもインターネットに書き込みがあったりとか。

山本 同じ病気を持っている人から？

高山 はい。

山本 どんなことが書かれていたん？

高山 「高山選手の頑張りが励みになりました」とか。それから、「こういう療法で治りますよ」とか。とにかくいろんな反響がありましたよ。だから、結果的には凄く良かったですね。

山本 普通は、頑強な身体を持っているのがプロレスラーのウリでしょ。「喘息」というのは、ホントにギャップがあって

さぁ、なんていうか僕らのほうが、高山さんのファイトを見るのが怖いなというか、凄くビビっちゃったわけですよぉ。
高山　生まれ持っての持病という意味でいうと、山本さんの妄想癖のほうが僕よりも深刻だと思いますよ（笑）。
山本　くう〜っ！
高山　うん、絶対に（笑）。
山本　今でも薬は飲まれてるんですか。
高山　飲んでいます。
山本　じゃあ、ずっとその持病と付き合いながら生きてるわけですねぇ。
高山　そうですね。
山本　あの薬の量って多いですよね。
高山　多いですけど、まあ、あのテレビの時よりはちょっと減りました。最近は調子がいいから。
山本　調子がいいというのは、気候とかいろんなことが影響するんですかぁ。
高山　いろんな要素があるみたいですね、本当に気候の影響もあるし、脊髄のバランスが悪かったりとか。あとはほんとに身体が疲れすぎちゃったりとか。
山本　失礼ですが、今まで一番苦しかったのは、どんな時だったんですか。
高山　今までですか……？
山本　もう、咳が全然止まらないとか。
高山　咳とかじゃなくて、呼吸ができないんですよ。わずかにしているんでしょうけど、気道が細いストローぐらいしかないんじゃないかっていう感覚。だから、喉をナイフで切り裂いてでも空気を入れたいとかそういう気持ちになりますね。
山本　凄い苦しみだねぇ、それは。
高山　まあ、それぐらいの気持ちになりますね。まあ、実行したら命がヤバイからやらないですけど。でも、ホントにそうしたいという感じですよ。
山本　小さい時から、その苦しい闘いを続けてきたんですねぇ。
高山　まあ、僕自身は闘ってるとは思わなかったですけど、やっぱり闘ってきたのは両親でしょうね。それには本当に心から感謝してますよ。
山本　ところで、高山さんは『WRESTLE―1』（＝以下『W―1』）は見たぁ？
高山　あ、見ました。
山本　あのイベントに対して、興味とか関心はあったわけ？
高山　それはもちろんありましたよ。ペイ・パー・ビューは見なかったですけど、地上波の放送はちゃんと見ました。
山本　ああいう路線というか、フジテレビのプロレスのくくり方というか、持っていき方というか、見せ方というのはどう感じているん？
高山　全てがいいとは思わないですけど、「あれも一つの手だな」とは思いますね。やっぱりなんだかんだ言っても、テレビ放映があるどこの団体も深夜枠で諦めているこの業界で、いきなり夜7時に放送しちゃったわけじゃないですか。それって正直言って凄いことですよね。
山本　まず、それを第一に評価しなくちゃいかんよねぇ。
高山　それを実現させた起爆剤がボブ・サップだったじゃないですか。だから、彼がプロレス大賞のMVPでもしょうがないな、と僕は思ってるんですけどね。
山本　そういう意味で、サップに対しては一目置かれているわけですかぁ。
高山　はい、それはもちろん。
山本　この時代に突如ゴールデンタイムに出たプロレスということで、その起爆剤となったのがボブ・サップだった、と。そうすると、『W―1』は大きな流れの中でマット界に対する、ある種の一つの光みたいなものがある、と。そういう意味でMVPは納得だな、ということですかぁ。
高山　そうです。だから、僕は今年のMVPを受賞するのはボブ・サップ以外に認めないですよ。
山本　それは凄い言葉ですよぉ！
高山　サップ以外の人間に与えるんだったら、これから『東スポ』の取材は受けないぞ、と（笑）。そこはまあ、ちゃんとボブ・サップに落ち着いたんで……。
山本　良かったな、と。
高山　まあ、僕でも良かったんですけどね。ハハハハッ。
山本　いや、ホントに高山さんじゃなかったのが、おかしいわけですよぉ。だって、例年ならMVPは高山さんで文句なしという活躍だったでしょう。
高山　まあ、「今年のプロレス界は異常気象だった」ということにしておきましょう（笑）。
山本　エルニーニョ現象ですよぉ！　まあ高山さんから見て『W―1』は可能性的にはどうですか？
高山　あれを「こんな感じでいいだろう」じゃなくて、「もっと、もっとやることがあるはずだ！」と思ってやってくれれば、いいものになるんじゃないですかね。「こんなもんでいいだろう」と思ってやったら、この先はないというか、もう終わりでしょうね。その辺が、まだまだ明確じゃないですよね。

「今年のプロレス界は異常気象だった」ということにしておきましょう（高山）

©平工幸雄

▲今年の東スポ大賞のベストバウト賞を受賞した5月2日、新日本プロレス東京ドーム大会での永田裕志戦。ド迫力ファイトを展開したフライ戦があったにもかかわらず、この試合だったのは謎だ

山本　今は手探りという感じだからねぇ。「何が正しいのか？」「何がインパクトがあるのか？」「何が時代にマッチしてるのか？」ということを手探り状態で、恐る恐る、あるいはフライングしながら、あるいは博打をしながらやってますよねぇ。その辺の雰囲気はどう感じますか。

高山　それは感じますね。で、あれに絡んでいるプロレスラーやプロレス業界の人が、あんまり自分の意見を言ってねえんじゃねえかなあ、と思って。それがダメですよね。言ってるのかもしれないですけど、僕から見ると、言ってないような気がするんですよね。プロレス業界以外の人が来て、「こういうのをやりましょう、やりましょう、やりましょう」って言ったら「うん、そうだね、そうだね、そうだね」って言ってリングに上がっちゃってるような気がするんですよね。それじゃあ、ただのアホだろう、と。

山本　でもレスラー側からすると、まだ海のものとも、山のものとも分からないので、「ちょっと様子見ようかな……」というスタンスで、あの舞台に出なかった人がいっぱいいますよねぇ。出た人の中にも、「まだちょっとどんなものだか分からないけど、武藤選手がやってるからとりあえず俺たちもやってみようか」っていう、そういう付き合い方ですよねぇ。

高山　それじゃダメですよね。やっぱやる前、あるいはみんなに見せる前に方向性を熟考して、ある程度コンセプトをまとめて納得してからやれば、あの第一回大会はもっといいものになったんじゃないですか。

山本　でも、現時点ではあれが精一杯っていう見方もできるんですよぉ。

高山　いや、もっともっと考える部分はあると思いますし、それを放棄するんだったら、あの場に上がる意味はないし、あのイベントに参加する意味はないですよ。

山本　凄い思考だねぇ。その思考回路だけでも、今年のMVPはやっぱり高山さんですよぉ！

高山　そんなこと言ってますけど、『SRS・DX』の前号で田村（潔司）さんがMVPとか言ってたじゃないですか（笑）。

山本　あれはあの時限りの言葉だよぉ。

高山　ハハハハハッ。相変わらず、山本さんは過去をオールすべてぜ～んぶ捨て去っていいですよね（笑）。

山本　だって、世の中は日々動いてるんだもん。

高山　たしかにそうですけどね（笑）。

山本　世の中に動かないもの、変化しないものはないんですよぉ！

高山　はいはいはい。あの時点では田村さんがMVPだった、と。でも、もう過ぎちゃったわけですね。山本さんのそのスピードに世間はついていけないですよね。

「自爆芸」とか言いやがって！「なんじゃ、そりゃ!?」って感じですよ（高山）

山本　誰もついてこれませんよぉ。

高山　山本さんほどの天才……というか、飽きっぽい性格の人はいませんからね。

山本　それをレスラーの人から認められるなんて、俺も一丁前だなぁ。

高山　んあ～！（笑）。

山本　まあ、レスラーは選手それぞれが持ち味というかさぁ、個性を持ち回り制で出してくればいいわけですよぉ。で、田村選手はそれを『プライド23』の髙田戦で出してくれたわけですよぉ。で、高山さんは高山さんで、別の土俵で出してくれたわけですよぉ。

高山　それが面白いんですよね。

山本　その時々でレスラーに惚れていけばいいんですよぉ。じつに勝手だけど、僕たちはその瞬間瞬間にはその人しかいないと思えればいいんですよぉ。

高山　そうですよね、昔のプロレスがそうでしたもんね。夏になれば、ミル・マスカラスが来てね。

山本　そうっ！　世界最強タッグ決定リーグ戦になったらブッチャーとかシークやザ・ファンクスが来るみたいなね。あれでいいんですよぉ。

高山　それが今は一年を通して毎回同じ顔だから、つまらなくなるんですよね。

山本　要するにさぁ、メリハリが効いてないもん。髙田VS田村戦を見たから、次にボブ・サップVSホースト戦を見ると面白いわけですよぉ。その転換を貪欲に楽しまないと。その点でやっぱり高山さんのドン・フライ戦には呆れ返ったというかねぇ。あの試合には僕も完全に一本取られましたよぉ。

高山　でも、前号の座談会で谷川さんが「自爆芸」とか言いやがって！　「なんじゃ、そりゃ!?」って感じですよね。

山本　あれはヒドイ言い方だったよねぇ。

高山　もうちょっとオシャレな表現をしてほしいですよね。

山本　そうだねぇ、「自爆芸」と言われたら、味も素っ気もないよなぁ。

高山　はい。

山本　でも、あれは谷川ならではのキラーな表現なんですよぉ。でも、サダハルンバがキラーの領域まで行く必要はないんだよねぇ。クールなら、クールの味を出せといいたいんだけどねぇ。

高山　でも、谷川さんにクールっていうイメージないですもんね。イメージはどっちかって言うと「ウエット」な感じがしますからね（笑）。

山本　湿った感じがするんだけど、その心は実はドライなキラーなんですよぉ！

高山　まさに正体不明ですね（笑）。

山本　善意の仮面を被って、じつは無意識の悪意に満ちてるもんなぁ、あの男は。

高山　谷川さんがドン・フライ戦を「自爆芸」って言ってるのを読んでから、僕も考えたんですよ。「まあ、そういう言葉も当てはまるな」と思って。「でも、その谷川さんが大好きな極真空手だって、素手での顔面打撃が有りだったら、ああいう形の試合になってるんじゃねえの？」

▶◀サダハルンバ編集長が「自爆芸」と評したフライ戦。ともかく、凄まじい殴り合いだった

と思ったんですよ。

山本　いいこと言うねぇ、そっちは。優れた言語感覚を持ってますよぉ。

高山　谷川さんの言葉を読んで考えたら、そう思ったんですよ。で、いつか言い返してやろうと思って。

山本　今のはいい反論ですよぉ。

高山　「谷川さんは極真空手が大好きでしょ。でも、極真の試合って顔面打撃がないからああいう試合にならないだけで、胸やローキックを打ち合ってるんじゃないですか。極真に顔面攻撃があったら、あれがまさに理想の姿なんじゃないですか」って。

山本　極真はハッキリ言うと、あれはマゾ芸ですよ。

高山　いや、僕はそこまでは言いませんけど（笑）。

山本　でも、極真好きの谷川に一矢報いたいために、そういう理論を考えて、言い返してやろうと考えていることが素晴らしいよなぁ。

高山　僕は言われっぱなしはイヤなんで。

山本　でも、細かいところまでちゃ～んとチェックしてるんだねぇ。

高山　チェックしてますよ。もう、山本さんの過去の記事とかもさんざんチェックしましたから（笑）。

山本　僕の記事をチェックしてもムダですよぉ。だって、僕自身が忘れてるから。

高山　そうですよね。で、インタビューを受けると、山本さんが過去にUWFに対して言った言葉を僕が全部言ってるんだもんな（笑）。

山本　ということは、なんだかんだ言っても高山さんが僕に影響を受けてるということですよぉ。

高山　それは認めます（笑）。だって、面白かったんだもん。「うわっ、こんなこと言っていやがる」とかね。でも、それでいいんですよね。たとえその論調がブーイングでも、それは支持されているのと同じということですからね。

山本　そーゆーことです！　批判するというのは、それだけその選手に注目しているということだからぁ。

高山　批判もなく、見向きもされないで捨てられたら、終わりですからね。

山本　賛否もなく何も言われない人生というのは終わりなんですよぉ。たとえ批判でも、それをバネにタフになってくれればいいんですよぉ。

高山　そうそう。みんなタフになれないから、可愛がられようとするんですよね。

善意の仮面を被って、じつは無意識の悪意に満ちてるもんなぁ、あの男は（山本）

山本　そう、それで墓穴を掘るんですよぉ。逆に、タフな人間は逆に突っついてやろうとか、やっつけちゃおうとかさぁ。

高山　それは凄く感じますよね。いじめっこ根性が凄く湧いてきますよね。

山本　それがプロレスですよぉ。でも、プロレスを理解しきれない野暮な人が多いんだよねぇ。長州力なんか、僕に対して本気で怒っちゃったんだもん。

高山　山本さんに対してですか？　それは大人げないですねぇ（笑）。

山本　大人げないんだよぉ。やっぱり体育会系体質なんだろうねぇ。

高山　それを体育会系というと、全国の体育学部の人に失礼です。

山本　もっと、しとやかに生きてほしいんだよなぁ。

高山　しとやかに……（笑）。しとやかに『ゴング』の表紙を飾ってましたね。

山本　あれはガッカリするよなぁ。GK（＝『週刊ゴング』金沢克彦編集長）が長州に付き合って無理心中というか、自殺しようという感じでしょ。

高山　同意自殺ですか？

山本　後追い自殺ですよぉ！　だって、サイパン合宿の取材に行ったの『ゴング』だけなんだもん。

高山　そこはGKの偉大さを感じますね（笑）。

山本　まあ、ここまで話してきて、プロレスが混乱から混沌、変革への道をたどっている時にバーンッと出てきたのは、やっぱり高山さんは頭がいいからだねぇ。

高山　「火事場泥棒」っていう言葉が僕には当てはまるのかなぁと思っちゃって。ぐちゃぐちゃになったマット界で、いいところだけをかっさらうというか……。

山本　火事というのは事故だけど、これは生まれ変わるための出来事なんですよぉ。

高山　ということは「アルマゲドン」ですね。じゃあ、「アルマゲドン泥棒」ということで（笑）。

山本　言語が豊富だねぇ。やっぱり僕と相性がいいですよぉ。僕と相性がいいということは特殊な人生を生きてるということですよぉ。

高山　普通に生きるのはいつでもできますから、歳を取ってからでいいんですよ（笑）。今のうちに派手なことやっておけば、かえって「退屈」がエキサイティングになっちゃったりしてね。プロレスの世界に入って、たしかに自分の夢を追っているから楽しいんですけど。これが終わって引退して、ずっと海とかをポカーンと眺めてるのも楽しそうだなぁ、と。

山本　馬場さんはそれをやろうとしてたわけ。引退したらハワイに行って、延々と押し寄せる波の繰り返しを見て、ボーッと生きたかったって。

高山　僕もそうですよ。でも、僕は馬場さんほどリッチじゃないので、江ノ島でいいです。ところで今日は、猪木祭のボブ・サップ戦のことは何も聞かなくていいんですか？

山本　そんなのは、現場に行って見りゃあいいんだもん。

高山　あ、なるほど（笑）。でも、煽りとか、雑誌的には大丈夫ですか？

山本　高山善廣vsボブ・サップ戦に興味があったら、大晦日はさいたまスーパーアリーナへ馳せ参じろってことですよぉ！

高山　う～ん、じゃあ大晦日は僕もさいたまスーパーアリーナへ行くことにしようかな（笑）。

山本　くう～っ！　お見事な切り返しですよぉ！■

藤田和之が断言！「ミルコを完結させる‼」

“近年まれに見る凄惨な試合”が大晦日に勃発だ‼

今年の大晦日『イノキ・ボンバイエ2002』で藤田和之VSミルコ・クロコップの対戦が決定した。昨年8月、ミルコのヒザ蹴りによって左のコメカミを割り、ドクターストップとなってしまった藤田が、いよいよ借りを返す時がやってきたのだ。今回はどんな試合になるのか想像もつかないが、藤田自身は「ミルコを完結させる」「凄惨な試合になる」と断言しており、驚愕の試合になることは間違いない。ともかくノリに乗ってる藤田の迫力ある言葉の数々に触れてほしい。

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

――いよいよミルコ戦が決まりましたね。今どんな気持ちですか。

藤田　全ての始まりはあれだったんで、それだけですね。完結させるのに1年半ぐらい？　ここまでよくミルコがもってくれたなって。ふふふ。

――そうですね。よく勝ち続けましたよね。

藤田　よく勝ち続けて、よく待ち続けた甲斐がありました。それまでにいろいろケガとかありましたけど、うまく帳尻合わせて、この時を迎えられたんでよかったです。

――ある意味、藤田さんがミルコを大きくしてしまったってのもありますもんね。

藤田　いや、そんなことないと思います。彼の気持ちひとつだと思います。彼の集中力が続いた。

週刊ゴングの記事には「勝つとか負

よ。

ますね、今。

普通です。

ないと（笑）。

――つまり、勝ったあとの計算しかして

ミルコを叩きつぶして引きずり降ろしてやる。本気ですよ、本気

――週刊ゴングの記事には「勝つとか負けるとかじゃなくて、絶対結果を出す」と強い決意で語ってましたね。

藤田　そうですね。完結させる。ただそれだけです。

――ところで、どうもさっきから気になって仕方ないんですけど、唇はどうしたんですか。

藤田　切っちゃったんですよ、打撃で。相手は打撃やってくるだろうから、そういう練習とかやってて、前はアオタン作ってもっと凄かったんですけどね。もう試合のつもりで練習してますから。

――昨日の記者会見でも唇は切れてるし、凄い汗かいてるしで、いったいどうしたんだろうって言ってたんですよ。

藤田　練習終わってそのまま来たんですよ。

――やっぱり気合いが入ってるんですね（笑）。

藤田　通常の試合とテンションが違いますから。叩きつぶして、引きずり降ろしてやるって。ふふふ。

――なんか、プロレスラーの方々が試合後に言う言葉とは違うものを感じますね。

藤田　だって本気ですもん。

――本気ですよね（笑）。

藤田　本気ですもんって言って笑えるところがね。ふふふ。まあ、プロレスも本気だろうけど。どうだっていいんですよ、僕。今となれば僕は本気なんですよ。

――それがヒシヒシと伝わってくるんですよね。活字だと伝わりにくいんで確認してるんですけど、不気味な怖さがありますね、今。

藤田　そんなことないですよ、普通です。あんまり今熱くなっちゃうと、当日冷めちゃうかもしれないから。

――考えてみれば、去年の今頃はバンナ戦が決まったところでアキレス腱が切れてしまって。悔しかったんじゃないんですか？

藤田　「しまった！」て思って。でも、バンナに対しては初顔合わせだったし、何もされてなかったんで、テンションが上がってなかったんで。でも、今回は気持ち上げやすい。

――アキレス腱のほう、まだ多少は痛みは残ってるんですか？

藤田　痛いですね。やっぱ、1年は無理しちゃいけないって医者から言われてますから。でも、痛い、痛いって言って休んでたらメシ食えないし。だから今は、切れたらまた繋げばいいやって。そのぐらいの気持ちでやってないと。職業ですから。

――これまでミルコの試合を何試合か見てると思いますけど、最初のイメージと今とは変わってきてると思うんですが。

藤田　自信がやっぱついてきてますよね。表情とか体つきとか。

――技術的にはどうですか？

藤田　やっぱり、キックとパンチの選手ですね。そこにレスリングとか組み技に対するガードを勉強してるなと。あとは、力はあるでしょうね、あの体ですから。

――藤田さんなら大丈夫でしょう。

藤田　どうなんすかね、やってみないと分かんないですけど。

――勝算はどのくらいあると考えてます？

藤田　勝算しかないんです。勝算しかないから数字が出てこないです。ふふふ。

――つまり、勝ったあとの計算しかしてないと（笑）。

藤田　勝算しかないから（笑）。

――ファンはこの試合をどんな試合になると想像というか、期待したらいいんですか。

藤田　近年まれに見る凄い試合。

――凄惨な試合。

藤田　凄惨、凄惨。ふふふ。まあ、凄い試合になると思います。本当に憎たらしいんですよ。

――どの辺が憎いんですかね？

藤田　のさばってるのが気に入らない。

――ナメ切ってますからね、レスラーを。

藤田　べつにいいですけどね。俺だって、K―1をナメてますからね。

――そうなんですか（笑）。

藤田　お互いに憎みあってやるのが一番面白い試合になると思うんで。だから、面白い試合になりますよ。なんだろ、一番人間の本性を剥き出しあえる相手だと思ってます。

――ミルコの本性は非常に悪いですからね。

藤田　そうなんですか？　僕はもっと悪いですよ。ふふふ。

――そんな気もしますね（笑）。

藤田　事務所のおかげです。アントニオ猪木という蓋がないと大変なことになっちゃいますから（笑）。

――猪木事務所の蓋がないとどんなことになってるんですかね。

藤田　いや、分かんないです。

――なんか私生活でも相当ハメを外しそうですよね。

藤田　いや、そういうのはないでしょう。

――女性関係で言えば、お婆ちゃんにせがまれた時もキチンと男の仕事をしたとかって噂もあって（笑）。

◀12月11日、イノキ・ボンバイエの記者会見に出席した藤田はご覧のとおり、唇から流血している。会見直前まで激しい練習を続けていたことの証だ

のさばっているのが気に食わないミルコを本当にぶっ飛ばしたい

藤田 それはヒガミ。分かりますよ。そうやって俺の立場をヒガむ気持ち。ふふふ。

――ヒガミからの噂だったんですか(笑)。

藤田 悔しかったら上がって来いって。陰口叩いてないで上がって来いって(笑)。

――余裕ですね。

藤田 余裕です。だから試合のことでしょ?

――では、試合の話に戻しますが、何で勝とうと思ってますか?

藤田 技とかそういうんじゃなくて、いかに相手の心を折るか、もう絶対このリングに上がりたくないって思わせるようなことをしてやりたいです。そういうシミュレーションでやってます。

――それが凄惨な試合ということですね。

藤田 まあその一言で片づけられない。

――もっとドロドロしたものがあるんですか。

藤田 とにかくもう。

――何がそんなに?

藤田 よっぽど試合に飢えてたってことですよ。だから嬉しいんですよ、試合が。

――そう言えば、バーリ・トゥードは1年以上やってないですね。

藤田 8月に安田さんと『LEGEND』でやってますけど。

――あれは微妙ですよね。バーリ・トゥードだけど、闘争心が燃えないやりにくい試合。逆に、鬱積が溜まるような試合だったじゃないですか。

藤田 まあ、殴ったほうが痛くなっちゃう。仲間ですからね。それはそれで、ああいう経験もして。

――だから、去年は8月のミルコ戦で終わって、今年はミルコで始まると。

藤田 ミルコで始まる。……でも、その日で今年は終わりだよ(笑)。

――仕事の効率的にはいいですね(笑)。ちょっと前にプロレスはしばらくやめて、格闘技に専念するとおっしゃってましたけど。藤田さんは今後どう動いていくつもりなんですか?

藤田 先のことを考えないで、自分の思ったとおりに、自分だけで行動できるっていうことで、選んだんですね。プロレスっていうのはやっぱり兼ね合いがありますから、そういうこと考えたら、自分に合ってるのは今やってるこっちだし。座右の銘じゃないけど、やったことないことにああだこうだって言うのはあれだったんで、しばらくこっちやって、プロレスもやって、それで答えが出た。自分に合った、こっちの水の所でやっていこうって。

――この前、UFCも見に行ってましたね。

藤田 やっぱりああいう舞台でやりたいです。そういう意味では、ラスベガスとかああいう所が自分には凄く合ってます。

――それが藤田さんの世界戦略の第一歩なんですか。

藤田 戦略はないですね。いろんなことをやっていきたいなっていうのがあって。それに、向こうから見た日本って、やっぱり小さな国ですしね。そういう視野も広げていきたいなって。

――例えば、桜庭さんは好きなことができればどこでもいいって感じじゃないですか。あとのことは面倒くさいと。でも、藤田さんはそれに加えて野心っていうか、『プライド』でもUFCでも、どこにでも出て行って、アメリカでも、世界でも名を売ろうとかって気持ちがあるような気がするんですが。

藤田 どこで試合をしようが、結果的に名前を売るってことになるだろうけど、結局、なんかあんまり一つの所でやれないですよね。こういう性格だし。性格っていうか、こういう感じなんで。基本的に几帳面じゃないですよね。僕は社会適応能力としては出世はできないタイプなんで。周りに気を使うこととかヘタなんで。

――らしいですね(笑)。

藤田 僕、自分では一生懸命やってるんですけどね。全然それが違うみたいなんで、その辺は自分で見極めないと。

――自分では一生懸命やってるんですか?

藤田 やってますよ。

――ウソでしょ? 新日時代、新弟子のくせに先輩のあとから道場に入ったり、長州さんに「ここに座れ!」って怒鳴られたら近くの椅子に座って、「イスじゃない、正座だ!」って言われたとか、結構、有名な話ですよ(笑)。

藤田 本当に?

――新弟子とは思えないデカい態度だったって(笑)。

藤田 そんなことないですよ。僕はちゃんと新弟子として最初から雑用からやってましたから。きっちりやってましたから。

――やることはやりながら、周りから見

悔しかったら上がって来い！陰口叩いてないで上がって来い！

ると、本当にデカい態度だと。

藤田　ちゃんとやってました。

——本人に自覚がないのが凄いですよね。

藤田　よく分かんないですけど、それもヒガミじゃないですか。ふふふ。

——絶対違いますね（笑）。

藤田　だいたいね、昔のことを大げさに話すなんていうのは、足を引っ張ってるんでしょうね。俺も足を引っ張られる立場になったんだな。ふふふ。

——もっとヒガめと（笑）。でも、今の話は明らかに武勇伝ですけどね。

藤田　今、本当、試合という目標に集中して、充実してますよ。精神的にも。それに大晦日のあと、次どういうふうにやろうかなとか。

——今、練習はどこでやってるんですか。

藤田　まあ、あちこちで。髙阪さんの所や髙田道場さん、パンクラスさんで。

——どんなペースでですか？

藤田　決めてないですね。自分のペースで、この日はここに行くとか。

——それは朝起きて、「今日はパンチかな」って思えば。

藤田　いや、前の日にちゃんと連絡しますよ。そこまで横柄じゃない。ちょっとは進歩しましたよ（笑）。

——じゃあ、今回は一つの場所を基点にして練習プランを考えていくっていうんじゃないんですね。

藤田　毎回違んですけど、今回はそういう形で。トレーナーで言えば、自分のことを一番よく分かってくれるのは、ブライアン・ジョンストン。彼なんか、俺が手を抜いてるとすぐに分かるから。

——そういえば、ミルコ戦ではブライアンさんのガウンを着て入場するんですね。

藤田　ああ……。あの時、病気で倒れていなければ、K—1とか『プライド』のリングに上がっていたんですよね。ガウンはそのために準備されたものなんで。

——それをジョンストンさんがミルコ戦で使ってくれ、と。

藤田　それまでは誰にも言わずにしまっておいたらしいですね。でも、そういうガウンを簡単には受け取れないでしょう。彼の気持ちを考えたらね。それでも、どうしても使ってくれっていうんで、分かった、と。

——プレッシャーがかかりますね。

藤田　プレッシャーでもあるし、喜びでもあるし。

——そうですね。まあ、いろんな意味でこの12月31日の試合はいい転機になるといいですね。

藤田　ええ、毎回そんなこと言われてるんですけど。そういう試合ばっかりなんですよ（笑）。

——それだけ期待されてるんですね。それに、これまでその期待にも応えてきたし。ミルコ戦以外は全部ものにしてきてるような気がしますけど。

藤田　でも、ミルコ戦でやっと自分の立場が分かったみたいなね。

——負けて？

藤田　うん。だから、それで今日までいろんな人が試合して、ミルコは負けなくて、結局また僕の所にオファーが来て。

——運命ですね。

藤田　それはもう。

——一時ミルコ戦がダメになりかけた時、噂でサップとかの名前が出てましたけど……。

藤田　サップは夏ぐらいから出てましたね。『ＬＥＧＥＮＤ』とかもあって。

——じゃあ、サップとやることに関しては全然問題なかったわけですね。

藤田　問題ないです。ただ、やっぱり、まずはミルコを片づけてからでしょう。でも、高山さんがサップとやるんで全てを終わらせてくれると思いますけど。一番怖いのは高山さんがサップとやって、その後二人でタッグ組まれたら大変なことになる（笑）。

——観客としては見たいですね。

藤田　凄いタッグチームができる。まあ、結果はどっちにせよ、高山さんがサップを打ち叩いたら、高山さんは上がって来るでしょうね。凄いブームが起きるんじゃないかなって。人のこと言ってる場合じゃないけど（笑）。

——藤田さんはしばらくはプロレスはやらないんですよね。

藤田　今は頭に入ってないです。プロレスはプロレスで難しいから。実際やると、本当難しい。3年くらいしかやってないですけど、本当難しい。

——格闘技とはまた別のものですよね。

藤田　別ですよね。感情だけじゃダメなんで。格闘技は感情だけでいいんで自分に合ってる。まとめちゃったけど（笑）。

——ところで、ＮＷＦベルトはどうなるんですか。

藤田　さあ、知らない。

——「知らない」って、藤田さんがプロデュースしたんじゃなかったでしたっけ？（笑）。

藤田　してないですよ。

——いや、表向きはそうでしょう。

藤田　さあ、分からない。どうだっていいでしょう。ふふふ。

——ホントに自分勝手ですね（笑）。もうその調子でミルコ戦も暴れまくってください。■

藤田のリベンジ？そうは問屋がおろさない。ミルコを甘く見ると火傷（やけど）するぞ！

文◎ターザン山本

今年、8月の『Dynamite!』以降、マットから遠ざかっていたミルコ。警官を辞めてファイターに専念することになったため、大晦日の藤田戦への意気込みは半端なものではない

ミルコ・クロコップは人気がない。マスコミやファンからも、好かれている存在でもない。どちらかというと、敬遠されている。しかし、それは嫌いというわけでもないのだ。

〝プロレスハンター〟という言われ方が、そもそも憎まれる理由。藤田和之、永田裕志、桜庭和志を、次々とぶち倒してきたのだから、プロレスファンにとっては憎き対象になって当然である。

だが、よく考えてみるとそれってプロレスファンの側からの一方的な見方であることが分かってくる。この世界はプロレスファンのためだけに存在するものではない。みんなのためにある。

そう考えるとこれはどこか変だ。おかしい。むしろミルコのほうにいろいろ言い分があるだろう。「なぜ、オレがプロレスラーから目の敵（かたき）にされなければならないんだ。オレがいったい、何をしたというのだ！」と。

ミルコを目の敵にしているのは、実はプロレスファンなのだ。プロレスファンがプロレスに抱いている最強幻想を証明するために藤田、永田、桜庭はミルコと闘ったのだ。この3人がやったことは全てプロレスファンのためである。

そのプロレスファンの夢をかなえた時、彼らはスターになれるのだ。このようにプロレスファンは、かなり身勝手で自分中心でエゴイストといえるだろう。

なぜならプロレス以外の価値観を、決して認めようとしないからだ。ミルコは強い。その強さを実力測定の場で実証してきた。格闘技はその実績しか説得力のあるものとして存在しえないからだ。

だったらミルコをリスペクトするのが筋である。リスペクト（尊敬）どころか寄ってたかって〝ミルコ潰し〟に躍起になっている。今年、ミルコはマーク・ハントやヴァンダレイ・シウバとも試合をやらされているのだ。

いくらなんでもこれはひどすぎる。ミルコは何も悪くない。これは形を変えたいびりである。いじめである。そうであるならミルコでなくても、すねてみたくなる。「オレ、やーめた。お前たちのいうことなんか、聞いてやるもんか！」とケツをまくってしまったというのが、2002年K―1GP決勝トーナメントをキャンセルした要因である。

ミルコにはK―1GPをキャンセルする権利があったというのが、私の見方でもある。また、結果的にあそこをミルコが避けて通ったことで、今年のK―1GPは、ボブ・サップとアーネスト・ホーストがからんだ面白い展開になった。

もし、仮にミルコがK―1GPに出場していたら逆にああいった集中的なドラマ展開にはなっていなかったと思う。そういう意味でもミルコは、いい勘をしている。ミルコがK―1GPに出なかったのは、絶対に〝是〟なのだ。

ファイトマネーの面でお金を吹っかけてきたという噂は、ミルコにダーティーイメージを与えたが、それもまたミルコらしいといえる。お金が欲しいから吹っかけたのではなく、要は出場したくないから吹っかけたのだ。

警官を辞めファイター専念を決めたミルコ。〝ミルコ旋風2003〟の序章となるか!?

▲昨年の8・19『K－1 ANDY MEMORIAL』でのミルコVS藤田戦では、ミルコのヒザ蹴りで藤田が大流血しドクターストップ。戦前の予想を覆し、ミルコが勝利。ここからミルコの快進撃が始まった

そこの部分を理解しないで、ミルコは金にきたないヤツというのはおかしい。一方的すぎる。これもミルコがビジュアル的にファンが感情移入しにくいところからきているのだ。

でも、顔は人格である。顔にその人の性格は出る。だからミルコが人気が出ないのは、その顔のせいである。もっというならミルコ自身のせいでもある。

その正反対のポジションにいるのがボブ・サップなのだ。サップの場合は顔で得をしている。しかも常に陽気である。暴れていても愛嬌がある。ミルコは陰気な感じだ。愛想がない。どこか冷たい気がして、とっつきにくい。

でも、強い。でも、負けない。そのためまるでマット界最大のおたずね者みたいにウォンテッドされて、ミルコが賞金首になっている。

これではワンマッチ1億円要求してもバチは当たらない。なぜならミルコを倒した者が、ヒーローになるのだからその代償として、ミルコは1試合、1億円のギャラを要求すべきだ。

これはヒクソン・グレイシーが取ってきた立場と同じである。「オレを倒したら偉大な勲章になるんだったら、それに見合うだけのファイトマネー（たとえば1億円）をよこせ！」というのは、もっともな話ではないか？

ミルコはすでにヒクソンと同等のレベルにある。

そういう具合にミルコの価値を持っていくべきなのだ。考えてほしい。ミルコは藤田、永田、桜庭の3人をいずれも一瞬にして倒しているのだ。

これは空手でいうところの一撃とは少しニュアンスが違う。あるいは秒殺とも違う。試合の流れに身を任せながら、自然と出た技（わざ）なのだ。

相手を自分の強い意志の力で倒すのが一撃の意味である。ミルコにはそういう強い意志はない。あくまでも試合は自然体でのぞんでいる。それが藤田、永田、桜庭に勝てた理由でもある。

ミルコは最も理にかなった闘い方をしているのだ。ファイターとして最高に近いレベルにあると言ってもいい。

「勝つと思うな、思えば負けよ！」という言葉がある。これは美空ひばりが歌っていた「柔」の中の一節。藤田や永田や桜庭は、その勝とうと思って負けていった。そこにスキが出ることを彼らは、何も理解していなかった。

いざ、ゴングが鳴ってもまず待つ。自分からは仕掛けない。その戦法をミルコは取り続けてきた。髙田延彦はそれを分かっていたので、マットに寝た。

あの時、初めてミルコは苛立った。プロレスラーは自分から攻めてくるものだと思っていたのに、それをやってこなかった髙田にミルコは戸惑ったのだ。

このたび藤田が再びミルコと闘うことになった。去年の8月19日、さいたまスーパーアリーナで、藤田はレフェリーストップで敗れている。TKO負けだ。

ドクターストップというのは、選手以外の他人が勝敗に断を下したわけであり、これはTKO負けになった選手からすると最悪の結果である。

自分はまだやれる。試合を続行できるのにやらせてもらえないからだ。どうせなら完全なKO負けのほうがずっとすっきりする。

ところが興味深いことに藤田以外の永田と桜庭の2人も、レフェリーストップで負けているのだ。永田のケースも桜庭のケースも、あそこで試合をストップさせるのは、正しい判断だったと思う。

それはたしかに認める。しかしやろうと思えばやれたはずだ。プロレスの試合なら、少々、血が出ても試合はストップされない。限界点までやる。レスラーはそういう存在なのだ。

だがK－1や『Dynamite!』ではそれは認められていない。要はK－1にしろ『Dynamite!』にしろ最初の一太刀で〝勝負あった〟としてしまう世界なのだ。このルールがミルコには有利に働いてしまったのだ。

藤田と永田はこうして狙い撃ちした一太刀でミルコに勝負をもぎとられた。桜庭戦では一太刀で決められなかったが、技がもつれあった接戦の中で放った一太刀が、偶然にも決まってしまった。

以上を見ても分かるとおり、いかにミルコが臨機応変、応用性が高くてしかも一発で試合を決め、なおかつチャンスを逃がさないファイターであることが分かってくる。

しかも明らかに相手より冷静かつクールである。冷静ということは敵の戦法を読み切って闘う姿勢のことをいう。

こんな理想的ファイターがほとんど何も評価されない形で、憎まれ役、嫌われ役になっているのはどういうことなのか？　そうであるならば12月31日、私はミルコに勝ってもらいたい。

これはべつに天の邪鬼で言っていることではない。藤田にとってはミルコ戦は個人的なリベンジと思うが、ミルコはそれを超える存在であってほしいのだ。■

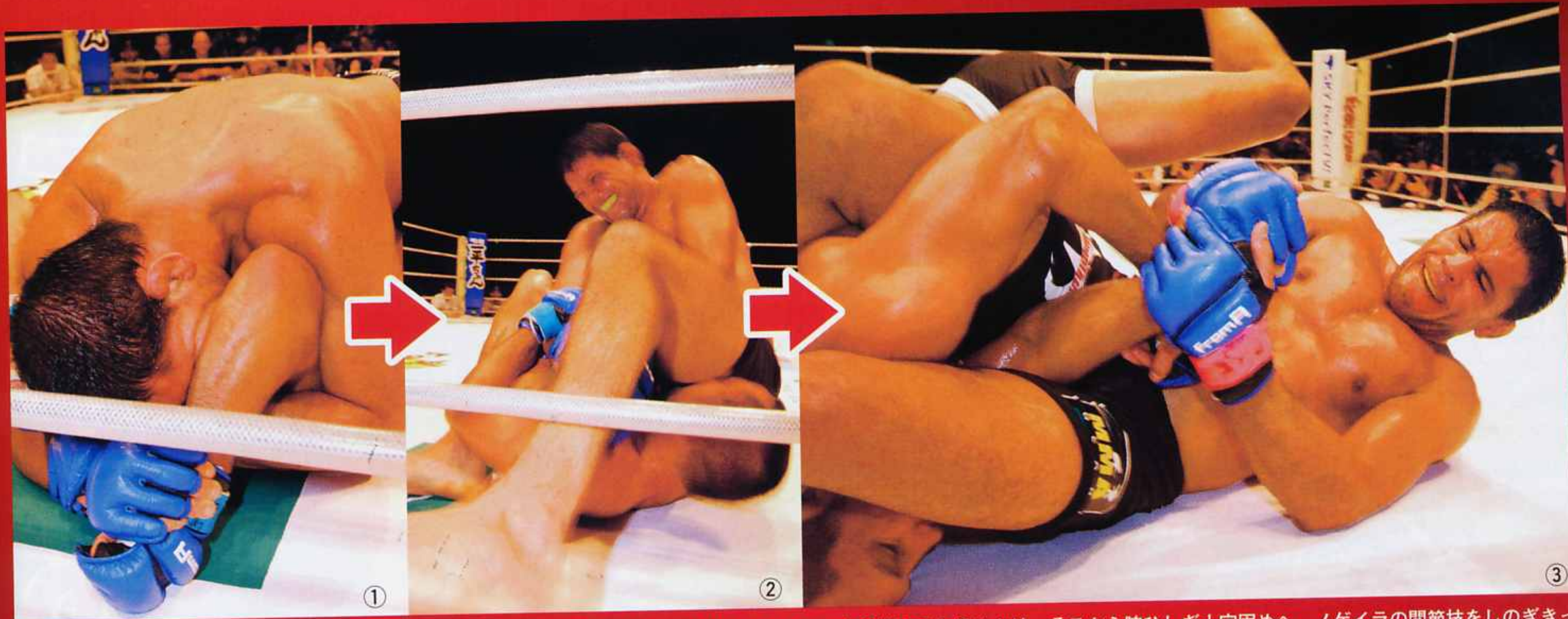
PRIDE.24

12.23★マリンメッセ福岡

肩のケガと高熱のためコンディションがかなり悪かったノゲイラだが、ヘロヘロになりながらも、因縁のヘンダーソンに一本勝ち。これぞ、まさにリアル猪木の証明

この体調の悪さで"一本"極めた!

やっぱりノゲイラはリアル猪木だ!

撮影◎中島ミノル(望遠)

①〜④なかなかヘンダーソンを極めきれなかったノゲイラだが、3RマウントからV1アームロックを仕掛けると見せかけ、そこから腕ひしぎ十字固めへ。ノゲイラの関節技をしのぎきったヘンダーソンだが、これには遂にタップ。最後の最後でノゲイラマジックを見せつけられた

ボブ・サップ戦を甦らせる勝利
ノゲイラ、土壇場の魔術、炸裂！

当初、『プライド24』福岡大会のメインには、ノゲイラVSヒョードルの『プライド』ヘビー級タイトルマッチが予定されていた。ところが、今一番ノゲイラを脅かしそうな存在であるヒョードルがケガのために欠場。そのため、一時はノゲイラVSアターエフのノンタイトル戦が検討されたが、なぜかノゲイラはこの一戦を拒み、自ら対戦相手としてリングス時代に唯一判定負けをしているダン・ヘンダーソンを指名した。

今、正直に言うと、『プライド』は主力選手が何人も負傷しており、福岡大会はマニアックなカードが並ぶことになった。これは、12・31『イノキ・ボンバイエ』が控えていることもあって、DSEがカードを出し惜しみしたのでは決してない。本当に桜庭もシウバも、ケガでなんともならない状態だった。しかし、こうした危機的な状況でのノゲイラVSヒョードル戦は期待が持てた。なぜなら、ここでノゲイラが敗れることがあったら、福岡大会をナメて気にしていなかったファンを、後悔させられるからだ。

「えっ!? ノゲイラが負けたの？見に行けば良かった……」

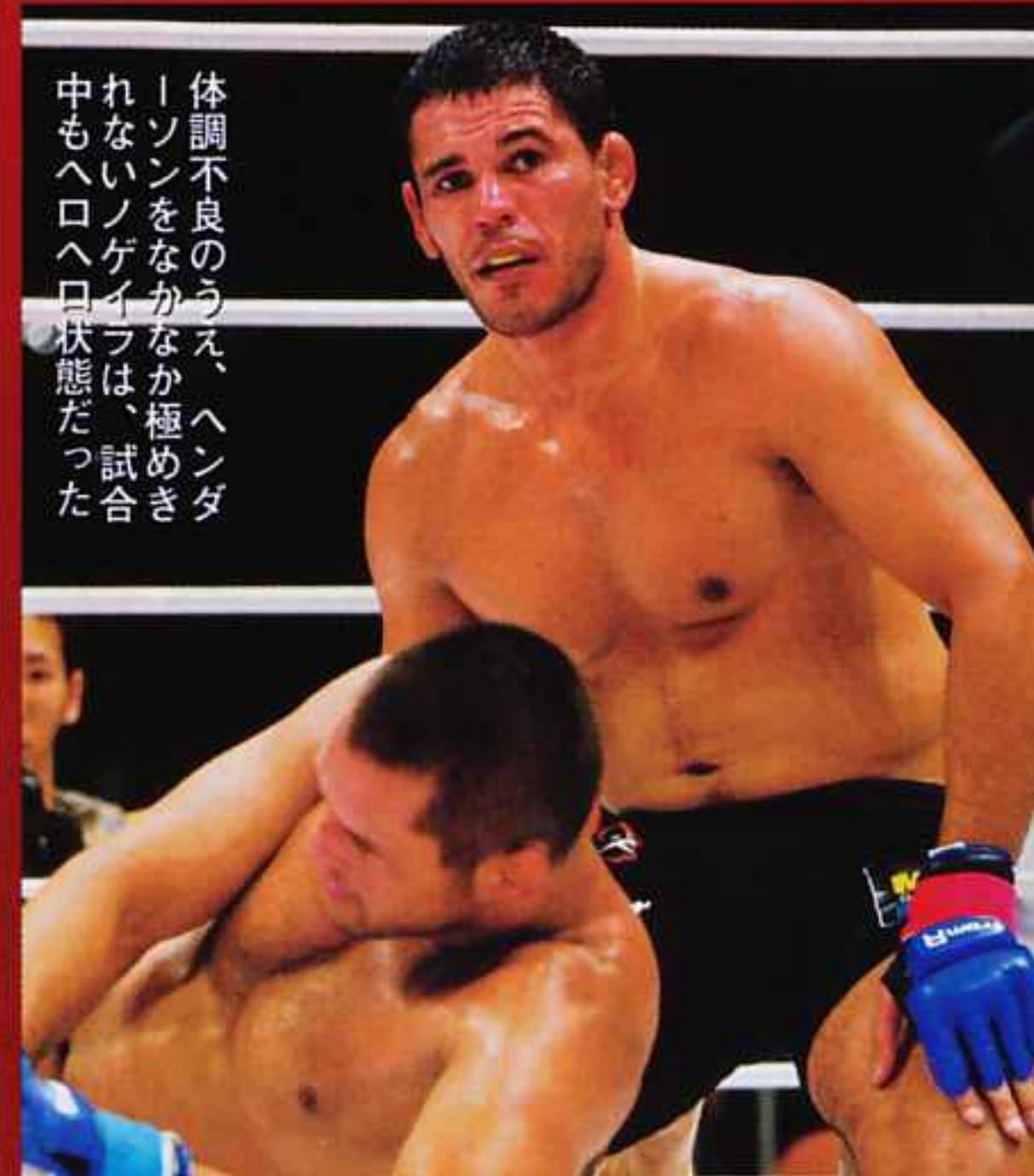
そんなふうな大どんでん返しが地方で起こることが、興行として大成功と言える。ところが、その ヒョードル戦が消えた。いくら過去にヘンダーソンがノゲイラを敗っているとはいえ、KoKルールと『プライド』ルールは根本的に違うし、体重も18キロもノゲイラが重い。あの時でさえ、僅差の判定だったんだから、今のノゲイラの勢いから言って、ヘンダーソンでは期待が持てなかった。

しかし、ここでハプニングが起

ヒヤヒヤの打撃戦！

バランスの良さは天下逸品！ヘンダーソンにもっと光を！

今回のマッチメイクは、ヘンダーソンにとってはとてもおいしい。一度は僅差の判定ながら破っているノゲイラ相手だけに、気合いの入り方が違う。いい表情だ

体調不良のうえ、ヘンダーソンをなかなか極めきれないノゲイラは、試合中もヘロヘロ状態だった

◀ヘンダーソンの得意技といえば、相手の頭を固定して放つパンチ。これにはノゲイラも苦しめられた

アームロックを外したヘンダーソンにノゲイラはオモプラッタを仕掛けるが、ヘンダーソンは抜群のバランス感覚でこれを逃れる

あわや、極まるかと思われたノゲイラのアームロックだが、これもまたヘンダーソンは逃げてしまう。ヘンダーソンは執拗に狙ってきたアームロックに対して「危険なものはなかった」と試合後に語った

では期待が持てなかった。
　しかし、ここでハプニングが起こる。なんとノゲイラが試合前に風邪をこじらせ、高熱もあって何日も点滴を受けるほどコンディションを崩してしまったのである。
　これを知っていた我々のようなマスコミは、ガ然ノゲイラが負けるハプニングを期待した。もしかしたら、ノゲイラが自爆するかもしれない。そうなったら、福岡大会を見に来なかったファンに「ざまあみろ！」と言ってやろう。今のコンディションのノゲイラなら、ヘンダーソンにだって十分勝てる。そんなドラマチックな展開に胸ときめかせたのは、私だけではないだろう。
　実際、この日のノゲイラは見るからに体調が悪そうだった。もちろん、ヘンダーソンのバランスの良さやコントロールのうまさもあるのだろう。いつも技を仕掛けるのはノゲイラだったが、その度にヘンダーソンは関節技地獄を抜け切っていくではないか。
　そして、2人の表情を見ると、攻められているヘンダーソンが何ひとつ表情を変えないのに対して、技を仕掛けているノゲイラは明らかに疲労困憊し、大粒の汗をかき続けていた。その姿を見るや、解説席にいた桜庭も「これはヤバイかも」と言っていたほどだった。
　グラウンドになれば、もちろんノゲイラが極められることはないだろう。しかし、特にヤバかったのは、スタンディングでの攻防だった。グレコローマン・スタイルに加えて、パンチもうまいヘンダーソン。特に、相手の頭を固定しておいてのアッパーは必殺の武器

守り抜いた『最強伝説』来年3月、ヒョードルと防衛戦か？

ノゲイラのコメント

「練習中に危険な形で落ちてしまい、肩を痛めてしまった。最近は毎月のように試合に出ているので、これからは少しリラックスしたい。40度の高熱があり、昨日は点滴を打った。左手の小指もシュルト戦で骨折していた。でも、今日の試合はヘンダーソンへのリベンジとなる大事な試合だった。彼はマスコミに私の悪口を言ったけど、それで燃えたよ。今日勝てたのは、チームと神様のおかげ。体調は弱っていたが、技術で勝つことができたと思う。私は相手を選ぶ立場ではないが、吉田選手と闘いたい。いい試合になると思うので、ぜひやりたい」

ヘンダーソンのコメント

「かなり頑張ったと思うが、結果は思いどおりにいかなかった。前回ノゲイラと闘った時のほうが、コンディションは良かった。疲れがちで、いいポジションをとっても、すぐに諦めてしまった。自分より大きな選手で、トレーニングしなかったことが疲れた原因だ。ノゲイラは上達していたが、自分も上達していた。言い訳はしたくない。ノゲイラが強かったということだ。アームロックはタップしようとは思わなかったが、最後のは危険だと思った。今日の間違いを教訓にして、より強くなりたい」

体調不良もあり、かつて黒星を喫したヘンダーソンから一本勝ちをおさめた喜びは格別なものがあったのだろう。ノゲイラは感激のあまり、リング上に突っ伏しながら、喜びを噛みしめた

★第8試合（1R10分、2・3R5分）
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（3R1分49秒、腕ひしぎ十字固め）ダン・ヘンダーソン●
<ブラジル／ブラジリアン・トップチーム>　<アメリカ／チーム・クエスト>

になる。ノゲイラも打撃はうまいのだが、立ち技の攻防ではヒヤヒヤさせられっぱなしの場面が何度も見られた。

もしかして、もしかしたら……。そんな不安の中、ヨレヨレになっていくノゲイラ。こんなノゲイラの姿を見るのは、ボブ・サップ戦以来のことである。あの時のノゲイラは、サップの想像を超えた人間離れしたパワーに見る見る力を失った。しかし、今回は明らかにノゲイラ自身に問題があった。

敵は己自身。ノゲイラはそんな最悪のコンディションの中で自分自身と闘っていた。その姿を見ていたら、かつてコンディションが悪いながらも、それを気力で跳ね返し、勝利をもぎ取ろうとしていたA・猪木の姿を思い出した。

猪木もまた、敵というより、そういう自分が背負ったハンディを克服することでファンに感動を与えてきたタイプである。ブロディ戦、ホーガン戦、ハンセン戦など、猪木は点滴を打ちながら試合に出場し、苦しみの中から勝利を得てきた。そんな猪木とノゲイラが、ダブって見えてきたのである。

そして、フィニッシュの腕ひしぎは見事なものだった。こんな逆境にいながら、ノゲイラは冷静にワナを仕掛け、ヘンダーソンから"一本"を奪ったのだ。そんなボロボロながら、最後まで"一本"を取ろうとするなんて、リアルファイトではできっこない。本当に大したチャンピオンである。

ノゲイラは、リアル猪木か？　今、ガチンコで猪木プロレスができるのは、ノゲイラだけである。（谷川）

※『プライド24』の試合リポートはP93に続きます

今度も未定ながら……、仰天カード浮上！
1・19『WRESTLE－1』
最新情報！

これも謎かけ？ サップが仰天発言！

「フォータイム・チャンピオン、『WRESTLE－1』に出てこい！」

12月15日、渋谷でサイン会を開催したボブ・サップは、なんと1・19『WRESTLE－1』東京ドーム大会について「K－1ファイターがプロレスのリングに上がったのを見たことがない。フォータイム・チャンピオン、『WRESTLE－1』に出てこい！」と、因縁深いホーストを対戦相手に指名した。これは単なるリップサービスなのか、それとも本当に実現してしまうのか？　真意はさておき、これぞ『WRESTLE－1』という“謎かけプロレス”の真骨頂だろう。

※このサップ発言に対してのホーストの反論はP35に掲載

“究極のリベンジマッチ”
ボブ・サップVSアーネスト・ホースト
『WRESTLE－1』で実現……？

新春一大決戦1・19『W―1』の東京ドーム大会

早くもやってきたのるかそるかの大勝負、ボブ・サップがホーストとの3度目の対決をぶち上げた！

文◎ターザン山本

『W―1』が来年の1月19日、東京ドームで興行を打つ。『W―1』としては2回目の興行である。2回目でいきなり東京ドームとは、やけに強気に出たものである。大丈夫かよ！

ただ『W―1』は団体ではない。じゃあ、どこがリスクを背負うんだということになる。まあ、そんなことはファンには関係ないこと。要は面白いカードを組んでくれ。それがポイントだ。

一つだけ言えることは〝単発興行〟というか、いつも一発興行なので逆にその場限りで、好きなカードが組める。その利点をいかに利用するかそれしかない。

ハルク・ホーガンでもミック・フォーリー（カクタス・ジャック）でもいいから、みんな『W―1』で呼んでくれ。

ネームバリューと華（はな）のある選手は絶対に必要だ。そもそも『W―1』はイメージと実体の境界線をなくして、ファンを魅了しようとしている世界。

これが『W―1』の新しい戦略でもあるのだ。イメージと実体。それは一見すると相反するように見えて、実は一つのものなのだ。それを一つのものにして見せた時『W―1』は成功する。

いや、完成すると言ったほうが正しい。だが、現時点ではイメージを優先させて突っ走っていくしかない。そのためにはまず『W―1』という言葉から受けるイメージをどう創っていくかだ。

一番、手っ取り早い方法は何かとてつもないことを、やってくれるような予感が『W―1』には欲しい。『W―1』とはそうあるべきなのだ。なぜなら今のところ海のものとも山のものとも分からないのが『W―1』だからだ。

それもあってかファンは『W―1』のことを、半信半疑で見ている。様子をうかがっていると言ってもいいだろう。ひやかし半分で見られているのなら、それはそれで結構な話である。

そういう人たちを含めて、あっと驚かせることをやっていけばいいからだ。といっても、そうそうビッグサプライズさせる材料があるかというと疑問なのだ。

だったらとりあえず超大物スターを登場させる、それしかない。11月17日、横浜アリーナの『W―1』の旗揚げ戦にビル・ゴールドバーグを呼んだのは、そういう意図がありありだった。

ただし、ゴールドバーグはアメリカ型のスター。それを直輸入してみせることに価値があるレスラー。そうなると1回見たら終わりという見方もできるのだ。

昔で言うと、〝千の顔を持つ男〟ミル・マスカラスみたいなもの。マスカラスは登場シーンで見せ、ゴングが鳴って試合が始まると、あとはもうワンパターンの攻撃が待っていて、フライングクロスチョップとフライングボディプレスが必ず出る。それなのにお客は満足している。

ゴールドバーグは残念ながらそのレベルまではいっていない。マスカラスがいかに素晴らしいレスラーかは、ゴールドバーグと比較した時、分かってくる。

ゴールドバーグではスターレスラーとしては、パンチ不足なのだ。もし、いま全盛時代のミル・マスカラスがいたら『W―1』の大スターになっていた。

『W―1』が求めているスターとはマスカラスのような選手のことを言う。そういうレスラーが一人ぐらいいないと『W―1』のイメージアップ作戦も、うまくいかないだろう。

看板となるファイターを作れということだ。それが今のところ〝ザ・ビースト〟ことボブ・サップということか？　そうはいってもサップはK―1や『プライド』に出ても、ひときわ光ることができる選手。

だからサップにしてみれば『W―1』は数ある試合の中の一つにすぎないのだ。そうなると『W―1』がサップをどう使い切るかに全てがかかってくる。

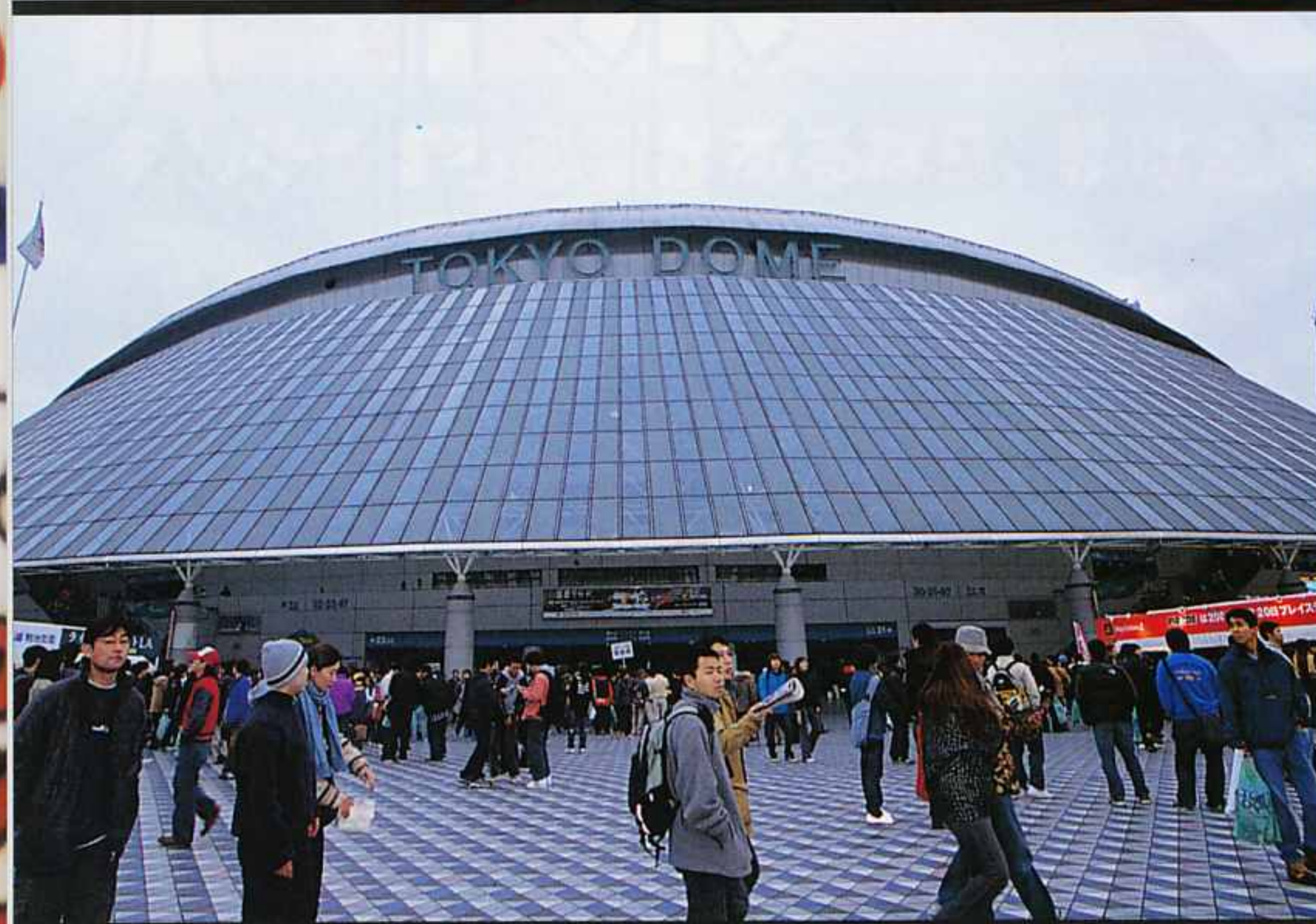
興味深いのはサップにとって『W―1』のドーム大会が、2003年の最初の試

RESTLE―1

象を与えてしまう。『W―1』にそういう

いうようなものを出していくのだ。

今度も未定ながら……、仰天カード浮上!
1・19『WRESTLE−1』

最新情報!

合になることである。ここではずすことは許されない。そういうことを頭に入れた上で、サップは「ホーストとやりたい!」と言ったのだろうか?

ホーストとは、あのアーネスト・ホーストのことである。K−1ファイターとして史上初、4度目のグランプリの王者についた男。題して「フォータイム・チャンピオン」と、呼んでおこう。

ホーストと『W−1』はイメージ的にまったく合わない。ホーストはK−1しか似合わない選手なのだ。そこにホーストの価値がある。サップはこれまでK−1のリングで2回、ホーストと闘い2回とも勝っている。3度目の対決を『W−1』でやるとしたら、ルールはK−1ルールでやるのか? ホーストにはそれしかできないからだ。仮に2人がそれでOKするなら『W−1』で3度目の対決をやるのも、決して悪くはない。

そうなるとまさしくこの2人の試合は"名勝負数え歌"の世界になる。しかし、本来、K−1のリングでやるべきものを『W−1』のリングでサップVSホースト戦を、果たしてやっていいのか?

そういう問題も出てくる。『W−1』のリングでそれをやってもいいんだという考え方ができるとしたら、『W−1』はただものではない。

むしろサップ対ホースト戦は『W−1』でやるべきだ。『W−1』の代名詞は今のところ"ファンタジー"となっている。試合のことを"ファンタジーファイト"と呼んでいるのがそのいい例だ。

ファンタジーといえば言葉の響きとして、どうしても力強さに欠ける。軽い印象を与えてしまう。『W−1』にそういうイメージが固まってくると、良くないこともたしか。

ファンタジーにも実体があるということを、人々に分からせる必要がある。『W−1』はそこをしっかりと、押さえておくべきなのだ。さきほどイメージと実体と言ったのは、そのことを言っているのだ。そうなると『W−1』も形を変えた"なんでも有り"ということになる。

それは思い切り弾けろという意味でもある。何に対して弾けるかと言えば、プロレス業界的な常識に対してである。それを次から次へと打ち破っていく。それが『W−1』の役目なのだ。

それを形としてはっきり見せようとしたら、カードに関してサプライズが必要になってくる。えっそんなカードありというようなものを出していくのだ。

◀次の『WRESTLE−1』の主役はもちろん、今度もボブ・サップだろう。そして、舞台は東京ドーム。1月19日はとんでもないことが起こりそうだ

実を言うとこれは意外と簡単なことでもある。なぜならプロレス団体は、ありきたりなカードしか提供していないからだ。それでずっと通用してきたこと自体が、明らかにおかしいのだ。

それを思えば、『W−1』がプロレスにとって変わることは、いとも簡単なこと。もう始めから勝負あったとも言える。

思いついたことや、気が付いたことによるアイディアを、次から次へと好き勝手に実行していく。『W−1』はその方針でいくと面白い展開になるのだ。

その思い切りの良さを『W−1』はどれだけできるかである。まだ『W−1』の東京ドーム大会のカードは、まったく出ていないが、そこでどれだけ従来のプロレスがやってきたドーム大会と、差別化したカードが出せるかである。

一つだけ言えるのは、新日本プロレスの1・4ドーム大会は、もはやカード的にある程度限界を示している。ズバリ言うと、もうプロレス団体がドームで興行するのは、非常に難しくなった。

もっと言うなら無理がある。実際に2003年の1・4ドームほど新日本プロレスが、カード編成に関して、苦労し苦戦した姿を見たことがない。

ドーム用のカードが作れないのだ。お手上げなのだ。それを横目で見ながら、『W−1』の1・19ドームは、どんなカードをファンに見せてくれるのか?

新日本プロレスがドーム興行にギブアップしかけている時、『W−1』がその代わりとして救世主になれるのか?

そういう意味で『W−1』への期待感は大きいのだ。それにしてもサップとホーストは本当にやるのだろうか? ■

世界でただ1人の偉業！地上最強のK-1王者アーネスト・ホースト!!

MR.PERFECT

Ernesto Hoost

「ご存知のように私はミスターパーフェクトと呼ばれているので」

聞き手◎中村カタブツ君（ブチ）

まさにグレーテストチャンピオンと言っていいだろう。これまで誰もなしえなかった偉業フォータイム・チャンピオンにアーネスト・ホーストは輝いたのだ。しかも、K−1の第1回大会から出場しているベテラン中のベテランである彼がK−1の10周年大会で、この前人未踏の快挙を成し遂げたということに頭が下がる。今回はそんなホーストを思い切り、誉めてあげてみたのである。

――4度目の優勝おめでとうございます！　K―1史上最高の快挙ですね！

ホースト　アリガトウゴザイマス。嬉しいです。

――ホント、K―1の宝ですよ（笑）。どっかケガしてないでしょうね。

ホースト　（全部日本語で）ダイジョウブ・デス。デモ・キョウハ・ユキガ・フッテテ・サムイデス（微笑）。

――オオッ！　さすがはグレート・チャンプですね（笑）。

ホースト　学ぶことは嫌いではないので。忙しい時は別ですけど、毎週1回くらいは日本語の勉強をするようにしてます（照）。

――基本的に学ぶことが好きなんですね。

ホースト　格闘技をしていると打撃を頭に受けやすいので脳ミソを使わないと脳にもよくないですから（微笑）。ある意味脳のトレーニングです。

――それは格闘技のためなんですか？

ホースト　格闘技を続けていきたいっていうのと、健康でいつまでも生きたいっていうのもあります。

――K―1のリングで闘う時は頭脳もやっぱり重要ということですか？

ホースト　もちろんそうだと思います。私はK―1選手の中で一番体力がないと思ってますし、パンチにしてもキックにしても一番強いとは思ってませんから。

――いや、でも、ホーストさんのキックはバンナの左ヒジを破壊するほど強烈じゃないですか。

ホースト　もちろん十分に強いキックは持っているけど、自分のキックが一番だとは思わないです。ジェロムの場合はタイミングがあったんであああいう形になりました。

――謙遜しますね（笑）。でも、レイ・セフォーの足をヒザ受けしただけで、痛めつけちゃったじゃないですか。

ホースト　ちゃんとしたブロックをして、また来るキックが強ければ強いほどちゃんとしたブロックを取れば、それによってキックを出した選手のダメージは大きくなりますから。

――ハッキリ言って、全身武器かと思いましたね（笑）。

ホースト　もちろんそういう時があれば全身武器になります（微笑）。

――でも、初めてK―1に参加した時のホーストさんはライトヘビーの選手だったじゃないですか。それをヘビーにまでウェイトアップしたわけですよね。

ホースト　今でもK―1選手の中では体力的に劣っていますね。だから、頭の回転や技術が必要になってくるんです。

――だから、努力家って一言で言うのもなんですけど、凄い努力をしてますよね。

ホースト　自分としては好きなことをやってるので。闘うことは好きだし、トレーニングも好きだから、好きなことをやってることは全然苦にならないです。

――あのぉ、ホーストさんって、誉められ下手なんですか（笑）。

ホースト　いや、そんなことはないですけど、ただ、私のトレーナーのヨハン・ボスは、いくらいい結果を残してもそれに満足しないんですね。誉めてくれることはあっても、誉めた後に、ああしたほうが良かった、こうしたほうが良かった、こうもできたって文句というか、必ず何かを言うんです。

――誉められ馴れてないんだ（笑）。

ホースト　ただ、今で満足してしまったら、これ以上はないでしょうし。嬉しいんですけど、自分はこれ以上によくできると思っています。

――ヨハン・ボス会長は今回どの辺がうまくできたと言ってるんですか？

ホースト　準決勝、決勝に関してはほぼ満足してるんですが、やはり、1回戦のボブ・サップ戦ですね。ボブが1回ダウンした後に、ゲームプランを忘れてしまって、パンチばかりになってしまったのが満足してないみたいです。

――へぇ〜、ホーストさんほどのベテランでも試合中にゲームプランを忘れることがあるんですか？

ホースト　やっぱりダウンした後っていうのは、非常に興奮してしまって思わず忘れてしまいました（笑）。

――それほどサップって手強い相手だったんですね。

ホースト　やはり、あれだけ大きくて筋肉質で運動能力が高い選手ですからね。

――ただ、そんな選手と闘った後に、またトーナメントに出て優勝したんだから、文句なく誉めてくれよって思いません？

もしそうする必要があるなら、私は全身が武器になります

12・7K―1決勝戦ではボブ・サップからダウンを奪っているホースト。来年の『W―1』で三度目の対決をすることになるのか？

ホースト　もちろん誉めてくれたらいいとは思うんですけど、逆に、彼の厳しい言葉は、自分を更に上達させる重要な一つであると思ってますから。ボスいわく、「今のところ、お前の100%の力は出し切れていない。だから、100%の力を出し切らせるように頑張るよ」と（笑）。

——今は何%ですか。

ホースト　88%だそうです（笑）。

——あと12%。

ホースト　残りの12%が引き出せるか分からないですけど非常に楽しみです。

——ボスさんに言われて一番嬉しかったことって何ですか?

ホースト　「今回の偉業はお前だからできたことだ。このフォータイム・チャンピオンっていうのは今後誰も破ることはできないだろう」と。その言葉が非常に嬉しかったです（笑）。

——逆に一番悔しかったことは?

ホースト　トレーニング中にうまくできないと、「まったく幼稚園児に教えてるみたいだ!」と（笑）。

——幼稚園児（笑）。ムカつくでしょ?

ホースト　非常にムカつく!　その怒りをトレーニングに向けるので、ある意味いい方向に動いているけど。

——その幼稚園児って言われたのはいつ頃ですか?　チャンピオンになった後?

ホースト　チャンピオンになった後です。

——厳しいボスですね（笑）。

ホースト　いつも文句ばかり言われるので、満足させるのは非常に難しいですね。しかし、次の試合に対する目標ができますので、その時はまた何か言ってもらえればいいなと思っています。

——ボスさんとは別に、スリータイム・チャンピオン時代に「日本のマスコミはリスペクトがない」と怒っていましたが、今はどうですか?

ホースト　いや、そう言ったことはあまり覚えてないんですが、もし言ったとすれば、トーナメント出場者にジェロムがいなくなり、マイクがいなくなってなった時に「トーナメントがつまらなくなった」とメディアの人が言ったので、そういうふうに答えたと思うんですけど。しかし、今回のトーナメントの結果を見てもらえれば、ジェロムもしっかり倒してますし、レイもしっかり倒してます。まあ、ボブに関してはああいうことになりましたけど、2回目にダウンを取られた時はレフェリーの判断ミスというか、若干早く止め過ぎたんじゃないかと。その結果ああいうことになったと思ってるんで。リスペクトされてないと言ったのはあんまり覚えてません。

——いや、言ってましたよ、相当（笑）。

ホースト　まあ、正直に言いましょう（笑）。メディアの人が注目するのは、ボブ・サップ選手ですね、彼は非常にパフォーマンスが興味深いし、言うことも、メディアの人の気持ちを引きますから、ああいう形で、非常に注目浴びると思うんです。しかし、私は今回でフォータイム・チャンピオンになりましたが、スリータイム・チャンピオンの時点で、なぜK－1チャンピオンとして自分がボブ・サップよりも尊敬というか、注目を浴びないのかと、不思議で仕方がなかった。2001年の時は、メディアはジェロム、ジェロム、ジェロムでしたよね、私はスリータイム・チャンピオンになったのに。それでたぶん言ったと思います。

——その怒りを今回フォータイム・チャンピオンになったことで晴らしたという感じですか?

ホースト　おそらくそうだと思います。しかし、私は5度目のチャンピオンも狙っていますので、その時には若干の怒り

今のところ100%の力は、出し切れてないと思ってます

も必要になってくると思います（微笑）。

——ということは僕らマスコミは、来年もまたホースト選手以外に注目していくほうがいいんですね（笑）。

ホースト　他の選手が注目されることによって、私の怒りが爆発し、次の優勝への糧になると思いますね（微笑）。

——でも、注目されるのは結構好きですよね、ホーストさんは（笑）。

ホースト　もちろん好きです。

——他の人に比べて特に好きだなと思いますか?

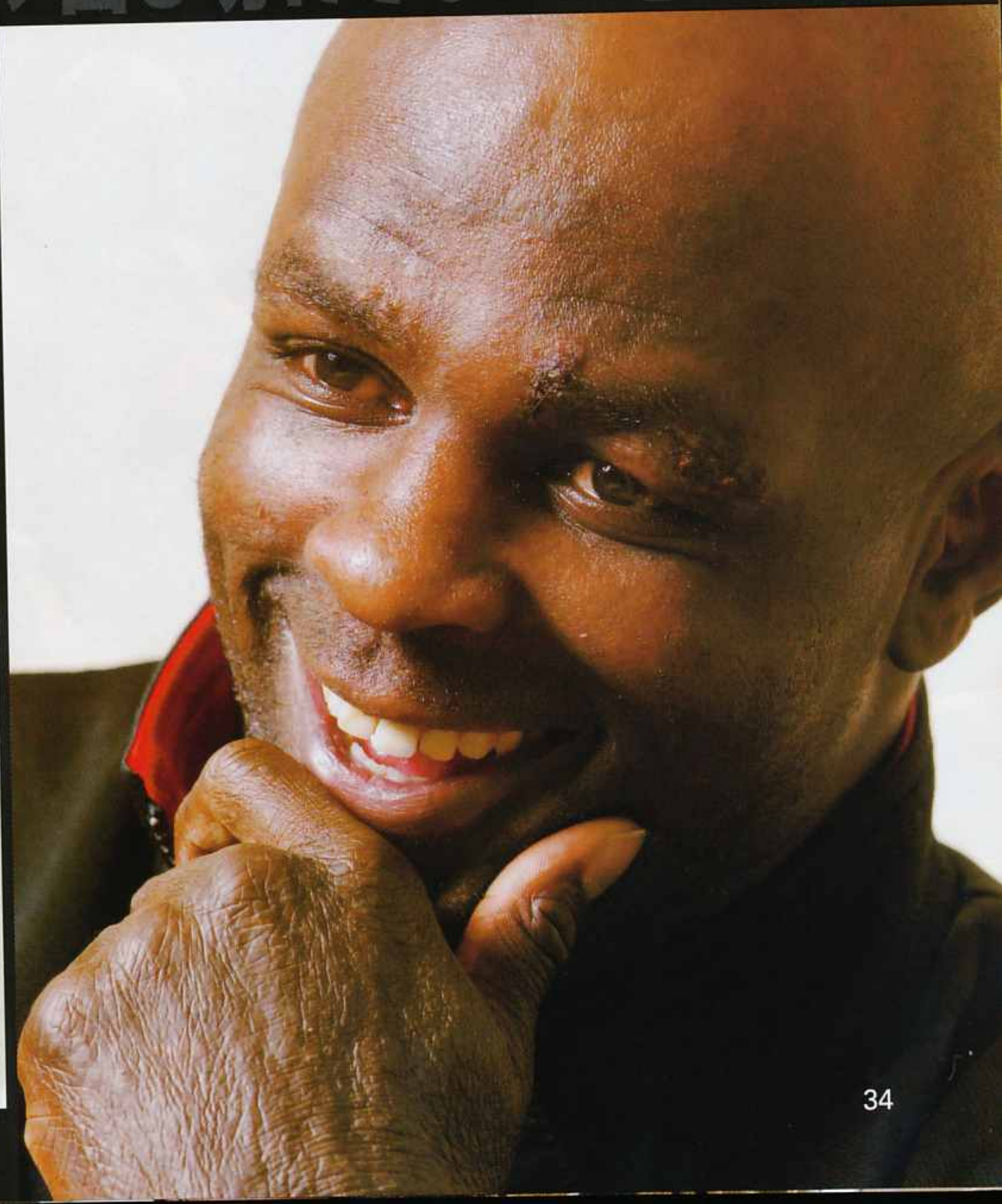
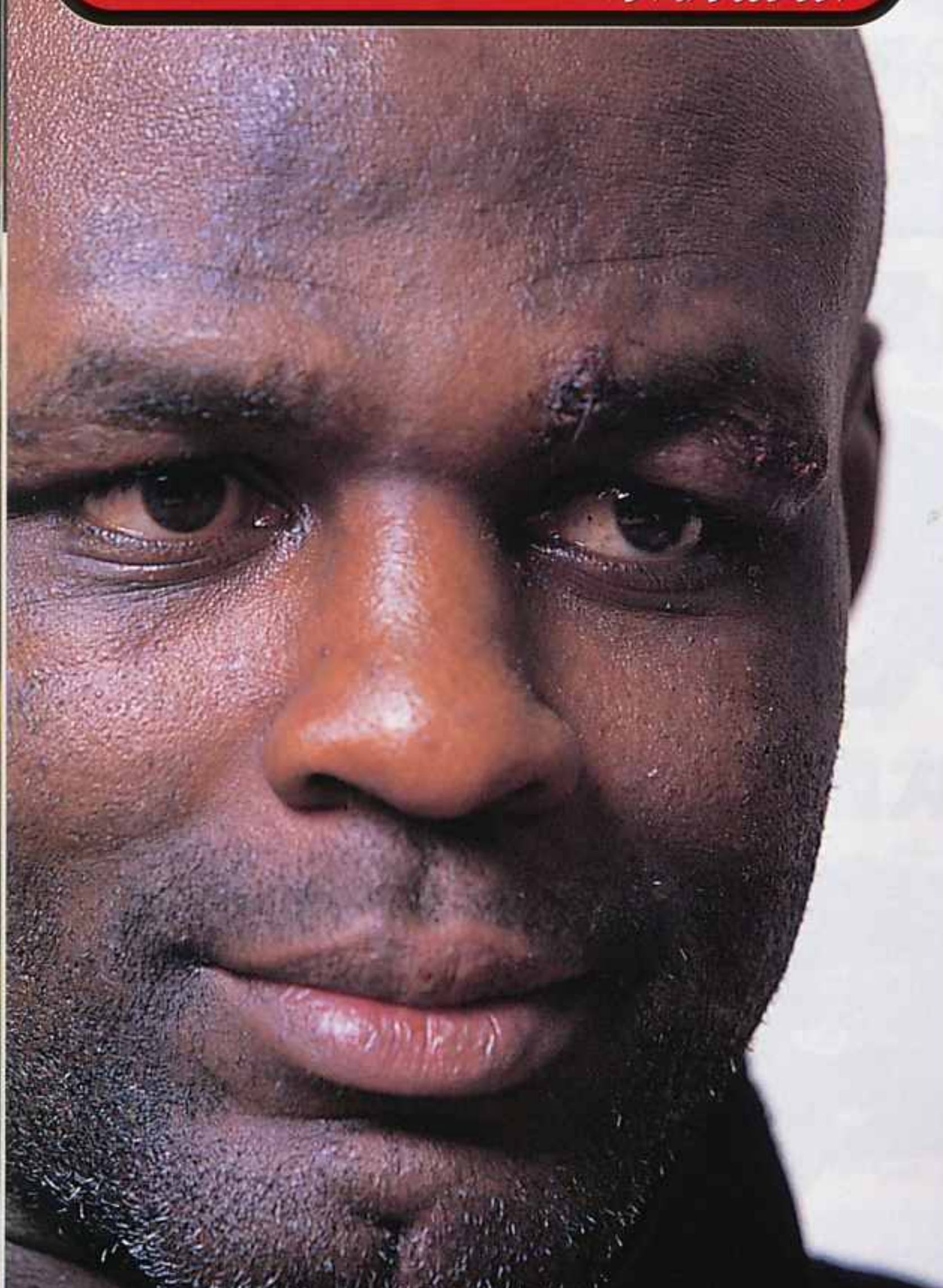
ホースト　自分としては注目されるのは好きですけど、特に他の人と比べて好きだとは思いません。私が言ってるのは選手の価値を正確に判断してほしいと。でも、時々見るのが、他の選手で私よりも業績がないにもかかわらず、それ以上の評価を受けていたり、メディアからの注目を受けていたりっていうのはおかしいと思います。

——では、今回、サップに関しては結構怒りはありました?

ホースト　ボブ選手に対する怒りはなかったです。今回、試合前の記者会見でも礼の欠けたことをしてきましたが、私はあくまでもプロフェッショナルとしての威厳を保ちました。彼のああいう行動に怒って、彼のレベルまで下がることはないと。

——素晴らしいです!　ボクらがホーストさんに望んでるのはそういう姿です!!

ホースト　ご存知のように私はミスターパーフェクトと呼ばれてるので、自分としてはレベルを下げることなく、常に高い位置でやっていきたいと思ってます

今度も未定ながら……、仰天カード浮上! 1・19『WRESTLE-1』**最新情報!**

MR.PERFECT Ernesto Hoost

（微笑）。

——最高にシビれるセリフですね（笑）。ちなみに、ホーストさんは自分のことが大好きですか？

ホースト いや、私はナルシストではないんですが（微笑）。

——だけど、4回もチャンピオンになれたら誰だって自分自身を凄いなと思いますよ、当たり前の話です。

ホースト 例えば、自分がトイレに行きますよね、用を足した後の臭いっていうのは人それぞれとは言ってもだいたい同じような臭いですよね。だから、自分がK—1チャンピオンに4回なったからと言って、他の人より勝ってるとも思わない。トイレに行けば同じ臭いがする、同じ人間です。

——変な……。

ホースト ヘンデシタカ？（日本語で）。

——いや、例えば変ですけど、でも、変な照れ方するなって思って（笑）。

ホースト ゴメン（日本語で）。ただ、そうやって誉めていただいて非常に嬉しいんですけど、自分がどんな偉業を成し遂げたのか、あまり実感がないんですよ。周りの人からも「4回も優勝して凄いね」という言葉をもらってないんです。単純に「おめでとう」という言葉は3回目の時でも4回目の時でも一緒なので、あまりピンときてないのはあるのかもしれませんね。

——分かりました。4回も優勝して凄いです！ おめでとうございます！（笑）。

ホースト アリガトウゴザイマス（笑）。

——ところで、大会終了後のパーティーで、サップがホーストさんになつこうとして、ちょっかいだしてたように見えたんですけど、彼とは友達になれそうですか？

ホースト ボブ・サップ選手に限らず、K—1選手と親友同士になれるかって言ったら自分にはできないです。なんでかと言うと、もしかしたら次の試合で対戦相手に、敵になるかもしれない中で、友達にはなれないですね。個人的にはみんないい人なんですけど、特にレイ・セフォーは凄くいい人なんですけど、友達にはなれない。

サップについてはとりあえず、変わった人間だと思っている

——そうですか、残念だな。サップは人間的にはどうですか？

ホースト 非常に変わってる。みなさんもご存知のように非常に変わった行動をするので、面白い人だとは思うんですけどね。とりあえず私の中では変わった人間だと。

——ホーストさんは自分で自分のことを気難しいと思いますか？

ホースト 自分としては、状況によるとは思いますけど、通常は思いません。

——ボクは見てて気難しそうだなって思ってたんですよ。

ホースト どうしてですか？

——たぶんあんまり、しゃべらない、そして、人に対して壁をつくるタイプなのかなと。

ホースト う〜ん、自分としてはあんまり気難しい人間だとは思っていないですね。もちろん他の選手に関してはいつどこで試合するか分からないから若干距離をおいてる部分は確かにありますね。

——じゃあ、最後に夢を聞かせてください。ちなみにマーク・ハント選手は「働かずに生きていきたい」ということですが（笑）。

ホースト 働かずに（笑）。まあ、答えとしてはつまらないものになってしまうかもしれませんが、自分は2人の子供がいますので、彼らをいい大人にするべく育てていきたい。それを成し遂げていくのが自分の中ではチャレンジだと思っています。

——最後はやはりチャレンジですか。常に闘い続けてください。■

サップ発言にフォータイム王者が
怒りの反論
バカにするのもいい加減にしろ!

「グランプリが終わった後、私のことをリスペクトするサップを見て、あいつのことを少し見直したけど、それは間違いのようだった。あいつは、どこまでもピエロであり、ファイターとは言えない人間だ。たしかに、あいつの人気が出るのは分かる。しかし、フォータイム・チャンピオンの私が、なぜわざわざプロレスのリングにまで上がってリベンジしなければならないんだ。あいつは本気でそう考えているのか？　バカにするのもいい加減にしろっと言いたい。私はあくまでもK－1のリングで彼と闘いたいと思っているが、もう2回もやっているので、もっと他のファイターとやったほうがいいだろう。私の人気を利用したいのは分かるが、ストーカーのように付きまとうのはやめてくれと言っておいてくれ」

誠に勝手ながら12/29~1/5まで冬期休業とさせていただきます。

EUROPEAN TUNERS PRO SHOP

MERIT group

※商品につきましては、お求めになる前に必ず一度TELにてご確認下さい。

横浜店:TEL.045-547-0006

相模原店:TEL.042-730-7601

横浜店振込先:三井住友銀行 新横浜支店
普通口座No.6371455(有)メリットヨコハマ
相模原店振込先:三井住友銀行 新横浜支店
普通口座No.6473914(有)メリットサガミハラ

メリット横浜/TEL:045-547-0006
〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町2869
FAX:045-546-5532 営業時間:10:00~19:00
定休日:日曜・祭日

メリット相模原/TEL:042-730-7601
〒229-0031 神奈川県相模原市相模原6-6-17
FAX:042-730-7605 営業時間:10:00~19:00
定休日:日曜・祭日

メリット札幌/TEL:011-817-1922
〒003-0813 札幌市白石区菊水上町3条2-52-361
FAX:011-817-1637 営業時間:10:00~19:30
年中無休

Carlsson

NEW1/5
Ⓕ8.5J-19+245/35R19
Ⓡ10.0J-19+275/30R19
BS G3…¥385,000
ミシュランPスポーツ…¥398,000

BRABUS

MONO5 W210
8.5J-18+235/40 R18
9.5J-18+265/35 R18
大特価
P7000……¥210,000

Lorinser

LM-5
Ⓕ8.5J-19+245/35R19
Ⓡ9.5J-19+275/30R19
SP9000…¥520,000
ミシュランPスポーツ…¥550,000

AMG

STY-3
Ⓕ7.5J-17+215/45R17
Ⓡ8.5J-17+235/40R17
GY LS2000…¥180,000
ミシュランPスポーツ…¥210,000

その他ホイール各種取り扱い中!! 各ブランドのチューンナップも低予算で受付中!! さらに詳しい情報は下記アドレスへアクセス願います。 詳細はお電話にてお問い合せください。

http//www.merit-group.co.jp

smart

Stage1 Tuning 75PS Basis/61PS
¥200,000
Stage1 Tuning 70PS Basis/55PS
('99/'00) ¥150,000
('01/'02) ¥180,000
(取付工賃 ¥20,000)

ビルシュタイン

BILSTEIN GASDRUCK STOSS DAMPFER
ショートストロークショック
■W202■W208■W170
■W203※BTS KIT/セダン・ワゴン用入荷しました。
¥69,800(取付工賃込み)

WHEELS

盗難からホイールを完璧ガード!
6,000円

イルミタイプ エントランスモール

W202/W203/W208/W124/W210
W140/W215/W220/R129/R170/A-Class/ML
(各車)
¥21,000
V-class
¥24,500

HARTGE

¥18,000
Rエンブレム ¥12,000
アルミペダルセット ¥28,000

SPORTEC

スポーツマフラー AUDI A4 ¥130,000
スポーツブレーキシステム ¥450,000
サスペンションキット AUDI A4 ¥230,000~
アルミペダルセット(MT用) ¥45,000

スタッドレス&アルミセット販売開始
詳細お問い合せ下さい。

	BENZ					BMW					VW/Audi (NEW POLOにつきましてはお問い合せ下さい。)			
適合車種	W202 W203 (180/200)	W203/209	W210	W210	W211	E36/46	E36/46	E36/46	E-39	E-38	GOLF4/beetle AUDI-A3/4/6	AUDI-A4/6 PASSAT	AUDI-A4/6 PASSAT	ポロ/ルポ
ホイール	R-AV	R-5S	R-AV	R-AV/1	R-AV/2	R-RS/36	R-RS	R-46	R-38	R-38	D-3	R-A4	R-A4	D-3
ホイールサイズ	7.0-15	7.0-16	7.5-16	7.5-16	7.5-16	7.0-15	7.0-16	7.0-16	8.0-16	8.0-16	6.5-15	7.0-15	7.5-16	6.0-14
タイヤサイズ	195/65R15	205/55R16	215/55R16	215/55R16	225/55R16	195/65R15	205/55R16	205/55R16	225/55R16	235/60R16	195/65R15	195/65R15	205/55R16	185/55R14
Mi DRICE	¥100,000	¥138,000	¥138,000	¥138,000	¥145,000	¥100,000	¥135,000	¥135,000	¥146,000	¥139,000	¥102,000	¥100,000	¥138,000	¥102,000
BS MZ-03	¥100,000	¥138,000	¥138,000	¥138,000	¥145,000	¥100,000	¥135,000	¥135,000	¥146,000	¥139,000	¥102,000	¥100,000	¥138,000	¥94,000
DL DS-2	¥90,000	¥120,000	¥120,000	¥120,000	¥125,000	¥90,000	¥117,000	¥117,000	¥126,000	¥119,000 (HS3)	¥92,000	¥90,000	¥120,000	

フランス『KARATE・BUSHIDO』誌提携
SRS DX
スペシャル・リング・サイド
No.85 1・23臨時増刊号

CONTENTS

※入稿の都合上、目次の内容と異なることがございます。ご了承願います。

祝！ボブ・サップMVP受賞 & 本誌が選ぶ「東スポ大賞」大ハズレおめでとう座談会

「もういいじゃないか、（古舘調）プロレスっ！」と本誌は言いたい

～団体を捨てよ、街に出よう！～

出席者◎ターザン山本（団野村）
サダハルンバ谷川（本誌“んあ～・テレム氏”編集長）
小松魔裟夫（本誌“来年から編集長代理？”編集部員）
司　会◎柳沢忠之（本誌“代理出産”御目付役）

ガファリを定義するならば「場末のボブ・サップ」ですよぉ！

山本 おい、谷川ぁ！ おまえはいったいどういう社員教育をしてるんだぁ！

谷川 あ、また山本さんに対して何か無礼がありましたか？

山本 またもまた、大またですよぉ！ 今回もまたモグがやらかしてくれたよぉ。

谷川 これほど毎回のことになってくると、もう「いよっ、待ってました！」って反応をするしかないですねえ（笑）。

――ダハハハッ！ おまえ、仕事ではまったくヒットが打てないのに、そういうところだけは打率が高いな（笑）。

山本 とにかく、こんな失礼な日本人はいませんよぉ。

――今回は「日本人」ときましたか（笑）。ずいぶん大きく出ましたね。

谷川 な、な、何があったの？

山本 12・15のZERO―ONE両国大会を見に行った時のことなんだけどさぁ、メインイベントの前に国歌吹奏があって、その時にこいつは帽子を脱がないでボーッとして国旗を見てるんですよぉ。

――ダハハハッ！

山本 ボーッとしてるのはいつものことだからしょうがないけど、せめて帽子ぐらい脱げよなぁ。

小松 脱いでなかったですか。そんなはずはないんですけどね……。

山本 ま～ったく失礼なヤツですよぉ。俺だってわざわざ起立をして、ちゃんと帽子を取ったのにさぁ。

――この山本さんでさえ、帽子を脱いで頭を晒してるにもかかわらず（笑）。

山本 会社として、モグにはま～ったく社会教育ができてないってことですよぉ。

――ズバリ言ってウチの会社では、ナショナリズムに関しては本人の主義主張に任せてますから。

小松 でも、いつもはちゃんと脱ぐんですけどね。だって、ボブ・サップが「東京スーパーボウル」に出てきた時のオープニングでは、ちゃんと帽子を脱ぎましたからね。

山本 それはZERO―ONEをバカにしてるってことかぁ？

――それは我らの破壊王に対して失礼だね（笑）。でも、ついでにズバリ言ってしまうと、ウチは編集長からして無国籍ですから（笑）。

谷川 たまに「僕は本当に日本人なのかな？」って思う時がありますからね。

――んあ～！

谷川 でも、なんでZERO―ONEみたいな興行で国歌が流れたんですか？

小松 メインイベントがタイトルマッチだったからです。

谷川 え？ なんのタイトル？

小松 NWA世界インターコンチネンタル・タッグ選手権ですよ。

谷川 …………えーっと、それは誰と誰が闘ったの？

山本 橋本真也&小川直也VSトム・ハワード&マット・ガファリですよぉ！

谷川 ど、ど、どこの会場で？

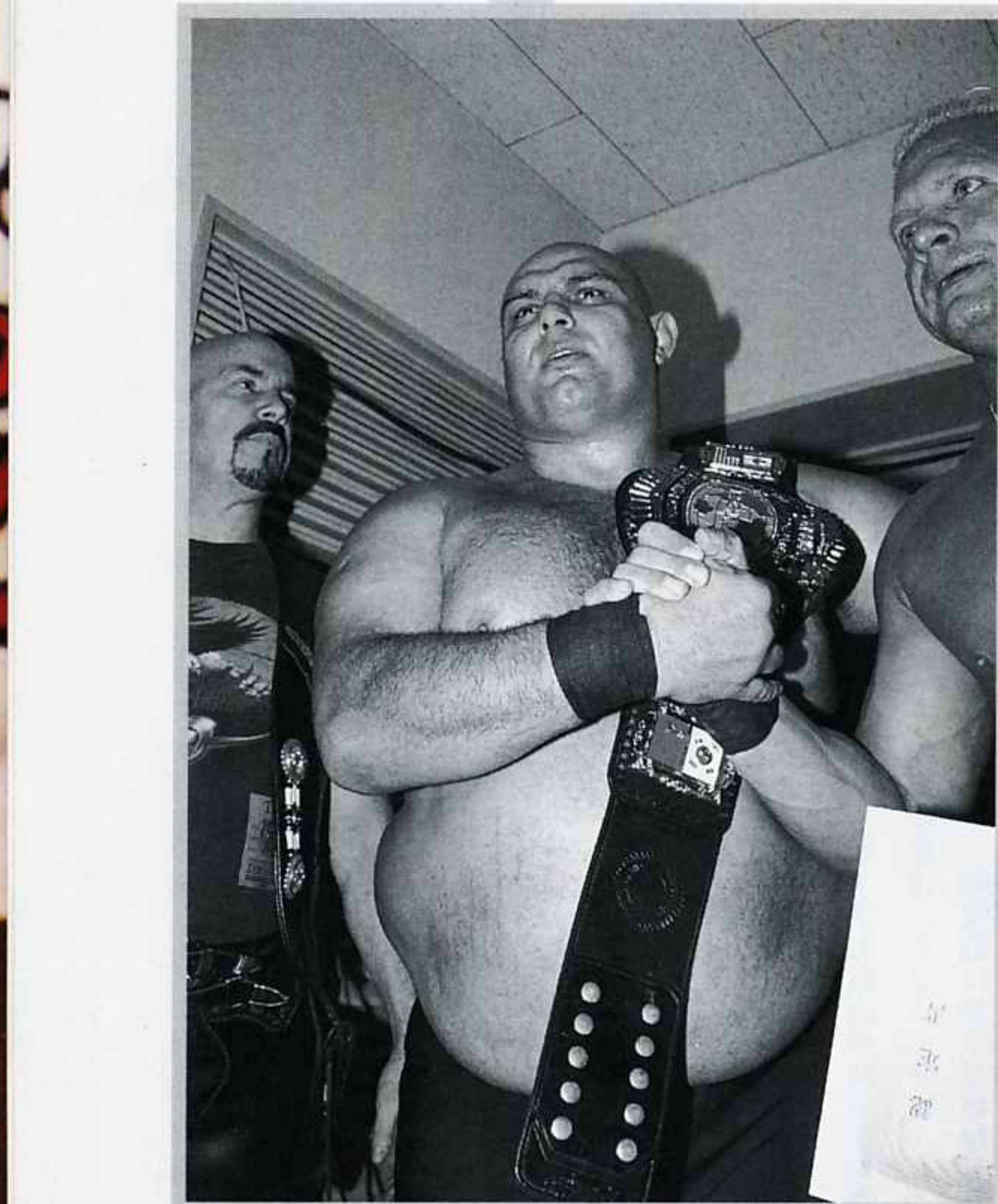
――ぷぷぷっ！

小松 両国国技館です。

谷川 あ！ もう終わったの？ それ。

小松 編集長がまったく知らない間に、密かに終わりました。

谷川 ちょっと気になってたんだけどなあ、その興行は。もう終わっちゃったんだ。

――サダハルンバのアンテナにまったく引っかかることもなく、いつの間にか終わったみたいだね（笑）。

山本 で、あの興行をサムライTVの月曜『生ゴン』で、「暖房が効いてなくて会場が寒かったよぉ！」って言ったらさぁ、すぐにZERO―ONEの事務所から「暖房はちゃんと付けてました！」って、わざわざ番組に抗議の電話がかかってきたんだよぉ。でも、ホントに客席は寒かったんだよぉ。

小松 あれは不思議でしたよね。会場内は凄く寒いのに、通路はちゃんと暖房が付いてたんですから。みんな寒くて、通路に出ていくんですよ。

谷川 それは凄い演出だなあ。

――さすがは破壊王だ。常識を破壊しまくる演出だね（笑）。

谷川 で、試合はどうだったんですかあ？

山本 …………それは淡々と進んで、つつがなく終わりましたよぉ。

――ダハハハッ！

小松 でも、僕が前回の座談会で「もしかしたら、マット・ガファリはメチャクチャ強いかもしれない」って言ったのは、あの興行を見た限りでは当たってましたね。

山本 ガファリが大活躍したんだよなぁ。あのファイトを見て、俺はガファリの真実が分かりましたよぉ。彼を定義するならば「場末のボブ・サップ」ですよぉ！

――ダハハハハッ！ じゃあ、「場末の吉田秀彦」もいたってことですね（笑）。

山本 「場末のボブ・サップ」が「場末の吉田秀彦」をフォールしたんですよぉ。

谷川 えっ！ 小川直也が負けたの!?

小松 180キロのガファリ・プレスで圧殺されました。

谷川 そんなの新聞に載ってたあ？

小松 載ってましたよ、ちゃんと。

谷川 えーっ、僕は毎日、スポーツ新聞全紙に目を通してるけど、どこの一面にもなってなかったよ。

小松 一面はなかったですけどね。

谷川 だってだって、小川がフォール負けするっていうのは大変なことでしょう。

――ズバリ言って、それが話題にならないほど、時代が変わったってことでしょう。

谷川 ちょっと見ないうちに、そんなことになってたんだ、マット界は。

今回のプロレス大賞を見て今後のマット界のテーマを見つけたよぉ

小松　それはマット界じゃなくて、小川直也の存在が変わったんですよ。

——そういうことです。まあ、山本さんの「場末のボブ・サップ」っていう言葉を引用すれば、逆にボブ・サップは「ピッカピカのマット・ガファリ」ってことだね。

山本　そうっ！　で、吉田秀彦は「ピッカピカの小川直也」ということですよぉ！

谷川　ZERO−ONE熱烈ウォッチャーのモグは、小川がフォール負けしたのに何も感じるところはないの？

小松　あ……、まったく何も。

谷川　社長もない？

——ズバリ言って見てねえですから（笑）。

谷川　あ、ない。僕もないなあ……、ということで今日の前フリはいいでしょうか。

山本　うん、さっそく本題に入ろう！

谷川　山本さん、ボブ・サップがプロレス大賞のMVPを獲ってしまいました。

山本　まあ、時代の波にはプロレスの村社会も勝てないというか、見事に屈服したということだろうなぁ。

小松　しかも、外国人初の受賞ですからね。

谷川　へぇ〜、初めてなんだあ。

山本　でも、門馬忠雄さんと菊地孝さんは「プロレス大賞は設立当初からMVPは日本人選手だけを対象にしてきたのに、外国人選手に与えるのはおかしい」と、異議を申し立てたらしいんだよねぇ。

小松　でも、年間最高試合賞が5・2新日本、東京ドームの永田裕志VS高山善廣戦ですから、こういうところではプロレス村もちゃんと抵抗を見せてますよね。

山本　…………へ？

——ダハハハッ！　モグ、いいところ突くなあ（笑）。

山本　永田VS高山は、GK（＝金沢克彦『週刊ゴング』編集長）が強力にプッシュしたらしいんだよぉ。

谷川　そ、それはなんで？

小松　ウチが予想した「東スポ大賞」は見事にハズレましたけど。やっぱり、それは「サダハルンバではないのだ！」だからじゃないですか。

——ぷぷぷっ！　またまた、いいところ突くなあ（笑）。

山本　ただただ、GKが永田に賞を獲らせたいということの表れですよぉ。たしかに今年の高山は名勝負が多かったけど、三沢光晴戦とかドン・フライ戦とか、他にい〜っぱいあるでしょ。それなのに、なぜか永田戦なんですよぉ。

谷川　でも、永田戦を推した理由はなんですかねえ？

山本　理解不能だよなぁ。

——しかも、その試合が年間最高試合になっているにもかかわらず、永田個人はまったく話題になってないからね。

小松　前号の座談会であれだけ多くの「今年のベストバウト」を挙げたのに、ウチではまったく引っかかってもいないですからね。

谷川　で、どんな試合でしたっけ？

山本　去年の猪木祭で永田はミルコ・クロコップにハイキック一発でやられたでしょ。で、5・2は永田が高山をハイキックで倒したんですよぉ。つまり、永田がミルコにやらなければいけないリベンジを高山を相手に誤魔化してやったという試合ですよぉ。

谷川　僕は、その試合の記憶がまったくないなあ。

——まあ、その試合に限らず他の試合も記憶はないと思うけど（笑）。

谷川　でも、MVPをボブ・サップが獲ったから気持ちいいですよね。

山本　エクスタシーですよぉぉぉ！

谷川　で、話題賞が吉田秀彦で、新人賞が小笠原和彦なんだ。

山本　でも、普通に考えたら吉田が新人賞なんじゃないの？

——それも吉田の試合は「プロレスじゃないから」っていう抵抗なんでしょう。

小松　小川直也が受賞した時も、たしか話題賞でしたよね。

山本　話題賞っていったら「番外」みたいなもんだからなぁ。失礼ですよぉ。

小松　話題賞だったらダントツで棚橋弘至ですもんね。

——……今日は猛打賞だな、モグ（笑）。

谷川　やっぱり吉田は格闘技だから、プロレス大賞的には番外なんですかねえ。

——そんなこと言ったら、ボブ・サップだって2試合しかプロレスをやってないじゃん（笑）。

山本　俺は今回のプロレス大賞を見て、今後のマット界のテーマを見つけたよぉ。

谷川　見つけましたか（笑）。

——相変わらず早いな（笑）。

山本　ボブ・サップと高山がMVPを争って、結局今年はこの2人の年だったってことでしょ。結果的にサップがMVPを獲って、高山が年間最高試合と殊勲章を獲った、と。で、この2人には共通点があるわけ。

小松　それはいくつですか？

山本　今日はふたつっ！

——久々に力強く言いきるなあ（笑）。

山本　ひとつは、この2人には代理人がいるんだよねぇ。サップはK—1が代理人になってるし、高山は高山堂の伊島（良昭）さんを代理人に立てて活動して、2人ともフリーのファイターなんだよねぇ。

谷川　はいはいはい。

山本　フリーであり、なおかつもうひとつの共通点がある。

——はい、ふたつ目。

山本　プロレスとバーリ・トゥードの二股をかけてる、と。その二股をかけられるから代理人に任せているというかねぇ。それを考えると今年、新日本から全日本に移籍した武藤敬司選手とか小島聡選手というのはさぁ、わざわざ新日本から全日本に行く必要はなかったんだよなぁ。彼らも代理人を立ててフリーで活動して

サップ、高山、吉田の成功を見よ！ということですよぉ

いけば、もっと違った形の新しい展開ができたわけですよぉ。それが結局は所属団体が変わっただけというか。長州力も新日本から出て行ったのに、団体を作ってしまったという。今の時代はフリーになって代理人を立てて、自由に活躍すればいいわけですよぉ。それでプロレスもできる、『プライド』もできる、K－1もできる、そういうファイターが今の新しい時代の象徴であるということを、今回のプロレス大賞が完璧に表してるんだよねぇ。

谷川 なるほどぉ。

――要するに代理人制度ですね。

山本 これまで代理人制度というのは、レスラーとマネージャーの関係みたいに胡散臭かったでしょ。かつてのタイガーマスクとショウジ・コンチャみたいに。

谷川 何をやってるんですかねえ、あのショウジ・コンチャは。

――んあ～。

山本 まあ、これまでのマネージャーというのは非常に胡散臭かったんだけど、そうじゃなしにキッチリとビジネスとしてやる代理人制度がサップや高山をブレイクさせる大きな要素になってるわけですよぉ。吉田秀彦だって、ある意味ではそうでしょ。こういう選手たちが時代を作ってるわけだからぁ。よ～するにサップ、高山、吉田の成功を見よ！ということですよぉ。

谷川 でも、小島選手とかも今年は活躍したんじゃないですか。

山本 まだまだ、前時代の尾てい骨を引きずってますよぉ。だって、ZERO－ONE両国大会で小島と大谷晋二郎が闘ったんだけど、あれも全日本VSZERO－ONEの闘いであって、パーソナリティの激突には見えなかったわけ。どう見たって、元新日本プロレスの先輩と後輩が闘ってるというふうにしか見えなくて、絶対に先輩が勝ってしまうという構図なわけよぉ。そんなもん、くだらないわけですよぉ。小島も小島で、全日本という新しい世界に飛び出して行ったのに、そこでまた「格の構造」に取り込まれて、絶対に武藤や天龍やゴールドバーグには勝てないわけでしょ。小島はいったいなんのために新日本を飛び出したんだよなぁ。

谷川 ふんふんふん。

山本 俺が小島に言うことはただひとつ、「言っちゃうぞ、大バカ野郎！」だよぉぉぉ!! マヌケもマヌケ、大マヌケですよぉ。

小松 でも、そんな選手がなぜ技能賞を受賞してるんですか？

山本 …………………えっ？

谷川 「全日本に何か賞をひとつ」っていうところでしょうかね。

――サダハルンバ的バランス感覚から考えたら、そういうことだろうね（笑）。

山本 それを考えると、今年はノアには一個も賞が行かなかったんだよなぁ。

――まあ、代理人制度っていう話を突き詰めてしまうと、要するに団体の崩壊ですよね。

谷川 団体と、レスラーの自己プロデュースの崩壊でしょうね。

山本 レスラーにとって自己プロデュースというものが、ま～ったく意味を成さない時代になったということですよぉ。

谷川 あれだけ自己プロデュースに一生懸命だった小川直也が、あっさりとガフアリにフォール負けするんですからね。

小松 でも、代理人らしき人はいるはずなんですけどね……。

山本 まあ、とにかくマット界としては過渡期ですよぉ。小島や大谷を見ても「団体という枠を飛び出さなきゃいけない」という感情はあるんだけど、代理人という発想までには及ばないで団体に属している、と。「団体から飛び出して、たとえば『プライド』に出られるの？」っていうことまで突きつけられるわけでしょ。それができないから、仕方なく団体に所属している、みたいなね。

谷川 そこでボブ・サップを考えると、たとえば新日本プロレスの外国人選手というくくりに入ってしまっていたとしたら芽が出なかったでしょうね。

山本 そんなことになってたら、スコット・ノートン以下のレスラーですよぉ。

――そこで考えた場合、もし来年、ボブ・サップが新日本や『WRESTLE－1』に出ないで、『プライド』にはレスラーが出られないという状況になったとしたら、プロレス村はいったいどうなるんでしょうね（笑）。

山本 来年の『東スポ』のプロレス大賞自体が崩壊しますよぉ。

――だって、ボブ・サップがプロレスのリングに上がってなかったとしたら、今回のMVPには選ばれてないわけでしょ。もし今年、中西戦と武藤戦がなかったらって考えると、恐ろしいですよね。

谷川 まあ、そう考えるとK－1も『プライド』も猪木祭も、団体じゃないのがいいところですよね。山本さんも言ったけどプロレスと格闘技の両方をやる選手じゃないと、代理人っていうのは成立しないですよね。

――要するに「ジャンルをまたぐ」から、代理人が必要になるということでしょう。

谷川 たとえば、小島選手が代理人を立てて、全日本と新日本を股にかけるっていうんじゃ意味ないですよね。

山本 K－1にも出る、『プライド』にも出る、プロレスにも出るっていうんじゃないと、代理人制度の意味はないわけですよぉ。

――野球で言えば、日本球界とメジャーリーグのジャンルをまたぐから、代理人が必要になるわけですよね。つまり、構造が違うビジネスをするから代理人が必要になるわけですからね。プロレス内のことであれば、構造は一緒だから必要ないですよね。

谷川 松井秀喜の代理人とかを見ていると、やっぱりメジャーリーグの代理人の人たちっていうのは、凄いノウハウを持ってますよね。代理人としての守るべきものっていうのは見ていて本当に感心しますよ。

山本 プロフェッショナルだよなぁ。

谷川 代理人にとって最も大切なことは、契約する選手にとってより良い環境をいかに作るかってことらしいんですよ。日本人選手だったら、日本食が食べられるとか、日本語でも支障なく練習やプレーができて、ちゃんと英語も学べる環境と

多くの日本人レスラーには ニーズという思想がないということですよぉ

か。そういうことに関してメチャクチャお金がかかるんですよ。だから、選手を高く売る土台を作れるんですよね。ボブ・サップにしろ、高山選手にしろ、吉田選手にしろ、そういう部分に関してどこまでやれているかっていうことだと思うんですけどね。そこを切り離すことは考えられないということは、ジャンルをまたがないと発想自体が出てこないんでしょうね。

――つまり、代理人はいかに選手が心地よい環境で活動できるか、いかに能力を全開にできるかを第一に考えるかってことだね。

谷川 それはお金が第一じゃないんですよね。結果としてお金がかかるという。マット界に関して言えば、それにプラスしてマッチメイクでしょうね。ボブ・サップで言えば、マッチメイクが彼を生かしましたよね。ノゲイラと闘って、ホーストと2回闘って、中西学は……まあ、いいか。

――ぷぷぷっ！

山本 でもボブ・サップの場合、マッチメイクはオールすべてぜ～んぶ他力本願でしょ。

谷川 本人の希望はまったくないでしょうからね。

山本 他者によって組まれた試合をまったく拒否しないわけだからなぁ。

谷川 それはボブ・サップが売り手市場になってるからですよね。

――まあ、中西戦はダンピングというか、出血大サービスかもしれないけど（笑）。

山本 よ～するに、どういうニーズが存在するかということですよぉ。で、そのニーズに乗るか乗らないか。あるいはニーズが価値を生むということを理解してるかどうかですよぉ。サップはそのニーズを分かってるということだよねぇ。ニーズを理解して乗っかっていったから、ブレイクしたわけですよぉ。その点、多くの日本人レスラーにはニーズという思想がないということですよぉ。よ～するにニーズがお金を生むし、ニーズがジャンルの爆発力を生むわけですよぉ。

谷川 サップにしろ、高山にしろ、それは分かってますよね。高山は日本人であるがゆえに、まだまだ団体のしがらみとかに左右されるところがあるんですけどね。それが5・2の永田戦とか、G1クライマックスの決勝戦とかをついやってしまうような部分になるんでしょうけど。

山本 今の時代のプロレスラーにとって何がおいしいかというと、ニーズに乗るか乗らないか、その一点ですよぉ。それを最も体現したのがボブ・サップということでしょ。

谷川 高山の場合は、日本人であるがゆえに余計なものも断れないというかね。

山本 あと、この2人に共通してるのは身体がデカイということですよぉ。身体がデカイということが今の時代の最大のニーズになってるんですよぉ。

――あ、馬場イズムがここでいきなり浮上してきましたか（笑）。

山本 馬場イズムは時代の遺物のように見えるけど、真実だからこういうところで浮かび上がってくるわけですよぉ。

――でも、デカイからいいというわけじゃないと思いますけど（笑）。

山本 まあ、ジャイアント・ノルキアとかもいるけども、サップや高山のはそれ以上の膨らみがあるというかさぁ。

――まあ、定義王の論としては面白いから否定はしませんけど（笑）。

小松 ジャイアント・シルバとジャイアント・シンも違いますけどね。

山本 シルバとかシンは馬場イズムじゃなくて、それは新日本が大きなババをつかんでるということですよぉ。

――ダハハハッ！ まあ、プロデュースの問題でしょう。シルバもシンもいくらでも生かす方法はありますよ。ニーズを生んで生かせばいいだけの話ですからね。エキセントリックに言ってしまえば、それはいかに既存のプロレス界の価値観を崩すかっていうことでしょうね。高山に関して言えば、NWFタイトルとかIWGPとかよりも、ドン・フライと殴り合ったり、大晦日にサップと闘うことのほうが数万倍もニーズがあることですからね。

山本 まあ、本当に今年のプロレス大賞は「2003年をどうすべきか」という指針になりましたよぉ。既存のプロレスの限界を突きつけてるよなぁ。

――そのためには、とにかく優秀な代理人を育てないといけないですね。それが重要ですよ。ニーズということで言うと、団体側のニーズ、選手のニーズ、時代のニーズがあって、いちばん大事なのは時代のニーズですよね。そう考えた場合に、団体側とか選手のニーズを徹底的に無視するというか黙殺する代理人というのが、本当に優れた代理人ということになるのかもしれませんね。

山本 それ、時代をつかむためには自分の雑誌も編集部員もまったく視野に入れない谷川みたいなもんだなぁ。

谷川 んあ～！

――こういう真のキラーが、真の代理人として最も適してるわけですよ（笑）。ウチで『ザ・ビースト』を緊急制作した時に、サップに「お願いですから、私を人間扱いしてください」と言わせた男ですからね（笑）。

山本 凄い勲章だなぁ、それは（笑）。

選手の長所を見出して、高く売るのが代理人の使命だからねぇ

谷川　さすがにあの時は、ボブがエレファントマンに見えたもんなぁ。

――んあ～！

山本　でも、谷川のやり方を見ていると、俺の失敗例に立脚して物事を進めているのがよく分かるよぉ。

谷川　ど、ど、どういうことですか、それは。

山本　結局、俺が『週プロ』をやってきたスタンスは団体側にお任せなわけだったでしょ。マッチメイクとか、興行とか、流れとかドラマのオールすべてぜ～んぶを。俺はそれを見ていて「それは違う」とか「それは間違いだ」とか「なんでそんなことをするの？」って、心の中で思っていても、正面切っては言えなかったわけ。つまり、それを目の前にしながら「期待」と「失望」を繰り返してきたわけですよぉ。で、その鬱憤が爆発して、新日本から取材拒否を食ったわけでしょ。ところが谷川の場合は相手が誰であろうが「ダメなものはダメ」と、立場をわきまえずに言うでしょ。そこがキラーなわけですよぉ。

――それは山本さんの遺伝子に対するサイレント・クーデターですね（笑）。

谷川　僕は感じたことをそのまま言ってるだけなんですけどねえ。

山本　ということは、俺のほうが人が好いというか、常識的なんだなぁ。

――サダハルンバは「ほのぼのキャラ」で売ってますけど、正体は紛れもない「ナチュラル・ボーン・アナーキスト」ですから（笑）。

山本　俺のほうが常識人というか、節度をわきまえてるということですよぉ。つまり、石井館長であれ、誰であれ「こうしたほうが絶対に面白いですよ」と進言して、団体側や選手側のニーズを全部潰して、それが時代のニーズになってるわけだからぁ。

谷川　でもね、僕が代理人になるとしたら、あんまり日本人相手には向いていないな。

――物事の考え方が理不尽この上ないし、侘び寂びという感覚がないからね（笑）。

山本　でも、マット界における代理人という形は誰が作ったんだろうねぇ。

――それは間違いなく石井館長でしょう。無意識に、選手の契約形態を芸能ビジネス化してますからね。

谷川　間違いなく選手の扱い方とか、選手との契約方法とか、選手の生かし方とかは、完全に石井館長がやってきたことがベースになってますよね。

山本　選手の長所を見出して、高く売るのが代理人の使命だからねぇ。で、マスのニーズが独り歩きした時に爆発力が生まれるんだよなぁ。すなわち、それが時代を作るんですよぉ。昔は馬場VS猪木がニーズだったわけだからなぁ。

――それがあったから、プロレスは生き延びてきたわけですからね。

山本　その絶対的なニーズがあったから、馬場さんと猪木さんはずっと生き残れたわけですよぉ。

谷川　でも、僕が言うのもなんですけど、代理人の重要な資質って「飽きっぽい」ことでしょうね。常に時代に満足しないというか。

――ダハハハハッ！　サダハルンバも、さんざんメシを食った後に「お腹が空いたなあ」って、よく言うしね（笑）。

山本　それは重要ですよぉ！　つまり、満足感を容赦なく捨てるということだからなぁ。それができないと次の時代が見えてこないんですよぉ。

谷川　僕はサップが『プライド』でデビューした時に、すでに飽きてましたからねえ。

――んあ～！（笑）。

山本　サップが出てきたこと自体が予想外だったのに、その時点ですでに谷川は飽きてたというのは凄いことだなぁ。

谷川　そんなに師匠に褒められても困るなあ。

山本　結局、そう考えるとサップと吉田は同じということですよぉ。サップはK―1の技術の頂点に立ってるスペシャリストのホーストを叩き潰したでしょ。吉田もジャンルの掟とか、ジャンルの既存の価値観とかをまったく考えずに、その頂点にいたドン・フライのプロ的な価値観をアマチュア感覚で叩きのめしたわけでしょ。そういう人間が光るということを示したわけ。もう、旧態依然とした格闘のロマンとか価値観は、今の時代には馴染まないという、それが時代の真実なんですよぉ。

――それはね、山本さんだけじゃなくて、みんな気付くのが遅すぎる（笑）。サップに関しては、よく「あんなのは、このまま保つわけがない」っていう声を聞くでしょ。吉田に関しても「あんな観客を意識しないファイト・スタイルはダメだ」って言い出すわけですよ。でも、そんなことを我々は何年前から言ってましたか？（笑）。ずっと言い続けてきて、その考え方自体がもうとっくに飽きてるわけですよ。僕らは猪木さんの時代からずっとプロレスを見てきて、そんな部分は何回転もしてるわけじゃないですか。でも、そういうもの全てを踏まえた上で進化しないと、この先は保たないですよ。

山本　そーゆー意味では、プロ的とかエンターテインメント的という部分を履き違えて、そこに躊躇して迷って、潰されて葛藤して、ダメになったのが小川直也ということですよぉ。で、その轍を踏んでない吉田にははるかに時代性があるということですよぉ。

――髙田延彦なんか、引退試合で失神KOされたわけですからね。あの試合は身をもって今の時代を体現してますよ。「ああ、髙田延彦のリアリティはここにあったのか」って感動を覚えますからね。

山本　吉田やサップに対する旧勢力の見方というのは、精神の守旧派だよねぇ。K―1だってこれまでさんざん言われて

それは今日を作るために必要だった歴史と考えなきゃいかんよなぁ

きたわけ。「もう今年で終わりだ」とか「来年は保たないんじゃないか」とか、ずーっと言われてきたでしょ。でも、毎年新しいものが出てくる。それと同じですよぉ。つまり自分の価値観を他者に強要してきてるということだよなぁ。

――ところが、時代のニーズははるかにその先を行ってるんですよね。

谷川　僕にとっては、サップはけっこう等身大だけどなあ。

――んあ～！

山本　後になって考えてみれば、プロという幻想を守るために、あるいはアマチュアの強豪に対してどんな手を使っても抑え込むということをアントニオ猪木や新日本プロレスは歴史的にずっとやり続けてきて、新日本とプロレスの幻想を頑なに守ってきたんだよねぇ。それはそれで凄い戦略だったんだよぉ。だって、ウイリアム・ルスカって本当はメチャクチャ強かったはずだよぉ。

――ダハハハッ！　ビッグ・サカだってとんでもなく強かったでしょう（笑）。

山本　まあ、それは今日を作るために必要だった歴史と考えなきゃいかんよなぁ。

谷川　ちょっと飽きちゃったんで強引にまとめますけど、とにかく、今後のマット界は代理人制度が重要ですね。

山本　そ、そーゆーことです！

――モグ、おまえが今、誰かの代理人になるとしたら誰だ？

小松　即答しちゃいますけど、やっぱりマット・ガファリですね。

――合格っ！（笑）。おまえもだんだんとツボが分かってきたな。

小松　いやあ、それほどでも。

谷川　んあ～！

小松　ところで山本さんが代理人になるとしたら、誰の代理人になりたいですか？

山本　そんなもん、決まってますよぉ！

――誰ですか？（笑）。

山本　谷川の代理人に決まってますよぉ。もう、今の時代をオールすべてぜ～んぶ自分のものにしている谷川にコバンザメみたいにくっついていって、最後は骨の髄までしゃぶりまくりますよぉ！

谷川　んあ～っ！　■

『新春・朝まで激生トーク“闇討ち”』

※12月31日（火）深夜2時（元日の朝2時とも言う）より、新宿のクラブハイツ（新宿コマ劇場隣り）で、ターザン山本が何を考えたのか、『新春・朝まで激生トーク“闇討ち”』を行うゾ！　ターザン山本とともに一生思い出に残るような熱い新年を迎えたい人、大集合だぁ！　料金は当日3,500円、前売り3,000円（前売り券はロックウエストで）。お問い合わせ：ロックウエスト☎03-5459-7988まで

12/27THU～1/9THU

CALENDAR

12/27 FRI	★『SRS・DX』85号発売日
12/28 SAT	
12/29 SUN	■SMACK GIRL/TOKYO FMホール（16:30～）⬅48p ◆U-STYLE / チケット発売⬅48p
12/30 MON	
12/31 TUE	■イノキ・ボンバイエ2002/さいたまスーパーアリーナ（17:00～）⬅46p
1/1 WED	
1/2 THU	
1/3 FRI	
1/4 SAT	■全日本キック/東京・後楽園ホール（18:30～）⬅48p
1/5 SUN	■シュートボクシング/愛知・名古屋市公会堂　4階ホール（13:00～）⬅48p
1/6 MON	
1/7 TUE	
1/8 WED	
1/9 THU	★『SRS・DX』86号発売日

格闘技パーフェクトガイド

Perfect Guide

GUIDE & TICKET
大会ガイド&チケット情報

総合格闘技&ノールール系

イノキ・ボンバイエ

INOKI BOM-BA-YE 2002
12月31日（火）　さいたまスーパーアリーナ

◆開場/15:00　試合開始17:00
◆入場料/VIP席100,000円（専用入場ゲート・グッズ付）RRS席30,000円　スタンドS席15,000円　スタンドA席7,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/グレート・アントニオ☎03-3219-9550、チケットぴあ☎03-5237-9966（Pコード：505-777）、ローソンチケット☎0570-00-0903（Lコード：33333）、CNプレイガイド、eプラス、レッスル渋谷店・池袋店、板橋大山アメリカン、書泉ブックマート、フィットネスショップ格闘技、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、後楽園ホール、TOKYO文庫TOWER☎03-5784-4900、BCG☎03-3560-7911、相鉄ジョイナスプレイガイド☎045-319-2456、公武堂☎052-241-2511、新日本プロモーション http://www.shinnichi-pro.co.jp/　、チケットgaburi http://ticket.gaburi.com/　、iTV2002PROJECT http://www.e-goraku.tv/　◆会場アクセス/JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅より徒歩3分、JR埼京線北与野駅より徒歩7分　◆お問い合わせ/ドリームステージエンターテインメント☎03-5775-5700

決定対戦カード

藤田和之vsミルコ・クロコップ
（猪木事務所）（クロコップ・スクワッドジム）

高山善廣vsボブ・サップ
（フリー）（アメリカ/チーム・ビースト）

出場予定選手

安田忠夫
（猪木事務所）

高山善廣VSボブ・サップ

修斗

プロフェッショナル修斗公式戦
1月24日（金）　東京・後楽園ホール

◆開場/17:30　試合開始/18:30　◆入場料/RS席10,000円　SS席8,000円　S席6,000円　A席4,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、書泉ブックマート、大盛堂書店、フィットネスショップ水道橋店、後楽園ホール、KEEL CAFE☎03-5725-7338、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、e-ticket：http://www.eticket.net/　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/サステイン☎03-5725-7338

決定対戦カード

植松直哉vsジョン・ホーキ
（K'z FACTORY）（ブラジル/ノヴァ・ウニオン）

植松直哉VSジョン・ホーキ

K-1

K-1 ジャパンシリーズ

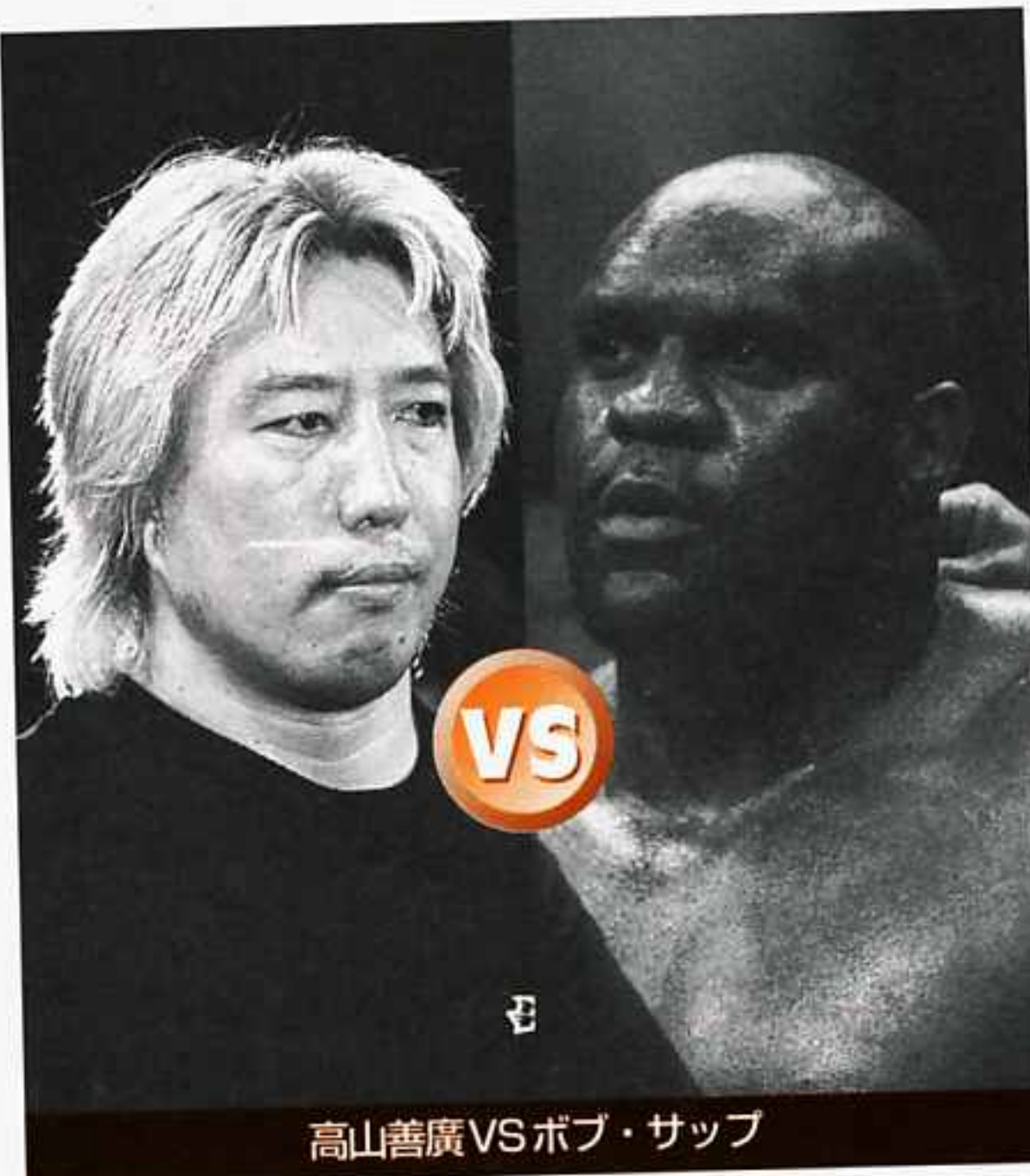
K-1 RISING 2003 ～高知初上陸～
1月26日（日）　高知県立県民体育館

◆開場/14:00　試合開始/15:00
◆入場料/SRS席20,000円　S席12,000円　A席6,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/ローソンチケット、d-ticket
◆チケットに関するお問い合わせ/デューク高知☎088-822-4488　キョードー東京☎03-3498-9999
◆お問い合わせ/K-1事務局☎03-3796-2977

出場予定選手

武蔵（正道会館）
中迫剛（ZEBRA 244）
天田ヒロミ（TENKA 510）
富平辰文（SQUARE）
マイク・ベルナルド（南アフリカ/レオナルドジム）

▲JAPANの未来は、この2人にかかっている！

一撃

一撃実行委員会

一撃
2月22日（土）　東京・日本武道館

◆開場/12:00　試合開始/13:00
◆入場料/SRS席20,000円（記念品付き）　RS席15,000円　S席10,000円　A席5,000円
◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、一撃ショップ☎03-5785-1608
◆お問い合わせ/一撃実行委員会☎03-5960-7522

出場予定選手

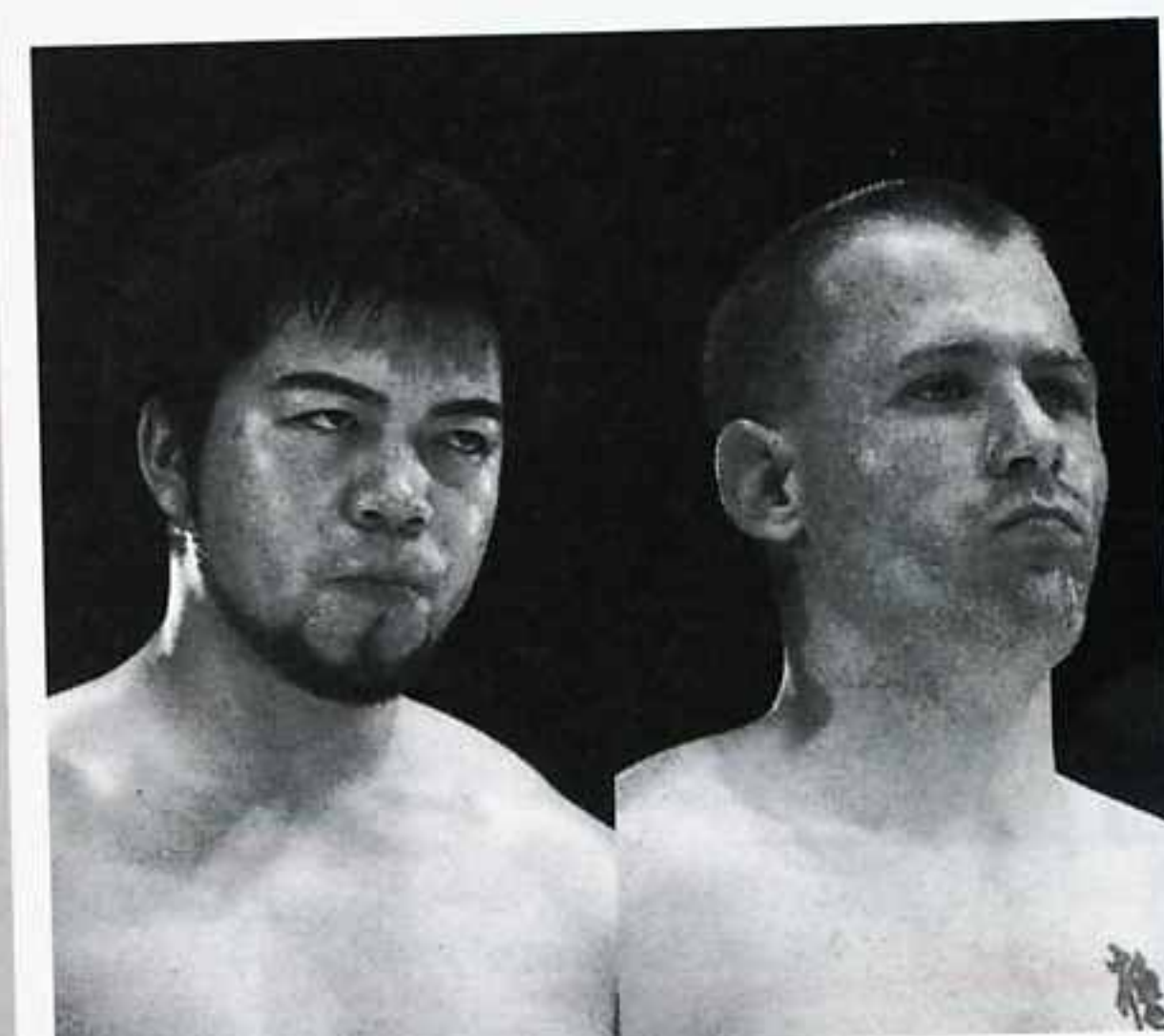
グラウベ・フェイトーザ
（極真会館ブラジル支部）

野地竜太
（極真会館総本部）

アレキサンダー・ピチュクノフ
（極真会館ロシア支部）

セルゲイ・プレカノフ
（極真会館ロシア支部）

エヴェルトン・テセイラ
（極真会館ブラジル支部）

ギャリー・オニール
（極真会館オーストラリア支部）

▲野地竜太　▲ギャリー・オニール

パンクラス

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR
1月26日（日）　東京・後楽園ホール

◆開場/11:30　試合開始/12:00
◆入場料/SS席12,000円　A席9,000円　B席6,500円　C席4,500円　D席3,500円　立見3,000円　※当日券は一律500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ（Pコード:594-040）、ローソンチケット（Lコード:34954）、CNプレイガイド、eプラス、後楽園ホール、書泉ブックマート、板橋大山アメリカン、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、ビデオショップチャンピオン、プロレスマニア館☎03-5276-0304、アイドール新宿☎03-3371-5211、ファイター☎03-3354-1903、フィットネスショップ水道橋☎03-3265-4646、チケット＆トラベルT-1☎03-5275-2778、格闘技・プロレス図書館 闘道館☎03-3512-2080、FIGHT COMPANY☎03-3325-5047、SSSアカデミー水道橋☎03-5212-7920、イサミ尚武堂☎03-5214-6487、渋谷TOKYO文庫TOWER6F☎03-5784-4900、ゴールドジム☎03-3645-9434、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

決定対戦カード

大石幸史vs和田拓也
（パンクラスism）　（SKアブソリュート）

長岡弘樹vs北岡悟
（ロデオ・スタイル）　（パンクラスism）

志田幹vs田上洋平
（P'sLAB東京）　（HYBRID WRESTLING 武∞限）

出場予定選手

〈パンクラスism〉
渡辺大介　石井大輔

〈パンクラスGRABAKA〉
石川英司　佐藤光芳

三崎和雄

他、外国人選手

PANCRASE 2003 HYBRID TOUR
2月16日（日）　グランキューブ大阪

◆開場/15:00　試合開始/16:00
◆入場料/SS席15,000円　A席8,000円　B席6,000円　C席4,500円　D席3,500円　※当日券は一律500円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/P'sLAB大阪☎06-6649-8530、チケットぴあ☎06-6363-9999（Pコード594-040）、ローソンチケット☎06-6369-6633（Lコード57445）、eプラス、バディ・スラム☎06-6645-1378、エース☎06-6636-5468、フィットネスショップ難波店☎06-6214-7951、神戸住吉・富万☎078-811-6222、リングソウル☎078-333-6690、パンクラス☎03-5792-0815
◆会場アクセス/JR大阪環状線福島駅より徒歩10分、JR東西線新福島駅2番出口より徒歩10分、大阪市営地下鉄（中央線・千日前）阿波座駅（中央線1号出口・千日前線9号出口）より徒歩10分、JR大阪駅前バスターミナルから、大阪市バス（53系統　船津橋行き）または（幹55系統　鶴町四行き）で約15分「堂島大橋」バス停下車すぐ、シャトルバスが「リーガルロイヤルホテル」と各ターミナル（JR大阪駅中央北口、地下鉄・京阪淀橋駅西詰）の間で運行しており、ご利用いただけます。
◆お問い合わせ/パンクラス☎03-5792-0815

出場予定選手

〈パンクラスism〉
鈴木みのる　渋谷修身
近藤有己　美濃輪育久
謙吾　佐藤光留
金井一朗

〈パンクラス大阪〉
冨宅飛駈

〈外国人選手〉
ヒカルド・アルメイダ、他

最新オフィシャルランキング発表（12/10付）

【無差別級】

第9代無差別級
キング・オブ・パンクラシスト
セーム・シュルト
（オランダ/ゴールデン・グローリー）

1位　近藤有己
（パンクラスism）
2位　髙橋義生
（パンクラスism）
3位　國奥麒樹真
（パンクラスism）
4位　KEI山宮
（パンクラスism）
5位　菊田早苗
（パンクラスGRABAKA）
6位　ティム・レイシック
（アメリカ/グラジエーターズ・トレーニング・アカデミー）
7位　渋谷修身
（パンクラスism）
8位　藤井克久
（UFO）
9位　ロン・ウォーターマン
（アメリカ/コロラド・スターズ）
10位　謙吾
（パンクラスism）

【ヘビー級/90kg～100kg未満】

初代ヘビー級
キング・オブ・パンクラシスト
髙橋義生
（パンクラスism）

1位　藤井克久
（UFO）
2位　ジェイソン・ゴトシー
（アメリカ/I.F.アカデミー）
3位　空位

【ライトヘビー級/82kg～90kg未満】
第2代ライトヘビー級
キング・オブ・パンクラシスト
菊田早苗
（パンクラスGRABAKA）

1位　近藤有己
（パンクラスism）
2位　KEI山宮
（パンクラスism）
3位　美濃輪育久
（パンクラスism）
4位　佐々木有生
（パンクラスGRABAKA）
5位　ヒカルド・アルメイダ
（ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー）
6位　渋谷修身
（パンクラスism）
7位　佐藤光芳
（パンクラスGRABAKA）
8位　石川英司
（パンクラスGRABAKA）
9位　石井大輔
（パンクラスism）
10位　郷野聡寛
（パンクラスGRABAKA）

【ミドル級/75kg～82kg未満】
第2代ミドル級キング・オブ・パンクラシスト
國奥麒樹真
（パンクラスism）

1位　クリス・ライトル
（アメリカ/I.F.アカデミー）
2位　竹内出
（SKアブソリュート）
3位　ネイサン・マーコート
（アメリカ/コロラド・スターズ）
4位　三崎和雄
（パンクラスGRABAKA）
5位　星野勇二
（RJW/CENTRAL）
6位　ショーニー・カーター
（アメリカ/AIKIトレーニング・ホール）
7位　高瀬大樹
（和術慧舟會東京本部）
8位　伊藤崇文
（パンクラスism）
9位　窪田幸生
（パンクラスism）

【ウェルター級/69kg～75kg未満】
初代ウェルター級
キング・オブ・パンクラシスト
國奥麒樹真
（パンクラスism）

1位　伊藤崇文
（パンクラスism）
2位　大石幸史
（パンクラスism）
3位　長岡弘樹
（ロデオ・スタイル）
4位　芹沢健市
（RJW/CENTRAL）

【ライト級/64kg～69kg未満】　空位

【フェザー級/～64kg未満】　空位

シュートボクシング協会

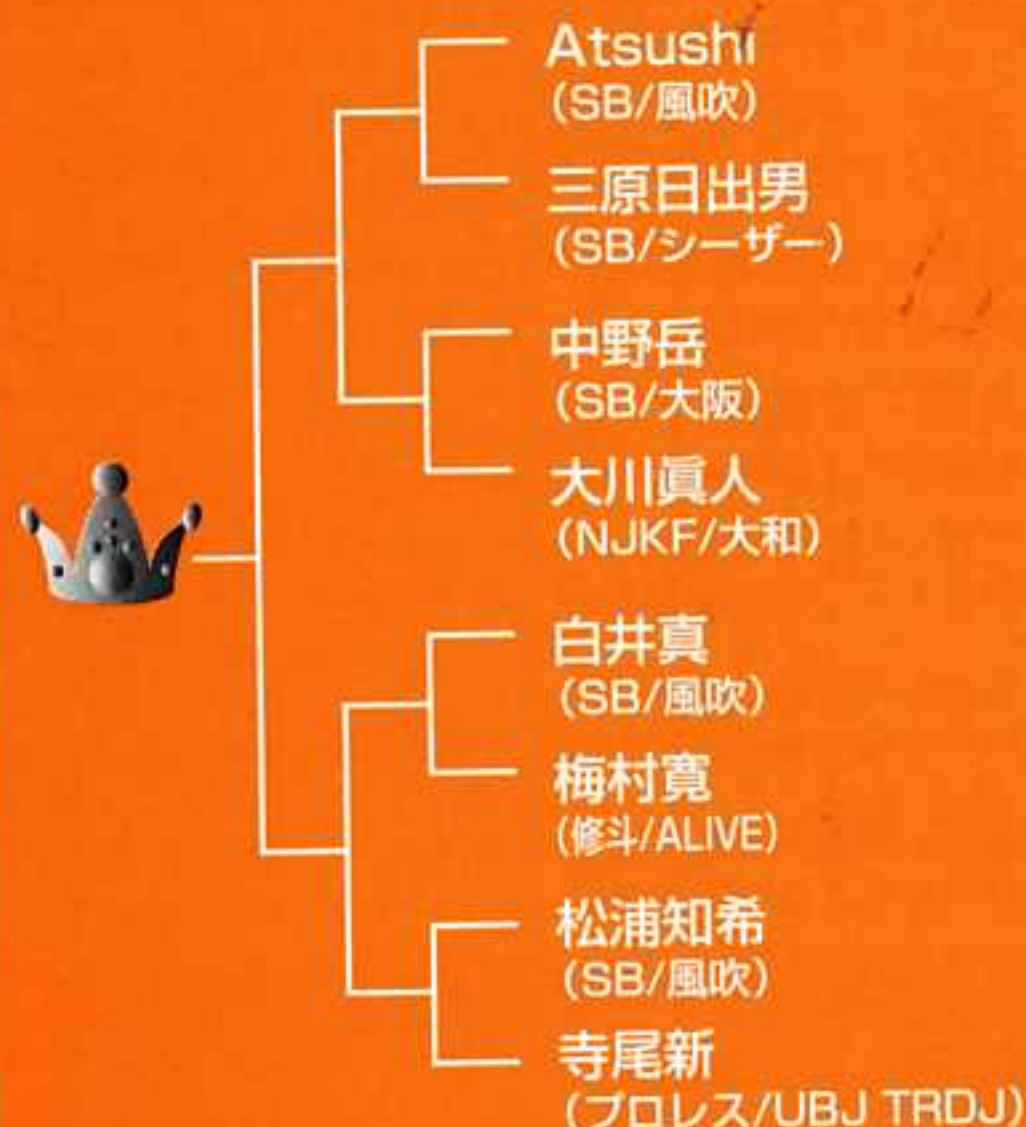
2003 闘志祭

1月5日（日）愛知・名古屋市公会堂 4階ホール

◆開場/12:30 試合開始/13:00 ◆入場料/S席10,000円 A席7,000円 B席5,000円 自由席3,500円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット発売所/チケットぴあ、風吹ジム☎0568-88-7333 ◆会場アクセス/JR鶴舞駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/風吹ジム☎0568-88-7333

決定対戦カード

「乱～RAN」60kg以下ワンデートーナメント（優勝賞金50万円）

Atsushi（SB/風吹）
三原日出男（SB/シーザー）
中野岳（SB/大阪）
大川眞人（NJKF/大和）
白井真（SB/風吹）
梅村寛（修斗/ALIVE）
松浦知希（SB/風吹）
寺尾新（プロレス/UBJ TRDJ）

2003年シリーズ開幕戦（仮）

2月2日（日） 東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始/18:00（予定） ◆入場料/RS席10,000円 SS席7,000円 S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 ◆チケット発売/発売中 ◆チケット販売所/チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、ワールドスポーツプラザ☎03-3462-1001、シュートボクシング協会 ◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸ノ内線・南北線後楽園駅より徒歩3分 ◆お問い合わせ/シュートボクシング協会☎03-3483-1212

決定対戦カード

アンディ・サワー vs ダニエル・ドーソン
（オランダ/リンホージム） （オーストラリア/ブンチュージム）

出場予定選手

土井広之（シーザージム）

後藤龍治（STEALTH）

Result!

X PLOSION『Boonchu "S-cup"』

12月15日（日） オーストラリア・ゴールドコースト・サウスポートシャークス

73.0kg契約（3分5R）
○ジョン・ウェイン（5R判定）後藤龍治●

71.0kg契約（3分5R）
○ダニエル・ドーソン（4RKO勝ち）レイランド・マホーニー●

68.0kg契約（3分5R）
○宍戸大樹（5R判定）ブラッド"ドッジ"●

全日本キックボクシング連盟

KICK ENERGY

1月4日（土）東京・後楽園ホール

◆開場/17:00 試合開始18:30（17:00からフレッシュマンファイトあり）
◆入場料/RS席10,000円 S席7,000円 A席5,000円 B席3,000円 ※当日券は1,000円増し
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック
◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸の内線・南北線後楽園駅より徒歩3分
◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171 http://www.aj-kick.com

決定対戦カード

～5回戦～

〈全日本ライト級タイトルマッチ〉

林亜欧 vs 大月晴明
（S.V.G） （AJパブリックジム）

～日本・韓国国際戦～

清水貴彦 vs 朴載景
（超越塾） （韓国）

大月敦史 vs 任治彬
（藤原ジム） （韓国）

～サドンデスマッチ～

湟川満正 vs 藤牧孝仁
（AJパブリックジム） （はまっこムエタイジム）

〈全日本ウェルター級王座決定トーナメント準決勝〉

三上洋一郎 vs 小松隆也
（S.V.G.） （建武館）

箱崎浩康 vs 山内裕太郎
（TEAM-1） （AJパブリックジム）

女子大会（大会名未定）

1月26日（日）東京・北沢タウンホール

◆開場/16:00 試合開始/17:00 ◆入場料/RS席5,000円 S席3,000円 ※当日券は500円増し ◆チケット発売/1月5日（日） ◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、全日本キック ◆会場アクセス/小田急線・京王井の頭線下北沢駅南口より徒歩5分 ◆お問い合わせ/全日本キックボクシング連盟☎03-3365-1171 http://www.aj-kick.com

出場予定選手

WINDY智美（作真会館）

彩丘亜沙子（S.V.G）

ジェット・イズミ（アクティブJ）

ASAMI（士心館）

渡辺亜矢子（勇心館）他

SMACK GIRL

JAPAN CUP 2002 GRAND FINAL～THE Last Performance of 2002～

12月29日（日）TOKYO FMホール

◆開場/15:30 試合開始/16:30
◆入場料/SRS席10,000円（最前列のみ、前大会オリジナルビデオ付） SS席5,000円 指定席3,000円 ※当日券の発売は15時から
◆チケット発売/発売中
◆チケット購入方法/インターネットで発売中。方法は以下の2通り。1.スマックガール公式サイトから「NTT BROBA」に加入、チケットセンターから注文。2.スマックガールのメールマガジン（無料）上で毎回案内されるチケット情報から注文。
◆会場アクセス/営団地下鉄半蔵門線半蔵門駅から徒歩3分
◆お問い合わせ/スマックガール実行委員会☎03-5545-4766

決定対戦カード

〈SGSミドル級トーナメント決勝戦〉

辻結花 vs 金子真理
（闇愚羅） （禅道会）

〈SGSライト級トーナメント決勝戦〉

しなしさとこ vs 渡邊久江
（GIRL FIGHT AACC） （LIMIT）

久保田有希 vs 玉井敬子
（荒武者総合格闘術） （三晴塾）

〈SGSミドル級1DAYトーナメント〉

参加選手：真武和恵（和術慧舟會東京本部）
大門まいこ（闇愚羅）
SAYAKA（GIRL FIGHT AACC）
三宮亜基子（ALIVE）

亜利弥 vs 金井広美
（フリー） （GF2）

坂口一美 vs EIKA
（GF2） （拳士館）

U-STYLE

PRO WRESTLING U-STYLE旗揚げ興行

2月15日（土）ディファ有明

◆開場/18:00 試合開始/19:00
◆入場料/VIP（最前列・パーティー付）20,000円 SRS席7,000円 アリーナA席5,000円 アリーナB席4,000円 ※全席種、当日券は500円増し
◆チケット発売/一般発売12月29日（日）
◆チケット発売所/チケットぴあ、CNプレイガイド、ローソンチケット、eプラス、BATTLE PLACE☎03-3881-7770、格闘技プロショップ東京イサミ、フィットネスショップ水道橋、大山アメリカン、TOKYO文庫タワー、書泉ブックマート、ビデオショップチャンピオン、レッスル渋谷、レッスル池袋、プロレスマニア館、後楽園ホール、ファイター、デポマート☎03-3515-6507、チケット&トラベルT-1☎03-5275-2778、U-FILE CAMP（インターネットのみ）http://www.u-filecamp.com、DEEP2001事務局☎052-339-0303
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/DEEP2001事務局☎052-339-0303

新日本キックボクシング協会

DOWN BY LOW
1月26日（日）東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:00　◆入場料/SRS席20,000円　RS席15,000円　S席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見4,000円（当日のみ）　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、後楽園ホール、治政館ジム☎048-953-1880　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸の内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/治政館ジム☎048-953-1880　公式ホームページ　http://www.jiseikan.com/

決定対戦カード

武田幸三 vs チャオワリット・ジョッキージム
（治政館）（タイ）

〈日本ミドル級タイトルマッチ〉

松本哉朗 vs 頼信
（藤本）（トーエル）

〈日本ウェルター級タイトルマッチ〉

北沢勝 vs 庵谷鷹志
（藤本）（伊原）

深津飛成 vs 全聖拝
（伊原）（韓国）

菊地剛介 vs 酋先夏
（伊原）（韓国）

米田克盛 vs ブーヌン・サックホームシン
（トーエル）（タイ）

中川タカシ vs 朴龍
（トーエル）（韓国）

小川和宏 vs ヨードペット・チューワッタナ
（治政館）（タイ）

FIRECEL BATTLE～激戦～
2月16日（日）東京・ディファ有明

◆開場/15:30　試合開始/16:00　◆入場料/RS席10,000円　A席7,000円　B席5,000円　立見4,000円（当日のみ）　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/藤本ジム、トーエルジム、尚武会、協会各ジム　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分　◆お問い合わせ/藤本ジム☎03-3493-5988、トーエルジム☎045-590-3942、尚武会☎0426-51-5184

決定対戦カード

石井宏樹 vs ジャッカル黒石
（藤本）（治政館）

マサル vs 兼子忠司
（トーエル）（伊原）

風神和昌 vs 葵真吾
（野本）（トーエル）

鈴木敦 vs 白熊市原
（尚武会）（市原）

ホカトモヒロ vs ケイゾー松葉
（治政館）（藤本）

2003年度年間興行予定

3月23日（日）東京・後楽園ホール
◆主催/伊原道場

4月20日（日）千葉・市原臨海体育館
◆主催/市原ジム

5月18日（日）東京・後楽園ホール
◆主催/治政館

6月29日（日）東京・ディファ有明
◆主催/尚武会

7月26日（土）東京・後楽園ホール
◆主催/伊原道場

8月10日（日）神奈川・トーエル横浜
◆主催/トーエルジム

9月7日（日）東京・ディファ有明
◆主催/治政館ジム

10月12日（日）東京・後楽園ホール
◆主催/伊原道場

11月未定

12月14日（日）東京・後楽園ホール
◆主催/藤本ジム

※4月、6月、8月、11月の興行日及びラジャ興行は仮予定

▲武田幸三　▲石井宏樹

▲石毛慎也　▲AVIS-03

MA日本キックボクシング連盟

EXPLOSION 1
1月25日（土）東京・ディファ有明

◆ヤングファイト開始/17:00　試合開始/18:30　◆入場料/VIP席12,000円　SRS席10,000円　指定A席8,000円　指定B席5,000円　立見3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ　◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分　◆お問い合わせ/士道館☎042-942-3721

決定対戦カード

〈MAミドル級王座決定戦〉

マグナム酒井 vs X
（士道館）

～サムライルール～

佐藤堅一 vs X
（士道館）

水町浩 vs 中村玄志
（村上塾）（山木）

山田健博 vs カズ工藤
（東金）（新座）

ニュージャパンキックボクシング連盟

VORTEX I ～旋風～
1月19日（日）東京・後楽園ホール

◆開場/16:45　試合開始/17:00　◆入場料/SRS席12,000円　RS席10,000円　特別指定席7,000円　指定A席5,000円　指定B席4,000円　指定C席3,000円　当日立見3,000円　◆チケット発売/発売中　◆チケット発売所/チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、ニュージャパンキックボクシング連盟事務局　◆会場アクセス/JR総武線・都営三田線水道橋駅より徒歩3分、地下鉄丸の内線・南北線後楽園駅より徒歩3分　◆お問い合わせ/ニュージャパンキックボクシング連盟事務局☎03-5625-2371

決定対戦カード

～5回戦～

ヨーディチャー vs 石毛慎也
（タイ）（東京北星）

桜井洋平 vs 孫悟空丸山
（岩瀬）（小国）

サガットペット・ソォー・サクンパン vs AVIS-03
（タイ）（小国）

ポーラード・ノイ・トォーセンティアンノイ vs 佐藤友則
（タイ）（小国）

藤原国崇 vs 吉田洸輝
（拳之会）（八王子FSG）

増倉敦士 vs 真二
（一心館）（小国）

安田和伸 vs 河原塚武
（岩瀬）（ウィラサクレック）

アマチュア

アマチュア修斗

Woman's Fighting Competition Project-A.02

1月13日（月・祝）東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F・第1武道場

◆試合開始/10:30 ◆会場アクセス/地下鉄銀座線・都営浅草線・東武伊勢崎線浅草駅より徒歩10分、都バス「東42甲」系統「南千住・東京八重洲口」行きに乗車、「浅草7丁目」下車・徒歩5分、都バス「東42乙」系統「南千住・浅草雷門」行きに乗車、「リバーサイドスポーツセンター」下車、※駐車場なし。車での来場は厳禁。 ◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

北九州フリーファイト＆B.J.J.JAM 3

1月19日（日）福岡・遠賀町武道館 第1武道場

◆試合開始/12:00
◆会場アクセス/JR遠賀河駅より徒歩10分。遠賀町役場隣
※ただいま大会出場者大募集！ 詳しくは下記まで
◆お問い合わせ/パレストラ九州（後藤）☎090-9405-7168、パレストラ東京☎03-5984-3209

広島フリーファイト＆B.J.J.JAM 4

2月16日（日）広島・安佐南区スポーツセンター 柔道場

◆試合開始/12:00 ◆会場アクセス/アストムライン伴駅より徒歩7分、バス：広陵学園入口停留所より徒歩10分
※ただいま大会出場者大募集！ 詳しくは下記まで ◆お問い合わせ/パレストラ広島（藤田）☎090-3372-0747、パレストラ東京☎03-5984-3209

パレストラ

第5回全日本チーム柔術ジャンボリー

1月26日（日）東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F・第1武道場

◆試合開始/10:30 ◆会場アクセス/地下鉄銀座線・都営浅草線・東武伊勢崎線浅草駅より徒歩10分、都バス「東42甲」系統「南千住・東京八重洲口」行きに乗車、「浅草7丁目」下車・徒歩5分、都バス「東42乙」系統「南千住・浅草雷門」行きに乗車、「リバーサイドスポーツセンター」下車、※駐車場なし。車での来場は厳禁。
※ただいま出場チーム大募集！ 詳しくは下記まで ◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209

バトラーツ

グラップリング-B vol.16

1月13日（月・祝） 埼玉・B-CLUB

◆試合開始/14:15
◆会場アクセス/東武伊勢崎線越谷駅西口より徒歩30秒、※駐車場なし。車での来場は厳禁。
◆お問い合わせ/バトラーツジム「B-CLUB」☎0489-63-7515

IF-PROJECT

第2回プロフェッショナル柔術リーグ GROUND IMPACT2～G1 02～

2月11日（祝・火） 東京・ディファ有明

◆開場/15:00 試合開始/16:00
◆入場料/SRS席（限定Tシャツ、パンフ、首掛けチケット付）15,000円 ※チケットぴあでSRS席を購入した人は、当日会場にてお渡し。S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
◆チケット発売/発売中
◆チケット発売所/チケットぴあ、IF-PROJECT☎03-5945-7166、パレストラ東京☎03-5984-3209、または各連盟公認アカデミー
◆会場アクセス/新交通ゆりかもめ有明駅より徒歩10分、臨海副都心線国際展示場駅より徒歩5分、品川駅東口から都バスで有明テニスの森下車・徒歩3分
◆お問い合わせ/IF-PROJECT（SSS高島平ジム内）☎03-5945-7166

決定対戦カード

早川光由 vs レオナルド・ヴィエラ
（ストライブル） （ブラジル/アリアンシ）

中井祐樹 vs ブラジル黒帯選手
（パレストラ東京） （ブラジル/アリアンシ）

他、賞金総額100万円トーナメント

▲今年5月に行われた第1回大会では、ブラジリアン柔術界の頂点に君臨するレオナルド・ヴィエラ（通称レオジーニョ）が、日本の第一人者、中井祐樹から横紋めで一本を奪い、完勝を収めている

その他

U-FILE CAMP.com

U-FILE Ⅲ

2月2日（日） 東京・ゴールドジムサウス東京ANNEX

◆試合開始/15:00 ◆入場料/2,000円 ◆チケット購入方法/購入希望者は、1.大会日時と大会名 2.チケットの枚数 3.お名前 4.住所 5.電話番号を明記の上、メールアドレスmaeuri@u-filecamp.com まで送信。チケットは、代金引換（購入代金＋送料500円）にて送付。※チケットの枚数に関わらず、送料は500円 ◆会場アクセス/JR京浜東北線大森駅山王西口前 ◆お問い合わせ/U-FILE CAMP.com☎044-932-0282

決定対戦カード

〈初代Style-G重量級チャンピオン決定戦〉

上山龍紀 vs 長南亮
（U-FILE CAMP.com） （U-FILE CAMP.com）

Style-Gトーナメント（重・軽量級）

ワンマッチ数試合

空手

正道会館

第38回オープントーナメント 全日本新人戦空手道選手権大会

2月23日（日）大阪府立体育会館 地下2階 柔道場

◆開場/9:00 試合開始/10:00
◆入場料/無料
◆会場アクセス/地下鉄なんば駅5番出口より徒歩5分
◆お問い合わせ/正道会館 総本部☎06-6357-1654

主要チケット発売所一覧

チケットぴあ ☎03-5237-9999
ローソンチケット ☎03-3569-9900
CNプレイガイド ☎03-5802-9999
オデッセー ☎03-3408-0331
渋谷東急文化チケットセンター ☎03-3406-1513
レッスル渋谷店 ☎03-3464-0078
レッスル池袋店 ☎03-3989-0056
板橋大山アメリカン ☎03-3962-6443
チャンピオン ☎03-3221-6237
書泉ブックマート ☎03-3294-0011
フィットネスショップ水道橋 ☎03-3265-4646
後楽園ホール ☎03-5800-9999
e+（イープラス） http://eee.eplus.co.jp ☎03-5749-9911

プロ団体連絡リスト

K－1事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22S＆T神宮前ビル3F
☎03-3796-2977

修斗
※各興行のプロモーターに問い合わせ

ワールドパンクラスクリエイト
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25 2F
☎03-5792-0815

高田道場
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6ワールドパレス武蔵小山1F＆B1
☎03-5749-5030

UFO
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5OK白金台ビル7F
☎03-5447-2121

ドリームステージエンターテインメント
〒107-0052 港区赤坂8-5-4ルーメリ赤坂103
☎03-5775-5700

S.W.A 掣圏道・ワールド・アソシエーション
〒150-0021 東京都昭島市大神町1-2-22
☎042-544-6979

マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
〒155-0031 東京都世田谷区北沢2-6-5
☎03-3485-7060

全日本キックボクシング連盟
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-6-21
☎03-3365-1171

日本キックボクシング連盟
〒124-0023 東京都葛飾区東新小岩5-2-7江戸屋ビル4F
☎03-3691-4536

新日本キックボクシング協会
〒150-0034 東京都渋谷区代官山町7-8
☎03-3780-1350

ニュージャパンキックボクシング連盟
〒130-0022 東京都墨田区江東橋2-14-1サガノビル2F
☎03-5625-2371

J－NETWORK
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-12三元ビル5F
☎03-3419-0536

K－U（キック・ユニオン）
〒195-0834 東京都八王子市東浅川町8-1
☎0426-66-9541

シュートボクシング協会
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8ワコー花川戸ハイツ1・2F
☎03-3843-1212

極真会館総本部道場（松井派）
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-38-1
☎03-5992-9200

バックナンバー インフォメーション

《10・10 79号》
●完全速報/9・22 K-1 ANDY SPIRITS JAPAN GP決勝戦 大阪城ホール大会 K-1の侵略者、サップ大暴れ、JAPAN GP決勝戦は武蔵がジャパン王座奪回！
●特集/Dramatic! 吉田秀彦。インタビュー&証言/SRS・DXスカウト隊 第2の吉田秀彦を探せ！ 柔道界★井上康生インタビュー、相撲界★旭道山インタビュー、レスリング界★小林孝至インタビュー
●直前情報/10・5 K-1 WORLD GP 開幕戦、10・11 K-1 WORLD MAX 有明大会、9・29 PRIDE.22名古屋大会 全対戦カード&見どころ
●大会詳報/9・7 DEEP有明大会、9・16 修斗 横浜文体大会

《10・11 80号》
●完全速報/10・5 K-1 WORLD GP 2002 開幕戦 ボブ・サップがK-1を破壊！ スリータイムチャンピオン・ホーストに激勝！
●12・7 決勝大会抽選会&決勝進出選手コメント
●大会詳報/9・29 PRIDE.22名古屋大会、検証◎日本人全敗をどう思う？
●ビッグ対談/ボブ・サップvsターザン山本
●SRS・DXの注目！/『WRESTLE-1』発進！ 会見&座談会
●インタビュー/K-1ジャパン王者・武蔵が大宣言！
●大会レポート/9・29 パンクラス横浜大会、9・22 SB 後楽園大会

《11・14 81号》
●最新情報/11・24 PRIDE.23対戦カード最新情報
●ビッグ対談/高田延彦VSターザン山本
●緊急★大特集/ボブ・サップとは何か？ 全試合プレイバック、サップのボディ ほか
●大会詳報/10・11 K-1 WORLD MAX 2002
●インタビュー/K-1 WORLD GP決勝進出7選手に直撃！
●SRS・DXの注目！/アンドレイ・コピィロフVSターザン山本対談、極真カラテ全日本大会プレビュー、新連載/プロレス版・覆面座談会

《11・28 82号》
●直前情報/11・24 PRIDE.23 東京ドーム大会/ターザン山本の『UWF青春論』/金原弘光インタビュー、吉田秀彦×ターザン山本対談/ドン・フライインタビュー/全カード発表
●超！直前情報/11・17 WRESTLE-1 横浜アリーナ大会/武藤敬司&小島聡インタビュー
●ボブ・サップ特集第二弾・サップに直撃100の質問
●大会詳報/11・2〜3 極真カラテ全日本大会/数見肇が木山仁との頂上対決制す
●SRS・DXの注目！/11・30 パンクラス横浜大会プレビュー/鈴木みのるVSライガー・戦展望/菊田早苗&美濃輪育久インタビュー
●好評座談会/ターザン山本の愛と青春の旅立ち！？

《12・12 83号》
●完全速報/11・24 PRIDE.23 高田引退試合 高田vs田村戦に捧げる。ああ、我らが記憶の大河ドラマ、卒業！ 桜庭和志復帰戦、吉田秀彦vsドン・フライほか
●K-1 WORLD GP 決勝戦"技術論"予想
●11・17 WRESTLE-1 振り返り座談会&金沢"GK"克彦インタビュー、松村匠フジテレビプロデューサーインタビュー
●SRS・DXの注目/INOKI BOM-BA-YE最新情報、11・22 UFC40ティトvsシャムロック速報、11・30、12・8 DEEP情報
●11・15 修斗後楽園大会、11・17 大道塾、11・17 全日本キック

《12・26&1・9 合併号 84号》
●完全速報/12・7 K-1 WORLD GP 2002 決勝大会 ボブ・サップVSアーネスト・ホースト、決勝戦アーネスト・ホーストVSジェロム・レ・バンナほか全試合完全レポート
●12・31『イノキ・ボンバイエ 2002』最新情報！
●インタビュー/本誌選定裏MVP 田村潔司
●2002年度マット界大総括座談会/輝け！ 2002年度SRS・DX大賞
●緊急特集/空手界に激震！ 数見肇、極真を脱会！
●大会詳報/11・30 パンクラス横浜大会 鈴木みのるVS獣神サンダー・ライガー、11・22 UFC40 ティトVSケン・シャムロック、12・1 新日本キック Fight to Muay-Thai 2002

NEXT ISSUE 次号予告

2003年の一発目だ、コノヤローッ！今年も新春からガンガンいくぞ〜っ！

新年第1号は1月9日㊍発売！

完全速報

12・31 イノキ・ボンバイエ2002

ボブ・サップVS高山善廣、吉田秀彦VS佐竹雅昭、藤田和之VSミルコ・クロコップ
年末恒例の大イベントの一部始終を完全レポート！

新春企画もてんこ盛りモリ！
どんな内容かって……、
それは見てのお楽しみな〜のだぁ！

2003 1/23
No.86 新春号
SRS・DX スペシャル・リング・サイド

1・19 WRESTLE-1 東京ドーム大会情報

毎月第2・第4木曜日発売 定価680円(税込) 発行・発売/(株)扶桑社 編集/(株)ローデス

浅草キッドの底抜けアントンハイセル

◎浅草キッドHP『キッドリターン』
http://www.asakusakid.com

巨人もビートルズも超えた！ K—1GP決勝大会総括!!

博士　さあ今回はグランプリ決勝大会大総括だ！　東京ドームに75000人集めたのが凄かった！
玉袋　まさか、千葉茂さんの葬儀にこれだけの人が集まるとは。
博士　千葉茂さんも、巨人戦以上にドームに人が集まって天国で悔しがってるよ！　チケットは完売状態で当日券は一切なし！
玉袋　知り合いのダフ屋の大将が今回ばかりは泣いてましたよ！
博士　手元に入らないから「チケットに羽が生えている」って言ってたよ！
玉袋　『LEGEND』の時は余ったチケット持って「こんなにチケットあったら山羊でも食いきれないよ」って言ってたぐらいですからね。
博士　今回の大会はある意味リアルレジェンドとなった大会だ！　それとK—1誕生10周年のメモリアル大会だからな。
玉袋　視聴率も凄いことになりましたよ！
博士　28・4%
玉袋　景気がいい数字ですよ！
博士　フジテレビの数字としては史上最高で瞬間最大視聴率は33%！
玉袋　不景気日本の失業率をはるかに超えましたよ！
博士　なんの数字と比べてるんだよ！　これもボブ・サップ効果が多大にあるだろうな。
玉袋　裏番組の『電波少年に毛が生えた』の毛をむしり取りましたよ！
博士　その毛がサップの背に生えているって噂もあるぞ！　しかし今年の巨人戦の平均視聴率でも16%だったから完全に抜いたかもしれないぞ！　これでK—1は国民的スポーツとなったことを立証したな。
玉袋　K—1のKは空手・キック・カンフーのKでしたけど、今後は「国民スポーツ」のKでもあるんですよ!!
博士　ウンウン。
玉袋　そして今回さらに国税局のKも加わったわけです！
博士　やかましい！　それについては後で触れるよ！　しかし、サップVSホーストのリマッチは凄かったな。
玉袋　ちょっと前のポール・マッカートニー東京ドーム公演でもこの試合の興奮を超えられないですよ！
博士　すでにビーストがビートルズ超えを果たしたってことか！　でも、マイケル・バッファーが2人をコールして、あの豪華なゴージャスな雰囲気だろ！　あれだけの演出するプロスポーツはK—1だけだよ！　1Rホーストのボディでサップから初ダウンを奪ったシーンなんて凄かった！
玉袋　あれはホーストの投げた槍が見事に刺さり、巨像を倒したグレート・ハンティングなシーンでしたよ！
博士　サップは弱点のボディに一撃を喰らい、悶絶して倒れ込んだ。
玉袋　屋台のうどん屋で、ジョーにボディを喰らって倒れ込むマンモス西を彷彿とさせたね。
博士　サップの鼻からうどんは出てなかっただろ！　立ち上がってからの残り1分20秒は、ハラハラドキドキ。
玉袋　今日こそはサップ終わりかと思いましたよ。
博士　しかしホースト攻め切れずゴング。2R、今度は逆に攻め続けるサップが、左フックを大きく空振りした直後、右フックでホーストを仕留めた！　でもサップのパンチはほぼラリアットだったな。
玉袋　リキラリアットよりも時代にど真ん中のサップラリアットでしたよ！
博士　だが、立ち上がったホーストも怒濤のラッシュ！　サップも相手の頭を抑えてパンチパンチ！
玉袋　『ロッキー』のあり得ない殴り合いを超えてたよ。
博士　そして2R残り15秒、ついにサップがホーストをコーナーに押し込んで、壮絶なパンチの雨あられ。角田さん、これでもかってぐらい首を振ってたなぁ〜。
玉袋　MLBが「角田信朗バブルヘッド人形」を作成中との噂もありますよ。
博士　そんな噂ないよ！　俺たちの後ろにいた立川談志師匠が「これがイリュージョンだよ!!」と興奮ぎみに話しかけてこられた。
玉袋　それはいいんですけど、「談志師匠よりなんでキッドが前に座ってんだ！」って百瀬さんをしくじっちゃったのは生きた心地しなかったですよ！
博士　怒って帰られちゃったからな。仕事でリングサイドに座ってただけなのにぃ〜〜〜。しかしホーストはこれでサップに2連敗だ！　でも試合後、サップは欠場となった。
玉袋　サップはドクターの死刑判決に薄笑いを浮かべたらしいですね。
博士　そりゃ死刑判決はカレー事件の林真須美だよ！
玉袋　リング上で下半身を露出したために2回戦欠場！
博士　だから、学園祭でチンポ出した極楽とんぼじゃないんだよ！　ケガしたの！
玉袋　そのサップに2連敗したホーストが最後は優勝しちゃうのが凄い展開でした！
博士　プロレス以上にプロレス的でドラマチックだったK—1だったよ。本当に神がかりの展開。
玉袋　選手も観客もK—1の神に翻弄されましたよ！
博士　その神の見えざる手に身を任せているのが、なんともいえないほど快感があった！
玉袋　誰からも優勝を期待されたバンナも翻弄されてますよ！
博士　まさかの骨折だもんな。これで年末の猪木祭り欠場が決定となった。
玉袋　代わりにジル・アーセンが安田とのリベンジマッチに挑むそうです。
博士　挑まないよ！　とにかくサップVSホーストの激闘が凄かったな！
玉袋　試合後、落ち着いたサップにインタビューをさせてもらったけど、実にいい笑顔でこちらのつたないインタビューに答えてくれたでしょ？
博士　なんか、本当におとぎ話に出てくる人と話してるみたいだったよ！
玉袋　なんていう素晴らしい男たちの集まりなんだ！
博士　試合後のホーストにもインタビューさせてもらったけど、控室で即傷口を縫ってもらって、ベルトを持ってにっこりしてくれた。なんかその姿が切なくてね！　もう、本当に素晴らしいチャンピオンだったよ！
玉袋　とにかく、こんなに喜怒哀楽を刺激するジャンルは格闘技しかない！　でも、揺さぶるのはこれだけじゃないんですよ！　場外では石井館長が脱税の容疑で在宅起訴されるとの報道があった。
博士　この一件でダイナミックなK—1が縮小してしまうかもしれないなんて嫌な噂も聞くんだけど……。
玉袋　ケチ臭い話じゃなくて、溢れるサービス精神ゆえに起きてしまった悲劇ですよ！
博士　でも次の日の新聞はスポーツ新聞はK—1が一面、一般紙には館長の記事が一面を飾った。
玉袋　なんというドラマチックな一日だったんだろう。
博士　でも、正道会館、K—1の10年を振り返った今大会の試合前の館長のリング上からの挨拶は見ていて唸ったよ！
玉袋　今こそSRS・DXはあの挨拶の全文を載せてほしいよ！
博士　荒唐無稽といわれた男の夢をやっと叶えた結果がこんな形になるなんて、なんという男節炸裂な『俺の空』の世界なんだろうか!!
玉袋　でも、この逆境からまた、一気にまくってくれるのが楽しみですよ！
博士　「石井館長、アントニオ猪木、百瀬博教」、この日本三大格闘技プロデューサーがいて、思いっ切りのサービス精神を放射してくれるからこそ不景気でこんなつまらない毎日を吹き飛ばしてくれたんだよ！
玉袋　この三つの巨星が互いの引力で引き合うからこそ、格闘技は翻弄され、とんでもないイレギュラーを起こしビッグバンする！　だから一つでも欠けてほしくないのが俺たちの心情だ！
玉袋　嫌なムードも一発で吹き飛ばしましょう！
博士　モヤモヤ吹っ飛ばす例のやついきますか〜!!
玉袋　せーの、ウ〜ン、ダイナ・マイクタイソン！
博士　だからタイソンはやめろ！　いくぞ！
キッド　1・2・3・ダァーッ！　ウ〜ン Dynamite！ ■

PROFESSIONAL SHOOTO

12.14★東京ベイNKホール

王者・五味、気魄勝ち!!

1年半越しの"因縁対決"遂に完全決着！三島、完敗にも爽やかな笑顔

恒例の修斗NK大会に異変!? 好試合連続も寂しい客入り

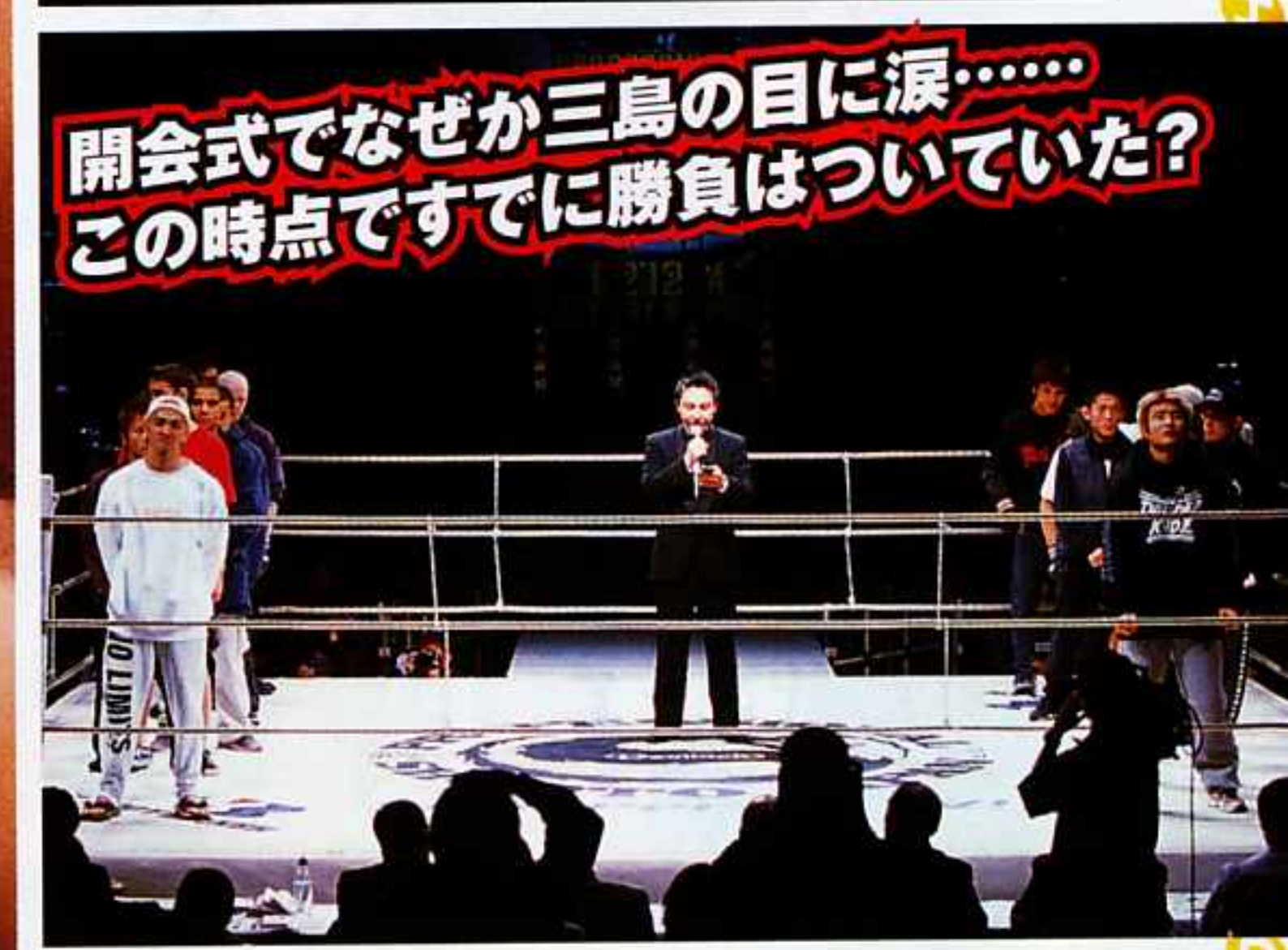
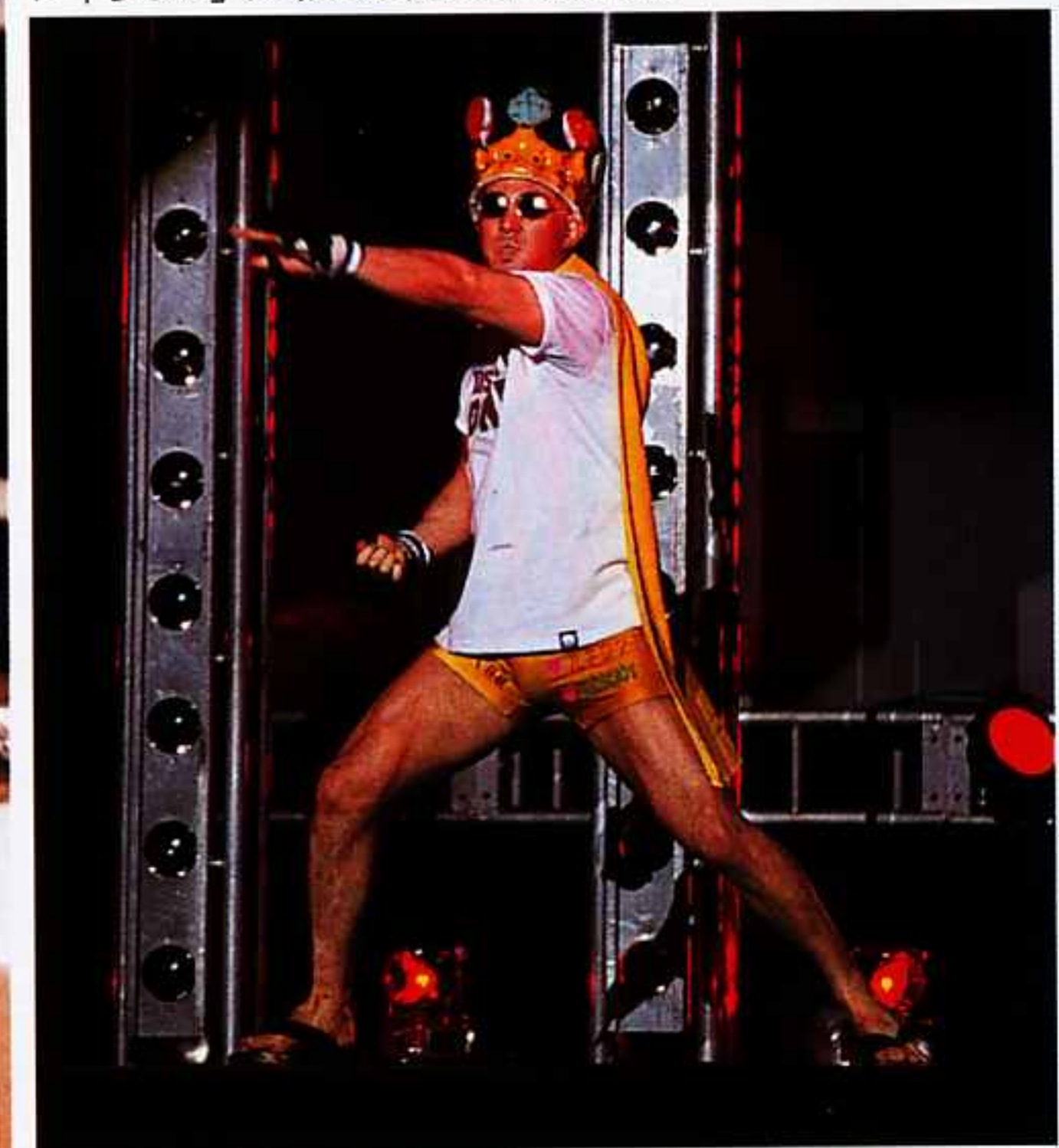
闘うたびに強くなっている王者・五味
苦戦予想を粉砕！

フィニッシュシーン。右フックでダウンし、ダメージが残る三島を一気に追い込んだ五味は、グラウンドでパンチを連打。まもなくレフェリーが試合をストップしたが、三島はほとんど失神状態だった

★第7試合・メインイベント/ウェルター級チャンピオンシップ（5分3R）
○五味隆典（2R0分52秒、レフェリーストップ）三島☆ド根性ノ助●
＜日本／木口道場レスリング教室＞　＜日本／総合格闘技道場コブラ会＞
※2R、三島に右フックによるダウン1あり。グラウンドでのパンチ連打

▶「数少ない格闘家の友達」の須藤元気が考えた演出で入場してきた五味。「お～っ」と会場はどよめいた

▼一方の三島は、王様風のコミカルなコスチュームで入場。実に「らしい」入場で会場の笑いを誘った

開会式でなぜか三島の目に涙……
この時点ですでに勝負はついていた？

▲開会式での三島の顔はなぜか涙顔。「声援を聞いたら涙が止まらなくなってしまった」と試合後に語ったが、この時点ですでに勝負はついていたのかもしれない

正直に言って、今年のNK大会は客入りが良くなかった。例年なら、開場前からグッズ売場に人が連なり、場内には熱気がこだましているのに、今年は、これが年末恒例の修斗NK大会なのだろうか、と思うほどだった。原因はいろいろとあるのだろうが、やはり一番は、カリスマの不在だろう。

今大会、今まで修斗を引っ張ってきた佐藤ルミナはテレビの解説のため放送席にいた。そして、もう一人のエースである桜井〝マッハ〟速人は、出場してはいたものの、まるで精気の抜かれた〝抜け殻〟のような感じだったと言ったら言い過ぎだろうか。結局、会場を沸かせたのは入場と1R前半だけで、あとは場内にフラストレーションを溜めさせただけだった。

そんな中、日本人で一人気を吐いたのが、昨年のNK大会でルミナを破りウェルター級王者になって以来、ひたすら負けなしで走り続けている五味隆典だった。タイトルを賭けた防衛戦は、今回が初めてながら、今年は、世界屈指の柔術家レオナルド・サントスやクリス・ブレナンといった強敵を、修斗王者として退けてきた。

王者として、負けることのできない試合は、決して楽ではなかったはずだが、それでも確実に結果を残してきた。それは、昨年8月に流れてしまった三島☆ド根性ノ助との対決を、この日、NKホールで〝完結〟させるためのプロローグだったのかもしれない。

対する三島もこの1年半、見事なまでに勝ち続けた。修斗のリングのみならず、『DEEP』などの外のリングでも、名だたる強豪を相手に強さを見せつけ、この日の〝因縁の対決〟を迎えたのだった。

PROFESSIONAL SHOOTO

12.14★東京ベイNKホール

1R終盤は三島ペース

五味のコメント

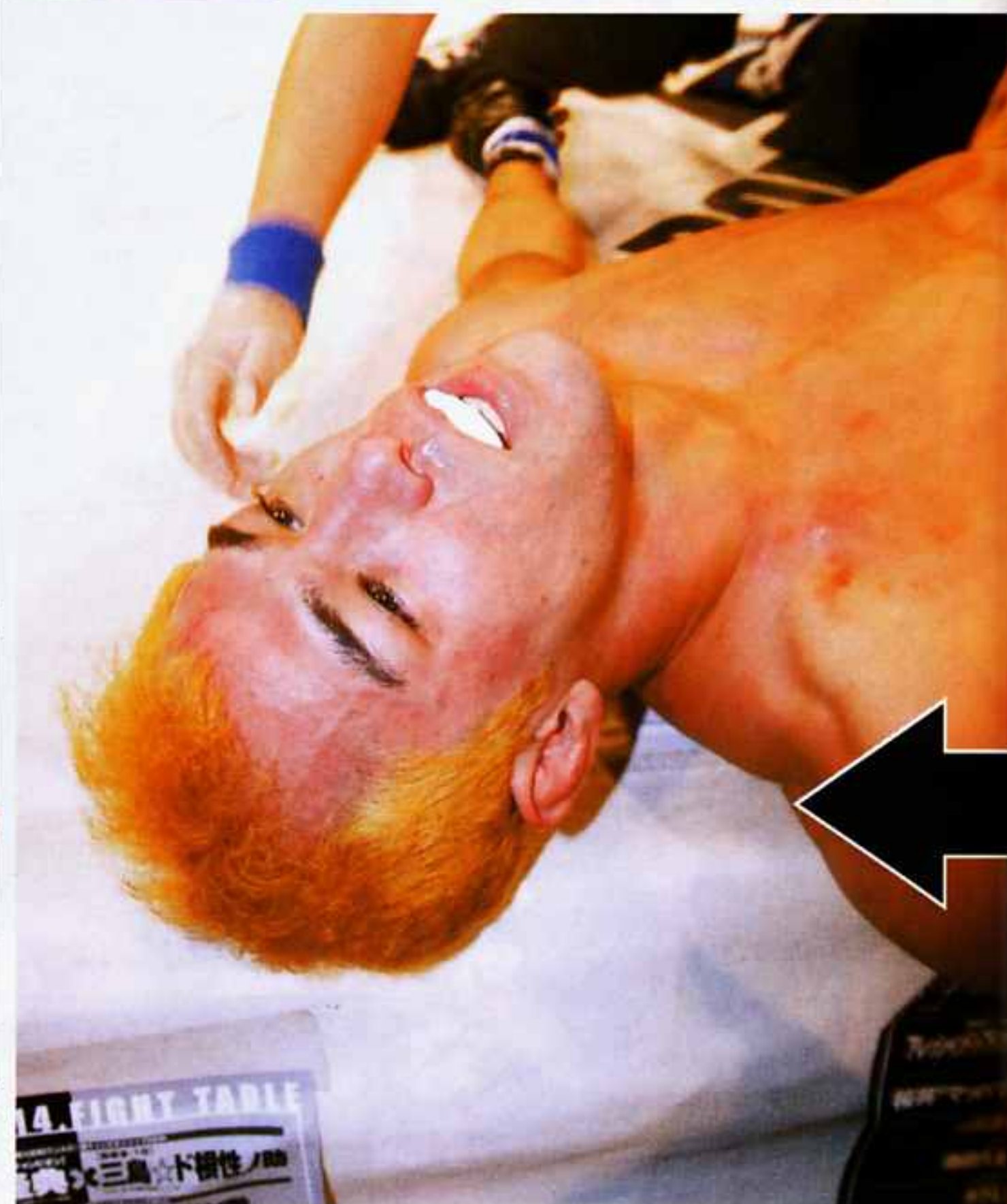
「最高ですね。1年半なんてあっと言う間でした。これで、まだ日本人とやれなんて言われないでしょう。試合前はいろいろ言われていたけど、やる時はやるんですから（笑）。1Rはちょっと危なかったです。グラウンドパンチは結構効きました。KO勝ちは久しぶり、気分いいっすね。（次はUFC？）出たいっすねぇ」

三島のコメント

「負けたけど、気持ちいいです。（五味戦ドタキャンからの）1年半、凄いプレッシャーがありました。結果はとにかく、試合できたことが嬉しい。メインでやらせてもらって感謝してます。悔しいよりしゃあないなって感じです。チャンピオンになる目標は捨てたんで、これからは試合を楽しみたい。呼んでくれるところに行きます」

▶右のアッパーを放った三島のアゴを、五味のカウンターの右フックが完璧に捕らえる。五味は前のめりに倒れていった

▲▼1R序盤から打撃で攻め込まれていた三島だったが、テイクダウンに成功してハーフの状態からパンチを見舞っていく。五味は鼻から出血

▶防衛を果たした五味の腰には再度ベルトが巻かれる。三島は背を向けて悔しそうな表情を浮かべていた

に強さを見せつけ、この日の〝因縁の対決〟を迎えたのだった。

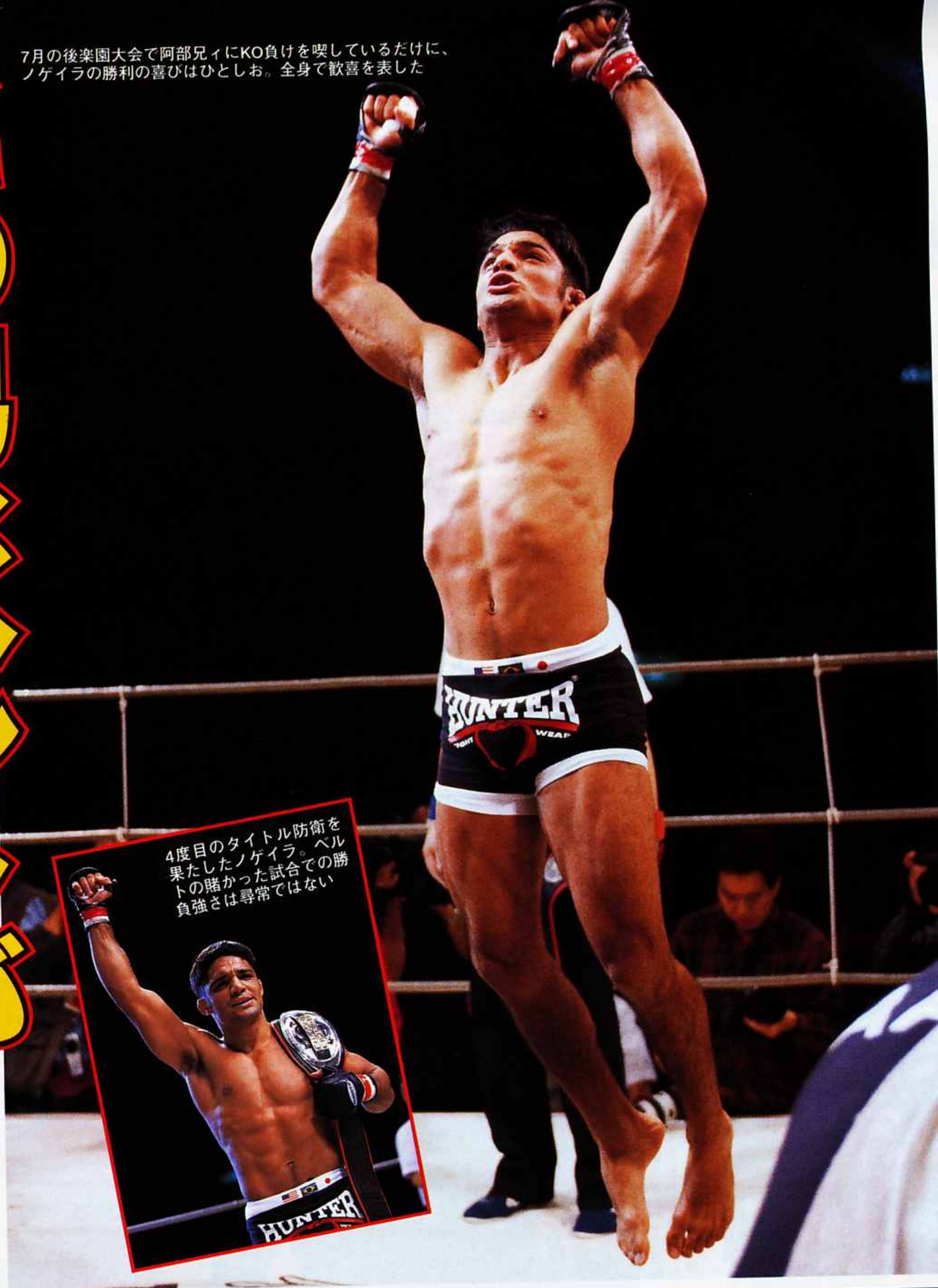
開始前から、五味の気魄は全身から溢れ出していた。判定で勝つことなんて、これっぽっちも考えていない。完全決着、KO決着だけを狙っているのは明らかで、開始早々から挑戦者を追い回した。気後れして後退する三島、モチベーションの差は火を見るより明らかだった。

この日の三島からは、気迫が感じられなかった。それどころか、開会式では涙を流し、試合前も国歌を聞きながら目を真っ赤にしていた。理由は「みんなが待ち望んでいてくれたのが嬉しくて、声援を聞いたら涙が止まらなくなった」と試合後に打ち明けたが、三島はよりによって、この大一番を前にすっかりセンチメンタルになってしまっていたのだ。そんな状態で勝てるわけがない。三島の、三十路の純情についてとやかく言うつもりはない。昨年8月の対五味戦をケガでドタキャンしたことに対する心の痛みから解放された安心感もあったのだろう。しかし、いちファンとするならば、精神的にも肉体的にも万全の状態で、最高の試合を見せてもらいたかった。三島はこの日、負けるために試合をしていたとしか思えないのだ。五味の勝利をくさすつもりは毛頭ないし、五味は王者として、心・技・体、全てにおいて挑戦者を圧倒したことに間違いない。

王座に就いて1年、五味はますます進化している。来年こそは念願の『UFC』で結果を出し、修斗王者としての〝カリスマ性〟を身に付けてほしい。（林）

ノゲイラ、リベンジ&タイトル防衛!!

この男、ベルトが賭かるとメチャ強い!

7月の後楽園大会で阿部兄ィにKO負けを喫しているだけに、ノゲイラの勝利の喜びはひとしお。全身で歓喜を表した

4度目のタイトル防衛を果たしたノゲイラ。ベルトの賭かった試合での勝負強さは尋常ではない

★第6試合・セミファイナル/ライト級チャンピオンシップ(5分3R)

○アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ(1R3分53秒、チョークスリーパー)阿部裕幸●

<ブラジル/ワールド・ファイト・センター>　<日本/AACC>

※ノゲイラに右フックによるダウン1あり

やっぱり、ベルトが賭かった時の、ノゲイラは強かった! ただこの一言に尽きる。これで早くも4度目のタイトル防衛だ。

ノゲイラVS阿部戦は、2度目の闘い。初顔合わせとなった今年7月19日の対戦では、ノンタイトル戦ではあったが、阿部兄ィが王者ノゲイラに左フックでKO勝ちしている。試合後、ノゲイラは「ベルトを賭けてもう一度闘いたい」と阿部兄ィへの再戦を要求。NKという最高の舞台で、満を持してのリマッチとなったのである。

前回の阿部戦は、ノゲイラにとって、修斗10戦目にして初のKO負け。これは王者としてのプライドが人一倍強いノゲイラにとって、屈辱以外の何ものでもなかったのではないだろうか。阿部へのリベンジに燃え、「アベは打撃が強い。でも、今回の私はスタンドでも勝負できるように厳しいトレーニングを積んできている。それに、前回とは違い、ベストのコンディションだ」と、自信をみなぎらせていたが、そんな言葉からもノゲイラの、この一戦、ベルトを守ることに対するモチベーションの高さがはっきりとうかがえた。

試合は、スタンドでの牽制的なパンチの交換から始まった。ノゲイラもしっかりと練習を積んできたと言うだけあって、すぐにはグラウンドへ持ち込もうとはしない。打撃で応じる構えだ。しかし、開始間もなく、阿部兄ィのカウンターぎみの右フックがヒットし、ノゲイラがヒザから落ちる。

「ダウン!」

ガ然、盛り上がる会場。人気者の阿部兄ィに、ここぞとばかり大声援が飛ぶ。

7月の再現!?

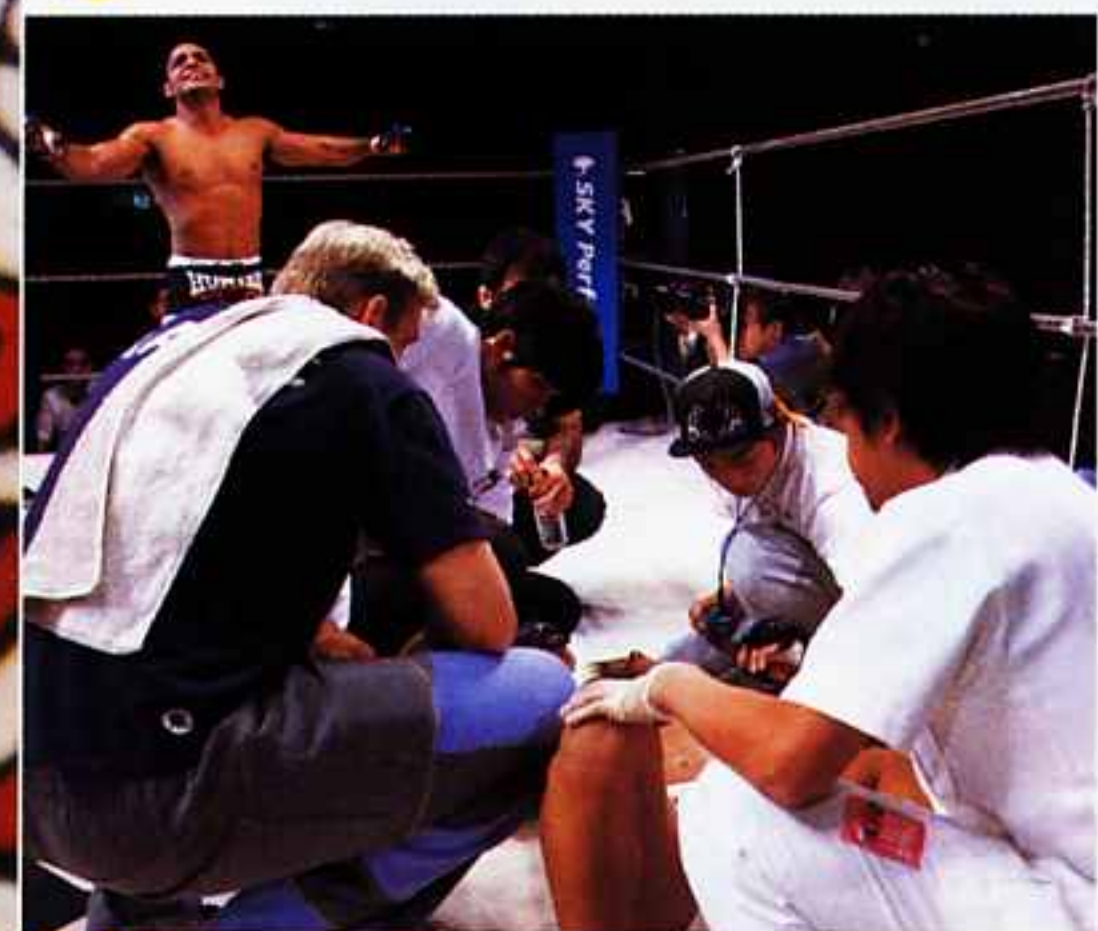
PROFESSIONAL SHOOTO

12.14★東京ベイNKホール

ノゲイラのコメント

「アベは前回よりもさらに強くなっていた。前回負けた時は直前にヒザの靱帯を傷めたこともあったんだけど、今回はベストコンディションで臨めたのが一番の勝因だと思う。今回は、防衛し続けることの難しさをつくづく感じたよ。相手は誰でもいい。これからも防衛し続けて、オレが修斗の世界王者だともっと世界に知らしめたいね」

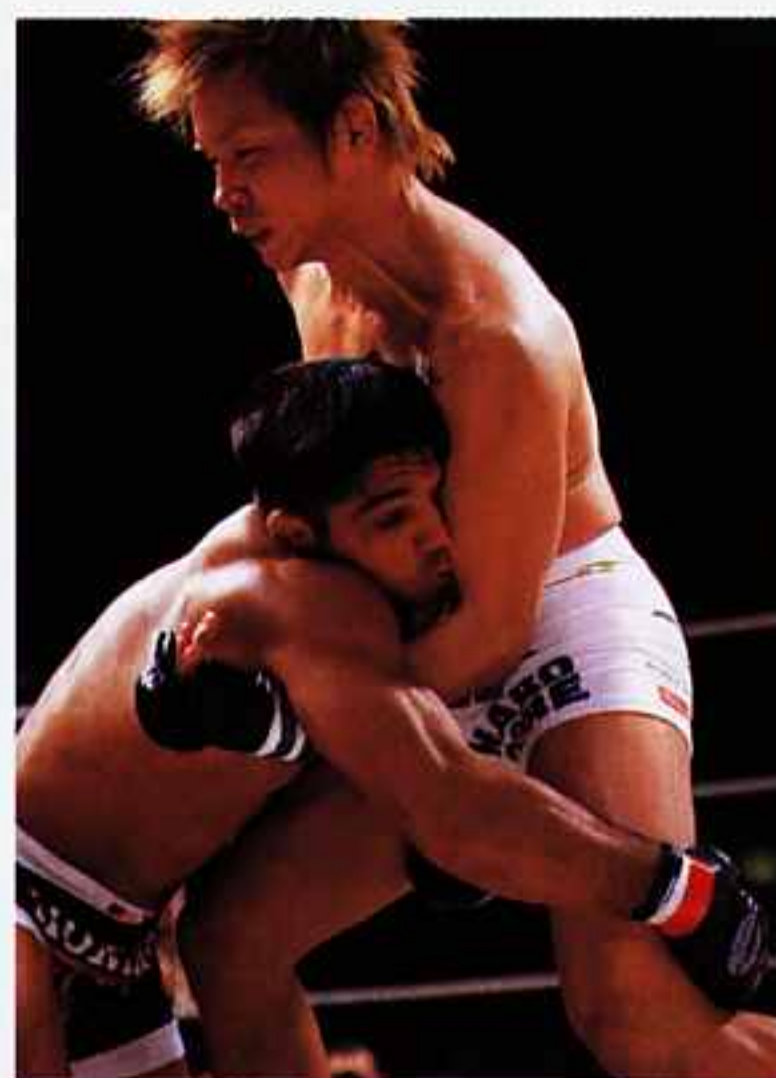
阿部兄ィのコメント

「（ダウンを奪った）パンチは、感触はありました。もちろん、打撃で勝負しようと思っていました。ベルト賭かっている賭かっていないは別として、NKで闘いたかったので、それは嬉しかったですけど、正直もう一度、ノゲイラに勝ちたかったなと。ノゲイラとは1勝1敗のタイですから、もう1回やらしてほしいですけどね」

▶スタンド勝負を嫌ったノゲイラは強烈なタックルで阿部兄ィを押し込む。阿部兄ィは落ち着いて対処していた

▶テイクダウンされた後も、阿部兄ィは下から三角を狙ったり王者にヒケを取らない巧みなグラウンドの技術を見せた

▶立ち上がったノゲイラから阿部兄ィの足のクラッチがはずれた瞬間、ノゲイラはものの凄いスピードでバックを取るや完璧なチョークを極める。必死に手を外そうとする阿部兄ィが脱力するまでそんなに時間はかからなかった

◀横たわる阿部兄ィを、セコンドについたジョシュ・バーネットや宇野薫が心配そうに見つめる

阿部兄ィの右フックにノゲイラがダウン！7月の再現か⁉

▲最初にダウンを奪ったのは阿部兄ィ。打撃勝負にきたノゲイラのアゴを阿部兄ィのタイミングのいい右フックが捕らえると、ノゲイラはヒザからガクンと落ち、レフェリーがダウンを宣告。ダメージはそれほどなく、すぐにファイティングポーズをとった

凄すぎるノゲイラ！フロントチョークだけじゃない必殺の絞首刑！

援が飛ぶ。

7月の再現⁉

新王者の誕生か⁉

しかし、ノゲイラはそれほどダメージもない様子で、すぐに立ち上がった。

そして、ここからがノゲイラが「最強の王者」と称されるゆえんなのだろう。自らの危機をタックルで回避すると、耐える阿部兄ィを引き倒し、一気に形勢逆転。

さらに、インサイドガードの状態から立ち上がり、阿部兄ィの足のクラッチがはずれた一瞬のチャンスを逃さずに、バックを奪うや一気にチョークスリーパーで絞め上げたのだ。凄い、凄すぎる！

そのソツのない攻撃、目にも止まらぬ速さという形容は、こういう動作に使うのだろう。メモを取りながらとはいえ、目の前で一部始終を目撃していながら、モニターにリプレイ画像が映し出されるまで、何がどうなったのか分からなかったほどのスピードだった。

ガッチリと巻き付かれた腕を、なんとかほどこうと最後まで頑張った阿部兄ィだったが、まもなく全身から力が抜け、完全に落ちてしまった。

それにしても、ダウンを奪われながら、すぐにリカバリーできるノゲイラのハートの強さとスキルの高さは、ハンパじゃない。果たして、防衛記録はどこまで伸びるのか⁉ ファンとしては、当然、山本"キッド"徳郁との対戦が見たいところ。まずは、ノンタイトル戦。もしタイトル戦を、ノゲイラが要求するような展開となれば言うことなし。来年のNKは満杯間違いなしだ⁉

（林）

マッハ、1年ぶりの修斗マットも、あっという間の15分

やっちまった……

★第5試合/ミドル級（5分3R）
○ジェイク・シールズ（3R判定3-0）桜井"マッハ"速人●
<アメリカ／シーザー・グレイシー・アカデミー>　<日本／GUTSMAN・修斗道場>
※採点……30-28,30-28,30-28

シールズのコメント

「今日のために、とてもハードなトレーニングをしてきたから、それが証明できて良かったよ。サクライは、グッドファイターで自分のお気に入りの選手。（マッハは）1Rの動きは凄かったけど、パンチを打ち過ぎて疲れたんじゃないかな。彼のファイトスタイルを知っているだけに、まさかああいう闘い方で来るとは思ってもいなかったよ」

マッハのコメント

「動けなかったっすね。（それは腰の影響？）まあ、でもそんなこと言ってられないんでね。早い話、僕が弱いから、力がないからじゃないっすかね。パンフレットに『マッハはもう終わりだ』とか書いていたんで、怒ってやろうかと思ったんですけど、怒れないっすよ。もう最悪な動き。腰のせいにはしたくないですね。自分が決めたことだから」

▲1年ぶりに戻って来たホームリングに、マッハの顔も自然とほころぶ

下から三角を狙うマッハに対し、シールズはここからマッハを持ち上げ、2回マットに叩き落とす

この光景こそ、マッハの置かれた"今"を映す！

▲マッハを破り、大金星をゲットしたシールズ

わかっちゃいるけど、動けない！

▲この状況を打開しようとする積極性が、この日のマッハには……

▲1Rも残り1分を切って、マッハに絶好のチャンス。だがシールズは、マッハの後頭部に手を回し、マッハの体を前にずらすことで難を逃れた

けっして忘れることのできない、今年3月のUFC36、マット・ヒューズ戦での苦い思い出。そっとそれを胸にしまいこんで、桜井"マッハ"速人は、1年ぶりに"故郷"へ帰って来た。

この日の観客は、待ってましたとばかりに、大歓声でもって、マッハを温かく包みこんだ。

せめて、大事な息子が帰ってきた時ぐらいは、ウマイ物を食べさせたいというのが親心。しかし修斗側がこの日、マッハの目の前に用意したジェイク・シールズは、マッハの求める"ふるさとの味"だったのだろうか？

1R開始15秒、マッハが払い腰でシールズをぶん投げ、そこから簡単にマウントポジションを奪取。すぐさま"秒殺"という2文字が、筆者の頭をよぎったものだが、まさかそこから、ズルズルとフルラウンドまで行くとは……。

試合後、マッハはこう語った。

「歩いていれば、カネを拾うこともあるし、クソを踏むこともある。今日は、クソを踏んじゃったよ」

そう、マッハにとっては、シールズの存在は、食べ物どころか"クソ"そのものだったのだ！

だが、その"クソ"が、光り輝く"ゴールド"に生まれ変わろうと必死になって、マッハを食い尽くそうとしている。結果、マッハは、ものの見事に"食いもの"にされてしまった。

クソまみれになりながら、生き残ろうとするシールズ。それを見て、マッハが何も感じなかったとしたら、それはとても悲しいことなのだ。マッハよ！　頼むから本当の声を聞かせてくれ！　（佐藤）

「彼が新人王……。ふんっ、オレはシャオリンだ!」

▶今年の新人賞のMVPに輝いた川尻だったが、次から次に技を仕掛けてくるシャオリンの強さには防御が精一杯だった

▶下になっても完全に試合を支配していたシャオリン。腕がらみは完全に極まっていたが、川尻は根性で痛さに耐え抜いた

新人王・川尻のパワー、シャオリンのテクに歯が立たず

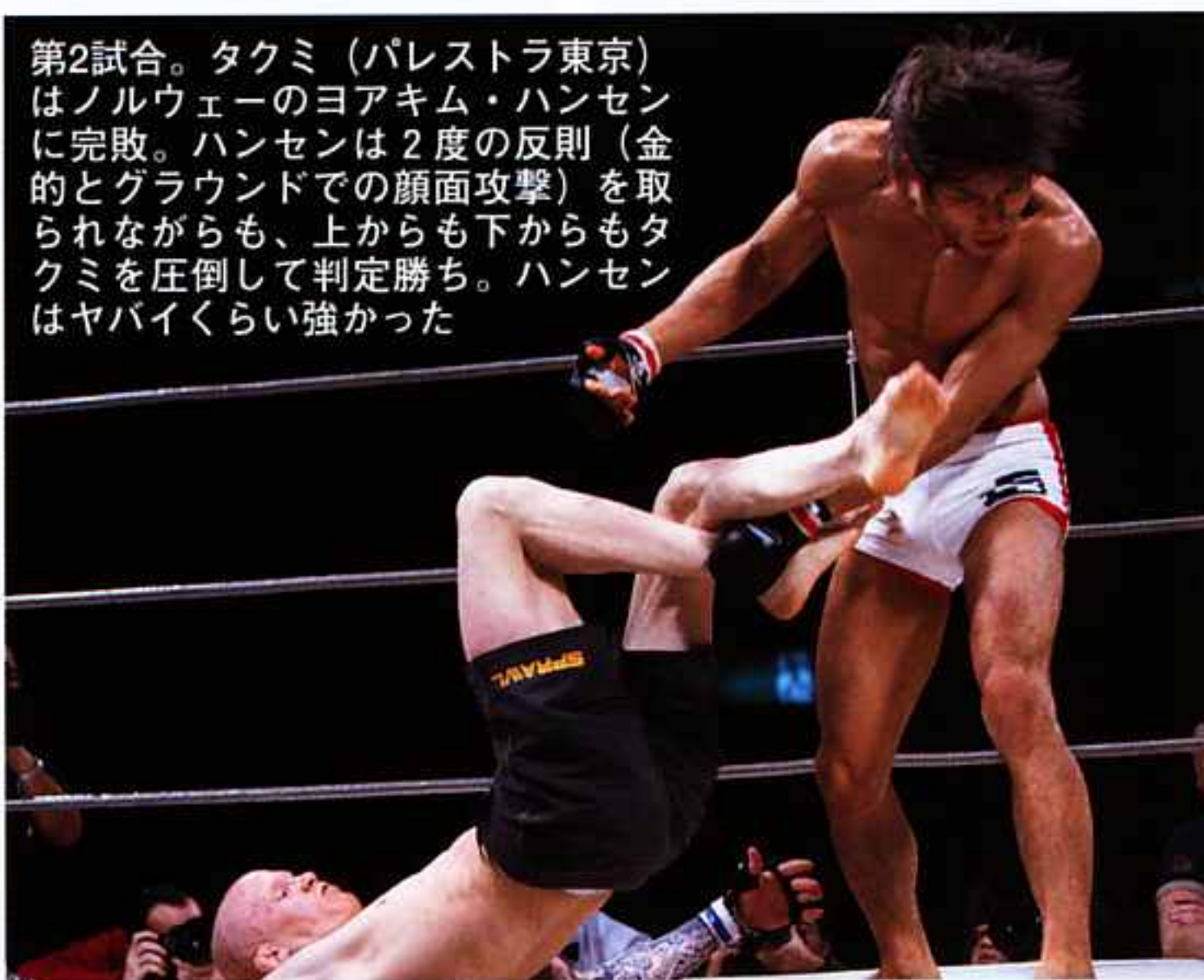
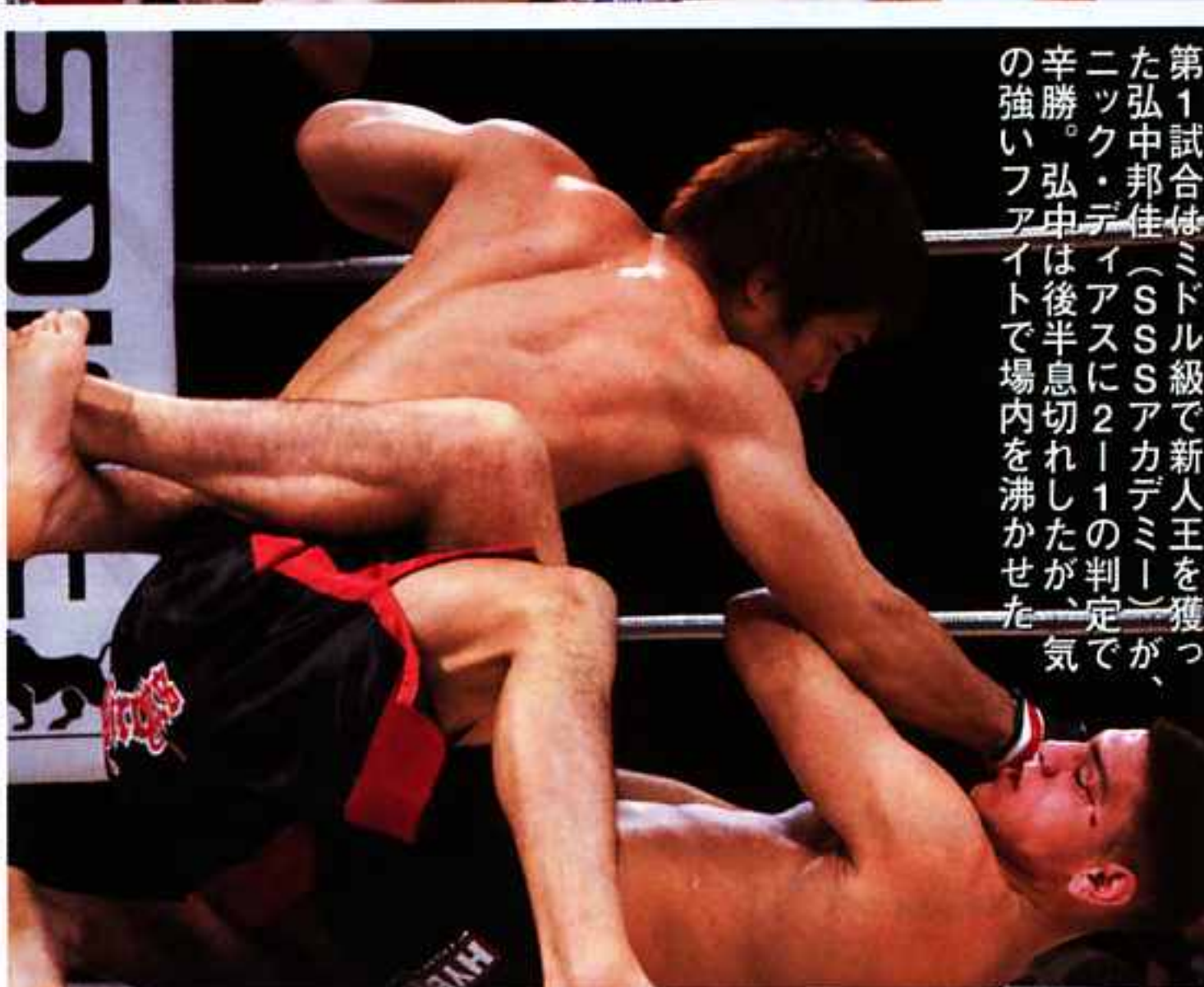
★第4試合/ウェルター級（5分3R）
○ビトー“シャオリン”ヒベイロ（3R判定3-0）川尻達也●
＜ブラジル／ノヴァ・ウニオン＞ ＜日本／総合格闘技TOPS＞
※採点……30-27、30-26、30-26

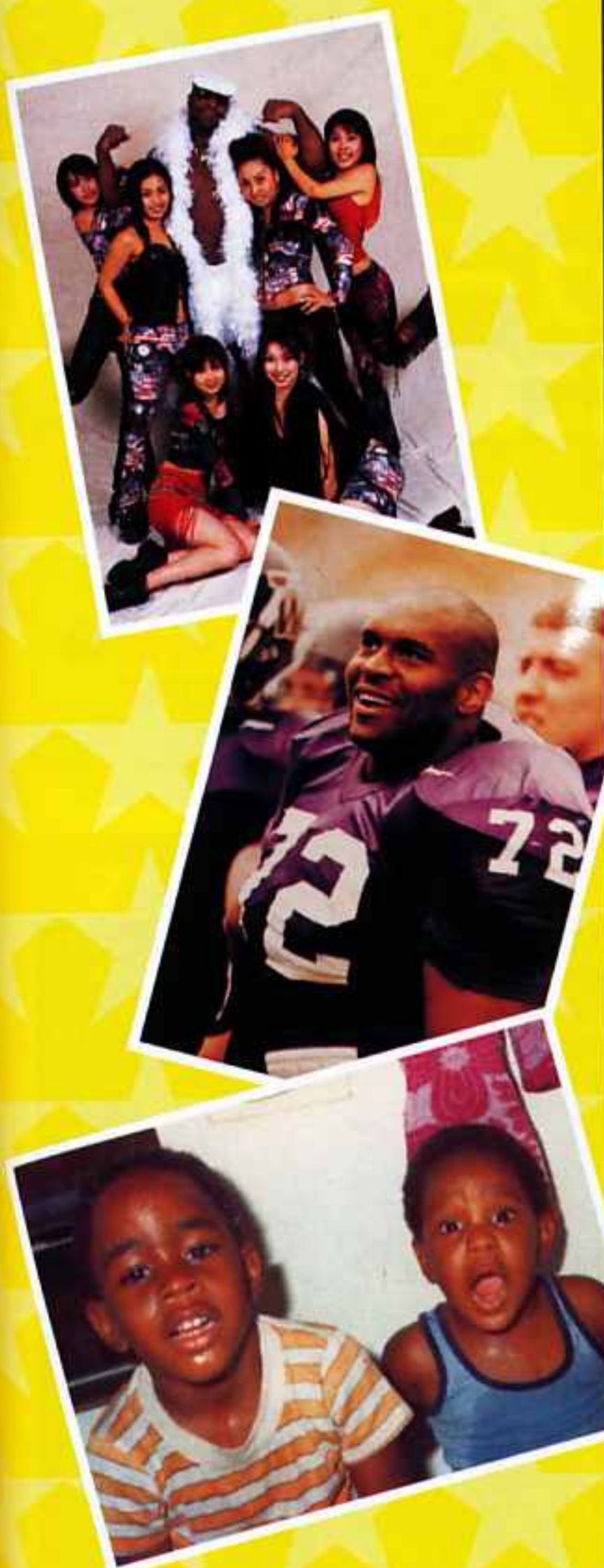
強いとは思っていたが、まさかこれほどまでとは……。ビトー・ヒベイロ、通称シャオリン。ブラジリアン柔術の世界では3強の一人と称されている存在。総合格闘技の経験はまだ5戦ながら全て圧勝で、早くも総合ファイターとしても最強の呼び声が上がっている。とは言え、まだまだキャリアは浅い。付け入るスキはあるはずだ。川尻は新人王トーナメントを圧倒的な内容で勝ち上がり、文句なしのMVPに輝いた、いわば日本のホープ。勝てないまでもいい線までできるのでは、と思われていた。ところが、フタを開けると力の差は歴然。川尻は得意とする上のポジションを取りながらも、シャオリンの下からの、アームバー、アームロック、三角絞めと手を変え品を変えての波状攻撃に、防御し耐えるのが精一杯。タップしないのがせめてもの意地だった。「彼が修斗の新人王だって？　オレは世界のシャオリンだ!」。いったい誰がこの男を止められるのだろうか!?
（林）

ルミナ、オマエが出なくてどうすんだ!

▲今大会、スカイパーフェクTVの解説をしていた佐藤ルミナ。試合後、「出たかった。オレのいるところはここ（放送席）じゃない」と心情を語ったが、ファンもルミナの出場を待っていたのは間違いない

▶第3試合は予想に反する結果となった。9月には大石真丈のタイトルに挑戦した実力者の池田久雄（PUREBRED大宮）が、ランク下の塩沢正人（和術慧舟會）にトータル6度のダウンを喫する大敗。最後は、フラフラになりながらも立ち上がった池田を見かねたレフェリーが試合を止めた

▲新人賞の表彰も行われ、新人王トーナメント技能賞にライト級の門脇英基（和術慧舟會）、敢闘賞にバンタム級の漆谷康宏（RJWセントラル）、そしてMVPにはウェルター級の川尻達也が選出された

第2試合。タクミ（パレストラ東京）はノルウェーのヨアキム・ハンセンに完敗。ハンセンは2度の反則（金的とグラウンドでの顔面攻撃）を取られながらも、上からも下からもタクミを圧倒して判定勝ち。ハンセンはヤバイくらい強かった

第1試合はミドル級で新人王を獲った弘中邦佳（SSSアカデミー）が、ニック・ディアスに2－1の判定で辛勝。弘中は後半息切れしたが、気の強いファイトで場内を沸かせた

TOYOTAタイランド
ムエマラソン
12.14★タイ/ルンピニースタジアム

勲章か、屈辱か？『ムエマラソン』準優勝

小林聡とムエタイ心中！

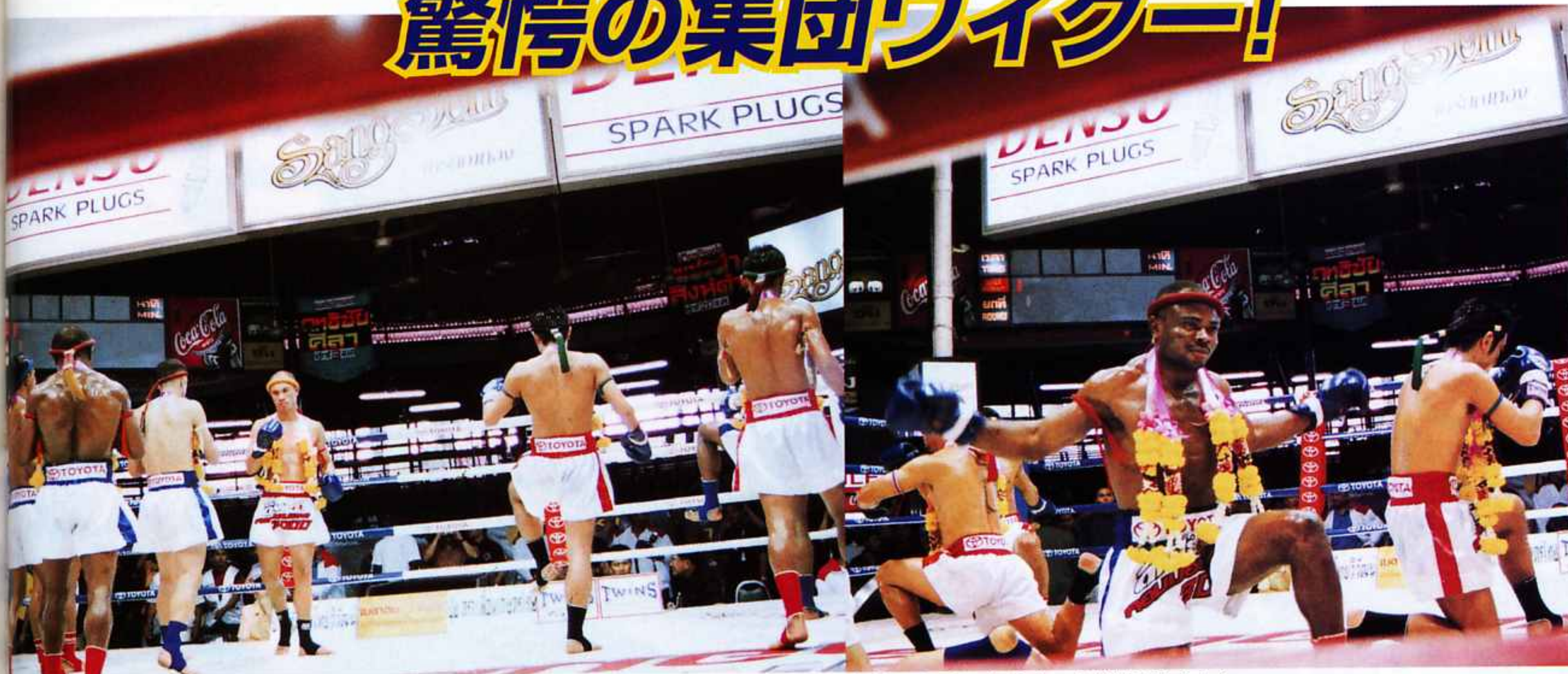
小林聡（日本）	
エルビス・ロムポージム（カメルーン）	
フリオ・セザール・プロカス（ブラジル）	
ティモー・フォンジム（オーストラリア）	♛
クンスック・ペットスパーパン（タイ）	
ペットナムエーク・ソー・シリワット（タイ）	
セーンモラゴット・ウェーナイスピード（タイ）	
ブアカーオ・ポー・プラムック（タイ）	

▲『ムエマラソン』はトヨタの現地法人TOYOTAタイランドの主催。ルンピニースタジアムの入口にも、トヨタの新車がディスプレイされていた

ムエタイの正装に身を包んだ小林。新鮮な感じだ。同時に敵地に乗り込んだ緊張感も高まる

撮影・文◎橋本宗洋

2時間ぶっ通し。世界一ムチャなトーナメントの幕が開いた！

驚愕の集団ワイクー！

▲普通は試合ごとに行われるワイクーだが、今回はトーナメントとあって開会式で選手全員が一斉に舞うという光景が見られた

◀試合の2時間半ほど前に会場入りした小林陣営。師匠・藤原会長が直々にバンテージを巻くのは異例のこと。みんな気合いの入り方が違った

▶リングサイドには実況席。大会はタイ全土に生中継された

▲当日の早朝に行われた計量。小林は一発でパスしたが、なぜかもう一度量ることに。海外の試合では仕切りの面でいろいろと翻弄されることも多い

〝野良犬に注意！〟

いきなり、そんな言葉が目に飛び込んできた。バンコクへ向かう機内、タイの観光ガイドをめくった時のことだ。

タイの道端ではやたらと野良犬がウロウロしていて、狂犬病の感染率も高いという。実際、人間よりもふてぶてしく日陰で堂々と寝そべっているところを何度も見かけた。それこそ邪魔したら噛まれそうなほどだ。タイの道では、人間が野良犬に気を使って歩かなくちゃいけない。

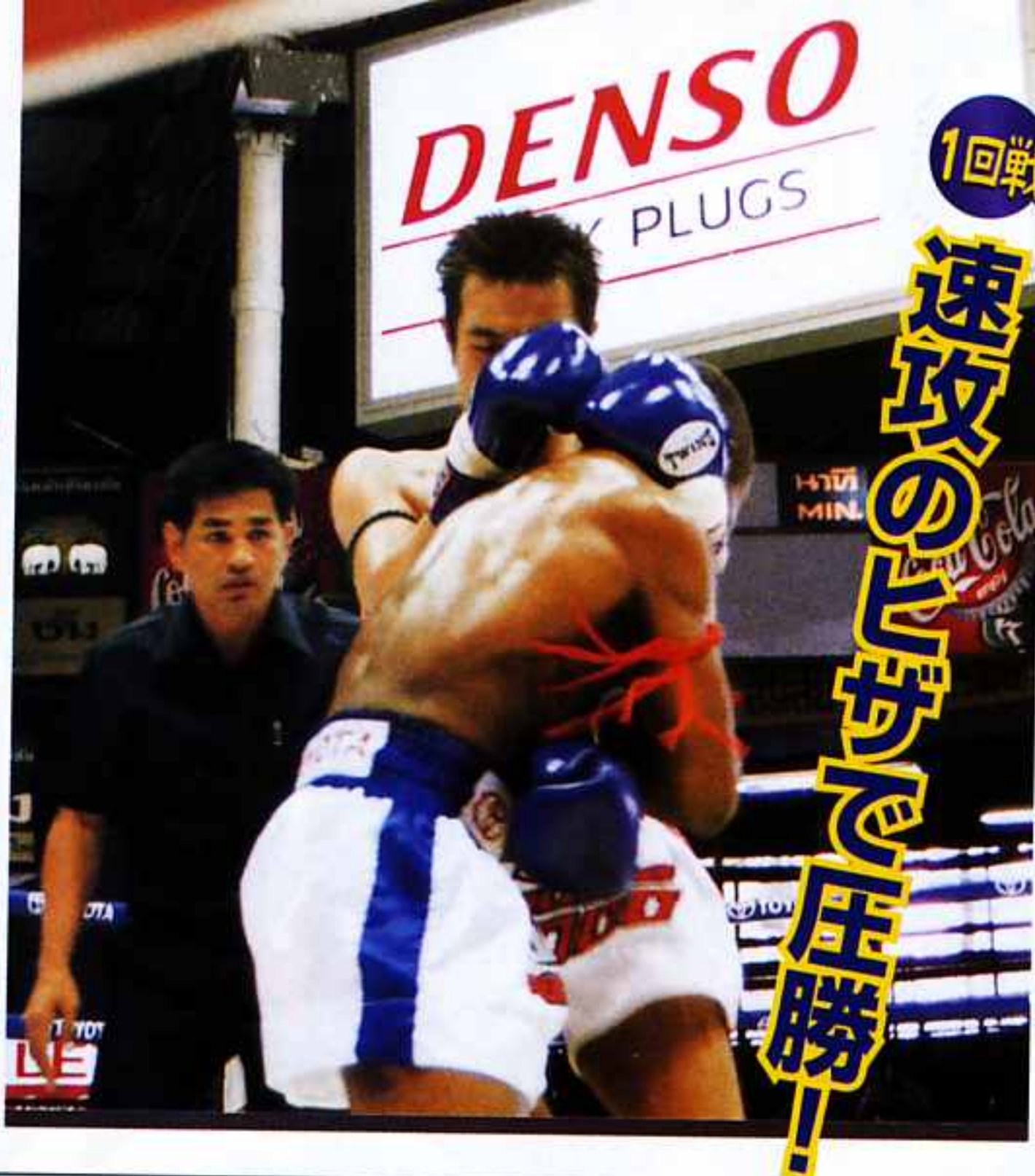
聖地ルンピニースタジアムで行われるムエタイのビッグイベント『ムエマラソン』に乗り込んできた日本の〝野良犬〟小林聡も、ふてぶてしさでは負けていなかった。タイに来た当初はあまり眠れず、いつもより体重が落ちてしまったそうだが、決戦直前になってスイッチを切り替えたようだ。

軽い階級から順次、開催されてきた『ムエマラソン』も、この140ポンド級トーナメントが最後。それだけに大会の仕切りも手慣れたものかな、と思っていたが、そうはならなかった。海外、特にタイの試合では、物事が予定どおりに進むほうが珍しい。

出場予定とされていた因縁の相手サムゴー（小林はこの男にボロボロにされている）は結局エントリーせず、タイ人以外の出場選手もはっきり分からないまま。やっと1回戦の相手が決まったと思ったら計量の時に変更となり、契約体重も「外国人は500グラム重くていいらしい」、「いや、やっぱりダメだって」――。

状況が二転三転するのが当たり前。そんな中で神経を張り詰めて

決勝まで行かなきゃタイ人と闘えない!

▶▼1回戦の第1試合から小林の出番。開会式からリングを降りないまま試合を迎えたが、集中力を切らすことなく相手を圧倒。ヒザの連打でKO勝ちを収めた

◀試合が終わるたびに、別スペースで賞金プレートが授与される。次の試合を待つのも、控室ではなく会場の隅の椅子でだった

1回戦 速攻のヒザで圧勝!

★第1試合/トーナメント1回戦（3分3R・インターバル2分）
○小林聡（1R2分09秒、KO）エルビス・ロムポージム●
〈日本/藤原ジム〉　〈カメルーン〉
※ボディへの右ヒザ蹴り

▶KO勝ちで決勝進出を決めると、小林は思わずガッツポーズ。日本から応援に来たファンたちの歓声も凄まじかった

▶準決勝の相手ティモーのセコンドには、かつて小林と闘ったジャン・スカボロスキーが付いていた。パンチ対策を練っているだろうと予測した小林は、ロー中心の攻め。これが見事に当たり、最後はロー連打でKO勝ち

準決勝 完璧！ 狙いどおりのローキック葬で決勝進出

▲ローキックでKOされたティモーは担架で退場。とてつもないダメージだった

▲タイ人と闘わずに帰るなんてシャレにならない。小林は100％の気合いで相手を潰しにかかった

★第5試合/トーナメント準決勝（3分3R・インターバル2分）
○小林聡（2R0分33秒、KO）ティモー・フォンジム●
〈日本/藤原ジム〉　〈オーストラリア〉
※右ローキック

前。そんな中で神経を張り詰めていたら消耗するだけだ。最後には小林も、何を言われようが「べつになんでもいいッスよ」と他人事を決め込んでいた。「とにかく、目の前の相手を倒していけばいいんですよ」。

もともと、小林は敵地で燃えるタイプだという。今回も「後楽園よりやりやすかった」というほど。周りが敵ばかりというシチュエーションが、小林の反抗心に火を付けるのだ。

とはいえ、トーナメントの組み合わせはタイ人4人のブロックと外国人4人のブロックに分けられているから、是が非でも決勝まで勝ち上がらなきゃいけない。その〃外国人〃たちもタイをベースに活動している選手ばかりで、決して楽ができる相手ではない。ましてデータはゼロなのだ。

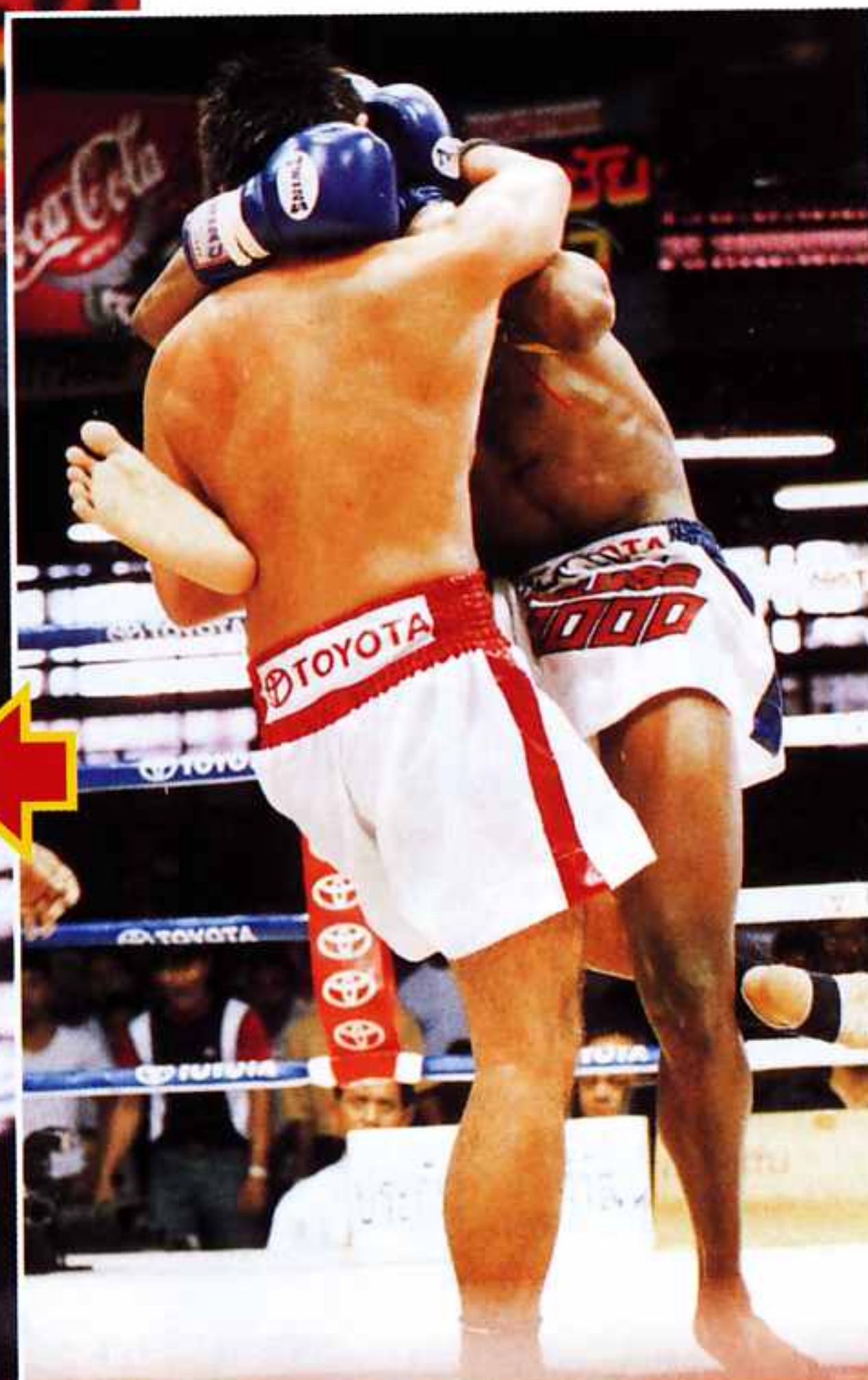
まずは1回戦。開会式からそのままリングに残ってなだれこんだ第1試合で、小林はカメルーン出身のエルビスを文字どおりヒザで一蹴してみせる。

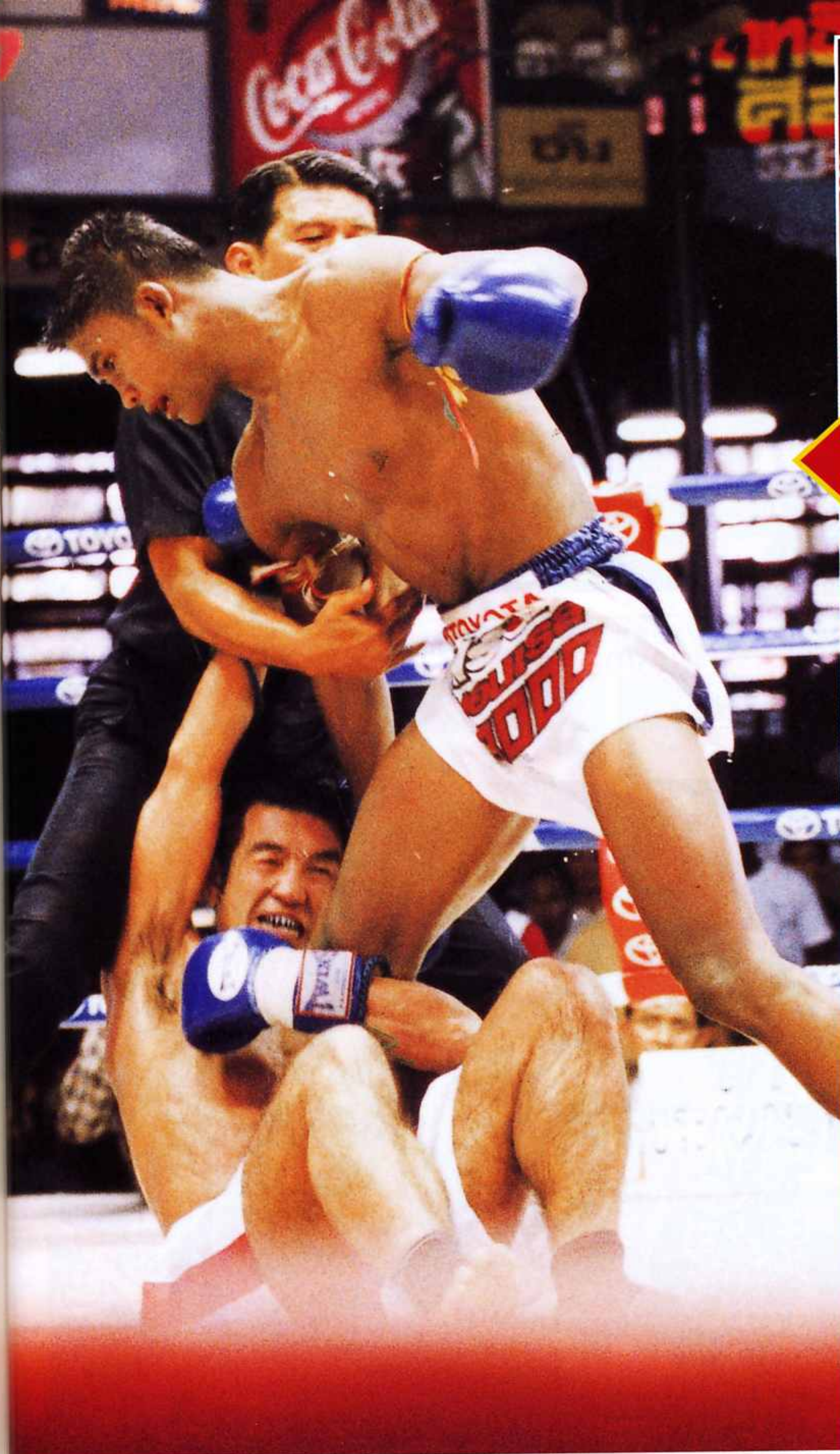
そして休む間もなく準決勝へ。この大会はワンマッチなどを挟まず、生中継の時間枠2時間に収めるためにぶっ通しで行われるのだ。スタミナや精神力の持続という面で心配になってくるが、ここで小林は抜群の集中力を見せた。

オーストラリア人のティモーを相手にパンチ、ローキックを畳み掛けていく小林。前の試合の疲れなど引きずっていない。次の試合へ余力を残そうともしていない。

〃いま目の前にいる敵を全力で叩きのめす〃、そのことに100％集中した、おそるべきテンション

決勝

全ての打撃は絡め取られて……ムエタイは組み技格闘技なのか!?

▲◀決勝戦の相手ブアカーオは、密着戦法で小林の打撃を殺しにきた。投げ倒そうとする小林だが逆に転がされ、ヒザを落とされる。蹴り足を取っても、最後に上になっているのはブアカーオだった

▲一方の腕を首に回し、もう一方をワキに差して上体を封じる。ここからワキ腹にヒザを打っていく

★第7試合/トーナメント決勝戦（3分3R・インターバル2分）
○ブアカーオ・ポー・プラムック（3R判定）小林聡●
〈タイ〉 〈日本/藤原ジム〉

の高さだった。

ティモーをローで沈め、レフェリーがKOを宣告すると、小林は小さくガッツポーズを作った。〝どうだ！〟という自信の表れにも見えるし、〝これからが本当の勝負なんだ〟と気合いを入れ直しているようにも見える。たまらない色気に満ちた姿だった。

決勝戦。タイ人ブロックから勝ち上がってきたのはブアカーオという選手だった。ルンピニーJrライト級の5位というから、実力的にはチャンピオンと遜色がないと言っていい。

開始早々、小林のアッパーがヒットする。「相手の体が硬直するのが分かった」というほどの会心の一撃。だがそこから先が、ムエタイの奥深さだった。

組む。ひたすら組み付いて、マットに転がす。それがブアカーオの取った戦法だった。そうして小林のパンチを完璧に殺してみせたのだ。まるで組み技格闘技。思うように打撃を出せずに苦悶する小林は、バーリ・トゥードのリングで柔術家の餌食になるストライカーのようにも見えた。

なんとかしなければ。そう思えば思うほど、小林の動きは単調になってしまう。戦前は短期決戦だけに打ち合いが予想された3分3Rという試合時間も、こうなると「判定じゃ勝てない。早く倒さなきゃ」という焦りを生む。

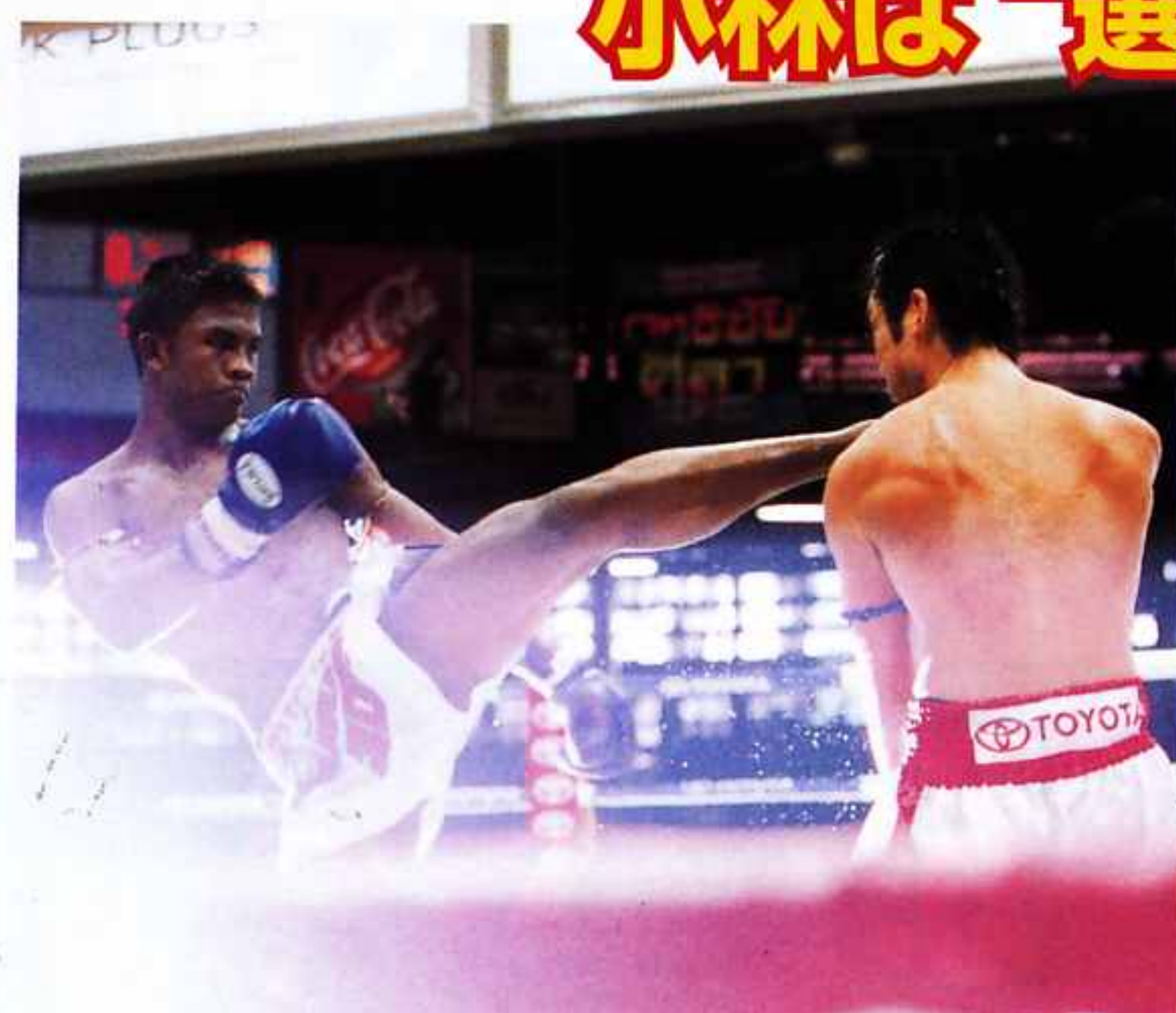
3R終了のゴングが鳴った時点で、すでに小林は敗者の顔をしていた。判定を待つまでもなかった。その後の閉会式、小林は晒しものになった気分だっただろう。わずか数分が、こんなに長く感じられたことはなかった。

完敗。それでも分かった! 小林は“選ばれし者”なのだ

小林のコメント

「本場でやる駆け引きは全然違いますね。そんなの分かってたんですけど。1Rの30秒くらいがチャンスだった。相手の体が硬直したのが分かったんですけど、すぐに首相撲でくっついちゃって。(首相撲対策は) 抱き着いて投げ飛ばす練習ばっかしてたんですけど。投げ飛ばしても絡み付いてきて。まとわり付いてくる感じですね。上になったらヒザ落としてきて、下から蹴ってやりましたけど。いかなきゃいかなきゃ、あと3Rしかないって。気持ちばっか前にいっちゃって技が出なくて。思ったほど緊張はしなかった。逆にやりやすかったです、後楽園より。周りは敵ばっかだし。今日、負けて悔しいけど、またやります。最後リング上がって、ベルト見たら涙でてきちゃって。あれ欲しかったなって。今日でオールOKっていうか、気持ちが解放されると思ってたんですけど。やっぱり悔しい気持ちが……。練習量もパンチもキックも負けてないけど、何かが足りないんでしょうね」

藤原敏男会長の総括

「やっぱり決勝戦。国技ムエタイの壁っていうのはね、想像以上にイメージしていたにもかかわらず、やっぱりその壁を崩せなかった、怒濤の攻めができなかった。でもまあ、欲をかけばきりがないけど、良くやったほうじゃないかな。スタミナ的には十二分だけど、最後、まだまだレベルが違うと。向こうが(組んで) ああやってくると分かってても、それを飛び越えていかなきゃいけない。しょうがないね。歳も歳だしな (笑)」

▲離れてからの蹴りもうまかったブアカーオ。威力というより、タイミングが抜群だった

▲小林のいいパンチが入る場面もあったのだが、組まれてしまって連打が出ない

▲翌日の新聞は『ムエマラソン』を一面から大きく報道。小林がメインの記事もあった

▲優勝者・ブアカーオにはベルトが贈られた。その光景を見ていた小林の目には、悔し涙が……

▲トーナメント終了後にはワンマッチが数試合行われ、小林の弟弟子・前田尚紀(全日本フェザー級王者)も登場。序盤からパンチでテンポよく攻め込んだがツメを欠き、首相撲とミドルに掴まってテープニミット・ソー・ジットパッタナーに判定負け

▲今大会はビッグマッチとあって会場も満員。スタンドの一般席では、このように手を掲げて賭けの金額などを示す

野良犬はこれで終わりじゃない まだ始まってもいねえよ!

▲試合終了のゴングが鳴ると、敗北を噛みしめるようにその場でうつむいていた小林

たことはなかった。

完敗だった。小林は「力の差はあんまり感じなかった。ちょっとした経験と、チャンネルの違い」と語ったが、ちょっとした差なだけにもどかしい。負のカタルシスもない荒涼とした気分。小林と心中するつもりでタイに取材に来たが、こんな負け方じゃあ死んでも死にきれないじゃないか……。

しかし、小林は今年、異様に濃い闘いばかりを経験したことになる。ライト級王者ナムサックノーイ、Jrライト級王者サムゴー、それにブアカーオ。ルンピニーの頂点に位置するムエタイ戦士3人と闘ったのだ。この3人は、ルンピニーでの評価もトップ3だという。

負けたとはいえ、1年の間でタイのトップ3人と闘うことができる選手なんて他にどれだけいるだろうか。相手がタイ人以外だったとしても、敵地できっちり決勝に勝ち残れる日本人が他にどれだけいるだろうか。そう考えると、小林への期待はまだまだ薄れそうにないのである。

「3連敗じゃ説得力ないですよ」と本人は苦笑するが、小林には、そういう“濃い勝負〃の舞台に上がるだけの資質があるのだと、改めて思わずにはいられなかった。

勲章も屈辱も、同時に感じた小林の『ムエマラソン』。主催者側は小林サイドに来年の出場を打診、小林も「作っちまった借りは返さなきゃ」とやる気だ。

「一発、大勝ちするまで、オレはいつまでも懲りないッスから」

小林聡という男の生命力をナメてはいけない。今度はタイ人が、野良犬に注意する番だ。■

ムエタイを愛し続けて30余年
ザンス山田の『ムエマラソン』総評

ムエタイには、相手を弱くする魔法がある

～小林大凡戦の謎に迫る～

ふと気が付くと、ムエタイを見始めて30年以上の時がたっていた。私の47歳の年齢で、なぜ30年以上も前からムエタイを見ることができたのかというと、実は父親がバンコクの商社に勤めていた関係上、高1の夏休みに家族総出でバンコクにひと月近く滞在したのだ。

当時は、といえば、数年前にタイ大丸の1階の野口ジムが焼き討ちにあい、日本選手がタイに遠征に来ようものなら、大変。国を上げて日本選手を潰しにきたという殺伐とした時代だ。

私がカラテのTシャツを着ていようものなら、レストランで腕っぷしの強そうな男たちの視線を一身に浴びたものだ。

そのうち、一人のウェイターがつかつかと近付いてきてこう言った。

「私は元ムエタイ選手だ。日本のカラテはムエタイより強いと言っているが、もしあなたがカラテマンなら、それを証明する勇気があるか？」

なんとウェイターにケンカを売られてしまったのだ。最近のタイしか知らない人たちは、タイ人はみな日本人に微笑みかけてくる人種だと思っている。

しかし、当時のキックボクシング文化をきっかけにした日・タイの文化摩擦は今の人には想像しにくいだろう。

カラテのTシャツを着て街を闊歩するだけで、日本人がムエタイに闘いを挑んできたと取られたのだ。

余談であるが、この時、父親にこう通訳してもらった記憶がある。

「私はまだ白帯なので弱いが、日本には黒帯の強い人たちがたくさんいる。でも私が大人になって強くなったら、必ずタイに来てムエタイ選手と闘いたい」

ウェイターはフンと鼻で笑い行ってしまったので、私は胸をなでおろしたものだ。しかし、20年後、37歳の時に、パタヤで元ラジャのランカーと試合をしたのも、この時のウェイターとの約束と無関係ではない。格闘技に携わる人間ならば一度はムエタイと闘ってみたいはずだ。

闘ってみて初めて分かるムエタイの強さがある。見てるだけでも、スパーだけでも分からない。ムエタイという体系の中で、ムエタイ選手がなぜ強いのか？

その強さを解明することが、ムエタイという競技の本質を浮き彫りにしていくことでもある。

〈小林最大の凡戦の謎〉

「本当のムエタイの壁の高さを、小林は痛感したんじゃないかな」。試合後、藤原会長は小林の健闘を讃えつつこう語った。

はっきり言って、決勝のブアカーオ戦は小林はまったくいいところがなかった。ブアカーオ自身クリンチをしてくるだけで、サムゴーのような破壊力もスピードも見せない。一見弱そうな選手だ。タイの現役王者も倒してきた小林ならJrライト級5位のブアカーオに勝つことは可能だ。いつもの動きが出れば。しかし、一向にいつもの動きが出ない。いや、こんな素人同然の小林の動きを見たのは初めてだ。ツアーの観客たちはおそらくこう受け取ったに違いない。

ブアカーオはたいしたことない選手だが、それ以上に小林が弱かった。これが率直な感想だったのではないか。

小林自身も、自分がなぜ、体が動かなかったのか？　その謎が解けなかったようだ。だが、30年前から、日本とタイが本気で潰し合いを演じていた殺伐とした時代を闘い、勝ち続けた藤原会長だけはその謎の答えを知っていた。

多くの人が、小林の最大の凡戦と感じた決勝戦だったが、藤原会長は逆に「小林は今日頑張った。今後が楽しみだ」と、一般ファンとまったく逆の評価をしたのだ。さあ、そろそろ本当のムエタイの強さを語る核心に近付いてきた。それにはここ30年のムエタイの技術変遷を理解しておく必要がある。

〈ロングからショートへ〉

ムエタイに限らず、打撃格闘技には共通のひとつの法則がある。

それは、遠い間合いの攻撃より近い間合いの攻撃が有利だということだ。意外に思う人は多いかもしれない。しかし、この法則を理解し、早くから稽古に取り入れた団体が、強くなっている。これは、一般の人は気付いていない、裏の格闘技界の歴史でもある。

日本では正道会館が直接打撃制の空手の中で最初にこの練習法を取り入れた。なんと、始めに胸を突き合わすようなショートの間合いから組手を学ぶのだ。

これは直接打撃制ルールでは、両者が前に出ようとしたら、試合中必ず接近した間合いになり、ここからが勝負になるからだ。この間合いで正道会館は倒すためのカラテの技術を構築した。

TOYOTAタイランド
ムエマラソン
12.14★タイ/ルンビニースタジアム

タイ側の選手、関係者に囲まれての閉会式。賞金20万バーツ（約70万円）を受け取った小林だが、表情を見る限り放心状態だった

また、格闘技界ではグレイシー柔術やシューティング（修斗）などの総合の試合も、この法則に則り闘っている。クリンチやタックルは打撃の間合いを殺し、さらに寝技に持ち込めば、この距離を維持し続けられる。一旦この体勢になってしまえば、打撃の選手は何もできない。

逆に、打撃格闘技の試合では、ボクシングや極真空手のように、体が密着した姿勢を反則にし、審判が両者を分けることで試合を成立させているのだ。

さて、そこでムエタイである。ムエタイではクリンチや体を密着させることを禁止していない。むしろ、観客はこの間合いでのヒザの攻防を一番期待しているのだ。観客は、この間合いでポイントを奪える選手こそ、自分の自腹を切って、賭けるに値する選手だということを知っている。選手がどんなに強いパンチやキックを持っていても、間合いを潰すことは簡単だ。首を巻いて体を密着させてしまえば、必ずその選手が勝つ。

つまり、今日のムエタイの強者とは、すべからく、相手のパンチやキックを殺すことに長けている選手なのだ。

だから、日本人が見ると今のムエタイはつまらない。我々はパンチとキックの交錯を期待して見るが、それはタイの上位ランカー同士の試合ではほとんど見られない。そんな不確実な攻撃に頼っているようでは、今日のムエタイの上位ランカーの座を維持し続けられないのだ。

実際、今回の大会で、小林のいるブロックはタイ人以外の外国勢が闘い、全てKO決着。逆にタイ選手側は全て判定。

どう見ても我々には外人選手の試合のほうが面白かったが、観客が沸いたのは、タイ同士の接近戦の攻防だった。実はこの30年間、ムエタイは我々が見るとまったく面白くない競技に変質してしまったのだ。

30年前、初めて日本という外敵を迎え撃ったムエタイは、倒しにくる日本選手を、逆に倒して見せることで、その強さを印象付けた。それは、前述したような殺伐とした日・タイの威信をかけた闘いがムエタイの最重要課題だった時期だったからだ。

ちょうど小林が闘ったサムゴーのように、パンチやキックで攻めてくるならそれより強いパンチやキックで力の差を見せつけるのが必要な時代だった。

その後、両手で首を掴む、いわゆる首相撲からのヒザ蹴り全盛の時代を経て、今日のように首に手を巻いて、脇下から一方の手を差し入れ、ピッタリと密着するヒザの攻防全盛の時代となった。

30年前のムエタイ選手は確かに強かった。しかし、より日本人が勝ちにくいのは、今のムエタイスタイルの選手なのだ。

あらゆるタイプのタイ選手と闘いを繰り広げてきた藤原会長だけが、おそらくその事実を知っていたのだろう。

これまで、小林が闘ってきたタイの王者たちは、いずれも強さを見せつけるために、打ち合いに付き合ってくれた。

しかし、賞金が懸かり、地元のルールで闘う時、タイ人は確実に勝つための方法を選択する。強い小林を、まったく素人同然の選手に変える魔法を、タイ人たちは知っている。

「それがムエタイなんだよ。でもね、それでもパンチとキックを打っていくんだ」。それが打倒ムエタイの本当の意味だ、と藤原会長は言いたかったのだろう。ムエタイの魔法を解く唯一の方法を知っている会長だけに、その言葉は重く響いた。（山田英司）

番組インフォメーション

SRSベストバウトの告知

SPECIAL RING SIDE

情報提供◎『SRS』アシスタントプロデューサー・金井由紀子

地域によって放送日時が異なります。また、この番組インフォメーションは12月20日現在のものです。都合により内容が変更になることもございますのでご了承ください。

注意! 12/27＆1/3のSRSは年末・年始編成のためお休みさせていただきます。
また来年1月から、放送時間が26:15～26:45に変更になる予定です！くれぐれもご注意ください。

募集! SRSベストバウト募集中！

『輝け！ SRSベストバウト大賞！』ということで、恒例のSRSが選ぶ2002年度のベストバウトを決めちゃいます！ そこで、あなたが選ぶ今年のSRSベストバウトを大募集！ ①立ち技系（K-1、キックボクシングなど）②寝技系（PRIDE、修斗など）③極真と、ざっくり3ジャンルに分けた中から、あなたの心に残るベストバウトを投票すべし！

投票方法はこちら！

インターネット投票→http://www.fujitv.co.jp/srs　　ハガキ投票→〒119-0188　フジテレビSRS　ベストバウト大賞　係

締め切りは1月9日（木）必着

ご応募いただいた人の中から、抽選で50名様に、SRSグッズまたはフジテレビグッズをプレゼント！

必見
12/29（日）16:00～17:25　『K-1バイブル'02～10thアニバーサリー』
24:30～26:00　12.23『PRIDE.24』～マリンメッセ福岡（録画）

SRSホームページのアドレスはこちら　http://www.fujitv.co.jp/

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
12/27（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	O REI DO SHOOTO	8：00～9：00	世界中で行われている修斗の大会を放送
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9：00～11：00	修斗、01.3.2後楽園ホール大会
	GAORA	週刊格闘JAM!	19：22～19：30	K-1、PRIDEなどの格闘技イベント最新情報「Featuring event」や旬の格闘家を紹介する「Featuring Fighter」などをぎっしり詰め込んだ300秒番組
	GAORA	全日本キックボクシング	19：30～21：30	➲Pick Up① 再放送12/29・24：00～
	スカイA	ワールドプロレスリング 不滅の闘魂伝説	20：00～22：00	1970年代以降の新日本プロレス格闘技全盛期を振り返る。1976.10.7格闘技世界一決定戦、アントニオ猪木vsアンドレ・ザ・ジャイアント戦、他3試合
	GAORA	角田信朗のすぽ魂	21：30～22：00	『愛と涙と感動の浪花男』角田信朗が様々なスポーツを紹介。GAORA独自のインタビュー映像やゲストを迎え内容盛りだくさんの30分。再放送12/28・17：30～、29・12：00～
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：00～24：00	12.21ディファ有明大会
	TBSテレビ	大晦日猪木軍vsK-1軍vs『プライド』&お正月筋肉バトル！ 2大決戦スペシャル（仮）	23：45～25：00	格闘技界の3大ブランドが夢の対決！ 大晦日の一大決戦、『イノキ・ボンバイエ2002』まで後4日！ 全対戦、全出場選手!? 最新情報を一挙公開
	BSフジ	PRIDE REVIVAL	24：00～25：00	スポーツ・アイESPNの『PRIDE REVIVAL』と同内容。『PRIDE.4』③。再放送1/10・24：00～
12/28（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継 新日本キック協会	10：00～12：00	12.1にタイ・ラジャダムナンスタジアムで開催された『Fight to Muay-Thai 2002』大会を放送。再放送1/8・18：00～
	BS朝日	ワールドプロレスリング完全版	16：30～18：55	12.15名古屋レインボーホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	『ch.01』	22：00～23：30	橋本真也率いるZERO-ONEによるちょっぴりムチャなバラエティ番組
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：30～24：30	船木ヒストリー#1
	FIGHTING TV SAMURAI!	PRIDE王	23：30～24：00	東海テレビ『PRIDE王』と同内容。再放送12/31・12：00～、1/2・16：30～
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	11.30横浜文化体育館大会。菊田vsパンブロナ、佐々木vs美濃輪ほか。ヘンゾ・グレイシーインタビュー
	Jスカイスポーツ1	SHOOT 3/60	25：00～26：00	15分のショートドキュメンタリー3本で構成する“60分3本勝負”の格闘技専門スポーツドキュメンタリー番組。再放送1/1・5：00～
12/29（日）	フジテレビ	K-1バイブル'02～10thアニバーサリー	16：00～17：25	激動の2002を振り返る
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：30～24：30	船木ヒストリー#2
	フジテレビ	PRIDE.24	24：30～26：00	12.23マリンメッセ福岡（録画）
	日本テレビ	プロレスリング・ノア中継	25：05～25：35	12.24ディファ有明大会 クリスマス興行
12/30（月）	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	『PRIDE.1～5』を5日連続で再放送！『PRIDE.1』①～③
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：30～24：30	船木ヒストリー#3
	Jスカイスポーツ2	ワールドファイティング特別企画	26：30～28：30	ブラジル・MECAバーリ・トゥード
12/31（火）	TBSテレビ	イノキ・ボンバイエ 事前番組	15：00～17：40	闘い直前の選手達の模様など、決戦直前情報を一挙公開！
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	12/30を参照。『PRIDE.2』①～③
	TBSテレビ	イノキ・ボンバイエ2002	21：00～23：24	➲Pick Up②
	スカイA	パンクラスハイブリッドアワー	22：30～24：30	船木ヒストリー#4
	FIGHTING TV SAMURAI!	『ch.01』	24：30～翌14：00	2002年4月にスタートした『ch.01』を、第1回（4.28）から第9回（12.2）まで、連続再放送！
1/1（水）	BS日テレ	プロレススペシャル！	14：30～15：30	12.7横浜文体、GHCヘビー三沢光晴×小川良成
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	12/30を参照。『PRIDE.3』①～③
	GAORA	角田信朗のすぽ魂	21：30～22：00	12/27を参照。再放送1/4・6：00～、5・15：30～、7・9：00～、8・13：30～
	スポーツ・アイESPN	極真会館 オープントーナメント	23：00～24：00	02.11.23～24に東京体育館で開催された『極真会館（緑派） 第34回オープントーナメント 全日本空手道選手権大会』を放送
1/2（木）	スカイA	ワールドプロレスリング 不滅の闘魂伝説	17：00～19：00	12/27を参照。1974.4.26、アントニオ猪木vs坂口征二戦、他2試合
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再） 新春！ 極真スペシャル	17：00～21：00	極真会館/緑健児派の二つの大会を再放送。02.6.29～30大阪府立会館大会（17：00～）、02.11.23～24東京体育館大会（19：00～）
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	12/30を参照。『PRIDE.4』①～③
	東海テレビ	PRIDE王	24：00～25：15	12.23『PRIDE.24』マリンメッセ福岡大会特集
1/3（金）	FIGHTING TV SAMURAI!	プライド侍 '02 SELECTION	6：00～14：00	月1回放送でお馴染みの同番組から『PRIDE.19～22』のダイジェストと、ゲスト出演したヴァンダレイ・シウバやノゲイラ兄弟の映像などを再放送
	スカイA	ワールドプロレスリング 不滅の闘魂伝説	17：00～19：00	12/27を参照。1976.12.12、アントニオ猪木vsアクラム・ペールワン戦、ほか
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再） 女子総合特集！	17：00～20：00	女子総合の注目の2大会を再放送。02.2.3『SMACK GIRL』ディファ有明大会（17：00～）、02.5.4『AX』後楽園ホール大会（19：00～）
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	12/30を参照。『PRIDE.5』①～③
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	22：00～23：00	これまでの『プライド』シリーズを毎月1大会ずつ放送。『PRIDE.6』①。再放送1/8・25：00～
1/4（土）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	15：00～17：00	GCMコミュニケーション 02.3.10Zepp Tokyo大会
	スカイA	ワールドプロレスリング 不滅の闘魂伝説	17：00～19：00	12/27を参照。1977.9.2、NWF世界ヘビー級選手権、アントニオ猪木vsスタン・ハンセン戦、ほか
	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再） パンクラス横浜伝説	17：00～21：00	パンクラスが横浜文化体育館で行った2大会を再放送。02.9.29大会（17：00～）、02.11.30大会（19：00～）
	スポーツ・アイESPN	PRIDE REVIVAL	18：00～21：00	～beyond the episode#1～#3～視聴者からのベストバウトリクエスト
	Jスカイスポーツ3	シュートボクシング2002	23：00～24：30	新春特別企画。再放送1/9・19：30～
	テレビ朝日	ワールドプロレスリングスペシャル	23：45～25：45	IWGPヘビー・永田裕志vsジョシュ・バーネット、NWFヘビー・高阪剛vs高山善廣
	BSジャパン	格闘Xパンクラス	24：30～25：00	内容未定
1/5（日）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再） 6.29大阪特集！	8：00～12：00	修斗、02.6.29大会特集。『O REI DO SHOOTO#23 & #24』（8：00～、9：00～）、6.29堺市金岡体育館大会（10：00～）
	スカイA	ワールドプロレスリング 不滅の闘魂伝説	17：00～19：00	12/27を参照。1977.11.9、アントニオ猪木vsアンドレ・ザ・ジャイアント戦、ほか

ON THE AIR 12/27～1/9

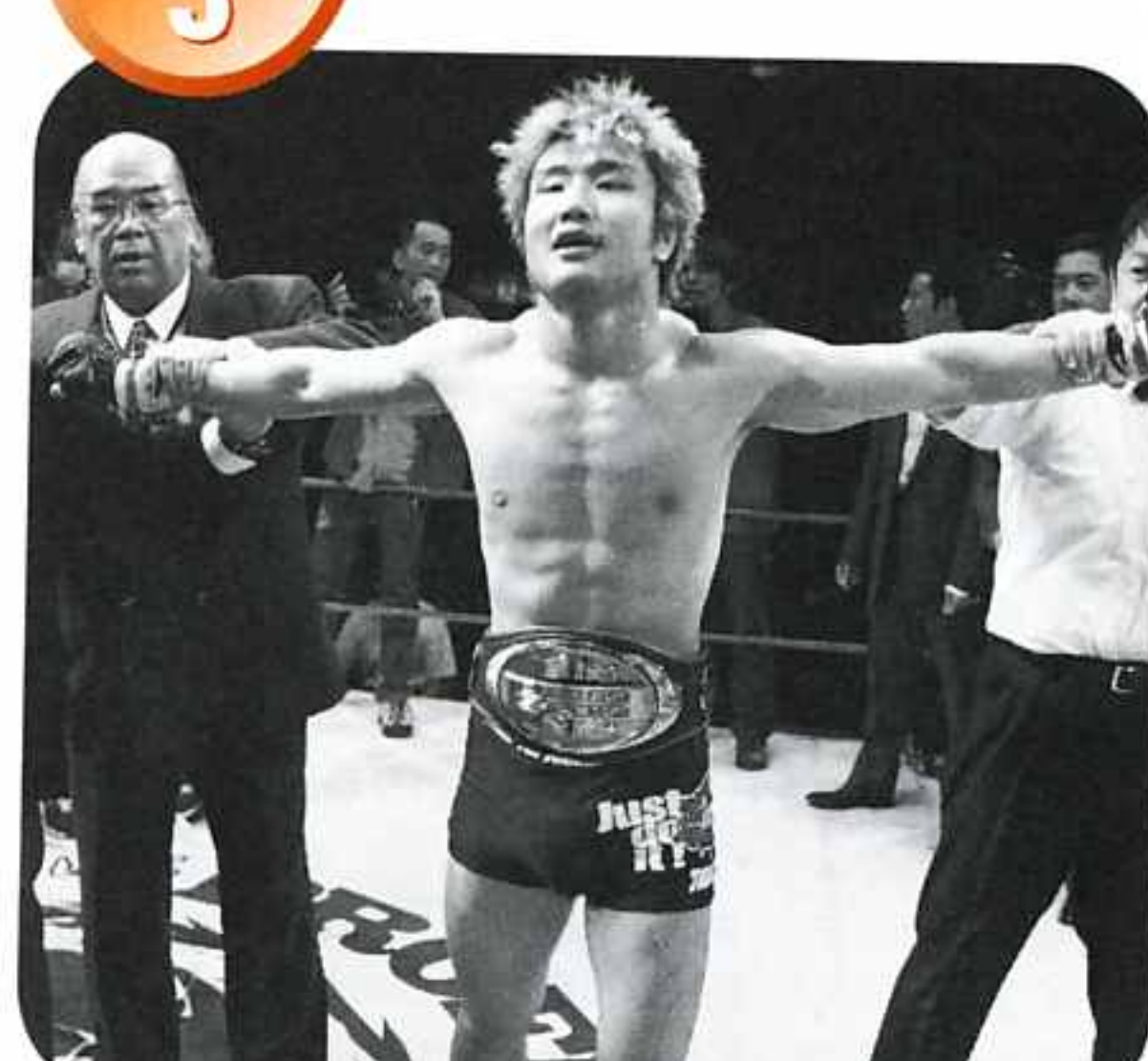
格闘技番組ガイド　TV&RADIO

Pick Up 1　『全日本キックボクシング』
GAORA
12月27日（金）/19:30～21:30

12月8日（日）、東京・後楽園ホールで開催された『BACK FROM HELL-Ⅱ』の模様を2時間にわたってオンエア！ 2.11の『K-1 WORLD MAX』で、大野崇にアゴを割られKOされて以来、10カ月ぶりの登場となった新田明臣が、イギリスのサク・ナガヤムを相手にメインを飾るほか、セミでは無傷の快進撃を続けている花戸忍が、3.30の『COMBAT 2002』で倒している大宮司進のリベンジを迎え撃つなど注目カード連発！ 衝撃のKOシーンもあるので、絶対に見逃すな！

Pick Up 2　『イノキ・ボンバイエ2002』
TBSテレビ
12月31日（火）/21:00～23:24

今年もやってきました大晦日恒例の『イノキ・ボンバイエ』。安田忠夫による奇跡の大ドンデン返しから、丸1年。今年はどんなドラマが生まれようとしているのか？ 昨年8月以来の再戦となる藤田和之VSミルコ・クロコップ、プロレス大賞MVPを最後まで争ったボブ・サップVS高山善廣など、好カード目白押し！ ホスト役のアントニオ猪木は、「打倒！ 紅白」にむけて、どんな秘策を見せてくれるのか？ 「何が飛び出すか分からない！」イノキ・ボンバイエを見ずして、年は越せないぞ！

Pick Up 3　『試合中継　修斗』
FIGHTING TV SAMURAI!
1月7日（火）/22:00～24:00　26:00～28:00

12月14日（土）、東京ベイNKホールで開催された『プロフェッショナル修斗公式戦』の模様を放送！ 五味隆典VS三島☆ド根性ノ助、A・F・ノゲイラVS阿部裕幸の2大タイトルマッチをはじめ、1年ぶりに修斗のリングに戻ってきたマッハの復帰戦など、激動の2002年を締めくくるにふさわしいラインナップが勢揃い！ これまで数多くの名勝負を生んできた年末恒例のNK大会、果たして今年はどうなったのか？ まばたきしてたら、フィニッシュシーンを見逃すぞ！ 気を抜かずに見るべし！

TV

日付	チャンネル	番組名	時間	内容・見所
1/6（月）	FIGHTING TV SAMURAI!	バトルステーション（再）	9：00～11：00	極真会館/緑派『第32回全日本空手道選手権大会』（00.12.3）
	日本テレビ	最強魂	25：30～26：00	『K-1 JAPAN』情報
1/7（火）	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継（再）　修斗	16：00～18：00	02.10.27、大阪NGKホール大会
	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継 修斗	22：00～24：00 26：00～28：00	➲Pick Up③
	TBSテレビ	サイボーグ魂	23：55～24：30	ダウンタウンの松本人志が様々な格闘家とコラボレーションしていく番組
	東海テレビ	PRIDE王	24：40～25：10	内容未定
	テレビ東京	格闘Xパンクラス	26：35～27：05	02’名場面＆03’の抱負
1/8（水）	FIGHTING TV SAMURAI!	船木が語るパンクラスストーリー	22：00～24：00	#8。同日再放送・26：00～
	スカイA	格闘Xパンクラス	23：30～24：00	内容未定
	フジテレビ	すぽると	23：50～24：30	毎回、格闘技界の旬な話題を取り上げる
1/9（木）	FIGHTING TV SAMURAI!	試合中継（再）　パンクラス	16：00～18：00	02.10.29、後楽園ホール大会
	GAORA	角田信朗のすぽ魂	18：00～18：30	12/27を参照
	GAORA	週刊格闘 JAM!	21：52～22：00	12/27を参照
	Jスカイスポーツ3	SHOOT 3/60	25：00～26：00	12/28を参照。①佐藤ルミナ・徹底分析、②土井広之復活戦、ほか
	GAORA	K-2カラテエクストリーム	25：00～26：00	11.10に開催された『第69回新空手道交流大会』

※BS、CS放送は加入しないと視聴できません。加入のお申し込みに関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

■スカパーフェクTV！
☎0570-039-888
（10：00～20：00）

■スポーツ・アイ-ESPN
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5474-3344
（月～金10：00～18：00）

■GAORA
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-000-302
（月～金10：00～18：00）

■FIGHTING TV SAMURAI！
〔スカイパーフェクTV！〕
☎0570-039-888／03-5351-4055
（16：00～21：00）

■フジテレビ721＆739
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-8888
（10：00～18：00 土日祝除く）

■Jスカイスポーツ
〔スカイパーフェクTV！〕
☎03-5500-3488
（9：30～18：00）

■WOWOW
☎0570-008-080
（9：00～20：00）

■スカイ・A
〔スカイパーフェクTV！〕
☎06-6452-1161
（月～金10：00～18：00）

BOOK
話題の本&新刊情報

〈新刊紹介❶〉 It's HOT!

『ここが変だよ ミスター高橋！』

ターザン山本著/新紀元社
本体価格 1,300円/発売中

誰も受身を取らないんだったら、俺がミスター高橋を独占しますよぉぉ！

冬の寒さが厳しくなるにつれ、ますます葛飾の自宅に帰らなくなり、本誌編集部を占拠してしまった"孤独なテロリスト"ターザン山本が、わずか10日間という早業で作り上げた驚愕の一冊！ この本の主題は、ミスター高橋著『マッチメイカー』の攻略（というかアラ探し）にあるのだが、中盤戦から"帰って来た過激な仕掛人"新間寿の登場により、ターザン＆新間の黄金タッグが、高橋本だけにとどまらず、ミスター高橋そのもののアラ探しを始めるという、デンジャラスな中身は必読！ さらに『マッチメイカー』の誤字、誤認を細かくチェックし、全て本に載せてしまうという、親切なんだかタチが悪いのか分からない企画もあったりと、こりゃあもう読むしかないですよぉ！

〈おすすめの一冊❶〉 Recommend

『闘魂レシピ Fight Foods』

アントニオ猪木著/飛鳥新社
本体価格 1,400円/発売中

迷わず食せよ！ 食せば分かるさ！ 元気になるには、まず食べろ！

「料理界に卍固め！」と言ったかどうかは定かでないが、我らのアントンが、スマップのビストロ本に負けじと、料理本を出したぞコノヤロー！ 「何も言わずに、黙って食えよ！」と言わんばかりに、シェフ猪木が腕をふるった闘魂注入メニューは全16品！ トップバッターでいきなり"塩むすび"と、まさに先制のナックルパートばりに読者のド肝を抜かすあたりは、さすが！ さらに、今となっては幻の味"元祖アントンリブ"のレシピも大公開しちゃってるぞ！「元気の秘訣は『食』にある」という猪木の食に対する哲学が、たっぷり詰め込まれた一冊。普段、台所に立って包丁を握ることのないアナタ！ この機会にぜひ『闘魂レシピ』を読んで、"食の猪木イズム"を伝承ダァー！

〈おすすめの一冊❷〉 Recommend

『伝説のプロレスファン』

遠藤汐著/文芸社
本体価格 1,300円/発売中

プロレスファンがここまでやるか!? ターザンもビックリのエッセイ集！

著者の遠藤汐氏は、プロレス生観戦通算480回、連続120カ月生観戦、大手音響メーカーに勤めるかたわら、愛するプロレスについてプロレス専門誌に13年間にわたり、エッセイを書くこと26作というターザン山本も認める、筋金入りのプロレスファン！ この本は、その寄稿した26作に書き下ろし2作（その内の1本は、闘龍門ストーカー市川の特別インタビュー）を加えたエッセイ集だ！ エッセイの内容のほうは、プロレスから派生し、梶原一騎原作マンガ、昭和歌謡曲、著者の実生活にいたるまで、バリエーションに富んだものになっているぞ！ 日本全国、プロレスファンは数多くいれども、自ら本を出版してしまったファンは、そうはいないはず。そういった意味でも、非常に意義深い本なのだ。

〈おすすめの一冊❸〉 Recommend

『最強！ ブルース・リー 闘神の達した武の極意』

中村頼永監修/フル・コム
本体価格 1,700円/発売中

ブルース・リー没後30周年記念出版！ 今ここに、武の極意が明かされる！

映画俳優としてのイメージが先行するブルース・リーだが、彼の武術的到達度は、人類史上で稀に見る高みに至っていたとされている。この本では、ブルース・リーの達した武の極意を、彼の遺産である格闘芸術ジークンドーの理念やテクニックを紹介しながら、紙上再現を行っているぞ！ さらに、ブルース・リーと共にジークンドーを育んできたダン・イノサントが認定した、東洋人初のジークンドーシニア・インストラクターで、この本の監修にあたっている中村頼永氏の協力により、数十年にわたって収集してきた貴重な秘蔵写真を百数十点公開！ ブルース・リー没後30周年となった今でも、時を経るごとに名声を高めていくブルース・リーへの想いをいっそう強めてくれる一冊だ！

BOOK RANKING (11/1～11/30調べ)

1. 『空手と意拳～若き求道者達へ』 廣重毅著/桜の花出版 本体価格 1,800円
2. 『大山倍達、世界制覇の道』 大山倍達著/角川書店 本体価格 438円
3. 『古流居合の本道』 岩田憲一著/スキージャーナル 本体価格 4,800円
3. 『剣道の法則』 掘籠敬蔵著/体育とスポーツ出版社 本体価格 2,500円
3. 『リングの言霊』 岸田直子著/ネコ・パブリッシング 本体価格 1,500円

1位 『空手と意拳～若き求道者達へ』

緑健児、八巻建弐、塚本徳臣、数見肇ら極真空手最強の王者たちを育てた名伯楽、廣重毅師範。その廣重師範が書き上げた渾身の一冊は、武道を目指す人のために、真の強さとは何かを解き明かし、日本が世界に誇るべき武道精神の復権を訴えるという、充実しきった内容だ！

書泉ブックタワー

東京都千代田区神田佐久間1-11-1
☎03-5296-0051（代）

▲プロレス・格闘技の本を探すならここ、『書泉ブックタワー』！ 本誌のバックナンバーも常備しているので、探している本があったら秋葉原の書泉へGO！

書泉ブックタワー 後藤 実副主任

「ランキングを見ていただいても分かるとおり、空手や居合など武道関連の本が上位を占めています。これから先、年末に向けて、格闘技のビッグイベントが続くことで、格闘技関連の書籍が、この順位にどう絡んでくるのか？ とても注目したいところです」

※表示価格は全て税別価格

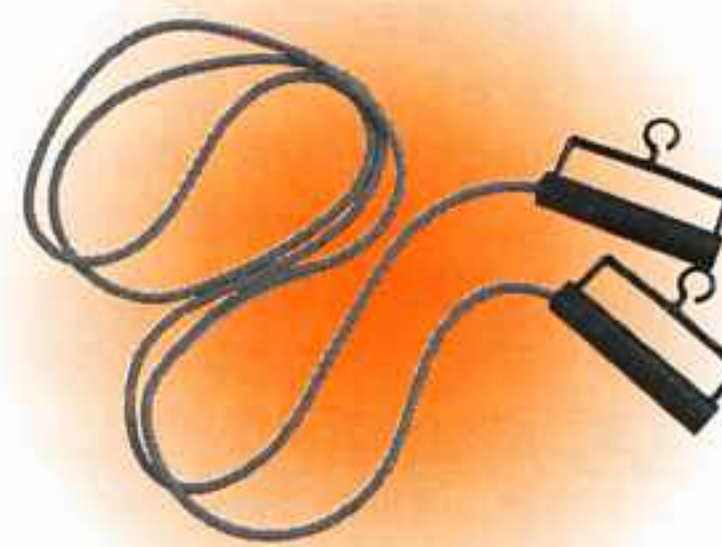
GOODS
最新&売れスジグッズをご紹介!

〈おすすめグッズ❶〉 Recommend

『ビタミン&ミネラル ロングスリーブTシャツ』
V&M/4,200円(税別)

あの大人気Tシャツが冬でも着れる!

超ヒット商品ビタミン&ミネラルTシャツの長袖バージョンが新入荷! Tシャツの種類は、ノゲイラ兄、アローナ、ブラジリアン・トップチームモデルの3タイプ。半袖同様、バカ売れ必至とされるこのTシャツ。急いでGETすべし!(カラー 白、黒 サイズ S、M、L、XL)

〈新作紹介❶〉 It's HOT!

『フィットネストビナワ』
D&M/レッド2,800円 グリーン3,000円 ブルー3,100円(税別)

1本で3役をこなす万能アイテム!

ナント! このフィットネスチューブ、たったこれ1本で、なわとび(持久力)+バランス運動+チューブトレーニング(筋力)の3役をこなすことができる! 健康維持・増進やダイエット、アスリートの運動能力向上と幅広く活用できるスグレモノだ!

〈新作紹介❷〉 It's HOT!

『エクササイズボール』
D&M/3,500～8,500円(税別)

女性に大人気のトレーニングアイテム!

このエクササイズボール、元々は脳性小児麻痺のリハビリの道具として欧州で開発された物で、ボールに座ってバランスをとることにより正しい姿勢が保たれ、腹筋の強化や腰痛改善の効果が得られるため、カラダに無理のないトレーニングができる話題沸騰中のアイテムだ!

	適応身長	カラー
DG-45(45㎝)	150㎝以下	イエロー
DG-55(55㎝)	150～165㎝	レッド
DG-65(65㎝)	165～180㎝	グリーン
DG-75(75㎝)	180～190㎝	ブルー
DG-85(85㎝)	190㎝以上	シルバー

東京イサミ
前田道範店長

「来年1月4日(土)より、新春恒例の福袋をやります! 福袋の種類は、柔術・総合・Tシャツの3種類! どの袋も満足度200%のボリューム感で大放出! 各種とも数量限定ですので、お早めにGETしてください!」

東京イサミ
東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
☎03-3352-4083
通信販売受付
☎03-3295-4450 or 0570-007800
HPアドレス http://www.isami.co.jp/
営業時間/11:00～19:00(火曜、祝日定休)

Et cetra

新春からターザン大炎上！

1月4日（土）、プロレス図書館「闘道館」において、ターザン山本新春トークライブ『新日本プロレス　元気ですか！』を開催！　新春恒例の1.4新日本プロレス東京ドーム大会終了30分後、ターザンがドーム大会をブッタ斬る！　2003年もターザン節大爆発！　これは、もう行くしかないですよぉぉ！
◆日時/1月4日（土）ドーム大会終了30分後に開始
◆場所/プロレス図書館「闘道館」（東京ドームより徒歩5分）
◆参加費/2,000円（要予約）　※ただし「アントニオ猪木営業軍団奮戦記（http://www.inokigun.com）」または「闘道館」で1.4新日本ドーム大会のチケットを購入すると、トークライブ無料招待
◆お問い合わせ/プロレス図書館「闘道館」☎03-3512-2080 http://toudoukan.hoops.livedoor.com/

BCGからホットなニュース！

BCGでは、「正道空手ちびっ子入会キャンペーン」実施中！　ただいま、BCGの正道空手クラスに入会すると、超貴重なプレミアムグッズをプレゼント！　入会月の1カ月間は、正道空手クラスのみでなく、他のちびっ子クラスにも参加可能！　さらに兄弟、親子割引もやっちゃうぞ！　2人以上で入会すれば、2人目以降の入会月月会費を無料サービス！　親子で入会した人も同様に、お父さん、お母さんの入会月月会費を無料サービス！　見学自由で無料体験も行っているので、興味ある人は気軽にBCGへレッツゴー！
◆お問い合わせ/BCG☎03-3560-7911　公式ホームページ http://www.bcgizm.com

▲正道空手で心も体も強くなろう！

プロフェッショナルへの一番の近道！

2月22日（土）愛知・岡崎市竜美ヶ丘会館にて『NEO BLOOD TOURNAMENT及びパンクラスゲート、THE BEST及びTHE BESTフューチャーファイト選考会』を開催！　パンクラスと『プライド』の協力体制により、トーナメント優勝者はもちろん、試合内容によっては、プロへのビッグチャンスが得られるこの大会。プロを目指している諸君、この機会を絶対に見逃すな！
◆主催/CMA　誠ジム
◆協力/（株）ワールドパンクラスクリエイト、（株）ドリームステージエンターテインメント
◆日時/2月22日（土）　試合開始12:00
◆場所/愛知・岡崎市竜美ヶ丘会館（名鉄・東岡崎駅より徒歩15分）
◆試合形式/トーナメント
◆ルール/Aクラス：パンクラスオフィシャルルールにレガース、ニーパッド着用義務　Bクラス：Aクラスルールを掌底で行う　Cクラス：パンクラスキャッチレスリングルール（打撃無し）
◆参加費/5,000円
◆申し込み/氏名、住所、電話番号、希望ルールを明記したメモ書きと90円切手を同封の上、〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25　（株）ワールドパンクラスクリエイト「選考会ルール・申込書希望係」まで送付
◆締め切り/1月31日（金）当日消印有効
◆お問い合わせ/P'sLAB東京☎03-5792-7079

GRABAKA GYM 待望のオープン！

菊田早苗率いるチームGRABAKAが、待望のオフィシャルジム『GRABAKA GYM』をオープン！　先日、12月8日（日）にはジム開きも行われ、芸能界きっての格闘技通である関根勤、自身もP'sLAB東京の会員で、新たにGRABAKA GYMの会員にもなった今田耕司らがお祝いに駆け付け、これからのグラバカへの応援も含めた祝辞を送った。もうすでにジムのほうは、オープン1週間で会員が50名を超え、その内の40％が女性ということで、プロ志望からフィットネス目的まで幅広い層で会員が集まっている。菊田自らの経験が、ジム設立に活かされているので、シャワールームやウェイト器材など設備も充実しているぞ！　ジムでは、現在も会員を大募集！　年内の申し込みは、入会金が半額となるだけに、興味がある人はお早めに！
◆場所/GRABAKA GYM　東京都中野区東中野4-27-26ビューフラット1F（JR東中野駅東口より徒歩7分、営団地下鉄東西線落合駅より徒歩1分、都営地下鉄大江戸線中井駅より徒歩6分、西武新宿線中井駅より徒歩7分
◆入会金/男性20,000円　女性15,000円　高校生10,000円　（ただし年内の申し込みは、入会金が半額）
◆月会費/一律10,000円
◆OPEN18:00 CLOSE22:30（土曜のみ14:30〜21:30 日曜定休）
◆お問い合わせ/GRABAKA GYM☎03-5348-3092

▲待望の道場開きに2人も祝福！　▲これで菊田も一国一城の主に！

破壊王がパチスロ業界に殴り込み！

去る12月12日（木）、東京ドームホテルにてZERO-ONE橋本真也とパチスロメーカーのテクノコーシン・ゼニスによる、コラボレーションパチスロ『破壊王』の発表記者会見が行われた。会見には、メインキャラクターを務める橋本、さらに応援団長としてタレントの勝俣州和も駆け付け、新機種の発表に華を添えた。『破壊王』は橋本本人の声が、ナビゲーションボイスとしてプレイを盛り上げるほか、BGMには入場曲『爆勝宣言』が採用されるなど、プロレスファンにとってはたまらない機種だ！　「絶対に自信がある！」という橋本の言葉どおり、パチスロ業界に破壊の波を巻き起こすことができるのか!?　要注目だ！

▲破壊王に敵はなし！

パレストラから大会出場者募集のお知らせ！

ただいまパレストラでは、1月19日（日）に開催される北九州フリーファイト＆B.J.J.JAM3、1月26日（日）に開催される第5回全日本チーム柔術ジャンボリーの両大会で出場選手・チームを大募集！　日頃の練習成果を試す上でも、この機会にぜひ参加しよう！

【北九州フリーファイト＆B.J.J.JAM3】
◆日時/1月19日（日）　試合開始12:00
◆場所/福岡・遠賀町武道館　第1武道場（JR遠賀河駅より徒歩10分。遠賀町役場隣）
◆内容/①アマ修斗公式戦、②アマ修斗グラップリングマッチ、③アマ修斗体験マッチ、④ブラジリアン柔術マッチ、セミナー：中井祐樹による柔術セミナー
◆参加費/・試合出場のみ　一般8,000円（修斗協会or柔術連盟加盟クラブ3,000円）　・セミナーのみ　一般3,500円（修斗協会or柔術連盟加盟クラブ3,000円）　・試合＆セミナー　一般6,500円（修斗協会or柔術連盟加盟クラブ5,000円）
※試合出場に関して、2試合または3試合出場を希望することも可能。ただし①は1試合のみとする。また2試合以上希望しても同料金
◆申し込み/出場希望者は、参加申込書に必要事項を記入、押印、写真貼付し、参加費同封の上、現金書留でパレストラ東京（〒176-0012　東京都練馬区豊玉北1-6-13カエサル江古田B1-101）まで送付。申し込み期日が迫っている場合、まず電話で問い合わせを
◆締め切り/1月7日（火）必着
◆お問い合わせ/パレストラ北九州（後藤）☎090-9405-7168、パレストラ東京☎03-5984-3209

【第5回全日本チーム柔術ジャンボリー】
◆日時/1月26日（日）　試合開始10:30
◆場所/東京・台東リバーサイドスポーツセンター　3F第1武道場（地下鉄銀座線・都営浅草線・東武伊勢崎線浅草駅より徒歩10分、都バス「東42甲」系統「南千住・東京八重洲口」行きに乗車、「浅草7丁目」下車・徒歩5分、都バス「東42乙」系統「南千住・浅草雷門」行きに乗車、「リバーサイドスポーツセンター」下車）※駐車場なし。車での来場は厳禁
◆競技方法/インターナショナル柔術連盟ルールをベースとした大会特別ルールによる、16チーム（1チーム5人制）の団体戦トーナメント
◆参加資格/・健康で感染症のない18歳以上の男女による5人、または補欠選手1人を加えた6人のチームであること（未成年は保護者のサインが必要）。所属道場の異なる選手によるチーム構成も可。・出場するメンバー5人の合計体重が350kg未満であること。・必ずチーム名をつけること。同じチーム名、または類似の名前があった場合、先に登録したチームを優先
◆申し込み/出場希望者は所定のチーム登録用紙、補欠を含むメンバー全員の個人用参加申込書に必要事項を記入し、押印、写真貼付の上、全員分をまとめて、参加費同封の上、現金書留でパレストラ東京まで申し込み。申し込み期日が迫っている場合、まず電話で問い合わせを
◆締め切り/1月14日（火）必着
◆お問い合わせ/パレストラ東京☎03-5984-3209 FAX03-5912-74180

第14回オープントーナメント2002東日本新人戦空手道選手権大会　結果！

今年で14回目となるオープントーナメント東日本新人戦が、11月24日（日）に埼玉・戸田市スポーツセンターで行われた。各階級の優勝者は以下のとおり。

スピリットカラテA　無差別：林健太（正道東京）
スピリットカラテB　重量級：柴崎剛（正道東京）
スピリットカラテB　中量級：志賀由樹（波立塾）
スピリットカラテB　軽量級：波立章宏（波立塾）
女子　無差別：メリッサディ・パスクワーレ（正道東京）
マスターズ　重量級：吉沢広臣（昭武館）
マスターズ　軽中量級：岩野幸彦（正道東京）
フルコンタクトカラテC　重量級：伊藤学（フリー）
フルコンタクトカラテC　中量級：世良田大吾（正道東京）
フルコンタクトカラテC　軽量級：金井応泰（フリー）

最優秀選手賞　東田真生（正道東京）
技能賞　波立章宏（波立塾）
敢闘賞　島田毅（正道東京）
ベストファイト賞
志賀由樹（波立塾）VS岩槻隆一郎（武心塾）
（スピリットカラテB中量級決勝戦）

▲みんな！　入賞おめでとう！

GOODS & TICKET
ショップガイド

東京イサミ　新宿駅南口徒歩3分

〒101-0061　東京都新宿区新宿4-2-21 相模ビル3F
03-3352-4083
毎週火曜日、祝日定休　営業時間　11:00～19:00

イサミ尚武堂（株）　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町2-18-5 京三会館2F
03-5214-6487
年中無休　営業時間　11:00～19:00

チャンピオン　水道橋駅西口徒歩1分

〒101-0061　東京都千代田区三崎町3-8-1 西田ビル6Ｆ
03-3221-6237
年中無休　営業時間11:00～22:20

書泉グランデ　書泉ブックマート　地下鉄神保町駅

〒101-0051　東京都千代田区神保町1-21-6（書泉ブックマート）
03-3294-0011
営業時間（平日）10:30～19:00（日祝）10:30～18:30

レッスル渋谷　渋谷駅南口徒歩4分

〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル3F
（1F茜屋）03-3464-0078
営業時間（平日）10:00～19:00（日祝）10:00～18:00

ファイター　地下鉄新宿3丁目駅　C4出口徒歩1分

〒160-0022　東京都新宿区新宿3-3-9-B1
03-3354-1903
毎月第3水曜日定休　営業時間11:00～19:00

アイドール　西武新宿駅徒歩5分

〒160-0023　東京都新宿区西新宿7-1-3　加藤ビル4Ｆ
03-3371-5211
毎週月曜日定休　営業時間　11:00～19:00

主要チケット発売所

発売所	電話	発売所	電話
チケットぴあ	03-5237-9999	渋谷東急文化チケットセンター	03-3406-1513
チケットセゾン	03-3250-9999	レッスル渋谷店	03-3464-0078
ローソンチケット	03-3569-9900	レッスル池袋店	03-3989-0056
CNプレイガイド	03-5802-9999	板橋大山アメリカン	03-3962-6443
オデッセー	03-3408-0331	チャンピオン	03-3221-6237
書泉ブックマート	03-3294-0011	フィットネスショップ格闘技	03-3265-4646
後楽園ホール	03-5800-9999		

格闘技オフィシャルホームページ

- K-1　http://www.k-1.co.jp/
- UFO　http://www.ufojp.co.jp/
- 極真会館（松井派）　http://www.kyokushin.co.jp/
- DEEP2001　http://www.deep2001.com/
- アントニオ猪木　http://www.inokiism.com/
- 大道塾　http://www.daidojuku.com/
- パンクラス　http://www.so-net.ne.jp/pancrase/
- UFC　http://www.ufc.tv/index1.asp
- 怪獣王国　http://www.monsterkingdom.com/
- シュートボクシング　http://www.shootboxing.org/
- 日本武道伝骨法会　http://www9.big.or.jp/˜koppo/
- 修斗　http://www.alles.or.jp/˜shooto/index.html
- 新日本キックボクシング協会　http://www1.neweb.ne.jp/wa/kick/
- 全日本キックボクシング連盟　http://www.aj-kick.co.jp/
- J-NETWORK　http://www.kickboxing.co.jp/
- PRIDE　http://www.so-net.ne.jp/pride/
- 高田道場　http://www.takada-dojo.com/
  http://www.takada-dojo.com/i/（iモード用）
- 誠道　http://www.seiken-do.com/
- 全日本新空手道連盟　http://www.shinkarate.net/

私の友人のひとりに吉田豪ちゃ
ちゃんの持論なのだ。
開

宇月田麻裕の 北斗占い®

Mahiro Utsukita

破軍　武曲　廉貞　文曲　貪狼　禄存　巨門

12/26～1/9

★北斗占いとは★

古来インドの「北斗七星の信仰」が中国に伝来し、陰陽五行説と結合。そして、日本密教の1つとして発展していった。平安時代以降は、北斗七星の中の1つの星を、自分の守護星として、除災招福を祈願したものである。
この「北斗七星の信仰」を、宇月田麻裕が「北斗占い」として蘇らせた。
絶好調の星には、吉兆星が輝き、不調の星には凶兆星が現れる。

北斗本命星早見表（ホクトホンミョウジョウ）

貪狼星	巨門星	禄存星	文曲星	廉貞星	武曲星	破軍星
	1959	1958	1957	1956	1955	1954
1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966
	1971	1970	1969	1968	1967	1978
1972	1973	1974	1975	1976	1977	
1984	1983	1982	1981	1980	1979	
	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1996	1995	1994	1993	1992	1991	

★あなたの生まれ年で、本命星が分かります。
例）1972年生まれの人は貪狼星　※節分前の生まれの人は、前年の星になります

貪狼（タンロウ）……社交家タイプ。現実的で、交友関係の幅広く、交際の達人
巨門（キョモン）……研究家タイプ。話術に優れ、研究熱心に取り組みます
禄存（ロクゾン）……経済家タイプ。悠長な雰囲気を醸し出し、経済観念に優れています
文曲（モンゴク）……芸術家タイプ。あなたが奏でる芸術的センスは、全てを魅了します
廉貞（レンテイ）……聡明な自信家タイプ。聡明なうえに実行力が伴い、勝負強いです。
武曲（ブゴク）……権威タイプ。情熱的で、権威を好み、リーダーシップを取っていけます
破軍（ハグン）……個性派タイプ。自立心、独立心があり、劇的な人生を歩みます

破軍星

全体運
意欲的に年末年始を過ごすとグッド。トレーニングに後輩を誘ったり、グループでのレジャーを企画したり……。アクティブになればなるほど、周囲にはあなたが輝いて見えるハズ。それが上司の目などに止まれば大抜擢もあり得そう。

恋愛運
フリーは再会に要注目。そんな人と恋の炎が燃え上がる暗示。同窓会などのお誘いがあったら積極的に参加して。カップルは、プロポーズのチャンス到来。

勝負運
強気に攻めれば勝利の女神は微笑むハズ。

健康運
アウトドアスポーツで体力UPに励もう。

金運
目的を決めると有効にお金が使える暗示。

★ラッキーカラー★
オレンジ
★ラッキーアイテム★
スーツケース
★ラッキースポット★
海辺

武曲星

全体運
抱えていた問題が解決し始める時。ただし、あなたから動くのは状況を悪化させるのでNG。様子を見ながら、うまく周りの人を味方につけていこう。年末年始を過ごしているうちに、いつの間にか好転していた、なんてなりそう。

恋愛運
カップルは、すれ違いが多くなり気持ちが離れてしまう危険。会う時間を作り愛をキープさせる努力をして。フリーは、自然なアプローチが効果的。

勝負運
勝負を楽しむくらい心にゆとりを持とう。

健康運
休みに寝すぎるとかえって体調を崩しそう。

金運
思い出のお金をお守りにすると金運UP。

★ラッキーカラー★
ピンク
★ラッキーアイテム★
財布
★ラッキースポット★
図書館

廉貞星

全体運
吉兆星が輝いています。趣味、スポーツ、何でもOK。プランを立ててどんどん実行に移すことで運気がUP。特に海外旅行にツキがあるので、興味のある国があったらこのチャンスに行ってみよう。あなたの世界も広がるハズ。

恋愛運
あなたと価値観を共有できる、理想の人に巡り会えそう。「この人だ」と感じたら即アプローチ！　カップルは将来の夢を語り合って二人の絆を深めよう。

勝負運
絶好調なので強敵にも勝つチャンスあり。

健康運
腹式呼吸で心身共にリラックスをさせて○。

金運
投資チャンス到来。ハイリターンの期待大。

★ラッキーカラー★
グリーン
★ラッキーアイテム★
年賀状
★ラッキースポット★
神社

文曲星

全体運
2003年のスタートは年末の過ごし方次第。まずは、部屋の大掃除をちゃんと済ませ、人間関係や仕事上のトラブルがあるなら年内に解決しておこう。すると、スッキリした気分で新年を迎えられ、やりたいことが見つかるハズ。

恋愛運
彼女から突然別れを切り出される人も。ショックでも取り乱してはダメ。冷静に対応すれば次の恋は、意外と早くやってくる暗示。フリーは待ちの暗示。

勝負運
自分から動かず待ちの姿勢が勝利への近道。

健康運
カゼ薬を飲む際は副作用に気を付けて。

金運
カードで大きな買物をする時は慎重に。

★ラッキーカラー★
ライトブルー
★ラッキーアイテム★
和服
★ラッキースポット★
スーパーマーケット

禄存星

全体運
凶兆星に苦しめられそうです。大きな夢を抱いて、周囲に話すのはいいけれど、今のところ有言実行になりそうもないみたい。現実を踏まえて、まずはできることから始めよう！　そうしないと、信頼を得られずに孤立する恐れあり。

恋愛運
フリーは、イベントでの出会いの予感。ただし、リサーチ不足だと後で三角関係のトラブルに巻き込まれそう。カップルは、マンネリが原因の浮気に注意。

勝負運
気分が乗らない時は大きな勝負は避けよう。

健康運
疲労回復には自宅でのんびり過ごすのが吉。

金運
うまい儲け話はなし。堅実な預金がお薦め。

★ラッキーカラー★
ホワイト
★ラッキーアイテム★
お守り
★ラッキースポット★
プラネタリウム

巨門星

全体運
新年の好スタートを切るためにも、自己管理をしっかりとしたい時。休みだからといって、ダラダラと過ごしてしまうと後悔することに。趣味やスポーツなど、何かひとつのことにじっくり打ち込むと、充実した時間を過ごせるハズ。

恋愛運
彼女とちゃんと話してる？　会うとエッチばかりじゃ、彼女の気持ちは離れていきそう。相手が何を望んでいるかを察することが、危機を乗り越えるカギ。

勝負運
迷いは禁物。自分を信じて立ち向かおう。

健康運
生活のリズムを崩さないように心掛けて。

金運
予算を決めないと休み中に浪費の恐れあり。

★ラッキーカラー★
グレー
★ラッキーアイテム★
おせち料理
★ラッキースポット★
旅館

貪狼星

全体運
年始から新しいことを始めると運気UP。英語以外の語学や取得者の少ない資格の受験勉強など、他人と違ったあなた独自の視点から、やりたいことを選んでみよう。厳しい時代を生きていくスキルとして将来大いに役立つハズ。

恋愛運
恋のライバル出現でピンチ！　彼女は、あなたの八方美人さやノリの軽さに不満を感じていそう。大切にしてあげないとあっさり乗り換えられる可能性が。

勝負運
数字に関わる勝負でカンが冴える時。

健康運
お正月休みに健康器具を購入して鍛えると○。

金運
臨時収入の暗示。興味のあることに使うと○。

★ラッキーカラー★
イエロー
★ラッキーアイテム★
DVD
★ラッキースポット★
パン屋

宇月田麻裕プロフィール
ヒューマンディレクターとして、ハッピネスファクトリーを主宰。独自の占術「北斗占い」を中心に、TBS「ワンダフル」出演をはじめ、雑誌、webなどで活躍中。NTT Vポータル tel 0570-0033-03「テレフォンナンバー占い」オープン。URL http://www.happiness-f.com/

イラストレーション＝松本晴夫

ザッツ・ムチャリブレ ⑰

山本隆司

松本人志よ悲観することなかれなのだ！

私の友人のひとりに吉田豪ちゃんがいる。売れっ子のライターである。2人して2カ月に1回、新宿歌舞伎町の「ロフトプラスワン」でイベントをやっている仲。

気が合うので私のほうからよく電話をする。その際どんな話をしても会話に無駄がない。こういう友達は非常に貴重な存在だ。

先日、豪ちゃんが大変に怒っていた。なんでも松本人志を取材して原稿を書いたら、本人ではなく吉本興業の事務所の人間が、大幅にチェックを入れて原稿をずたずたにされたというのだ。

それはひどい。ひどすぎる。どの部分を削られたかというと、松本人志が今のテレビ界はつまらない。面白くない。やっていてもテンションが上がらない。

その理由は現場の人たちが、始めからぬるいものしか求めていない。そのぬるいもののほうがなぜか視聴率を取ってしまう。そのため自分がやりたいことや言いたいことが、出せない。求められていない。必要とされていないのだ。

そうすると松本人志の中でストレスとフラストレーションがたまってくる。彼はその不満を豪ちゃんのインタビュー取材の中で思い切りぶちまけてしまった。

その部分がそっくりそのまま削除された。そんなことをされたら豪ちゃんでなくても怒る。吉本興業はアホだ。なんでも松本人志が関西弁できつく言った部分までデス、マスの言い方に変えた。

オイ、オイそれじゃあギャグじゃないか？　吉本興業はお笑いを売っているんだろう？　笑いとは不謹慎なものであるというのが豪ちゃんの持論なのだ。

そうだよ、笑いの基本はそこにある。松本人志の気持ちが私には痛いほどよく分かる。要するに今の世の中、物を作っている側がバカばっかりということである。

テレビ業界、出版業界とどこをみてもみんなそうだ。野心や野望それに志（こころざし）がない。

仕事と生き方の両方のハードルを、始めから低い位置に設定しているのだ。まったくなめた野郎たちである。こうして世の中の民意はどんどん落ちている。

もはや絶望的状況である。松本人志の周りには、もう自分のことを分かってくれる人間がいなくなった。正しく評価してくれる人もいない。さびしいとかむなしいというよりも、バカバカしい。

やってられない。ふざけるなよという感じになる。そこから私は「心はマイナーパワー」「気分は辺境の思想」という発想をするようになっていった。

どういうことかというと、ポジションは常に社会の中では、はしっこのほう。しかしいつも引き金に手を当てて、敵となるべきものにぴたっと標的を定めている。

いつでも撃てる状態にあるということである。同志は2、3人でいい。少数派の中にしか時代の真実は眠っていないからだ。

松本人志よ、悲観することはまったくない。下ではなく上を見て生きろ。必ず自分のことを分かってくれる人間が、この宇宙にはひとりはいるからだ。

ひとりで十分。ひとりでもいればしめたもの。そう考えて生きるのが、最強の辺境びとなのだ。■

はみ出し ターザン情報 ターザン山本の「一揆塾」塾生募集中——大好評の「一揆塾」は、現在、毎週木曜日の19:30～21:00、場所は水道橋の闘道館で開講中。お問い合わせは☎03-3512-2080

〜お客様は神様です〜

あぶもぐ 五月場所 7日目

ABNORMAL★MOGUTAN

親方◎小松モグタン

「安田の詩」

安田顔

今宵その身に纏うのは
三百万円荒鷲ガウン
猛爆突進ギロチンチョーク
瞳を閉じれば聞こえて来るぞ
K―1戦士にぶちかませ
古舘伊知郎名調子
いかなる事があろうとも
猪木軍団の灯を消すな
闘う人生劇場
破滅型ギャンブラー
安田忠夫
暮れのリングに仁王立ち

◀去年の今頃はこんなことをしていた、魔界倶楽部入り前のヤスティ。今年の大晦日もあんたにくれてやる!

面白いハガキを発見しました。こちらの内容です。「毎週楽しく読んでいます。ターザン山本の弟です。兄が載っているので、たいへん嬉しいです。（山本幸生・山口県岩国市・52歳）」。なんと、本物の山本さんの弟さんだそうです。読プレでお兄さんの本を希望しておられました！　さっそく、山本さんが送ったようなので、ご安心ください！

にらめっこしましょ さっぷっぷっ。

（ペン獣やざま優作・東京都小平市・30歳）

王道社長

（長南憲司・千葉県流山市・？歳）

吉田、今度はプロレスで勝負だ!!

（向野征雄・福岡県小郡市・18歳）

◆スキンヘッドの選手と坊主頭の選手を並べてみました。親近感が沸くな！

12月7日、東京ドームK—1決勝戦は従来のK—1、いや昭和のプロレスをも超えていました！　昭和のプロレスで私が最もショッキングだった試合は、蔵前で猪木がホーガンのアックスボンバーで失神した時でした。その後、猪木がリベンジ戦に挑むのですが、あれこそが昭和プロレス最大のリベンジ戦ではなかったのかと思います。猪木がホーガンにKOされた時、我々プロレスファンは新日、いや日本のプロレスそのものが終わってしまうのではないかと危機感を覚えたものです。しかし、猪木のリベンジ戦で〝長州乱入〟という〝神のいたずら？〟によって猪木がホーガンに勝利したことで、かろうじて新日、日本のプロレス、そして我々ファンも救われたのです。今回のホーストのリベンジ戦も、まさにあの猪木VSホーガン戦の流れそのものだと思います。ホーストも猪木もアメリカからやってきた荒くれ者に初戦で壮絶なKO負けをしてしまうが、リベンジ戦で猪木は長州に、ホーストはサップ負傷で救われる結果になりました。あの時の猪木は、自ら新日復活を体現化し、K—1石井館長も今回一度壊したK—1をホーストという分身によって、さらに進化させることができたと思います。K—1というリアルファイトで今回のホーストVSサップ戦で生まれた感動やドラマを見ると、やはりK—1は昭和プロレスを超えたと実感します。

今年のベストバウト

①立ち技
ジェロム・レ・バンナVSゲーリー・グッドリッジ
ジェロム・レ・バンナVSドン・フライ
ボブ・サップVSアーネスト・ホースト

②寝技
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラVSボブ・サップ
田村潔司VS髙田延彦

③極真
木山仁VS田中健太郎

（池田・東京都杉並区・38歳）

◆昭和のプロレスファンの心にビンビンと伝わった今年のK—1決勝戦。いろいろ、ベストバウトを挙げてくれてありがとうございます。

（本橋秀直・東京都羽村市・15歳）

格闘技界がサップ中心ってのがうぜえ。ノゲイラに負けているから、ノゲイラ中心だろう。また、中迫にも負けているし。ホーストの優勝を納得していない奴がいるが、去年のハントもセフォーに負けてんだぜ。まあ、角田さんのレフェリーはとても良かったな。サップは、スティーブ、ノルキヤ、トムソンなども仲間につけやがって。来年はミルコがサップを倒す。何がビーストや。

（小倉・岐阜県可児市・18歳）

◆珍しいアンチビースト派！　「うぜぇ」ときやがったな、コノヤロウ！

俺は大の格闘技マニアでありながら『プライド』出場を目指す、アイ・アム・アマレスラーだ。俺は久しぶりに怒っている。ターザンに対する皆の評価に。俺にはあのハゲオヤジにまったく凄味を感じねぇぞぉぉぉぉ!!　P・S・武藤Gショック、ただでください。

（アイ・アム・アマレスラー・？歳）

◆編集部で一緒に寝泊まりすれば、嫌でも凄味を感じられるぞ！

ホースト4度目の優勝に大興奮したので、深夜のスポーツニュースまで観てしまいました。アナウンサーに「次はサップ選手にリベンジですね」とふられたホーストは「リベンジしてくるのはサップのほうじゃないかな」と王者のコメントをしていました。くーーーーっ。あんた男だよ。

（春名義行・兵庫県明石市・36歳）

◆ホーストは男の中の男だ！

K—1準決勝、バンナVSハントの記事が面白かった。総合に進出させたり、サップと対戦させたりすることで、ハントは来年再ブレイクしそう。レポート記事にあるとおり、キャラも抜群だし。今号のあちこちで触れられる髙田VS田村戦の余韻がK—1グランプリの衝撃に凌駕され、完全に印象を薄くしてしまった。格闘技界の流れの速さを感じずにはいられない今号でした。

（長瀬一樹・東京都板橋区・27歳）

◆K—1で一番ファットな男は使い勝手がよかった！

K—1ワールドGP2002決勝戦。まさかのホースト逆転優勝！　今年のK—1はまさに爆発した1年でした。ターザン山本さん、これからもプロレスをビッシビッシ斬ってください。

（中川潤・東京都板橋区・34歳）

◆ビッシビッシどころか、ズタズタにしているよ！

数見肇の極真の脱会記事は単に知らなかったことなので、面白かったです。K—1ワールドGPの武蔵、大負けの橋本さんの書いたところは読んでいて面白かったです。

（石川仁子・東京都東久留米市・25歳）

◆極真といえば数見より先に極真を出た小笠原和彦先生がプロレス大賞の新人賞を受賞！　先生、次は車飛びに挑戦して！

★作品募集

『あぶもぐ』では、読者の皆さんからのお便りをお待ちしております。相撲関係オンリーと言いたいところですが、べつになんの作品でも結構！　質問もOK！　強烈なぶちかましをお待ちしております。

あて先

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3-14-12神田NSビル8F
SRS・DX編集部『あぶもぐ』係

覆面 裏座談会 プロレス版 第4回

オイ、本当に出たよ『ここが変だよミスター高橋!』

X おい、前号でも言ったが、あのターザン山本が本当にミスター高橋の『マッチメイカー』への反論本を出したよ。『マッチメイカー』ってたしか12月の初めに出された本だろう?

Y それなのに12月の中旬には、すでに〝見本〟ができたという話だぜ。

Z ということは2週間も経っていないじゃないか? なんでも本人は「わずか11日で作った」としきりに自慢しているという噂を聞いたけどなあ。

X 自画自賛タイプの男だから、さぞや英雄気取りなんだろうなあ。

Y しかしさあ、普通そんな短い時間で本は作れないよ。糖尿病で体調が良くないという噂もある。

Z へえ〜、そうなの。あの世代、50代の親父連中はさあ、矢沢永吉もそうだけどトシをとってるくせに妙なパワーとエネルギーを発散させているんだよな。

X まったくいやな世代だねえ。年寄り臭くならないのは、いいんだか悪いんだか。それで肝心の『ここが変だよミスター高橋!』の本の出来はどうなの?

Z それがさあ〝やっつけ本〟にしてはこれがなかなかよくできている。ターザンは『マッチメイカー』の表紙をボロカスに批判していたけど、こっちの表紙もちょっとねえ。もっと下品にすればいいのにさあ。色が上品すぎるよ。

X それは言えるな。表紙には人一倍こだわるターザンも、あの表紙には合格点はやれない。なんかさあ、淡泊なイメージがする。減点材料だな。

Y でも、オビの「Mr.高橋に告ぐ。お前こそカミングアウトしろ!」というのには笑ったな。あれは傑作だよ。

Z 高橋は何をカミングアウトすればいいんだよ。ターザンは面白いなあ。

Y 要するにさあ、中身を読んでみると『マッチメイカー』という本をターザンが全部、添削しているんだよな。字の間違いなどを引っ張り出して「ここが誤認だよ『マッチメイカー』」というところは笑えたなあ。思い切り大笑いしたよ。

X あれをやられたらミスター高橋もお手上げだろう。とにかく本文中に事実と字の間違いが多すぎた。致命的だな。ターザンに突っ込まれても仕方ないよ。

Z それならさあ、ターザンの文章だって、支離滅裂だよ。「ここが変だよターザン山本」という本を、出してもいいんじゃないの? これはいけるよ。ウン。

Y そりゃあ無駄だよ。だってターザン自身が「オレは矛盾の産物。つじつまなんて始めからあっちゃいない。だからオレの過去の文章について、あれこれ言うな」と言っているんだから。

X そういうところが都合よくできているんだよな。どう、この本、売れるの?

Z 便乗商法に乗って柳の下の二匹目のどじょうをめざしたが『マッチメイカー』のほうが、パッとしないんだろう? そうなるとターザンの二匹目のどじょう狙いは、当てがはずれたかもね。

Y 一つだけ評価するとしたら、暴露には暴露、スキャンダルにはスキャンダルを、毒には毒をもって制すというやり方は、たいしたもんだよ。マスコミ人としては見習わないとね。ところでターザン

ここが変だよ ミスター高橋!
ターザン山本
Mr.高橋に告ぐ
お前こそカミングアウトしろ!
byターザン山本

▲ターザン山本が問答無用で『マッチメイカー』をブッた斬っている『ここが変だよミスター高橋!』は現在絶賛発売中。ピーターにはターザンの呼びかけに応えて、ぜひともカミングアウトしてほしい!

の仇敵、長州力はどうなの?

Z 新しいことをやるって、そういうこ

それも2人とも50歳の時なんだよ。ター

ロレス関係者やレスラーは、どういう気

来年3月1日、ノア、WJプロレス、K—1 MAXがなんと同日興行戦争に突入！

3月1日に横浜アリーナで旗揚げされる長州力の新団体WJプロレス。ノア、K—1 MAXとの三つ巴の興行戦争に打ち勝つ秘策はあるのか？　〝背広レスラー〟永島勝司専務取締役と谷津嘉章の頑張りに期待だ！

Ⓒ 新大阪新聞社

の仇敵、長州力はどうなの？

X　ああ、例のWJプロレスのこと？　見た、見た、スポーツ新聞の広告さあ。来年の3月1日、横浜アリーナ大会のチケットを、もう先行発売で売り出し中というヤツ。まだ、ずいぶん先のことなのに、今頃から売り出してどうするの？

Y　それよりあのWJプロレスの新聞広告のデザインは、まるでパチンコ雑誌みたいだった。プロレスのチケット広告であんなデザインなのも初めて見たよ。

Z　新しいことをやるって、そういうことじゃないよな。

X　というよりも長州がまたサイパン合宿に行って、取材に行ったマスコミは『週刊ゴング』だけだって？

Z　エ、それ、ホント？

X　普通、東スポ（東京スポーツ）は行くよな。ええ、東スポは行かなかったんだ。どうしちゃったの？

Z　まあ、『週刊プロレス』はサイパンには行かないよな。今まで長州力は週ゴンが独占してきたので、彼らのプライドからいっても、今さらのこのこ週プロは長州のサイパン合宿には行けないよ。行かなかったのは正解だった。

Y　こういう時、ツケがまわってくるんだよ。長州は新日本プロレス時代、マスコミには偉そうにしていたし、取材といったら〝GK〟金沢編集長だけに独占取材させてきたわけだろ。

Z　だからさあ、威張り散らしたらだめなんだよ。自分が新団体を旗揚げした時ソッポ向かれちゃうんだよ。ターザン山本なんか、そのことについてどう思っているんだろうか？

X　決まっているじゃないか？　ざまあみろか、自業自得と言っているよ。あの人は〝怨念〟の人だからね、サイレントリベンジに燃えているんだから。

Z　絶対に「最後は俺が勝つ！」と言いふらしているそうじゃないか？

X　だって会社を辞めたのはターザンのほうが長州より6年先輩、早いんだよ。それも2人とも50歳の時なんだよ。ターザンは長州に取材拒否をされ、一時は地獄に叩き落とされたけど、なんだかんだいって、しぶとく生きているよな。

Z　あの親父に近付いたらみんな人生が狂うという話だろ。長州もえらい人間とエンドレスの闘いをやっているよな。

Y　それより来年の3月1日は、ノアも都内でビッグマッチがあるって？　なんでも日本武道館らしい。

Z　じゃあ、興行戦争だ。

X　それだけじゃないよ。K—1 MAXの中量級の日本人選手の大会も、3月1日、有明コロシアムだと聞いたよ。

Y　あれ、三つもビッグマッチが重なっているのか、そりゃ大変だあ。

Z　3月の話か？　来年のことなのになんだか、すぐそこみたいな感じになってきた。プロレスの仕事にかかわっていると、時間が速く過ぎていくよな。

X　それにしても今年の日本の冬は、ちょっと空気が冷たすぎるんじゃない？　晴れた日が少ないし最悪だね。

Z　いやあ、ホントに寒いよ。今年といえば東スポ大賞が発表された。MVPがボブ・サップとはねぇ、東スポも変節したということだろう。

Y　あれでプロレス業界も一巻の終わりだな。だってさあ、ボブ・サップひとりにやられたわけだからね。

Z　そう、象徴的な出来事ととらえたほうがいいよ。1月4日の表彰式の時、サップが真ん中にいるんだよ。その時、プロレス関係者やレスラーは、どういう気持ちでそれを見るのかなあ。

X　挫折感しかないよ。オレたちの時代は、もう終わったと。元子さん（馬場元子）は功労賞か？　元子さんは全日本プロレスから手を引いてよかったよ。

Y　すっきりしたんじゃないの？　それに比べて全日本の社長になった武藤は苦しいだろうなあ。もともと社長のタイプじゃないんだし、社長の座なんか引き受けちゃだめなのに……。

Z　社長がどういうものなのか、何も分かっていなかったから「ハイ！」といって社長になったんだよ、プロレスラーって所詮そんなもんなんだよ。

X　もう全日本の内部はおかしくなっているという噂を耳にしたよ。

Z　そんなもの新日本育ちの者と全日本育ちの者が、うまくやっていけるわけないだろ？　全日本は馬場さんの一代限りの団体なんだから。もうあそこは会社名を「W—1」に変えて、出直しを図るしかない。どう、思う。

X　それしかないよな。

Z　来年のプロレス界は団体にとって受難の時代になる。受難だよ、受難。

X　海の向こうのWWEだって客足が落ちているというじゃないか？

Y　どうするんだよ、みんな？

X　暗い話が多すぎたな。いい話はないの？　ないか？　さびしいなあ。

Z　ボブ・サップみたいな救世主が日本人の中から出てくれればいいんだよ。■

限りない夢へ、これが第一歩
ライカ、『世界一』を勝ち取る

撮影◎菊地奈々子

試合後のライカの左目は完全にふさがっていた。しかし、少女時代をすごした孤児院の子供たちから贈られたガウンを羽織って、喜びにむせんだ

★第4試合・メインイベント/WIBA世界フェザー級タイトルマッチ（2分10R）

○ライカ（10R判定2-1）シャロン・アニオス●

〈挑戦者＝日本/山木ジム〉　〈王者＝オーストラリア/コンバットドームジム〉

※採点…98-97、98-99、99-98

しかし、よくぞここまで来たものだ。女子ボクシングが北沢タウンホールで産声を上げたのは2年半前。収容人員500めいっぱいのあの会場でこそ、やがて人で埋まり、熱気を呼ぶこともできた。だが、今や代々木第2である。入りが寂しかったのは仕方ないが、インパクトは確かにあった。なにせ、報道件数は124。天下のNHKはじめ、在京キーステーションはひととおり取材にやってきた。朝日新聞も来た。児童虐待防止キャンペーンに絡んで、特別セッションを組んだ人気ラッパーたちのライブが同時に行われたのも関心を呼んだ一因だろうが、それにしても段違いのアピール度である。

一般マスコミをこれだけ引きつけることができたのは、彼女たちの真摯な闘いである。大変な流血戦となった菊川未紀VS土田奈緒子戦は、ハイテンポな攻防が交錯する稀なる好試合だったし、山口直子の爆発力も光った。右腕骨折をおして出場の八島有美も苦闘を制した。しかし、最大の注目がライカVSシャロン・アニオスの『女子世界タイトルマッチ』であることは言うまでもない。

挑戦者のライカにとっては、これがたったの10戦目。女性に対して妥当な表現かどうか分からないが、まさに『男勝り』の豪打が魅力である。ただし、この4月、IFBA王者レイラ・マッカーターに技術の差を見せつけられて初黒星を喫しているように、まだまだ成長過程にある。ここ最近は畑山隆則の指導を受け、時

『美しき野獣』アニオスの猛攻しのぎ

日本女子ボクシング協会
FIGHTING GIRL RT.4
12.18★代々木第2体育館

『美しき野獣』アニオスの猛攻しのぎこのパワーできわどく競り勝つ

急成長の影にはこの男あり 畑山隆則がライカを世界王者に育てた

ライカのコメント

「まだ実感は湧かないけど、やはり嬉しいです。(アニオスの攻撃は)パンチよりバッティングのほうが効きました。本当はKOを狙っていたんだけどできなくて……。とにかく支えてくれたみんなのためにも、最後の最後まで出し切ろうと、意地で闘い抜きました。シャロンとは再戦になると思うけど、今度はKOで勝ちたいです」

▲コーチ役の畑山隆則は、セコンドとしてライカを勇気づけた

▲ライカはそのダイナマイトパンチで何度かチャンスを作りかけたが、後続の攻撃がない

▼アニオスの右アッパーカット。このパンチは最後まで脅威だった

▼試合は混戦に終始した。ライカが常に勇敢に闘ったのは確かだ

▲日本フライ級王者、八島有美(ゴールドジム横浜馬車道)は右腕負傷をおして出場。ニッキー・カビロ(オーストラリア)に苦しみながらも後半戦に力の差を見せつけて3－0の判定勝ち

▶菊川未紀(桶狭間ジム)と土田奈緒子(入谷ジム)の実力者同士の一戦は大変な流血戦。菊川の鮮やかな技巧が光って2－0の判定勝利を収めたが、ジャッジの1人は60－60。とんでもない判定だ

うに、まだまだ成長過程にある。ここ最近は畑山隆則の指導を受け、時には実地にグローブを交えているというが、数カ月で一気に世界レベルの力を勝ち取れるほど、ボクシングは甘くはないはずだ。

一方、本来ならこのライカと3カ月前に対戦予定だったアニオスは14戦不敗。こちらも強打で鳴る。ついでにモデルとしてセクシーショットを公開するほどの美人ときている。ライカも苦戦は免れまい。

ふたを開ければ、やはりアニオスの積極的な攻めから目に入る。初回、ライカの右クロスで後退する場面もあったが、あとは常に先手を取って闘いを仕掛け続ける。そのパンチは力に頼り気味で、それほど威力はないが、とにかく数が多い。一方のライカがカウンターを狙いすぎているのか終始、後手に回り、なおかつ単調な攻めで、よけいにアニオスの攻勢が目立ってしまう。

中盤戦になって、ライカの強打も当たるようにはなったが、どうしても単発に終わる。その上、2Rにバッティングされて腫れ始めた左目が7Rあたりから完全にその視界を遮るようになり、いよいよ苦しい。最後はまるで泥沼のような混戦の中で試合終了ベルを迎えた。

もし、世界標準の『ラウンドマスト・システム』で各ラウンドごとに優劣を採点されていたら、判定は違ったものになったのかもしれない。しかし、勝ちは勝ちである。勝てば、ライカ自身、確実に明日につながる。

「主要4団体のベルトを全て奪ってフェザー級王座を統一したい」

ライカの野望とともに、日本の女子ボクシングも第一歩を印したばかりである。

(宮崎)

SRS・DX EDITOR'S TALK 裏事情

編集部トーク

格闘技界パニック！

A 2002年のマット界をここでもう一度総括してみよう。2002年のマット界はK—1と『プライド』が交流し始めたことで、空前絶後の他流試合が繰り広げられ、名勝負のオンパレードが見られた幸せな1年だった。吉田秀彦という大物がプロデビューし、ボブ・サップというスーパースターも生まれたしね。

B 2002年はその意味で『Dynamite!』が生まれた年だよ。その対極として『WRESTLE—1』が生まれた。この2つのイベントの誕生が全てのジャンルをリセットした気がする。これからは『Dynamite!』と『WRESTLE—1』の時代に必ずなると思うよ。

C K—1が今、一番世間に届いていて、東京ドームに過去最高の7万4500人を集めたり、視聴率28・4%という驚異的な数字をマークしたけど、それも明らかにK—1VS『プライド』や『Dynamite!』があったからですからね。単なるボブ・サップ人気だと思ったら大間違いですよ。

B それは12月31日の『イノキ・ボンバイエ』のチケットが予想以上に売れていることから見ても明らかだよ。絶対にこの流れが、ひとつの生態系の変化としてファンは敏感に察知している。俺は『イノキ・ボンバイエ』だけはもっと苦戦すると思ってたからなぁ。去年、あれだけ期待感が膨らんだ『イノキ・ボンバイエ』より、売れ行きがいいなんて信じられない。視聴率もかなりいい数字が出そうだ。

チケット会社が倒産？

A しかし。その反面『Dynamite!』や『イノキ・ボンバイエ』のようなビッグイベントをやると、ファイターのギャラが高騰するという弊害が出てくる。これは真剣に考えないと、もう格闘技イベントなんて開けなくなるよ。だから、石井館長がミルコを一時的にホシたのは大正解。結局、こうしたビッグイベントを開いても得するのはファイターだけなんで、来年以降はコントロールのできなくなったファイターは、どんどんホサれるだろうね。

C それと、格闘技系のファイターが『WRESTLE—1』でプロレスに対しても興味を持ち始めているのも新しい傾向ですね。ボブ・サップが「ホーストよ、出て来いっ！」と挑発しているんですけど、あのホーストが本当に出て来るなんてことが、まさかあるかもしれない。

B そう言えば、武蔵が「さたやんVSブッチャー」を見て、「僕のほうがうまい」と言ってたとか（笑）。もしかしたら、「むさやんVSブッチャー」が実現するかもしれないね（笑）。

A まあ、『WRESTLE—1』は、どれだけ格闘技のできないことをやるかがコンセプトで、これからはどれだけ完成度を高めていけるかがポイントだけど、1・19東京ドーム大会はWWEとの全面戦争になるんで、かなり気合いを入れてくるはずだよ。

B そうそう。そのWWEで思い出したんだけど、格闘技系に強いチケット販売会社が資金繰りに失敗して、支払いができなくなっているって大騒ぎしているらしい。なんでも5億円近くのチケット代金が主催者サイドに支払われず、みんなまっ青になってるらしいよ。

A ああ、それは聞いた。K—1も『プライド』も、『WRESTLE—1』もWWEも、みんなそのチケット会社を使ってたらしいね。なんか大パニックになってるとか。

C 回収はできないって、ことですかねぇ……。

A いやぁ、難しいだろうなぁ。まあ話を元に戻すと、来年はやっぱり『Dynamite!』のような大きな他流試合イベントが核になるだろう。それと興味深いのが新たなファンタジーファイトの『WRESTLE—1』。その一方で、既存のプロレス団体はますます窮地に追いやられると思うんだ。

B 新日本プロレスの1・4東京ドーム大会も必死だからねぇ。今のところ永田裕志VSジョシュ・バーネットしか煽るものがないんで、「これでもか」という感じでプロモーションを展開している。実際、どれだけ効果があるのか分からないけどね（笑）。

C もうひとつ来年、気になるのは『プライド』ですよねぇ。『プライド』と言えば、プロレスVSグレイシーを基軸とした他流試合がメインコンセプトだったんですけど、『Dynamite!』のような巨大イベントが出現すると、インパクトがどうしても薄くなる。

A そうだね。だから来年の『プライド』は純『プライド』路線を敷き、〝競技〟としての完成度を高めていくしかないよ。髙田延彦の引退は、その意味で本当に転機になったね。

B でも純『プライド』路線になるとしても、決してスケールダウンすることもない。『プライド』が〝競技〟として歩んでいくなら、K—1のように〝グランプリ〟を開けばいいわけだからね。来年から『プライド』は、K—1のように〝グランプリ〟がドラマのクライマックスになると予言しておくよ。■

編集後記

◎最近、昼飯を食べに行くついでに、会社の近辺（神保町）を探検するのが、日課となっているのだが、先日ついに銭湯を発見！　後日、徹夜明けを利用し、潜入を試みた。東京に来てはや5年。これが銭湯初体験となるボクは、さっそく“電気風呂”なるものにトライ！　しかし手を入れた時点で、ほんとにカラダにピリピリ電気が走るのにビビってしまい、あえなく断念。“電気風呂”克服が来年のテーマか!?（佐藤）

◎１２月１５日、久しぶりにＺＥＲＯ−ＯＮＥを取材。お目当てはもちろん、“マット界一ファットな男”マット・ガファリだ。みっともないと思いつつも、あの見事な太鼓腹には思わずため息が出てしまう。ところで、日本人では髙田道場の今村雄介なら“和製ガファリ”になれると思うのだが、どうだろうか。あのまん丸な体型にはその可能性が十分ある。ぜひ、今村プレスを１・１９『Ｗ−１』で見たい！（小松）

◎マット界以外での、僕にとっての今年最大の事件は消しゴム版画家のナンシー関さんが亡くなったことだ。一面識もなかったけど、学生時代から“モノの見方”に関してとてつもなく影響を受けた。これまでずっと、考え方の方向性をナンシーさんの文章を読みながら確認してきたって気がする。今は単行本未収録の原稿が本になっているが、それもいつかなくなるわけで……。正直、かなり途方にくれている。（橋本）

◎年末年始の楽しみなイベントの一つに、柔道の嘉納杯国際大会がある。この大会は2年に一度行われるのだが、来年が開催年で1月11日、12日の両日、日本武道館で行われる。ボクが特に注目しているのは100キロ級の井上康生と90キロ級の矢崎雄大。この2人はいつでも一本を取りにいく、実に気持ちのいい柔道をするのだ。井上は初日、矢崎は2日目。でも、貴重な休日……、またカミさんに怒られそうだ。（林）

◎今年は前半がミルコと高山善廣、後半がボブ・サップと吉田秀彦が引っぱった一年だった。ミルコと高山はマッチメイクによって、誰もが化けるチャンスがあることを証明し、サップは世界にはまだまだ埋もれた逸材がいることを、そして吉田はアマチュア格闘技界が可能性を秘めていることを証明した。来年はこの4人以外のまったく新しいヒーローを生み出すこと。それが私の仕事だと思っている。（谷川）

◎12月13日、IBJ（インタナショナル・ビジネスジャパン）の人たちが社長、副社長を含めて8人、大挙して私の家を夕方、急襲した。この編集後記でちゃんこ鍋食べたい人、この指止まれといったら、本当に手を挙げて来てしまったのだ。いっさいの材料は向こう持ち、私は彼らを迎え入れるため昼から家の大掃除をするはめに。あれはさぁ社交辞礼のつもりで書いたのだが、そこを突いてきたIBJは凄いよ。（山本）

発行・発売：株式会社扶桑社
〒105-8070　東京都港区海岸1-15-1
☎03-5403-8859（販売）
協力：フジテレビジョン／フジテレビ出版

株式会社ローデス
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル8F　☎03-3295-4445（編集）

発行人：溝賀主水　編集人：谷川貞治
DESIGNER：梅村あゆみ、水町由美子、su・plex、溝口真穂
小林善夫、2in1、ナール企画、NORTON、のじ

貴方の人生が好転し強運に!!

魔霊寿（マレイジュ）に秘められたパワーが貴方の隠された本来の潜在能力（意識）を最大限に引出し現実となります。さらに人に教えると開運法はさらに増していきます。

～人生の羅針盤、魔霊寿でHappyな人生を～

「昔はプー太郎!今は売り出し中のグラビアアイドルで…♥♥」

吉本ゆかり（19歳）・ローズクオーツ・タイガーアイ購入

恥ずかしいけど私、昔は高校もろくに行かず、毎日渋谷をブラついているような生活をしてました。もちろん将来のことなんて全く考えていなかったんですけど…そんな時このマレイジュの広告を見たんです。他のモノとはちょっと違ってオシャレだし、とにかく直感的にカワイイなんて思って、マレイジュ・ローズクォーツを高校最後のお年玉で買ったんです。購入してすぐに、いつものように渋谷の街をブラついてると、いきなりスカウトされました。デビュー以来約4カ月、雑誌や写真集等の仕事も順調に入ってきはじめた今年9月、ある特番の仕事が入ったのです。そこで私は昔から憧れていて、今テレビや映画で大活躍中の人気若手俳優、H.Iさんに声を掛けられたのです。「あれ、それってマレイジュのローズクォーツ?」「俺も持ってるんだよね」って…それがキッカケで収録前の空き時間や休憩時間に話しが弾み、そして収録後の打ち上げパーティーで、食事に誘われちゃいました♥。（高級フランス料理だよ! ）その後、二人が親密な関係になるのに時間はかかりませんでした。今では彼の力もあって、お正月のドラマや夏の映画等仕事も恋愛も順調すぎて恐いくらいです。あの時、マレイジュを買ってなかったら今でも渋谷をブラついている毎日をおくっていたと思います。本当に人生の羅針盤マレイジュを持つことができて感謝しています。いまではマレイジュなしでは生きていけなくなりました。

本　名／吉本　優美子
生年月日／1983年5月14日
血液型／A型
出身地／東京都
現在グラビアアイドルとして雑誌やテレビで活躍中!!

現役グラビアアイドルも御用達の逸品!!

借金生活が一変!!　毎晩スナック通いの生活に!!

息子が会社を作るって言うからのう、自宅の土地・建物を担保にして銀行からお金を3,000万円借りてやったんじゃ。勿論、連帯保証人にもなっておるんじゃがのう。この不景気で、息子の会社は倒産、土地・建物は銀行に差し押さえられ、楽しみの年金まで、銀行に押さえられて散々じゃった。そんな時、雑誌でマレイジュの広告を見てのう、藁にも縋る思いでタイガーアイを買うたんじゃ。ある日、友人から借りた1万円でのう、宝くじを購入したら1億円当たっておって腰をぬかすかと思ったんじゃ。今では借金も返し、自宅も銀行から取り戻すことができ、毎晩その友人と若いお姉ちゃんのいるスナックで飲み明かす毎日!今度はヘマタイトを買うたろうと思ちょる。

広島県 呉市
沖田さん（75歳）
タイガーアイ購入

『伝説のギャンブラー』のベンツ購入の秘密はマレイジュにあり!!

ほんとうにこのマレイジュは効くから、あまり言いたくなかったけど、人に言うと効果が増すと言うので、今回は特別に教えます。ギャンブル好きで仕事もいい加減。借金の取り立てに追われ家や実家にも帰れず…そんな時見かねた妻が渡してくれたのが、アベンチュリンでした。身につけて数日、なんとなく入ったパチンコ屋で10万の大勝ち!!それを元手にオートに挑戦!!荒れ模様のレース展開をものの見事に全レース的中させて、1日で約1,000万円近い大金をゲット!!借金の返済も終了し、今ではパチンコとオートレースで勝ちまくった大金でベンツを購入。まだまだ勝ちまっくっているのでしばらくは「伝説のギャンブラー」で食っていくつもりです。本当に有り難うございました。

埼玉県春日部市
掘田さん（27歳）
アベンチェリン購入

信じていなくても…救われた やっぱりマレイジュってすごい!!

東京都杉並区在住 大川早苗さん（25歳）
ローズクオーツ・タイガーアイ
ヘマタイト・アベンチュリン購入

私はどこにでもいる普通のOLで、毎日平々凡々と暮らしていました。強運とか開運だとか全く興味がありませんでしたが、ある雑誌の占いコーナーに私のラッキーストーンがヘマタイトであると書いてあった事と、かわいらしいデザインだったのでヘマタイトを購入してみました。数日後、運は試しで初めてミニロトを購入し、それがナント¥843,680の大当たり！そのお金で前々から欲しいと思っていた最新のシャネルのバックを買ってしまいました。（送付した写真のものです。）"これは効く"と思い、欲深い私は、ローズクオーツ・タイガーアイ・アベンチュリンと思い切って全種類購入！それからというもの、インスタント宝くじのスクラッチカードで1等の100万円が当たったり、1年近く彼氏がいなかったのに、会社で1番人気のイケてる男性に告白されたり、本当にイイことづくめで感謝・感激です。このお正月には、クリスマスプレゼントをかねて彼氏をハワイ旅行に連れて行ってあげる予定です。本当にありがとうございました。

マレイジュが貴方の運命に光をもたらす!

水晶パワーでダブルの効果

水晶との相性バッチリ、これがマレイジュ効果の秘密!!

ローズクオーツ	ローズクオーツは女性の美・魅力を象徴し、恋愛・結婚の成就や復活愛・ダイエット・美容にとても効果を発揮する石と言うことが亜細亜石力研究所の調査で判明致しました。
タイガーアイ	タイガーアイは水晶の変種で全世界に珍重される石で、金運を底上げし、生活向上・金銭感覚も身に付くと言われています。また、洞察力、頭脳明晰にし、成功へと導く石と同研究所から報告されました。
ヘマタイト	不透明でメタリックな光沢が特徴のヘマタイト。ヘマとはギリシャ語で血を意味し、この石を持つと自分の血を永遠に絶やすことがないと言われ、より優れた子孫を残すための直感力を導く石と同研究所から報告されました。
アベンチュリン	アベンチュリンはギャンブル・ビジネスに福を呼ぶとされています。また、精神を安定させ、ストレス・対人関係・身体の活性化を促すと同研究所から報告されました。
クリアクオーツ	クリアクオーツは別名で水晶とも呼ばれ、古来より世界各国で信仰されてきました。貴方のエネルギーの源となり、夢の実現をサポートし、潜在能力を効率よく発揮させると同研究所より報告されました。

恋愛運に効果発揮!!
●ローズクオーツ

日本名で、「紅水晶」と呼ばれている、クリスタルに属する石です。美と愛を象徴する石として、古代エジプトやローマでは用いられていました。この石を身につけると、思い続けている異性に穏やかな癒しの力が働き愛を喚起します。また、愛をはぐくむ石としてあなたの愛情関係を豊かにする力になってくれるでしょう。

S♥X運に効果発揮!!
●ヘマタイト

日本では、「赤鉄鋼」と呼ばれ、主成分は鉄です。この石には精神力を強化して、願望を実現させる力があると言われています。人間にとって性行為は願望の象徴と言えるのではないのでしょうか。人とは憧れの異性と結ばれることが幸せと考えるものです。つまりこの石は、あなたの願望を達成させる力になってくれるでしょう。

金運に効果発揮!!
●タイガーアイ

日本名で「虎目石」と呼ばれるもので、古代ローマでは、霊力を授ける石として護符に利用されていました。この石は頭脳を明晰にし、決断力を高め、成功へと導く力を持つと言われています。仕事や将来の事で迷いが生じたときに身につけると、目先の損得に惑わされず、必要なものを見極め、正しい判断を下せるようになるでしょう。

ギャンブル運に効果発揮!!
●アベンチュリン

チベットではその昔、「洞察力を高める石」として崇められ、仏像の目をこの石で飾りつけたようです。この石を身につけると、俗に「心の眼」といわれる人間の目には見えない物を心でとらえることができるようになると言われています。よってパチンコや競馬などのギャンブル運に効果が絶大といえるでしょう。

大勢の方が効果を実感!! 自信があるから公開できる!! これが第1次マレイジュ発売後の効果だ!

この調査結果は平成14年9月20日～30日まで第1次全購入者の70%を無作為に抽出し、亜細亜石力研究所が書面や電話にて購入者本人に、効果を確認しグラフ化したものです。

ローズクオーツ購入者：恋人・結婚ができた 68.5%／憧れの人と結ばれた 11.5%／就職が決まった 10.2%／宝くじ・ギャンブルで高額当選 8.5%／特に何も感じなかった 1.3%

タイガーアイ購入者：宝くじ・ギャンブルで高額当選 65.5%／就職が決まった 15.8%／憧れの人と結ばれた 10.5%／恋人・結婚ができた 9.9%／特に何も感じなかった 1.7%

ヘマタイト購入者：憧れの人と結ばれた 66.2%／恋人・結婚ができた 15.8%／宝くじ・ギャンブルで高額当選 10.2%／就職が決まった 7.3%／特に何も感じなかった 0.5%

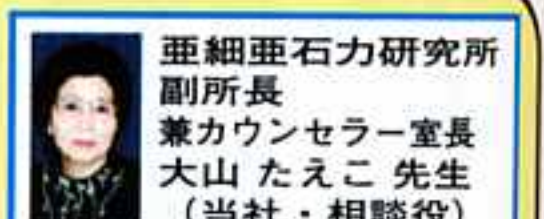
アベンチュリン購入者：宝くじ・ギャンブルで高額当選 68.2%／就職が決まった 17.3%／憧れの人と結ばれた 10.0%／恋人・結婚ができた 5.0%／特に何も感じなかった 0.5%

各限定792個 第2次販売開始決定!!

（前回品切れで購入できなかった方、販売を再開いたします。）

今、注目されている最高級のパワーストーンが4種類も揃って販売できるのは当社だけです。最近は当社を真似た粗悪な類似品を販売する業者が増えていますので、皆様ご注意下さい。マレイジュは権威ある亜細亜石力研究所の推薦もあります。

今回御購入の方のみ携帯に便利なマレイジュケースを無料でお付けします

男女共用・各¥13,800（送料・消費税別途）

亜細亜石力研究所
副所長
兼カウンセラー室長
大山 たえこ 先生
（当社・相談役）

この石（魔霊寿）は、他の石との相性も良いというデータがあるので、2つ・3つと付けた方がより効果が高いこと思われます。また左記のグラフが示すように一つの石に様々な力が込められていることがわかりますから何らかの効果が得られる思われます。

お申込みは簡単!!今すぐ電話・FAX・ハガキ・現金書留にてお申込みください。限定各792個なので万が一売り切れの際はご了承ください。

☎03-5330-8648（受付時間は平日・休日・祝日9:00～21:00）
FAX 03-5330-8344（受付時間は24時間・年中無休）
YR企画受注受付センター
（商品に対するお問い合せは平日の12:00～18:00・☎03-3365-0580でお受け致します。YR企画・本社）

50 〒169-0074
新宿区北新宿1-1-16 JSビル2F
YR企画受注受付センター
SRS係

（ハガキ・FAX記入例）
●氏名（フリガナ）
●生年月日
●住所（郵便番号）
●電話番号
●商品名（複数可）
●個数（複数可）
※未成年者の場合は保護者の氏名と印鑑

●送料は一律800円・消費税は別途お支払い願います。●商品はご注文後7日前後でお届けいたします。●代金のお支払いは、商品到着時に一括でお支払い願います。●返品は未開封に限り8日以内、送料はお客様負担でお願いします。●未成年者の方は保護者の同意が必要です。●ご注文が混み合っている場合は多少お時間を頂く場合がございます。

全ては未定！ でも何かやる。

史上最大の“謎かけUWF”発進！

9・7DEEP有明コロシアム大会で美濃輪戦後に、「来年は大きいことをやります」と発言した田村潔司が遂に動き出した！　12月9日、U－FILEにて田村はUWFスタイルのプロレスイベント、『UWF JAPAN』の開催発表記者会見を開いた。旗揚げ戦は来年の2月15日、ディファ有明にて行われる。バーリ・トゥード全盛のマット界において、あえてUWFスタイルのプロレスイベントを開催しようという真意はなんなのか？　この“謎かけUWF”記者会見の模様をお届けする。

2・15ディファ有明

『PROWRESTLING UWF JAPAN』改め『PROWRESTLING U－STYLE』旗揚げ！

佐伯　正式に『UWF JAPAN』旗揚げということで、来年の2月15日の土曜日、ディファ有明において旗揚げ大会を行うことが決定しました。この『UWF JAPAN』は来年度は6回、2カ月に1回のペースで定期的に興行をやっていこうと思います。将来的には、再来年には全国ツアーとか、大きい会場を目標にしてやっていこうと思います。本当の、ファンが求めている技術の攻防を見せれたらいいと思いますので、来年の2月15日に期待してください。

田村　自分が生まれ育った団体がUWFだったんですけども、以前からこういうスタイルに関しての興行をやっていこうという発想はあったんですが、今、いいタイミングなんじゃないかと思っています。今、格闘スタイルとして主流になっているのが、オープンフィンガーグローブだと思うんですけど、UWFは技術の攻防や夢や感動を与えるようなスタイルで行っていきたいと思います。格闘技界、プロレス界のマット界の活性化、あとはマッチメイクに関しましても、いろいろな幅広いカードを提供できると思います。今の時代の中で、凄い可能性がある団体じゃないかなと思います。一番の目標は、続けていくことなので、3年、5年、10年を見据えて、頑張っていきたいと思います。

――出場選手が田村選手だけなんですが、その他には？

佐伯　現段階で交渉している選手もいますし、これから交渉したい選手もいますけど、それに関しては1月のあたまには発表させていただきたいと思います。

――ルール面に関しては？

佐伯　今のところ詰めている段階なんですけども、もちろんオープンフィンガーグローブを着けるつもりはないんで、素手のほうで。で、昔あったようにブレイクも考えていますし、それ以外に関しては最終的に昔のUWFのルールと若干違うのかもしれないし、その辺は今の時代の流れを見てこれから考えていきます。

――田村選手、UWFを新たに作ろうと思ったきっかけは？

田村　きっかけっていうのは、自分が生まれ育った団体で。UWFっていうのは格闘技界とプロレス界の中間をいくものではないかと思っていますんで、そういった意味で、マッチメイクに関してもスタイル的にも夢や感動を与えるような試合ができるという自負がありますので。

――田村さんにとって、この間『プライド』で髙田さんと闘われましたけど、今回のUWFには繋がっているんですか？

田村　UWFを旗揚げする発想っていうのは以前から持っていたんですが、その発想後に髙田さんとやらせていただいたという。だから、自分と髙田さんがやったっていうのも運命だと思いますし、こういった流れ自体も計算できるようなものじゃないんで。まあ、リンクはしていると思うんですけども。

――9月のDEEP有明大会の試合後に、来年は大きなことを考えているとおっしゃいましたけど、これはまさにこのことなんですか？

田村　まあ小さなことといえば小さなことなんですが、大きなことをやるというのは見栄を張った部分はあるんですけど。

――UWFも含まれているんですか？

田村　はい、そのことです。

――他にもいろいろあるんですか？

田村　いや、あのう本質でいえば、そのことです（笑）。

佐伯　いや、実際、大きなことというのはこのことだと思います。

◀会見後のカコミ取材で佐伯代表は参戦選手について、「村浜選手面も白いし、ドス・カラスJrも面白い」とDEEPの看板選手2人の名前を挙げた

――DEEPとの色分けというのは？

佐伯　それは先ほど、田村が言ったとおり、UWFに関しては技術の攻防を見せて、格闘技とプロレスの間と。DEEPはDEEPの格闘技として、そういうふうに棲み分けはされていると思うんですけど。もちろん、DEEPの中にUWFの試合は一つも入りませんし。

――夢のある場ということなんですけど、2月の旗揚げ戦で田村さんの対戦相手として夢のある相手と考えた時に、誰が頭の中にありますか？

田村　誰がいいですか？（笑）。ちなみに、自分自身は誰でもいいというわけではないんですが、ファンの方が見てみたいカードとしてあるんであれば、実現させていただきたい。

佐伯　現時点で真面目に2月の旗揚げで対戦相手は決まっていません。頭の中ではいくつか考えていますけど。あと、旗揚げということであまり噛み合わない選手でもしょうがないと思うんで。

――外人選手は考えていますか？

佐伯　今のところ、考えてなくはないんですけども、まずは日本人ベースで考えています。

――今後、田村さんの主戦場はこの『UWF　JAPAN』になりますか？

田村　主な闘いの場とするのはいいんですが、今は団体っていうあれじゃなくて、格闘技の選手がプロレスやったりプロレス界の選手が格闘技やったりするんで、自分としてもそうなんですが、今後、下の世代の選手が格闘スタイルでも試合ができて、プロレス界の中でも活躍ができる選手を育てていきたいと思いますので。自分は個人になっちゃうと好き勝手やってればいいんですけど、U－FILEの代表でもありますし、1人で決められる

UWFのスタイル、夢と感動を与えるような スタイルを定着させていきたい

立場でもないですから、その辺は様子を見ながら格闘技の団体に出てみたり、もしかしたらプロレス界にも出てみたり。

――前回の『プライド』がUインターの復活みたいになりましたけども、この『UWF　JAPAN』もかつてのU系の選手が上がってくる場というふうにとらえていいのですか？

田村　そうですね。賛同してくれる選手がいれば、全然その辺はクリアできると思うんですけど、一番の問題点は目的意識を持って、マット界を活性化させるっていうことと、UWFのスタイル、夢と感動を与えるようなスタイルを定着させていきたいというのがありますので、そういう目的意識をハッキリ持った選手であれば。

――田村さんは、『プライド』のリングに上がる時に、顔面への打撃に抵抗があるとおっしゃっていましたけど、このUWFは顔面への攻撃はなしですか？

田村　基本的にはなしでいこうと思うんですが、ルールは面白ければ取り入れていきたいと思うんですけども。まだルールに関しても、基本的なロープエスケープ、素手、レガース、あと時間に関しても細かい部分に関しては、煮詰まっていないんで。

――これは田村さん自身、先ほどプロレスと格闘技の中間だとおっしゃっていましたけど、プロレスとしてとらえてよろしいですか？

田村　プロレスです。

――今後、田村さんは『プライド』のリングには上がるんですか？

田村　UWFに関してましても、『プライド』のリングに関しましても、闘う場であることは間違いないんで。まず、UWFを定着させるというのがありますので。『プライド』に関しましては、オファーが来た時点で検討して、UWFと被らないように。

佐伯　もちろん、DEEPのほうもオファーかけるかもしれないんで、分からないですよ（笑）。

――Uを代表するという自負はありますか？

田村　どういう表現の仕方をしていいのか分かりませんが……。

佐伯　僕自身は、U＝田村潔司だと思っていますんで。田村選手は言いにくいと思うんですけど（笑）。■

◆　◆

ところで、会見があった翌週には、団体名を諸般の事情により『PROWRESTLING　U－STYLE』に変更するというリリースが流れた。UWFという名前が付かなかったのは残念だが、肝心なのは中身。果たして、バーリ・トゥード全盛のマット界に、UWFスタイルは受け入れられるのか？　田村と佐伯代表の手腕に期待だッ！■

団体名が変更になってしまったために、余計に貴重に思える『UWF　JAPAN』の旗揚げ戦ポスターを1名様にプレゼント。応募方法はP118の読者プレゼントコーナーと同じ要領で、『UWF　JAPAN』係宛に送ってください

足を刈って何度もテイクダウンした須田。これだけでも、長南は激痛を感じていたという

重いモノを背負って、ギリギリの攻防 須田と長南、目に見えない〝名勝負〟

試合後、健闘を称え合う両者。それぞれ納得いかない点もあっただろうが、そこにも見るべきものがあった試合だった

★第11試合/メインイベント（5分3R）
○須田匡昇（3R判定2-1）長南亮●
〈クラブJ〉 〈U-FILE CAMP.com〉

「とにかく試合がしたいんですよ。いくらチャンピオンっていっても、試合で実力を証明していかなかったら誰も認めてくれない」

チャンスが欲しい。今より認められたい。修斗ライトヘビー級王者・須田匡昇のDEEP参戦は確かに事件ではあった。でもその理由は、プロとしては至極当然のものだろう。

須田の初参戦にあたって、佐伯繁代表がマッチメイクした相手はU—FILEの長南亮。キャリアはまだ浅いが、前回の有明コロシアム大会では飛びヒザからパンチ連打を決めて5秒でKO勝ちするなど、アグレッシブな打撃が持ち味の選手だ。良く言えば堅実、悪く言えば地味な須田のスタイルを考慮しての抜擢である。

1R、長南のワンツーをかいくぐるようにして須田が組み付く。ワキを差して足を刈り、テイクダウン成功。ハーフから肩パンチ連打、そしてマウントポジション奪取と、須田の攻勢が続いた。

2Rもやはり須田有利の展開。サイドポジションからまたも肩パンチ、さらに長南の頭部を掴んでマットに叩き付ける。

ただ、両ラウンドともマウントを取る優勢ながら、須田にはそれ以上の攻めの意思が見られなかった。肩パンチや鉄槌パンチをコツコツと打つ姿は、ポイント狙いそのもの。何よりもまず、リスクを避けて長南のブリッジやエビを抑えることに腐心している感じだ。

「修斗では勝つことだけを考えてやってきましたけど、DEEPでは面白い試合が求められますからね。分かってます、それは」

そう言っていた須田だが、やは

DEEP 2001 INTERNATIONAL
12.8★ディファ有明

滑川康仁に完敗も、石川社長、情念で輝く

◀セミファイナル、石川雄規（バトラーツ）VS滑川康仁（フリー）は滑川が完勝。痛風で右足が動かず、試合前日の朝まで松葉杖を使っていたというが、それを感じさせない動きだった

▲プロレス界では滑川より先輩の石川だが、総合格闘技では、それに専念している滑川にアドバンテージがある。それでも果敢に挑んでいった石川に、滑川も「感動しました。(バトラーツの）社長という立場なのにガチンコの世界に挑んできてくれて」とリスペクトを表した

▲フィニッシュは滑川が「実は得意なんです」という腹固めからのパンチ連打（1R3分46秒)。「腹固めは自分も得意なのにね。もっと試合に慣れれば勝機も開けると思う」と石川

ヒザのケガで足が効かない長南はパンチだけに賭ける。3Rに左フックでダウンさせ、続けざまにパンチ連打。これが最大のチャンスだった

これだけでも脚に激痛！

足を刈って何度もテイクダウンした須田。これだけでも、長南は激痛を感じていたという

修斗王者として負けが許されない須田 長南はヒザとアキレス腱に爆弾が……

勝ったのは須田、されど……

▲まともに歩くこともできない長南は、コメントブースではなく控室そばのソファーで会見

1、2Rは須田がポジショニングで圧倒。しかし殴るなり極めるなり、そこから先の展開は見られず

試合終盤、須田はついに長南の足関節を狙い始める。長南は必死でディフェンス

▲修斗のチャンピオンベルトを背負ってのDEEP参戦。勝ちという結果は残したが、須田の顔に満足の色はない。鼻も折れてしまい、コメントは出さずに病院直行

そう言っていた須田だが、やはり修斗のベルトは重かったということか。魅せる試合をしてDEEP出場というチャンスを活かしたいという気持ちと、でも修斗のチャンピオンとして負けは許されない、という思い。試合中も、須田の心はグラグラと揺れていたんじゃないだろうか。

一方の長南にも、思いどおりの試合ができない理由があった。試合前にヒザとアキレス腱を負傷し、歩くだけで精一杯。試合中はクロスガードをしていても足が痛むという状況だったのだ。あっけなくテイクダウン、パスガードされたのは無理もないことだった。足関節を狙われた時など、足を持たれただけでタップしそうになったという。

「第1、第2試合とかだったら大事を取って断ったと思うけど、自分みたいな経験の浅い人間をチャンピオンとやらしてくれるなら、1%でも可能性があったら逃げたくなかった」（長南）

それでも3R、左フックのカウンターで須田をダウンさせたり、マウントをひっくり返してパンチを落とし、あわやという場面を作ったのは見事だった。右足が効かない状態で、よくぞここまで闘ったと言える。試合後、須田の顔を見ると鼻筋が大きく曲がっていた。長南の意地は、須田にも確かな傷跡を残したのだ。

須田は他団体の王者としての責任を。長南はケガを。2人とも目に見えない重たいモノを背負って闘っていた。それが分かった時、この試合を名勝負と呼んでも差し支えはないと思う。

（橋本）

子犬キャラ大久保一樹『プライド』出場前の衝撃ショット公開！

U-FILE組のコメント

大久保「怖くてあまり前に出れませんでした。タッチのことで頭がいっぱいになってしまって。上山さんにタッチを拒否された時は“勘弁してください”って思いました」
上山「プロレスラーのようにタッグマッチをしたかったんで、ヒールホールドもあえて取らせて大久保にタッチしました。（タイトル戦は）挑戦者全員とやってみたいですね」

パンクラス組のコメント

窪田「ルール的にちょっと難しかった。大久保くんが自分のコーナーから出てこなくてイライラした。守りに入ると守り一辺倒になるんで減点があったら面白いかなと」
金井「こっちのチームのほうが前に出てた感じですね。向こうはタッチ前提で闘ってるような気がしました」

▲DEEP本戦初のタッグマッチで、先輩・上山と組んで、パンクラスの窪田＆金井組と対戦した大久保。ピンチの時にはこのように上山にタッチを求める

開始早々、窪田に腕を取られて苦しむ大久保。泣き顔がいい

やっぱり大久保は苦痛に歪む顔がよく似合う！

▲DEEPミドル級チャンピオンの上山は余裕の試合運び。大久保に指示を出しながら、リング内でも活躍

▲腕絡みをなんとか逃れ、上山にタッチして危機を脱する。タッグの醍醐味だ

▲結果はドロー。とはいえ、タッチの攻防など、選手が楽しませることに主眼をおけば、面白い闘いになる可能性は大

★第6試合/タッグマッチ20分三本勝負

△上山龍紀 大久保一樹 〈U-FILE CAMP.com〉	（時間切れ引き分け）	窪田幸生 金井一朗△ 〈パンクラスism〉

このタッグマッチではU―FILEの先輩・上山の指示どおりに動いていた大久保ちゃん。そのかいあってか、ピンチになってもタッチしてもらえなかったり、窪田にビビって前に出ることができなかったりと、非常に大久保ちゃんらしい子犬キャラぶりを見せつけてくれたもの。

そんな彼がそれから2週間後、『プライド』に出場することになったのだから人生というのは分からない。原稿を書いてるこの時点では結果は分からないが、勝とうが負けようがボクは基本的に選手のキャラクターが楽しめればそれでいい。リングシューズを左右逆に履いてみたり、花道から落ちてくれたりしてたら最高だと思ったりしている今日この頃である。

で、タッグマッチだ。基本的にDEEPのリングで行う以上、勝敗よりもタッチワークでいかに遊ぶかが勝負どころのはず。だから、金井が上山にアンクルホールドを仕掛けた時、上山があえて外さず、大久保にタッチの手を伸ばしたというのがこの日の一番の収穫。

とかく格闘家は勝ち負けにこだわるが、こういう試合ではスピーディーに闘いを展開させながら、自分からあわやという場面を作り出しながら、それを切り抜けていく知的な闘いが求められると思う。そのために大事なのは選手の意識。こんな場面があったら客も自分も面白いと思えるような展開を、頭の中で想像しながら闘っていってほしいのである。

タッグマッチという新しいルールなのだ。新しい勝ち方を、決め技を模索してもらいたい。（ブチ）

DEEP INTERNATIONAL 2001
12.8★ディファ有明

ムエタイ勢は1勝2敗だが可能性は青天井だ！

▶スタンドのヒジ打ちありで行われたムエタイVS日本選抜の3対3マッチはムエタイ勢の1勝2敗。唯一の勝ち星をあげたのは、やはり"ランバー"ソムデート吉沢だった。廣野剛康（和術慧舟會GODS）を相手にガンガン打撃を決め、寝技もうまくしのいで総合格闘技2勝目をゲット（判定3－0）

▲大将戦に登場したのは、現ルンピニー・Jrウェルター級王者のナルポン・タックホームシン。相手の山崎剛はグラバカ所属らしく打撃にまったく付き合わず速攻でタックルし、ポジションを進めて十字で完勝（1R1分34秒）。しかしナルポンもわずかな練習期間ながら土壇場でTKシザースにトライしたりとセンスが光った

勝ったランバーは、かつて敗れた砂辺光久へのリベンジを宣言した

◀先鋒戦ではランバーの叔父、元ボクシング世界王者のヨックタイ・シスオーの実弟でもあるタッパヤー・クロスポイントジム（自身も元ラジャ王者）がTAISHO（バルボーザ＆NBJC）と対戦。1R4分36秒、腕十字で敗れたが、なかなかテイクダウンを許さない粘りは今後に期待を抱かせた

▲今大会の解説を務めたのはクマクマンボこと熊久保英幸氏と田村潔司。田村は弟子の闘いに「（タックルを）切れ！」と解説そっちのけの場面も

▶「もう、行くとこまで行きますから」と、来年は6大会を予定している佐伯代表。田村潔司とともに立ち上げた新UWFも合わせれば、ほぼ月イチペースで大会を手がけることになるという

▲元リングスの伊藤博之（フリー）はMAX宮沢（荒武者総合格闘術）と対戦したが、ことごとくテイクダウンを許して判定3―0で敗退

◀第1試合はバトラーツの原学VSKAZE（華☆激）。原は開始早々にグラウンドに持ち込み、マウントパンチ連打で快勝した（1R2分40秒）

◀アステカ（プロレスリング華☆激）VS脂肪吸引手術で契約体重に落とした一宮章一（フリー）のプロレスラー対決は総合格闘技未勝利戦。どちらかが1勝をあげるはずだったが、前半は一宮、後半はアステカが優勢で甲乙つけがたく、結局ドローで両者未勝利のままとなった

松野VS佐伯代表の遺恨勃発！

▲試合後はお約束のゴージャス松野劇場。一宮の健闘を称えつつも次回大会で新たな刺客を送り込むと宣言。さらに佐伯代表にも「おまえが減量して闘えよ。俺が足治って、完璧になったらおまえ出てこいよ」と挑発、遺恨の火種をまいたのだった

優良店情報

ニンジャ、流血地獄に沈む！

"競技"とはここまで残酷なものなのか！

ランデルマンのパンチを浴びて右目周辺から大量出血。
ドクターストップ負けとなってしまったニンジャ

ランデルマンの野生の拳がケンカの技術体系を侵食

★第7試合（1R10分、2・3R5分）

◯ケビン・ランデルマン（3R0分20秒、ドクターストップ）ムリーロ・ニンジャ●

〈アメリカ/ハンマーハウス〉 〈ブラジル/シュート・ボクセ・アカデミー〉

※ランデルマンのパンチによりニンジャが右目尻から大量出血したため

▶それまでもたびたびヒットしていたランデルマンの左フック。3Rに入ったこの一撃が致命的なダメージを与えた

『プライド』において、プロレスラーVSグレイシーという闘いの図式は、すでに過去のものとなった。それに様々な他流試合も、今後は『Dynamite!』がより大がかりに、よりセンセーショナルに行っていくことになるだろう。

谷川編集長が今大会のパンフレットでも書いているように、今後の『プライド』は〝競技〟として充実させていくのがベストなのかもしれない。そして今大会では、その純『プライド』の魅力が試されるようなカードが並んだ。

セミファイナルはムリーロ・ニンジャVSケビン・ランデルマン。バーリ・トゥード最先端の打撃屋集団シュート・ボクセの中でも最もイキがいいニンジャと、『W—1』と『プライド』を股にかけて活躍するランデルマンの対決は、今後のミドル級戦線を占う意味でも大きな意味を持つ。

もともとこの2人、相手を痛め付けることに関してはこの世界でも屈指のポテンシャルの持ち主である。ランデルマンが驚異的な身体のバネを武器に〝野生〟で暴れるタイプなら、ニンジャはというと〝体系化されたケンカ技術〟の使い手。

大会で流れたニンジャの紹介VTRにもあったが、シュート・ボクセではトレーナーが仰向けになってミットを持ち、それを蹴ったり、踏み付けたりする練習もしている。どんな体勢からでも敵の顔面を狙う〝ケンカ殺法〟が、レスリングや関節技などと同じように技術として体系化されているのだ。

まずはランデルマンがテイクダウン。しかしニンジャは、これを

PRIDE.24
12.23★マリンメッセ福岡

気合いが乗ったらこんなに強い! まばたきも許さない驚異の身体能力!

ランデルマンのコメント

「考えていたゲームプランどおりにいったよ。ニンジャのパンチも何も痛くなかった。まだ若いから、将来的にはいいファイターになると思うけど。今日、ニンジャはトレーニングを積んでいたが、オレだって積んでいたんだ。オレはグラウンドはうまくないけど、これから身につけていけばオレに勝てる敵はいなくなるだろう。ニンジャはグランドはうまいけど、自分を負かすにはまだまだ早かったってことだ。オレの顔を見てくれよ。こんなにキレイじゃないか。ニンジャの顔は大変なことになっちゃってるけどな。今度はヴァンダレイ・シウバ、待ってろよ! おまえが持ってるベルトはオレのもんだ。奪い返してやる」

▲大学時代、フリースタイル・レスリングのアメリカ選手権で優勝したこともあるランデルマン。弾丸のようなタックルも大きな武器だ

▲サイドポジションをブリッジで返し、バックを取るとすかさずパンチ! ニンジャに体勢を整える間を与えない

▶1R、テイクダウンを許すもアームロックに捕らえ、ランデルマンの体をめくったニンジャ。ただの打撃屋ではない

▲1、2Rの多くは、ニンジャがサイドポジションからのヒザやギロチンチョークで攻勢。それだけにドクターストップが悔やまれる

▶これで『プライド』3連勝。打倒シウバの一番手として大きく浮上してきた

◀会心の勝利だけに、試合後の垂直ジャンプもいつもより高め?

「次はシウバだ!」

▶それまでもたびたびヒットしていたランデルマンの左フック。3Rに入ったこの一撃が致命的なダメージを与えた

下からのアームロックでひっくり返す。マウントを取ったニンジャだが、今度はランデルマンが瞬発力バツグンのブリッジで返し、立ち上がり際にパンチを一閃! 攻守が目まぐるしく入れ替わる、一瞬も気が抜けない展開だ。

その後、ペースを握ったのはニンジャ。しかしランデルマンも突如として〝野生〟を噴出させ、ニンジャを脅かす。スタンドの打ち合いでも、ややランデルマンが優勢だ。1Rが終わると、ニンジャの右目は大きく腫れていた。

2R、ランデルマンはその腫れた右目を狙って左フックを連打するという非情な攻めを見せる。そして3R。ニンジャのローキックに合わせて左フックがまたもヒット。さらに連打を加えたランデルマンがテイクダンしたところで、ドクターチェックが入った。ニンジャ、見るも無惨な大量出血!

壮絶な、そして残酷な結末だった。ヴァンダレイ・シウバに続くシュート・ボクセの副将格として活躍してきたニンジャが、こんな負け方をするとは……。

レスリング出身のランデルマンと、ムエタイがベースのニンジャ。この試合は〝競技〟=純『プライド』の試合だが、だからといって試合の刺激、インパクトはプロレスラーの試合や他流試合に見劣りするものではなかった。

むしろ〝競技〟として純化されればされるほど、一瞬の攻防の重み、勝敗のコントラストはより際立つのである。来年、噂される『プライド』のトーナメントが開催されれば、そんな〝競技〟の凄みが大爆発するはずだ。 (橋本)

オレ、ホントはK-1に出たかったのに……

ロシアの秘密兵器アターエフ、『プライド』ルールについていけず

▲フィニッシュとなったアリスターのヒザ蹴り。ズボッと鳩尾あたりに入ると、アターエフは腹を押さえてうずくまり、即座にKOが宣せられた

★第6試合（1R10分、2・3R5分）
◯アリスター・オーフレイム（2R4分59秒、KO）ヴォルク・アターエフ●
〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉 〈ロシア/ロシアン・トップチーム〉
※ボディへの左ヒザ蹴り

ヴォルク・アターエフVSアリスター・オーフレイムは『プライド』初参戦同士、しかもどちらも元リングス系ファイターという対決だったのだが、明暗クッキリと分かれる結果となった。

ヨーロッパの大会『2H2H（トゥー・ホット・トゥー・ハンドル）』で4連勝、7月の『THE BEST』では今村雄介に完勝するなど、現在のバーリ・トゥード戦線の真只中を生きているアリスター。

対するアターエフは中国武術・散打、つまり立ち技の選手である。散打世界選手権のチャンピオンで（今年はなんと全試合KOで優勝！）、あのヴォルク・ハンから〝ヴォルク＝狼〟の称号を受け継ぎ、髙阪剛にも勝利している。

パンチで対戦相手の頭蓋骨を陥没させたとか、ローキックで足をへシ折ったという逸話もあるほどの打撃もあって、リングス時代のアターエフはエメリヤーエンコ・ヒョードルよりも強いインパクトを残している。

ただ、それはやはりリングスKOKルールでのもの。グラウンド顔面打撃なし、ブレイクが早いKOKルールでは自慢のパンチ、キックを活かせたアターエフも、『プライド』ルールにはついていけてなかった。

そもそも今大会に出場することになったのはヒョードルの代打として。オファーがあったのが15日前で、しかも相手がノゲイラからアリスターに急きょ変更と、アターエフにとっては可哀想な面もあった。もっと言えば、アターエフは自分の打撃を活かそうと、リン

オーフレイム弟、コイツはデキる！

アリスター

打撃のキレはさすが！ この後ろ回しでKOしたかった

アリスターのコメント

「非常にいいファイトだったと思うね。向こうにはオレにダメージを与えるようなチャンスをやらなかった。おっかしいな～？ パンフレットには、ロシアの刺客が来るって書いてあったんだけどな。まあ、オレが追い払ってやったよ。こっちにはケガもないし、面白い試合だったな」

アターエフのコメント

「ボディを打たれて呼吸ができなくなってしまいました。出場が決まったのが15日前で、相手はノゲイラと聞いていたのに、5日前に変更されて、最終的に相手の情報は何も知りませんでした。もともと『プライド』に出るイメージは、あまりなかったんです。基本的には立ち技なので、K－1へ向けてトレーニングをしています」

▲アリスターの攻撃でもっとも怖いのがこのヒザ蹴り。少し間合いがあくと勢いをつけての飛びヒザなども飛び出す。油断もスキもない

▲アターエフの後ろ回し蹴りがアリスターの頭部を捕らえる。ブロックの上からだったかアリスターは大きく吹っ飛んだ

▲アームロックを狙うアリスター。アリスターはグラウンドの技術にも長け、終始、ポジションをキープしていた

▲序盤には投げも見せたアターエフ。さすが散打世界王者だ

▶サイクロンの異名を持つアリスター・オーフレイム。兄ヴァレンタインの敗戦のウサを晴らすような快勝だった

▲マウントパンチでもアターエフにダメージを与えた。アターエフは下から防御するだけ。ほぼ為すがままの状態

「とりあえず休んどけ」（セコンド） それじゃ負けちゃうって！

▲アリスターのグラウンドの技術が巧いと判断したセコンドは「とりあえず休んどけ」と指示。ロシア勢はPRIDEルールをまだ十分に理解していないところもあるようだ

グス活動休止後はK―1を目標に練習していたのだ。

寝技になるといかんともしがたいアターエフだが、チャンスはあった。1R、上段の後ろ回し蹴りが、ものの見事にテンプルを捉えてアリスターをダウンさせたのだ。力強さとスピードと鮮やかさが一体となったこの打撃こそ、リングス時代にファンを虜にしたアターエフの真骨頂。

が、アリスターはすぐに立ち上がってリカバリー。組み付いて上になり、簡単にマウントポジションを奪取してしまった。

2Rも、オランダ式の鋭いヒザからアリスターがテイクダウンし、またもマウント。アターエフはKOKルールからのクセなのか、あまりにあっさりとポジションを許してしまっていた。

それが結果としてアリスターにペースを握らせることになり、最後はボディへのヒザ蹴りが決まってアターエフが悶絶。戦前はまったく予想しなかった、アターエフのKO負けという結末となった。アリスターの溌溂とした動きも良かったが、アターエフの対応力欠如も、それ以上に気になった。

しかも、なんとアターエフのセコンドは、マウントを取られると「返すのは無理だから休んどけ」と指示していたという。本人どころかセコンドまでも『プライド』ルールに対応してなかったアターエフ陣営。なんとかしてほしい気がするが、でもルールなんて把握してなくても強いというのがロシア軍団の幻想でもある。どうせなら、この呑気な姿勢で、それでも勝つところが見たい！

（橋本）

2人とも土壇場の自覚なし！

▶2R終了後、アレクはふくらはぎの筋断裂によってドクターストップ。あっけない幕切れとなってしまった

▶タックルで仕掛けていくアレク。やはりタックルは素早い

▼グラウンドではヤマノリが上になる場面が多かった。だが、ここから膠着状態となって試合はなかなか展開しなかった

◀カメになるヤマノリを上から殴るアレク。こういう場面は何度もあったが、その先が続かない

最近白星のない2人を対戦させて、負けたほうがリストラ候補。そんなふうにもとられかねない、というか、ほとんどの人間がそう思っていた『プライド』サバイバルマッチ。そんなやるほうも見るほうも残酷なカードがこの一戦なのである。

ところが、幸いなことに、当の本人たちはあまりサバイバルマッチを意識していない様子で、意外なくらいにリラックスして入場してきたのが唯一の救い？

っていうか、少しは深刻に考えてほしいものである！

ホント、この日のアレクとヤマノリは何がしたかったんだか、よく分からなかった。いや、やりたいことは分かる。アレクは試合内容にこだわったようだし、ヤマノリは勝ちにこだわったようだ。

だが、観客は、2人のマッチメイクが決まった時点で、そして2人が闘う姿を見ながら、「この先、どうするんだろう、彼らは？」という思いでいっぱいだったのだ。勝ちとか、内容とかを意識する以前に、2人のファイターとしての存在意義や、将来について、他人ごとながら心配していたりしたのである。目の前で、負けがこんでる者同士が闘いだしたら、そんな気分に嫌でもさせられてしまうのが人情ってものだからだ。

なのに、当人たちは土壇場感が希薄で、試合でどう勝つかとか、どう見せるかという、自己アピールの方法を模索しているようで、客席とリング内のズレは時間が経つにつれて大きくなるばかり。何をしてるんだ、この2人はと思うのも当然の話だろう。

これだけ動ける2人なのになぜこんな結果に！

山本のコメント

「アレクはあそこで立ち上がって欲しかったですね。それは彼の生き方だと思うし、アレクらしくなかったと思いますね。最後まで立って欲しかったですね。後半やっとエンジンがかかってきたかなぁ…っというのがあったんで。31日の猪木ボンバイエでちょっとやりたい選手がいたんだけど、こういう結果というか、ちょっとあれだったんで、まあ発言力がないかなと。やめときます」

▲ヤマノリの打撃もいつも以上に光っていた。再三、パンチがアレクの顔面を捉えていた

▲この試合で一番沸いたのがこのシーン。カメになるヤマノリにフライングニードロップを敢行！

▶タックルをこらえ、アレクを持ち上げようとするヤマノリ。アレクはこれを踏ん張って耐え、この時、足の筋肉を痛めてしまった模様

◀2R終了直前、アレクの顔面にヒザを落としていくヤマノリ。こうやって写真を見ていくと、瞬間瞬間では両者とも本当にいい動きをしていたのに……

アレク、試合後、病院直行！

▲筋断裂の疑いがあり、アレクは病院に直行した

▶ヤマノリに金的蹴りを入れてしまい、土下座してあやまるアレク。ともかくこの辺から試合は噛み合わなくなっていった

▲アレクがバックに回ると、前転してヒザを取りにいったヤマノリ。いつも以上にアグレッシブに動いていたのではあるが……

★第5試合（1R10分、2・3R5分）
○山本憲尚（2R終了、ドクターストップ）アレクサンダー大塚●
〈日本/髙田道場〉　〈日本/AODC〉
※アレクが右足ふくらはぎを負傷したため（筋肉断裂の疑い）

はっきり言って、アレクとヤマノリはいまや『プライド』ファイターとしてギリギリの状況。本来なら他人を引きずり落としてでも自分だけは生き残る決意をしてリングに上がっていなければ、おかしいはず。自分が生き残るために相手を叩き潰す。考えることはこれしかないと思うんだが、間違ってるか？

だって、プロファイターとしての食い扶持を賭けた闘いなのだ。テーマはたった一つ、〝死活〟。これだけだろう。

それでも、試合がスイングすれば結果オーライだったわけだが、かたや内容、かたや勝ちにこだわるあまり全然噛み合ってこないのが観客のイライラを募らせる。そして最後はアレクがふくらはぎを負傷してドクターストップという、最悪の結末。この試合でケガまでして、見てられない気持ちになってくる。

アレクにしてもヤマノリにしても、かつては光り輝き、ファンがその一挙手一投足に夢を託すことができた、第一級の選手だったはず。だからこそ、『プライド』ファイターになれたのだし、低迷する現在でも『プライド』ファイターを張っていられるのだ。

過去の遺産だけではもう『プライド』で闘っていくことはできないのは分かっている。外人選手の強さは、技術とか根性とかでは簡単には手に負えない状況になってきているのも分かる。

だが、こういう形でファンをがっかりさせるのだけは勘弁してほしい。ホント、ちょっと見ていて辛かった。（ブチ）

グラバカ佐々木、ホドリゴと緻密な寝技戦を展開！

だけどこれ、『プライド』だから……

ホドリゴのコメント

「パンチはうまくいったけど、もっと柔術の技を出したかった。それだけササキの寝技が良かったんだ。関節技やパスガードも狙ってきたし、驚いたよ。ササキの蹴りは警戒してた。逆にボクがスタンドで奇襲したんで、ササキは驚いたんじゃないかな。でもボクもササキの寝技がうまいのに驚いたから五分五分だね」

佐々木のコメント

「どこが負けてたっていうのはないんですけど、向こうのほうが手堅く勝つ方法を知ってたという。相手がグレイシーだからってボコボコにされるわけでもないし、こういう機会をいただいて、まだ強くなれるんじゃないかと思いました。自分に足りないのは経験だなと。これから練習してけば射程距離に入ると思います」

★第4試合（1R10分、2・3R5分）
○ホドリゴ・グレイシー（3R判定3-0）佐々木有生●
〈ブラジル/ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー〉　〈日本/パンクラスGRABAKA〉

▲パスさせるかさせないか。細かいガードポジションの攻防には見応えがあった。佐々木はここから三角を狙い、ホドリゴはその足を越えようとする

アブダビだったら名勝負！

今回もホドリゴは呑気にチェンジマンポーズ！

▲世界トップクラスの相手に、試合前はかなりナーバスになっていたという佐々木。入場時はかなり険しい顔つきだった

▲頭から突っ込むようなパンチで機先を制したホドリゴ。右のパンチは想像以上に強かった

▲佐々木が得意とする左ミドルや左ハイだが、ホドリゴも警戒済みだった。しかも今回の佐々木は「蹴りよりパンチでいこうと」。3Rから蹴り主体に戻したが、ちょっと遅かった

▲佐々木が上になってパスしようとする場面も。「ササキの寝技がうまいんで驚いた」とホドリゴ。だが下から蹴り上げ、潜り込むように組み付いて上を奪取

▲常にイニシアチブを握っていたホドリゴが判定勝利。もちろんチェンジマンポーズでキメ！　「このポーズはやる気が出るんだよ。“これから悪いヤツと闘うぞ”って」（ホドリゴ）

なんとも微妙な内容の、グラバカ佐々木有生『プライド』初参戦であった。

これまで渋谷修身、KEI山宮らパンクラスの主戦級に一本勝ちし、グスタボ・シムと引き分け、『プライド』でも名高いアレックス・スティーブリングにも勝っている佐々木。今回のホドリゴ・グレイシー戦も〝世界〟を相手に勝負できる日本人として期待された。

そして確かに、佐々木は世界レベルのテクニックを披露してみせた。アブダビで優勝したこともあるホドリゴを相手に、グラウンドで互角に闘ったのだ。

佐々木が下から三角絞めを仕掛け、その隙を突くようにホドリゴがパスガードを狙う。それを阻止せんと佐々木が足を効かせて……と、実に緻密かつ熾烈な攻防が繰り広げられた。

『プライド』の日本人ファイターといえば、外国人相手だと〝やられっぷり〟や〝耐える姿〟で見せるしかない状況が多かった。そんな中で、最後までグレイシーと技術で渡り合った佐々木の実力は評価されていい。

ただ、ここはボブ・サップも上がる『プライド』のリング。トリビアルな技術を超えた、過剰なスペクタクルを要求されるのだ。この試合を「膠着試合だろ」と言われても仕方がない面もある。

佐々木には本当に期待してるのだ。だから余計にパスさせたとかさせないとか、そのレベルで納得してほしくない。「けっこうやれるなと思いました」なんて何を今さら。こっちはずっと前からそう思ってるんだから。

（橋本）

子犬キャラ・大久保一樹に

▲ゴング直後、フロントネックロックで松井を追い込む。前半のペースは完全に大久保が握っていた

しかし、驚いたな。こう言っちゃなんだけど、大久保ちゃんって

PRIDE.24
12.23★マリンメッセ福岡

子犬キャラ・大久保一樹に「殺し屋1」の片鱗あり!!

今回、松井に関しては語ることなし!

★第1試合（1R10分、2・3R5分）
○松井大二郎（3R判定3-0）大久保一樹●
〈日本/高田道場〉 〈日本/U-FILE CAMP.com〉

松井のコメント

「周りから絶対に一本勝ちを取れって言われていたんですけど守りがうまかったと思います。ああ、クソッ。ずっとローキックの練習をやってたんですけど、ローは効いた感触はありました。（余裕がありすぎた？）いや、そういうことはないです。余裕とか、そういうことはまだ試合では」

大久保のコメント

「ローキックが効いてしまいました。（松井の印象は？）えっと、えっと、前に前に来る感じですね。緊張はしました。でも、始まれば……。ネックロックの感触は若干あったかなっと思ったんですけど、自分も腕が疲れてしまったんで。（判定まで持ち込んだことについては）自分が頑張ったと思いました」

▲松井に投げまで放った大久保。ホント、見事な攻撃の数々だった

▶師匠・田村潔司がセコンドについているのも頼もしい限り

▶グラウンドで上になることが多く、3Rにはチョークスリーパーも極めかけた松井が順当に判定勝利。だが、大久保の意外な強さが印象に残る

◀ゴング直後、フロントネックロックで松井を追い込む。前半のペースは完全に大久保が握っていた

◀こんな場面が見られるとは思ってもみなかった。大久保が上になって松井にパンチを連打だ！

◀ローをもらいながらもパンチを打っていく。結構気が強くて見ていて面白い！

しかし、驚いたな。こう言っちゃなんだけど、大久保ちゃんって意外に強かったんだね。

普段の大久保ちゃんはいつ何時でもオドオドしていて、師匠・田村潔司を筆頭に彼を知る全ての人がいじくりたくなる子犬キャラ。

例えば、その昔、沢田亜矢子の元旦那・ゴージャス松野と絡んだことがある大久保ちゃんは、格闘技のド素人・松野ごときに頭ごなしに技術指導をされたのだが、その時ですら素直にうなずいている筋金入りのお人好しなのだ。

こんな男が『プライド』のリングで、それもベテランの松井を相手に闘うことができるのかと思うのは当然の話。

ところが、違ったのだ。スタンドの打撃では松井をパンチのラッシュでロープに詰めてしまう。こんな場面を何度も作りだし、一度なんかはダウン寸前まで追い込んでしまったのだからホント見直した。マウントを取られてもブリッジでスイープして観客を沸かせるなど、判定負けしたとはいえ、その見事な闘いぶりは意外な剛胆さを十分に感じさせてくれたのである。で、そんないい試合をしたのに、試合後の会見では蚊の鳴くような小さい声で「ローキックが効いてしまって」とか言ってるのだ。

いつもは気弱だが、闘いとなると狂気のような強さを発揮する男イチが主人公の『殺し屋1』という劇画がある。大久保一樹はまさにそのイチの片鱗を感じさせる、弱気と狂気が同居する存在。もっともっと狂った大久保ちゃんが見たいと切望だ！

（ブチ）

▼またも結果を出せなかったオーフレイム兄。連敗記録はどこまで続くのか……？

オーフレイム兄、またも勝てず……

★第3試合（1R10分、2・3R5分）
○ロン・ウォーターマン（1R2分18秒、腕固め）ヴァレンタイン・オーフレイム●
〈アメリカ/コロラド・スターズ〉　〈オランダ/ゴールデン・グローリー〉

ヴァレンタイン・オーフレイムは地元オランダでの実力評価は高い。実際、何人ものビッグネームを倒してきており、リングス時代は、KOK決勝でノゲイラには敗れたとはいえ、堂々の準優勝（2000年）を果たしているほどの実力者なのだ。なのに、なぜか、ど～しても、『プライド』では勝ち星を上げることができないでいる。対するウォーターマン（H2Oマン）は今回が『プライド』初参戦。37歳ながらレスリングとアメフトをやっていたという肉体は筋骨隆々。格闘家の中でも抜群の見栄えを持つ。WWF（現WWE）にも参戦していたというだけあって風貌もいいし、ファイトスタイルも悪くない。アメフト仕込みの突進力とパワー。そして、得意とする〝力任せ〟のアームロックも素晴らしい！　ブラジル勢に押され、今年は元気のなかったアメリカ勢だが、ランデルマン、H2Oマンとイカした〝男〟たちが2003年には暴れてくれそうだ！
（ビッチ）

◀開始早々、アメフト仕込みのタックルでテイクダウンを奪ったH2Oマンは、そのままV1アームロックでオーフレイム兄を仕留めた

ウォーターマン
37歳、この水男、かなり強い！

▲ホジェリオはスタンドでも、打撃を得意とするメッツァーに真っ向勝負を挑んでいった

目指せ！ノゲイラ兄弟2階級制覇！

PRIDEヘビー級王者、兄アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに続けとばかりに、兄弟2階級制覇に向け、ミドル級のタイトルに照準を絞って来た、弟ホジェリオ。結論から言えば、辛くも判定勝ちは収めたものの、タイトル挑戦へのインパクトを残すほどではなかった。その最大の要因は、ホジェリオがムエタイ特訓で、自信をつけてしまった打撃が、逆にメッツァーの〝膠着大王〟モードを呼び起こしてしまうという、一番あってはいけないパターンを産んでしまったところにある。ホジェリオは、得意分野である寝技だけではない、トータルファイターとしての自分をアピールしたかったようだが、それが結果として器用貧乏ぶりを露呈してしまうカタチとなってしまった。タイトルに挑戦できるか否かは、自分の手元に流れを引き込む力も重要とされている。それだけに、ホジェリオには型を整える精密さだけでなく、型を破壊する野蛮な部分をもっと見せてもらいたい。
（佐藤）

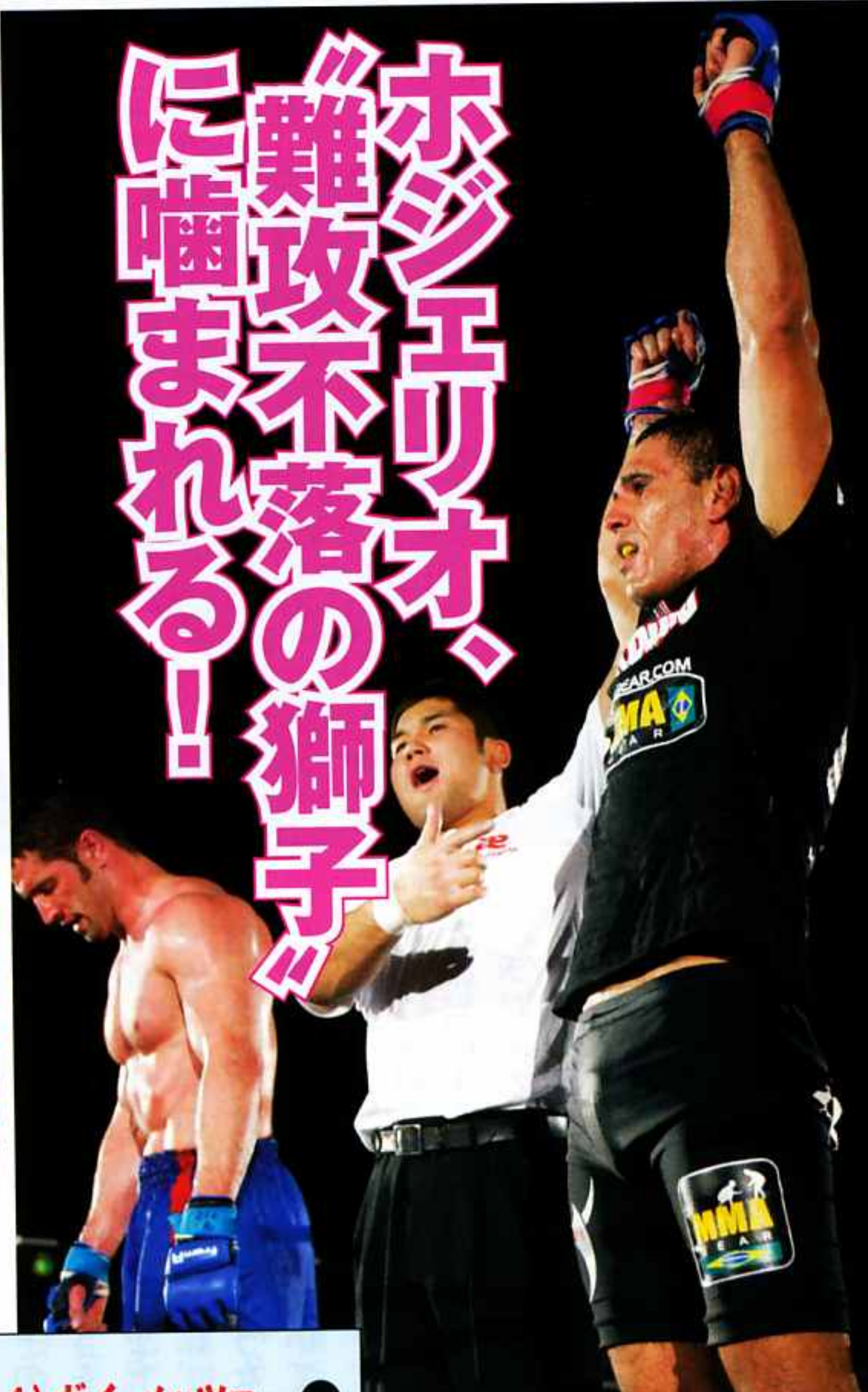
▲最初で最大のチャンスも、ヒザのポイントがずれて秒殺ならず

ホジェリオ、〝難攻不落の獅子〟に噛まれる！

★第2試合（1R10分、2・3R5分）
○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（3R判定2-1）ガイ・メッツァー●
〈ブラジル/ブラジリアン・トップチーム〉　〈アメリカ/ライオンズ・デン〉

▲微妙な判定に、試合後のメッツァーは「クソジャッジ」を連呼

『イノキ・ボンバイエ』全国行脚博多上陸！ 餅つき＆現金ばらまきパフォーマンス！

昼の部

▼振る舞ったのは餅だけではない。財布の中身が1413円しかないという猪木だが、なんと、『イノ記』という小冊子にお年玉をはさんで、ファンに放り投げるという前代未聞のパフォーマンス！　アッと言う間に会場は修羅場と化してしまった。そして、その他にも猪木ブランドのコンドームまで配布し、気前の良さをアピールした

◀昨年はホームレスに扮した猪木だが、今年は餅つきパフォーマンスを展開し、さらにつきたての餅を、ファンに振る舞った

猪木劇場・博多編　昼の部と夜の部

「大阪には千人の女の子が待っている」猪木、千人斬り宣言！

猪木　元気ですかーっ！！　元気があればなんでもできる。元気がありすぎるとスキャンダルを起こす。ここは福岡、泣かす（中洲）男が悪いのか、泣いた女が馬鹿なのか、俺とお前は玄界灘よ、プライド抱きしめ背中を向けりゃ、差しつ差されつ今宵の酒は、博多名物フグのさし、どうだい、フハハハハ。俺は首を切られたことがあるんだけどな、えー、刺された奴を今日呼んでるんでね、おい！　棚橋出てこい！！　お前か、刺された奴は。一発気合い入れるかな。（ビンタで闘魂注入）一言挨拶しろ。

棚橋　お騒がせしております。でも運良くこうやって生きてます。生きていれば可能性がある。猪木会長ありがとうございます。

猪木　はい、ありがとう。今日はもうちょっとサービスしないといけないのかな。今回ね、なんかパフォーマンスやれって。去年はホームレスで頑張ったんだけど、もうやることねえよ。裸になるしかねえのかな。しょうがねえから俺のポケットマネー1000万円をね、全国でばらまいていこうということで、昨日は仙台でまきまくったんだけど、稼ぐのは簡単、手を振りゃ100万円入ってくるんだけど、ばらまくのにこんなに苦労すんのはねえな、まだ300万しかまいてない。でここで、プライドで2～300万ばらまこうかなと思ったら、とんでもない、ここはやめてくださいということで、ばらまかなきゃいいんだろうと、だから間近に手渡しゃいいんだろうと。やめろっていう、つまんないよな、人生に反則がなかったらつまらねえじゃん。俺だって時々奥さんに内緒で、なんにもしてないけどよ。まあそういうことで、あと700万残ってるんでね、名古屋と大阪と最後東京でやるんですが、大阪には千人の女の子が待っている。猪木の千人斬りといってね。そういうことでバタバタしておりますが。最後に、猪木が笑えば世界が笑う、猪木が怒れば紅白が泣いた、泣いたカラスがまた鳴いたということで、いくぞーっ、1、2、3、ダァーッ！！

夜の部

「おまえか、刺された奴は！」恒例猪木劇場に噂の棚橋弘至登場！

総評

「他流試合」から「競技」へ『プライド』の生きる道はどっちだ!?

――文◎谷川貞治

2002年の『プライド』は、大きな転機に差し掛かった一年だった。なぜなら、それを象徴する二つの出来事が起こっているからである。

一つは『Dynamite!』の出現。

もう一つは、髙田延彦の引退。

この二つが何を意味しているかというと、『プライド』のメインコンセプトである「他流試合」が『プライド』という場では、もう役割を終えたということだ。

『プライド』とは、そもそも総合格闘技のルールで世界最強を決める場だった。そのメインコンセプトは、他流試合。髙田延彦VSヒクソン・グレイシーで始まった『プライド』は、プロレスVSグレイシー柔術を基軸に、他流試合の最高峰の舞台としてこの世に生み落とされたイベントだった。それがやがて桜庭和志というスターを生み出し、プロレスラーでは、藤田和之、石澤常光、高山善廣、田村潔司へと続いていった。

グレイシーのほうは、ヒクソン、ホイスからアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラをはじめとするトップチーム。さらに広い意味でブラジル格闘技から言えば、ヴァンダレイ・シウバらシュートボクセに遺伝子は受け継がれていった。

しかし、昨年の夏以来『プライド』以上に大きなジャンルであるK—1がこれに参入したことで、時代は大きく変化していった。『プライド』とK—1の交流は、K—1の選手が『プライド』のリングに上がり、『プライド』の選手がK—1のリングに上がるだけでは飽き足らず、両ジャンルを合体した他流試合の場『Dynamite!』あるいは『イノキ・ボンバイエ』を生み落としてしまったのである。

K—1と『プライド』が合体すれば、それこそ市場は拡大する。『Dynamite!』や『イノキ・ボンバイエ』はそれだけ興行収入も巨大化し、柔道のバルセロナ五輪金メダリストの吉田秀彦をプロデビューさせることに成功したり、桜庭VSミルコ・クロコップのような『プライド』VSK—1頂上決戦を実現させることに成功した。

『Dynamite!』は国立競技場で9万人を集めて開催されたが、このような大掛かりな他流試合を実現するには、東京ドームクラスの会場でなければ、採算が合わなくなってくる。であるならば、他流試合というコンセプトにおいて、『プライド』は初めて、『Dynamite!』という上位概念をもってしまったということになるのだ。特に立ち技に限定されたK—1に比べて、ルールの近い『プライド』はモロに『Dynamite!』の影響を受け始めていると言っていい。

そうなると、もはや『プライド』は他流試合にこだわりすぎていると、ダイナミックさで『Dynamite!』に負けてしまう。その意味で、『プライド』を他流試合の場として印象付けた髙田の引退は、一つの時代の終わりを象徴していた。

だいたい他流試合というのは、年に何度もやるものじゃない。しかし、『プライド』を継続的に開催していくには、年間5〜6回のイベントを開く必要がある。そうなると他流試合の強烈なインパクトは薄まり、『プライド』自体が一つの〝競技〟に見えてきてしまうのだ。他流試合も長く続けていけば一つの競技になる宿命を辿っていくのは、すでにK—1やUFCで我々は体験している。K—1もUFCも最初のコンセプトは紛れもなく、他流試合だった。

だから、他流試合をコンセプトにしていくのなら、『イノキ・ボンバイエ』や『Dynamite!』のように、年に1〜2回やるのが限度。『プライド』が回を重ね、歴史を積み重ねていくたびに、他流試合の刺激は少なくなり、『Dynamite!』のような巨大イベントに上位概念に立たれてしまうのである。

でも、それがいけないことかと言うと、そうでもない。〝競技〟で結構じゃないか。逆に〝競技〟にしていくことが、『Dynamite!』が登場したこれからの時代、『プライド』が生き残っていく唯一の方法と言っても過言ではない。

だいたいワンマッチ形式で行う興行には、そのマッチメイクに何かテーマがないとファンは刺激を受けない。そのテーマが桜庭VSグレイシーや桜庭VSK—1のような他流試合だったが、今のレベルが均等に上がってきた『プライド』では、とてもひとつ一つのマッチメイクに他流試合の意味なんて持てない。

今回の『プライド24』福岡大会にしたって、ランデルマンVSニンジャ、ノゲイラVSヘンダーソンだって厳密に言えば他流試合なのだが、ファンの目から見れば『プライド』ファイター同士の激突にしか見えなくなるのだ。そのカードで他流試合を売りにしても、ファンはピンとこないはずである。

ということは、今後の『プライド』は純『プライド』路線を歩むしか道はなくなってくる。その意味で、今年の『プライド』は大きな転機に差し掛かったと言えるだろう。もう、『プライド』はジャンルの垣根を越えた他流試合の場ではない。修斗やパンクラスと同じ〝競技〟になっていく。ということは、その〝競技〟としての地位を絶対のものにし、世界的規模で『プライド』は総合格闘技として一番ステイタスの高いイベントにしていく必要があるだろう。

その例は『プライド』のすぐ身近にある。それがK—1だ。K—1は年に一度8人のトーナメントを開き、それを「K

—1ワールドGP」と名付けてドラマの

レイシー、ハイアン・グレイシー。日本
人としては、桜庭和志、大山峻護、菊田

―1ワールドGP」と名付けてドラマの起承転結を作っている。年間のK―1のイベントは、全て〝グランプリ〟を中心に回り、そのグランプリのシステムによって名もないマーク・ハントのような選手でも一夜にしてスターに仕立て上げている。さらに言えば、その「K―1グランプリ」のブランド力を高めることで、立ち技のプロ格闘技を制覇してしまった。

K―1も最初はKの頭文字がつく、立ち技格闘技の他流試合の場だった。しかし、それが回を重ねるごとに〝競技〟となり、空手家も、キックボクサーも全てK―1ファイターとなっていった。もちろん、今でもジェロム・レ・バンナVSゲーリー・グッドリッジのような刺激の強い他流試合は行われる。しかし、K―1の場合はそれ以上に、〝グランプリ〟が全ての上位概念になっているのだ。

今後、『プライド』に必要なのは、こうしてK―1が歩んできた作業かもしれない。そうなると、来年は『プライドGP』を復活させて大々的に開くこと。そうしないと、『Dynamite!』の前に『プライド』のイベントとしてのブランド力はどんどん低下していく怖れがある。ぜひ、早めにプランを打ち出してもらいたいものである。それが『プライド』の突破口になるだろう。

幸い、『プライド』は日本人がミドル級で充実しているため、K―1にない93キロ未満のミドル級をいきなり始めることができる。選手層も空手家やキックボクサー、ボクサーに限定されるK―1よりも幅広くなる。

〔ミドル級〕ヴァンダレイ・シウバ、ムリーロ・ニンジャ、ケビン・ランデルマン、ガイ・メッツァー、ヒカルド・アローナ、ダン・ヘンダーソン、ヘンゾ・グレイシー、ハイアン・グレイシー。日本人としては、桜庭和志、大山峻護、菊田早苗、アレクサンダー大塚、田村潔司、金原弘光、小路晃、松井大二郎……。

そうやって挙げてみると、ジャパンGPだって開催できる。

〔ヘビー級〕アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、エメリヤーエンコ・ヒョードル、マーク・コールマン、セーム・シュルト、ゲーリー・グッドリッジ、イゴール・ボブチャンチン、ヒース・ヒーリング、ボブ・サップ。そして日本人として、吉田秀彦、藤田和之、高山善廣、安田忠夫、山本憲尚……。

と、これだけのメンバーが上がる可能性があるんだから、かなり面白いものができるだろう。これからの『プライド』は、そうやって他流試合を捨てて、純『プライド』路線を歩むべきなのである。

今回、12・23『プライド24』を見ていて、あらためて思ったことはそんなことだった。正直言って『プライド24』に出場していたファイターたち、そしてマッチメイクはマニアックなものばかり。けれども実力的に見たら、これでも世界に通用するような強豪ばかりなのだ。

では、そんな彼らを輝かせるためにはどうしたらいいのか？　その答えも『プライドGP』にあるだろう。そういうシステムによって、どんな地味なファイターも輝かせることができる。どのスポーツだって、システムがブランド力を高めていってるのだ。他流試合をダイナミックに行えなくなった今、『プライド』はそこを見つめ直す必要がある。

『プライド』は来年、『プライドGP』元年の年となることを、今から予言しておく――。■

みのるVSライガーに郷野マジギレ！ クビ覚悟の体制批判を"言いっ放し"で終わらすな!!

「今のパンクラスはバカばっかりだ！」

郷野のマイクアピール

「前回の横浜のメイン、なんだあれ!? パンクラスのスタッフ、選手、ヘラヘラ笑いやがって。バカかおまえら！ あんな試合がメインで客が一番入って、おいしいとこ持ってかれて、何が10周年だよ！ これで周りから批難されようと、使われなくなろうと、オレは自分の考えは曲げない。全盛期すぎた年寄りと、総合格闘技初心者の試合がメインだなんてオレは認めたくない。今のパンクラスはバカばっかりだよ」

KEI山宮をKOで下した郷野聡寛は、この険しい表情。この後マイクを取り、パンクラス全体に向かって毒づいた

パンクラスにイデオロギー闘争勃発！

パンクラス年内最後の興行、2・1ディファ大会のマッチメイ

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR

12.21★ディファ有明

パンクラスにイデオロギー闘争勃発！

「全盛期すぎた年寄りと初心者の試合がメインだなんてオレは認めたくない！」

因縁の再戦は返り討ち 郷野が山宮に完勝！

▲郷野の蹴りに合わせてパンチを打っていく山宮。だが郷野はうまく見切ってステップバックしたり差しにいったりでペースを渡さない

▲試合は前回と同じく、立ち技で郷野がリード。右足を狙ったローや右のミドル、ハイキックがズバズバと決まる

▶寝技の場面はほとんどなかったが、差し合いでも郷野が圧倒。山宮は粘るので精一杯という感じだった

★第6試合/ライトヘビー級5分3R

○郷野聡寛（3R3分49秒、レフェリーストップ）KEI山宮●
〈パンクラスGRABAKA〉 〈パンクラスism〉
※右ストレート→グラウンドパンチ連打

▲ラウンドが進むにつれて郷野優勢の度合いが強まっていき、ついに3Rでフィニッシュ。パンチで前に出る山宮をさばきつつ、郷野の右ストレートがクリーンヒット！　意識を抜かれて倒れた山宮に、さらにパンチを落としてレフェリーストップとなった

鈴木の反応は……？

「全盛期をすぎた年寄りなのはしょうがないんで、頑張りますよ。いろんな意味で、前回の僕とライガーの試合はなんらかの影響はあると思ったんですけど。その一つが郷野であり、入場の時の國奥の顔であり。言われてどうだっていっても、特にはないですっていうのが答えですね。面白くねぇ答えですけどね」

尾崎社長はどう動く？

「いいと思いますよ。郷野は口は悪いけど、自己主張はすべきだと思うし。プロですから、どっちがお客さんにウケるかっていうのが勝負。競えばいいと思います。ひとつアイディアが出てきましたね。良くも悪くも、郷野はいつも投げかけてくれるから。クビにはできないですね（笑）。郷野は試合で見せるしかないでしょう。郷野が活きるようなマッチメイクをしていきたいですね。パンクラスが総合格闘技とプロレスと、両方名乗ってる意味がここにあると思います。来年は玉手箱にしたいですね。いい玉手箱ができますよ。まだ時期は言えないですけど、とりあえず三つ、1万人以上の会場でやります」

パンクラス年内最後の興行、12・21ディファ大会のマッチメイクを見ると、今年1年、思うように活躍できなかった選手が目立つ。今大会はいわば年末の厄払い。それぞれが巻き返しをかけての試合だったわけだ。

まずは近藤有己である。昨年12月に郷野聡寛を殴り潰したのも束の間、今年は『プレミアム・チャレンジ』で禅道会の百瀬善規にあってはならない敗北。その後百瀬にリベンジしたと思ったら、夏以降はヒザのケガで欠場が続いた。こう言っちゃなんだが〝特に何もない〟1年だったような。

それでも今回、栗原強をボコボコにした上での裸絞めで復活を果たした。無表情のまま相手の顔に拳を落とし続ける姿は、まさに戦慄の一語。近藤が言う〝不動心〟、〝無我の境地〟とは〝なんの躊躇もなく敵を壊せる〟ことでもあるんだなと再確認させてもらった。

ネイサン・マーコートは立ってよし寝てよし、菊田と並ぶパンクラスのパウンド・フォー・パウンド（同体重と仮定しての最強）候補である。昨年末に國奥麒樹真にミドル級タイトルを奪われてからは主流から外れ、10月にも竹内出に負けてといいところがなかったが、この日、國奥をKOで下して王座奪回。これまで1勝1敗1分だった國奥とのライバルストーリーにも決着を付けた。

逆に厄払いどころかさらなる厄を背負ってしまったのが謙吾と髙橋義生だ。謙吾は9月にロン・ウォーターマンに惨敗して連勝がストップ。復活をかけた今回も石井淳に敗れてしまう。髙橋はケガで

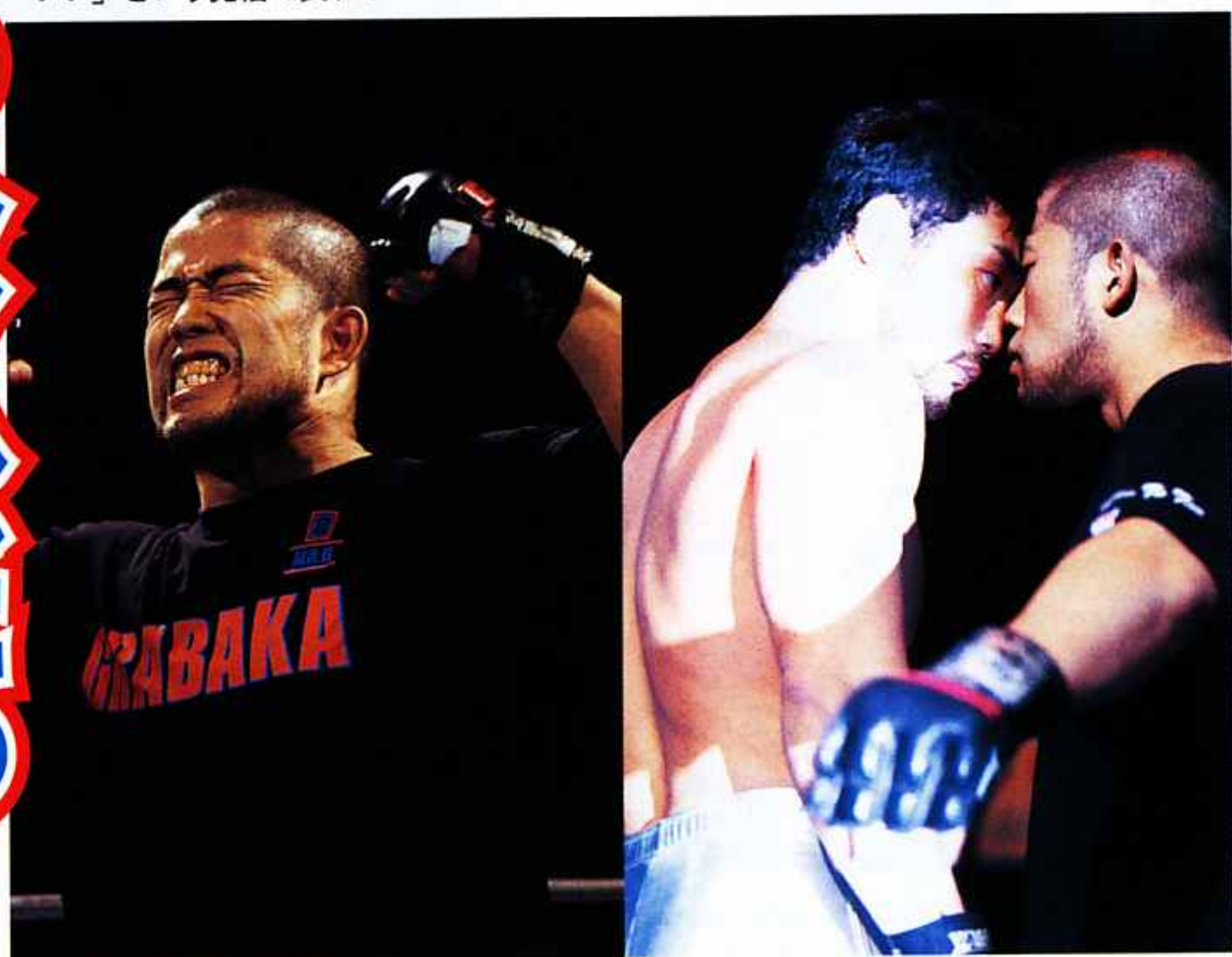
このナチュラル・アングルマッチメイクにどう活かすかが重要！

他の選手たちはどうなんだっ！おまえら噛み付かないのか!?

近藤復活！涼しい顔で顔面破壊

▲マイクアピールについて「これで波紋を呼ばなきゃおかしい。呼ぶために言ったんだから」と郷野。最後はスパッツを脱ぎ、サポーター姿になって退場した。「これでホされてもいい」という覚悟の表れか？

▲序盤はバックを取られ、大きく持ち上げられてのテイクダウンを許すなど劣勢だったが、これもまたおなじみの光景とも言える。冷静に対処してスタンドに戻す

▲マウントパンチでさんざんダメージを与えた後、仕上げはチョークスリーパー（1R4分49秒）。期待される菊田戦へ「心・技・体ともケガする前より調子がいい」と充実ぶりを語った

▲入場時から気合いが入りまくっていた郷野。リングインすると山宮の前まで歩み寄って睨み付ける。リベンジにかける山宮も、決して目をそらさなかった

今年前半を棒に振り、復帰した8月の大阪大会も印象の薄い判定勝ちに留まった。そして今度は無名の小澤強にまさかの判定負け。へビー級チャンピオンの威厳を保つことができなかった。

KEI山宮との再戦に挑んだ郷野聡寛も、今年はツイてなかった一人だ。近藤戦で目を負傷し戦線離脱。復帰後、またケガで欠場と、去年のような存在感を残せなかった。それだけに、この日の郷野は気合い120%だった。

本来なら、この試合は山宮にとってのリベンジマッチである。昨年10月のグラバカVS本隊対抗戦、山宮は郷野に敗れ、試合後のマイクでも愚弄されているのだ。

となれば〝山宮目線〟で見るのが普通の試合だが、郷野はまったく山宮に見せ場を作らせなかった。蹴りを中心にジワジワと追い込み、最後は右ストレートでノックアウト。そしてマイクアピールだ。

「今のパンクラスはバカばっかりだよ！」

前回の横浜大会で「全盛期をすぎた年寄りと総合格闘技初心者の試合」にメインを取られ、ファンの注目を奪われたことに郷野は憤っていた。鈴木VSライガーというカードがあるのはいい。でもなんで、実力でトップを張ってる選手を差し置いてメインなんだ!?

「あれで一番客が入って、喜んで。それで周りがピンチだって気付かない。サップが出てきてK―1の危機とか言われてるけど、パンクラスのほうがよっぽど沈没してくんじゃないかと思って」

郷野の怒りの鉾先は、あの試合で喜んでいる選手たち、鈴木VSラ

PANCRASE HYBRID WRESTLING

PANCRASE 2002 SPIRIT TOUR

12.21★ディファ有明

パンクラス今年最後の興行は不遇選手の大・厄払い！

國奥を壮絶KO！マーコート、王座奪還

▲〈第8試合〉メインはミドル級タイトルマッチ。國奥麒樹真にネイサン・マーコート（コロラド・スターズ）が挑戦し、3R 4分36秒、KOでマーコートが勝利。前回の対戦で微妙な判定で奪われたタイトルの奪還に成功した。マーコートは試合後、10月に敗れた竹内出（この日、クリス・ライトルに判定勝ちして次期挑戦権を獲得）とのリマッチをアピールした

▶〈第4試合〉7月以降ケガで欠場していた近藤有己は、復帰戦となる今回、栗原強（チームRoken）と対戦。いつもながらの強烈なパンチで痛めつけ、力の差を見せつけて圧勝

▲試合はスタンド、グラウンドとも一進一退。お互いにパンチでフラつくシーンもあったが、終盤になってマーコートが押し始め、最後は豪快な飛びヒザでKO

髙橋、謙吾は厄払いできず！

▶マウントを返されると、その後はパンチにいけばカウンターで効かされ、タックルも潰されてと、ことごとく裏目に出る展開。ケンドー・カシンがセコンドについた甲斐もなく、判定3－0で敗退。ヘビー級タイトルを賭けてのリマッチは必至だ

▲〈第5試合〉今年前半をケガで棒に振り、まだ1試合しかしていない髙橋義生。小澤強（禅道会）を相手に、開始すぐにフロントチョークからのルー・テーズ・プレス（空中胴絞め落とし）でマウントを取るなど好調に見えたが……

▶スタンドではいい右ストレートをヒットさせていた謙吾だが、石井も負けずに打ち返す。1Rにはバック、さらにニーオンザベリーで石井がパンチを連打して謙吾の目を潰した

▲〈第3試合〉9月の横浜大会でロン・ウォーターマンに秒殺され、巻き返しを図りたい謙吾だったが、石井淳（超人クラブ）に判定負けで悪夢の2連敗。パンチを喰らって試合の途中から左目が塞がった状態だった

イガーに話題を食われるような活動しかしてこなかった自分たちを恥ずかしいと思っていない者たちに向けられてもいる。

だからこの件で一番知りたいのは、他の選手たちの気持ちだ。郷野自身は近藤と渋谷修身に共闘を呼び掛けている。

「近藤に期待してますよ。こんな時まで不動心でいるなよって。渋谷も鈴木VSライガーを見ないで、控室でずっとアルメイダに負けた悔しさに耐えてたんですよ。たぶん、あのメインを面白く思ってないだろうなって」

郷野発言が素晴らしいのは、パンクラスに新たな闘争の火種をまいたこと。ここから〝本隊VSグラバカ〟という枠組みを超えた抗争の図式ができ上がるかもしれない。ismの選手にも、郷野に賛同する者はいるはずだ。

「（鈴木が）『オレが仕切る』とか言ってるから、目が覚めたヤツみんなで、それを阻止したい」

たしかに、プロである以上、観客の評価は100％正しい。その意味で、郷野の主張はすでに劣勢とも言える。だが忘れてはいけないのは、パンクラスが〝完全実力主義〟だということだ。

「鈴木さん、船木さんが作ったのは、従来のプロレスの格がない、強い者が上に行ける世界だったはず。なのに歳取ったらそれを忘れるなんてね」（郷野）

このナチュラル・アングルを活かすか殺すか。曖昧な態度保留が最大の敵だ。郷野に対してでも鈴木に対してでもいい。パンクラスの選手たちよ、おまえら噛み付かないのか!?

（橋本）

小野瀬邦英

「ボクは15年間、キックという世界を男の美学だけで駆け抜けた」

あるいは『暴力の体現者』がリングを去る

12月14日、小野瀬邦英が引退した。日本キック連盟最大のスターは、現役ラジャ王者マンコム・ギャットソムクヴォンと引退試合を闘った。小野瀬はこの花道を勝利で飾れなかったが、静かにテンカウント・ゴングを聞き、幾多の激闘を演じたリングのスポットライトから消えた。その暴力的な試合っぷりで確実に一時代を築いた小野瀬に、今、そしてその今を築いた過去について話を聞いた。　撮影◎吉澤晃

この試合は小野瀬邦英というキックボクサーの魅力を、最大限に伝えたものではない。マンコムは終始距離を取り、的確な攻撃でポイントを奪い、そして小野瀬の仕掛ける攻撃をすかし続けた。ジャッジ3氏が下したスコアは、いずれも19歳のタイ人の勝利を示していた。

「ビデオで見る限り首相撲の選手だったんですけどね。実際は出てこなかった。ずっと遠くまで距離を取られて。目も良かったし、体も柔らかい。何発かパンチを当てたんですが、拳にこれだっというほどには乗ってこない。ガチンと当たっても、それから力が逃げていくようで」

最後の闘いをそう振り返った小野瀬は、それから3日後のインタビューでモヤだつ心の内側を漏らした。いや、これは正確な心理描写ではない。どこまでも空疎な心境であると、彼は言うのだ。

「なんて言っていいのかな。ぽっかりと穴が空いたようで。これから何をすればいいんだろう。今はまったく分からないんです。15歳から、人生の半分キックボクシングをやってきたわけです。その間、あくまでキックを中心に生活してきました。それがなくなったわけですから」

寂しさは私にとっても同じである。彼の試合レポートの中で何度も告白してきたが、私は小野瀬邦英のファンである。徹底して攻撃的で、どこまでも暴力的なその試合が好きだった。

「自分としては意識したことはないんです。ただキックはスポーツとは言えない部分もある。格闘技ですから。倒し合いです。倒す。それからその目的のために自分を守る。そういう原点に立って試合に臨んでいたのは事実です。そういう部分が素直に出ていたのかもしれません」

彼自身がアレンジを加えたという『キャプテンジャック』の入場曲が耳に届いた瞬間から、私の胸にざわめきが走った。そういう経験ももうできないと思うと、ただ残念でならない。もっとも私にはそれも寂しさ以上のものではないのだろうが、小野瀬自身にとっては身も心もその中心に鎮座し続けた、かけがえのない己の一部を失うのだ。

闘いたい。小野瀬が初めてそう思ったのは中学校3年生の時だった。マイク・タイソンの試合を見た。豪快なKOパンチに圧倒された。ファイトマネー数億という数字に心が躍った。「こういう世界があるのかと思いましたね。自分もやってみたいと」。腕っ節に自信がなかったわけじゃない。ボクシングジムを探した。しかし故郷の茨城県水戸市には見つからなかった。それでは、と入門したのがキックのジムだった。以来、小野瀬はキックの魅力にとりつかれたままだ。

「とにかく強くなりたい。それだけでした。ケンカは強いほうでしたが、誰にでも勝てるというほどでもなかったです。やっているうちに、強さってリングでの闘いばかりにあるわけじゃない、とだんだんと気づいてきましたけど」

しかし、小野瀬は順調な足取りでキックの道を歩けなかった。デビュー直後、3年間のブランクを強いられた。交通事故で大ケガを負ったのだ。左足首の下に破砕した車体の一部が突き刺さった。肉が割れ、かかとがベロンと垂れ下がった。

「左足で蹴れないんだから、もうキックはできないと思いましたね。それでも歩けるようになってから、体を動かすためにジムには行っていたんです。そのうちに渡辺（信久）会長から、試合をやらないかと声をかけられて。勝って。だったらとまた闘い、やがて負けて『今度はや

「打倒ムエタイなんて思ったことはない。強くなりたかっただけ。少しは達成できたのかな」

日本キック連盟

小野瀬邦英引退試合

12.14★後楽園ホール

「だからこそ最後は勝ちたかった。倒したかった。ただ、そこに用意された舞台は最高の場所でした」

り返す』と。キックは出せないから、攻撃はパンチやヒザ、ヒジばかりですが。初めて聞く話？ そりゃ、そうです。本当は蹴れないと対戦者に教える必要はないし。ボクも口が固いほうじゃないから、知っている人は知っているけど（笑）」

『もう1戦』『さらにもう1戦』と、小野瀬はひたすら積み重ねてきた。練習、減量が苦しくて、逃げ出したくなる日もあった。だが、やめなかった。

「この一戦を乗り切れば何かが変わる、自分のステージが上がるといつも考えていました。だから、気を抜いた闘いをしたことは、一度だってありません」

やがてその圧倒的な攻撃力で、日本キック連盟のトップに躍り出る。絶頂期は今から2年前、NJKFの主戦級に混じってウェルター級最強の座を争った『トップ・オブ・ウェルター』リーグ戦の頃だっただろうか。当時ナチュラルなライト級だった小野瀬は、5キロも重い猛者たちと真正面からやり合い、次々にマットに沈めていった。同じ年にはタイの強豪オーロノー（判定負け）、チョッチョーイ（引き分け）と激闘を演じた。難敵を相手に勝てはしなかったが『噛みつき』までやって、勝利への執念を見せた。

「噛みつきですか。ああ、あれは一種のファンサービスです。あまりくっついてくるんで、離れろというつもりでね。本気だったらマウスピースを外して、タイソンみたいに耳を噛みちぎってますよ」

ただし、このあたりを境に小野瀬の闘いが持つバイオレンスのオーラは、目減りしていったように見えた。彼自身もそれは気のせいではないと明かすのだ。

「これ以上何がある、と。それまでは上を引きずりおろすことにかけていた。でも、チャンピオンになり、リーグ戦に勝ち、あとは下から来る者を蹴落とす。そういう試合に意味があるのかな。何かが違う。そう思うようになったんです。それにもともとボクには打倒ムエタイなんて気持ちはない。ムエタイはポイントを競い合うもの。キックは倒し合い。ボクが選んだのは後者のほうなんです」

微妙な達成感は、またこの男が持っている美学というべきものを揺り動かす。

「テツさん（ガルーダ・テツ）の引退試合の相手をした時、自分自身も引退、引き際というものを考えるようになりました。『まだ早い』と言われるうちにやめるほうがいいんじゃないか、とボクは考えたんです。なぜ？ 過去の自分を否定したくない、というんでしょうか」

気がつけば三十路は間近、すでに結婚し、3人の子供もいる。鍼灸師、接骨医として独立し、診療所も開いていた。リングの中だけの自分ではない。全てをやり尽くしたい。忘れ物はないか。脳裏に浮かんだのは武田幸三だった。この男には同じ価値観であり、等しく背負うものを感じていた。だが、残念ながらこの試合は実現しない。引退試合のリング上で初めて対面したものの、言葉もグローブも交わさなかった。

「仕方ないです。自分の考えだけで全てが実現するわけじゃない。それよりもこれだけ立派な引退試合を組んでくれて感謝します。たくさんの人に応援されて、幸せでした。もう2度と闘うことはありません。一度決めたことを覆すことはできない。それもボクの美学です」

ひたすら「強くなりたい」と思い、キックを走り抜けた小野瀬邦英は、すっかり大人になっていた。

「ええ、少しは強くなったんでしょうか。さまざま意味で」

けれど、と、小野瀬は小さく息をついてから最後にこう締めくくった。

「勝ちたかったですね。やっぱり最後は倒したかった……」

（宮崎正博）

▲小野瀬が対戦を熱望していた武田幸三が、団体の枠を越えて駆け付けた。「彼とは思いが通じる部分があると思う」（小野瀬）

▶最後の対戦相手は現役ラジャ王者マンコム・キャットソムクヴォン。小野瀬は懸命に食い下がったが、ついに届かず、3-0の判定負けに終わった

▲「さらばリング」。集まってくれたのは5度も対戦したガルーダ・テツ。それに数知れない仲間たち

これぞホンモノ！ 花戸忍は明日のスーパースターだ 間違いなし!!

器用な『技のデパート』として、この男を語ってはもういけない。花戸忍は野性と技巧を併せ持つハイエンド格闘マシーンだ

私の脳内からひととき、言語が消えた。あっけにとられた。驚いた。そしてマジで震えた。いや、この日の花戸忍はそれくらいに凄かったのだ。八艘跳びのごとく跳梁する変幻自在の連続攻撃、それからパンチ、キックの攻撃の鋭さ。その強さの前にひれ伏して、いかなる讃辞を奉っても陳腐にすぎない。

同じモンゴルの血を引く民族だから、すぐに勇利・アルバチャコフのデビュー当時のことを思い出した。「世界チャンピオンたって、たかがアマチュアだろう？」なんて言っていたとある編集者が、まったく緩むことなく、また果てしなく、ひたすらハイテンポに続行されるロシア人の攻防の凄さを目の当たりにした後、私のところに駆け寄ってきてこう言ったのだ。

「まいりました。目から30枚ウロコが落ちました」

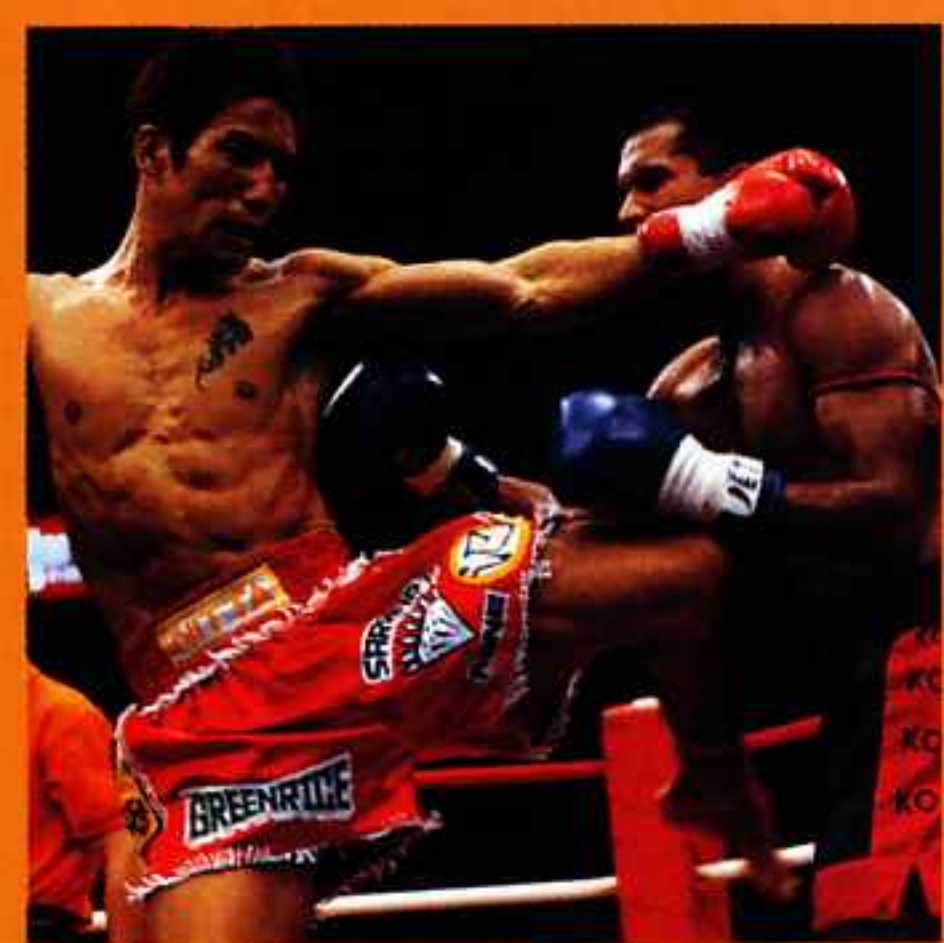
花戸忍が大宮司進をノックアウトした夜、私はその編集者とまったく同じ気持ちだった。

むろん、花戸はこれまでも見ている。『COMBAT—2002』で優勝した時は、確かに素晴らしかった。けれど全日本キックのリングに上がるようになってから、少しばかり評価を見誤っていたのかもしれない。器用なところばかりが目についた。ロー、ミドル、ハイ、さらにカカト落としと見事に打ち分けるキックは鮮やかでも、相手をぶちのめすとい

全日本キック BACK FROM HELL Ⅱ

12.8★後楽園ホール

▶1R、右アッパーからチャンスをつかんだ花戸が、この直後、右ストレートでダウンを奪う

▶盟友の魔裟斗に抱えられるようにして退場する大宮司。勇気ある敗戦はきっと明日につながる

▲2月の『K―1 MAX』でアゴを割って以来10カ月ぶりの登場となる新田明臣はイギリスのサク・ナヤガムから2Rに3度ダウンを奪ってKO勝ち。鮮やかに復活を飾った（2R2分10秒）

この技の切れ味は何？ 野性の輝きは何？ 震えたぜ……

キックばかりではない。花戸はパンチの切れ味ももの凄い

この日も多彩なキックが光る。左右の足がさまざまな角度から大宮司の体に襲いかかる

最後は強烈な左ハイ。前のめりに崩れ落ちた大宮司はなかなか立つことができない

大宮司進を徹底粉砕。4度倒して、最後は延髄斬りで失神KO

大宮司も奮闘した。いきなり右パンチで花戸をぐらつかせる。ただし、これでモンゴル人を本気にさせてしまったのだが

★第7試合/セミファイナル（3分5R）

○花戸忍（2R2分34秒、KO勝ち）大宮司進●
<モンゴル/高橋道場> <日本/シルバーウルフ>
※3ノックダウン（左フック、右ストレート、左ハイキック）。大宮司は1Rにも右ストレートでダウン

う殺気は薄れて見えた。「結局、あれもできます、これもできますの格闘曲技団くらいのものか？」とまで思い始めていた。そんな矢先に、この劇的なパフォーマンスである。花戸忍というモンゴル人は、徹底して高性能を追求するハイエンド格闘マシーンであることを、あらためて確認した次第なのである。

もしかすると、花戸に『本気モード』のスイッチを押させたのは、相手の大宮司だったのだろう。花戸には『COMBAT―2002』でダウンを奪われ敗れている大宮司は、闘志をみなぎらせてスタートを切る。いきなりパンチの連打だ。1R半ば、その右パンチがクロスカウンターとなって炸裂する。さしもの花戸も大きくふらついた。

ここまで14戦全勝6KOと不敗街道をひた走ってきた花戸の表情は、この直後から明らかに変わった。右ストレートのカウンターでやり返し、右アッパーで大宮司をふらつかせる。すかさず右ストレート、倒れかけたところに右アッパーをもう一発フォローした。大きなダメージを蒙った大宮司はそれでも立ち上がったが、後は花戸の一人舞台だ。

2R開始早々、花戸の左ハイから始まった連打速攻が凄い。左右のパンチ、ヒジ、決めのバックキックまで息つく暇もない。まだ終わらない。首相撲からヒザの連打。よく耐えていた大宮司だが、左フックでなぎ倒される。さらに右ストレートでこのラウンド2度目。フィニッシュも凄絶だ。大宮司の出鼻、その延髄を襲った左ハイ。前のめりに崩れた敗者は、すでに半ば失神していた。

もう四の五の言わない。スーパースターの誕生である。（宮崎）

ボブ・サップTシャツはグレート・アントニオにある!!

FRONT BACK

●ボブ・サップTシャツ(ver.1)(白/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT BACK

●ボブ・サップTシャツ(ver.3)(白・黒/サイズXS・M・L・XL)
¥4,000(税別)

FRONT BACK

●ボブ・サップTシャツ(ver.2)(白/サイズXS・ M・L・XL)
¥4,000(税別)

●新間寿Tシャツ(白/サイズXS・M・L・XL)
¥3,500(税別)
※新間事務所の意向により、このTシャツのロイヤリティ全額は、パラオ共和国のサンゴ養殖事業に寄付されます。

●UWFインターロゴTシャツ
(黒×パープル、白×黒、白×赤、白×オレンジ/サイズXS・M・L・XL)
¥3,800(税別) ※黒×パープルのXS・L・XLは完売です。

ご注文方法

ご注文は電話 or サイト受付のみです

『グレート・アントニオ』&『ヤマダ元気』通販専用NAVIダイヤル
☎ 0570-007800 ※携帯電話からは掛かりません。
☎ 03-3295-4450 ※携帯電話でも掛かります。
【受付曜日・時間】月曜日~土曜日 AM10:00~PM6:00
グレート・アントニオ
http://www.great-antonio.jp
ヤマダ元気
http://www.yamadagenki.com
【24時間受付】

商品お渡し方法

代金引換でのお受け取りとなります。
◎商品代金のほかに送料約700円(ゆうパック)、代引手数料約250円(いずれも地域によって異なります)がかかります。
◎お届けはご注文をいただいてから、5日前後で(株)ジャンボ(大阪)より郵送いたします。(ご注文が集中した場合は、お時間をいただく事があります。ご了承ください)

ご注意

◎代金、送料の先払いはお受けできません。
◎サイズ交換等の返品・交換はお受けできません。不良品等の理由による返品・交換の場合は、商品到着後10日以内にお電話にてご連絡ください。(期日を過ぎた場合は、受け付け致しかねます)
◎『グレート・アントニオ』店頭および『SRS・DX』編集部では、通販のご注文は受け付けておりません。

ACCESS MAP

○神保町駅(半蔵門線/都営新宿線/都営三田線)より徒歩5分
○小川町駅(都営新宿線)より徒歩5分
○淡路町駅(丸ノ内線)より徒歩6分
○竹橋駅(東西線)より徒歩8分

OPEN 11:00~20:00(月曜定休)
東京都千代田区神田錦町3-14-12
神田NSビル1F
TEL 03-3219-9550

たっつぁん万座ビーチ

読者プレゼント

クリスマスよりちょっと遅くて
お年玉よりちょっと早いプレゼント!

【本誌編集部提供】

超レアな小林聡のタイ遠征記念グッズ

小林聡サイン入りグローブキーホルダー 1名様

ミニパンツ&グローブアクセサリー 1名様

小林聡サイン入り観戦チケット 1名様

※小林聡ファン垂涎の一品モノだぞ!

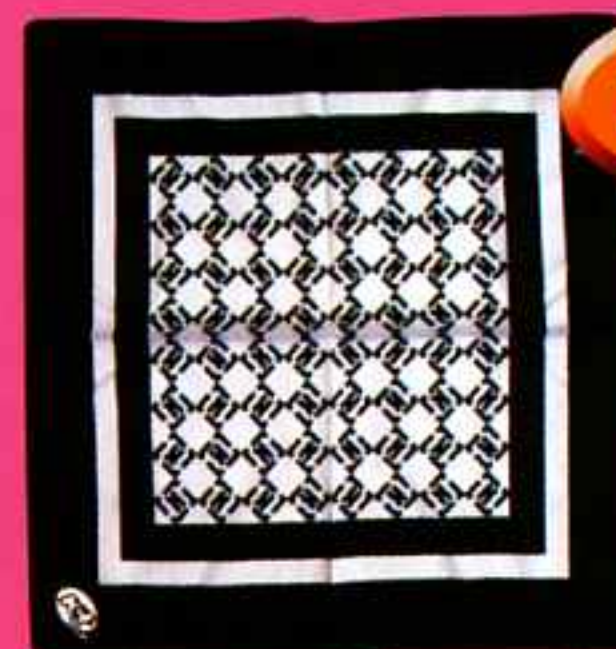
【LOOK-1提供】

K-1ワールドGPの大成功を記念して、3号連続プレゼント第2弾!

K-1ワールドキャップ 2名様

ピーター・アーツ 666パーカー（黒・チャコール・グレイ、サイズM） 3名様

マーク・ハント ハンマーストーンパーカー（黒・チャコール・グレイ、サイズM） 3名様

K-1 2003 バンダナ 1名様

K-1 2003 卓上カレンダー 1名様

K-1ロボックセット 1名様

※前号に続き、K-1グッズのリアルショップ「LOOK-1」（ルックワン）よりビッグなプレゼントをいただいたぞ〜っ。ありがと〜、俊治さん! K-1グッズに関するお問い合わせは、LOOK-1☎03-3796-2700

【本誌編集部ハヤシビッチ提供】

1/11&12は日本武道館へGOだ!

2003年 講道館 柔道カレンダー 2名様

※1月11日、12日には日本武道館で嘉納治五郎杯国際柔道大会が行われるぞ。注目は、やっぱり井上康生と矢崎雄大。必見だゾ!

【クエスト提供】

寝技のテクは高阪DVDで学べ!

高阪剛 寝技大全 各1名様

※全4巻のうち、とりあえずVol.1とVol.2をプレゼント! 価格各5,600円。お問い合わせはクエスト☎03-3360-3810

【文芸社提供】

ターザン山本呆然……らしいプロレスエッセイ

伝説のプロレスファン 5名様

※遠藤汐著。定価1,300円（税別）。全国の書店で発売中

応募方法

ハガキには必ず応募券を貼ろう!

右ページ下の応募券を官製ハガキに貼って、

❶郵便番号・住所・電話番号
❷お名前
❸年齢・ご職業
❹希望プレゼント名
❺今号で面白かった記事とその理由（複数可）
❻今号で面白くなかった記事とその理由（複数可）
❼本誌に対するご意見・ご感想

を書いて、ビシバシ応募してください!

あて先は 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-14-12 神田NSビル8F SRS・DX編集部『たっつぁん万座ビーチ85』係まで

締め切り…2003年1月9日（木）当日消印有効

男の子から、男へ。

キーワードは「無痛」「無傷」「安心」。
過去20万人の治療実績を誇る
上野クリニックの技術と安心が
一冊の本になりました。
あなたの下半身の悩みにしっかり、
まじめにお答えします。

第１章　日本人の3人に2人は包茎です。

包茎は病気ではありませんが、病気を起こす根源になるとともに、心理的なコンプレックスの原因にもなるのです。解決の第1歩は24時間無料相談ができる東京上野クリニックのフリーダイヤルから。

第２章　包茎は百害あって一利なし。

包茎で大損した男の実話集。●包茎は早漏のもと。●包茎は雑菌の溜まり場、性病の巣。
包茎治療で得した男の実話集。●ムスコが一皮むけたら人間も一皮むけた。●いつでも「気持ちいい」セックスができる。

第３章　最新の技術「無痛」治療法。

綿密な研究を重ね、東京上野クリニック独自の最新技術「無痛4段階麻酔システム」を開発。手術を受けた方から「痛くなかった」という声が、その成果を実証しています。●まず確実な基礎麻酔から。●深部冷却法を採用することで痛みをシャットアウト。●日本一の極細針を使用することで針を刺したことすら感じさせません。●すぐ切れてしまう局部麻酔だけではなく「背面神経ブロック」により、手術中・手術後も完全無痛を配慮します。

第４章　ていねいな手作業「無傷」の仕上がり。

東京上野クリニック独自の手術法により「無傷」を実現。それはひとりひとりに合わせた「複合曲線作図法」を行っているから。●東京上野クリニックでは手術跡が残りにくい特殊な高周波メスを使用しています。●東京上野クリニックでは美容形成用の特殊糸と極細針を使い、他にはない独自の方法で縫合。

第５章　男の性を尊重した「安心」の提供。

●東京上野クリニックは、オール男性によるプロフェッショナル集団です。
●東京上野クリニックは、男性泌尿器専門の形成外科であり、女性美容形成はいっさい行っておりません。
●東京上野クリニックでは、24時間対応のフリーダイヤルシステムを完備しています。
●東京上野クリニックでは、「生涯再診無料」という安心保証システムを導入しました。
●東京上野クリニックでは、来院すら他人にわからない完全予約制による無料診断システムを導入しています。

第６章　早めの対応が肝心な性病治療。

●包茎は尿道炎やコンジローム、包皮炎などの原因をつくりやすくします。●たいていの性病は早めの治療ですぐ完治。迷わずすぐに相談を。
●東京上野クリニックは、包茎治療と同じく、性病検査についても24時間受け付けております。

第７章　男女とも快感をアップする法。

●「余分な包皮」のカットは女性を歓喜させます。●カリに摩擦感が生まれない「余分な包皮」は、セックスの快感を大きく妨げます。

第８章　男をさらに磨く改造計画。

●東京上野クリニックでは、独自の方法で開発したコラーゲンによる亀頭増強法を提案いたします。
●東京上野クリニックでは、敏感な亀頭を強化して早漏を抑えます。

第９章　もうひとつの男を磨く道。それは育毛。

●日本人の4人に1人は薄毛に関する悩みを抱えています。●東京上野クリニックでは、その人にあった治療法をセレクトします。
●東京上野クリニックは、豊富な育毛法を提案します。

第10章　もうひとつの男を磨く道。それは脱毛。

●いま、スベスベ肌の男性がなぜモテる。●東京上野クリニックのレーザー脱毛なら、「無痛」「無傷」「安心」。
●東京上野クリニックのレーザー脱毛で得した男の話。

（以上：全て目次より）

MEN'S BODY POWER UP 一生に一度の男の手術

24時間直接電話相談 0120-508-550
メンズ総合テープ案内 0120-087-008
24時間無料電話相談
一生に一度の男の手術
無痛！無傷！安心！
東京上野クリニック

「MEN'S BODY POWER UP」
定価648円（税別）判型：A5判　ページ数：80頁

発行所 株式会社双葉社
〒162-8540 東京都新宿区東五軒町3番28号

ご紹介できる全国の上野クリニック一覧

地域	電話	住所
札幌	011-252-6000	中央区北4条西2 アイビル4F
仙台	022-723-3000	青葉区中央1-6-27 仙信ビル7F
新潟 NEW	025-241-4000	新潟市花園1-4-6 柳都ビル2F
大宮	048-642-1000	さいたま市宮町2-11 ハシモトビル7F
東京	03-3274-4000	中央区八重洲1-8-16 新槇町ビル14F
上野	03-3876-7000	台東区根岸1-8-18 高松ビル4F
渋谷 NEW	03-5784-3000	渋谷区宇田川町33-8 塚田ビル7F
新宿	03-3343-4000	新宿区西新宿1-3-15 栃木ビル7F
横浜	045-323-5000	西区北幸2-10-50 北幸山田ビル2F
千葉	043-221-8000	中央区富士見1-2-11 勝山ビル6F
浜松	053-452-6000	浜松市鍛冶町140-3イズムハママツCビル5F
名古屋	052-562-5000	中村区名駅3-26-21 新香取ビル6F
京都	075-352-5000	下京区新町通七条下ル東塩小路町593クリスタル駅前ビル1F
大阪北	06-6456-3000	北区梅田1-2 駅前第2ビル2F
大阪南	06-6634-3000	中央区難波3-5-11 東亜ビル8F
岡山	086-224-9000	岡山市本町6-36 第一セントラルビル3F
福岡	092-415-6000	博多区博多駅東1-12-7 第13岡部ビル2F
鹿児島 NEW	099-812-3800	鹿児島市中央町3-36 西駅M.Nビル5F

この本についてのお問い合わせは
TEL/03-5543-3700

泌尿器科・形成外科・性病科
東京上野クリニック

24時間無料電話相談
0120-508-550
携帯・PHSからもご利用できます。

メンズ総合テープ案内
0120-087-008
携帯・PHSからもご利用できます。

メール相談もできる男のHP　http://www.ueno.co.jp　携帯アドレス　http://www.ueno-c.com

SRS·DX 2003 CALENDAR
SRS·DX綴じ込み付録

ボブ・サップ “ザ・ビースト” カレンダー

THE BEAST

売り切れで買えなかった皆さ〜ん！　お待たせしました！

『プライド20』2002年4月28日◎横浜アリーナ
●ボブ・サップ（1R2分44秒、レフェリーストップ）山本憲尚●

記念すべきボブ・サップのデビュー戦。それまで“K-1の秘密兵器”として名前が挙がっていただけで、その存在がベールに包まれたままだったサップ。元NFLアメフトプレーヤー、元WCWプロレスラーという経歴から、「ホントにやれるのか？」という見方も強かったのだが、2メートル・170Kgの規格外ボディから繰り出されるド迫力攻撃には観客もア然。あっという間にヤマノリをマットに沈めて、サップは見事に初陣を飾ったのだった

2003 1 JANUARY

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
			1 元旦	2	3	4
5	6	7	8	9 SRS·DX NO.86	10	11
12	13 成人の日	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 SRS·DX NO.87	24	25
26	27	28	29	30	31	

2003 2 FEBRUARY

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 建国記念の日	12	13	14 SRS·DX NO.88	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27 SRS·DX NO.89	28	

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

売り切れで買えなかった皆さ〜ん！　お待たせしました！

『プライド21』2002年6月23日◎さいたまスーパーアリーナ
●ボブ・サップ（1R11秒、TKO勝ち）田村潔司●

ボブ・サップの日本上陸3戦目がこの田村戦。『プライド』初戦では山本憲尚に圧勝したとは言え、あの試合はヤマノリが真っ正直に行きすぎたため、田村だったら技術のないサップに勝つだろうと思われていた。しかし、フタを開けてビックリ。サップは開始早々、まるでアメフトのようなダッシュで一気に間合いを詰めると、あっと言う間に田村をなぎ倒してKO。その間、わずか11秒。体重差80キロとは言え、野獣のような強さだけが引き立った

2003 3 MARCH

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13 SRS·DX NO.90	14	15
16	17	18	19	20	21 春分の日	22
23/30	24/31	25	26	27 SRS·DX NO.91	28	29

2003 4 APRIL

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10 SRS·DX NO.92	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24 SRS·DX NO.93	25	26
27	28	29 みどりの日	30			

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

ムエタイの正装
林。新鮮な感し
に乗り込んだ緊

撮影・文◎橋

売り切れで買えなかった皆さ〜ん！ お待たせしました！

『Dynamite!』2002年8月28日◎国立競技場
●アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（2R4分02秒、腕ひしぎ十字固め）ボブ・サップ●

ボブ・サップの実力が、本当の意味で評価されたのは、国立競技場でのノゲイラ戦。PRIDE王者・ノゲイラをパワーボムなどで圧倒したサップは、さらに最強の寝技師と言われるノゲイラの必殺の三角をあっさりはずし、マウントポジションを取られても右手で押すだけで逃れてしまうという、究極のパワーを発揮。9万人の大観衆を驚愕させた。最後はスタミナが切れて腕ひしぎ十字固めに屈したものの、勝ったノゲイラはボロボロ。この試合以降、サップの人気は大爆発する

2003 5 MAY

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3 憲法記念日
4	5 こどもの日	6	7	8 SRS·DX NO.94	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22 SRS·DX NO.95	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2003 6 JUNE

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12 SRS·DX NO.96	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26 SRS·DX NO.97	27	28
29	30					

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

売り切れで買えなかった皆さ～ん！ お待たせしました！

2003 1

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2003 2

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

2003 3

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

2003 4

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2003 5

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2003 6

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2003 7

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5

THE BEAST TIME!

2003 **7**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2003 **8**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

2003 **9**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2003 **10**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2003 **11**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

2003 **12**

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

ジャンル荒らしの本領発揮！『プライド』、K-1で問答無用の強さを見せつけてきたサップが、遂に新日本プロレスのリングにまで登場。サップにとっては、日本では初めてとなるプロレスの試合だったが、中西学相手に底知れぬ身体能力でビーストぶりを披露した。圧巻だったのが、フィニッシュで見せた打点の高いドロップキック。新日本プロレスのリングですら主役になってしまったサップは、日本マット界全体の主役となっていった

©平工幸雄

新日本プロレス30周年記念『THE SPIRAL』2002年10月14日◎東京ドーム
●ボブ・サップ（6分26秒、リングアウト勝ち）中西学●

2003 7 JULY

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10 SRS・DX NO.98	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 海の日	22	23	24 SRS・DX NO.99	25	26
27	28	29	30	31		

2003 8 AUGUST

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14 SRS・DX NO.100	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28 SRS・DX NO.101	29	30

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

ムエタイの正装
林。新鮮な感じ
に乗り込んだ緊
撮影・文◎橋

売り切れで買えなかった皆さ〜ん！　お待たせしました！

『W-1』のメインとなった一戦。試合後、武藤に「（サップは）存在自体がファンタジーだから」と言わせたように、入場時のダンスパフォーマンスから試合終了まで、まさにサップ一色。中西戦では見せなかった場外プランチャー、そしてフィニッシュとなった必殺ダイビングヘッドバット、巨体が宙を舞うたびに場内は大興奮状態へ。初めて受けた毒霧攻撃に苦悶の表情を浮かべつつも、サップは憧れのムタから勝利を収めたのであった

『WRESTLE-1』2002年11月17日◎横浜アリーナ
●ボブ・サップ（6分33秒、体固め）グレート・ムタ●

2003 9 SEPTEMBER

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 SRS・DX NO.102	12	13
14	15 敬老の日	16	17	18	19	20
21	22	23 秋分の日	24	25 SRS・DX NO.103	26	27
28	29	30				

2003 10 OCTOBER

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9 SRS・DX NO.104	10	11
12	13 体育の日	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23 SRS・DX NO.105	24	25
26	27	28	29	30	31	

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

ムエタイの正装
林。新鮮な感じ
に乗り込んだ緊

撮影・文◎橋

因縁の再戦。「ヤツだけはKOで倒す！」と燃えるホーストの猛攻に動きを止められ、レバーへのフックでサップがついにダウン。だがサップは顔をしかめながらもラリアートぎみのパンチを振り回して逆転のダウンを奪い、さらにラッシュして2ノックダウン。フラフラになりながらも凄まじい根性でサップが2連勝を決めた。そしてこの後サップは拳の負傷で棄権、繰り上がりのホーストが奇跡の優勝を果たすというドラマが待っていた

『K-1 WORLD GP 2002 決勝戦』2002年12月7日◎東京ドーム
●ボブ・サップ（2R2分53秒、KO勝ち）アーネスト・ホースト●

2003 11 NOVEMBER

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3 文化の日	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13 SRS・DX NO.106	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30 勤労感謝の日	24 振替休日	25	26	27 SRS・DX NO.107	28	29

2003 12 DECEMBER

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 SRS・DX NO.108	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23 天皇誕生日	24	25 SRS・DX NO.109	26	27
28	29	30	31			

※大会の日程により発売日が変わる場合がありますので、予めご了承ください

ムエタイの正装
林。新鮮な感じ
に乗り込んだ緊

撮影・文◎橋

売り切れで買えなかった皆さ〜ん！お待たせしました！

SRS・DX 2003 CALENDAR
SRS・DX綴じ込み付録